

ニチレイグループ  
CSRレポート2022



# 目次

## CONTENTS

|                          |   |     |                    |   |     |
|--------------------------|---|-----|--------------------|---|-----|
| ■ トップメッセージ               | … | 2   | ■ ガバナンス            |   |     |
| ■ ニチレイグループの重要事項（マテリアリティ） |   |     | コーポレートガバナンス        | … | 134 |
| 重要事項（マテリアリティ）            | … | 4   | コンプライアンス/内部統制      | … | 144 |
| 重要事項（マテリアリティ）のKPI        | … | 8   | リスクマネジメント          | … | 148 |
| 重要事項（マテリアリティ）の特定プロセス     | … | 10  | ■ ステークホルダーエンゲージメント | … | 153 |
| DX戦略                     | … | 16  | ■ レポートライブラリー       | … | 161 |
| 価値創造のあゆみ                 | … | 18  | ■ ESGナビゲーション       | … | 163 |
| 価値創造プロセス                 | … | 20  | ■ ESGに関する方針一覧      | … | 165 |
| ニチレイのビジネスモデルと強み          | … | 21  | ■ ESGデータ集          | … | 166 |
| 事業を通じた社会課題の解決            | … | 22  | ■ 社外からの評価          | … | 204 |
| ■ 環境                     |   |     | ■ 外部イニシアティブ・団体への参加 | … | 211 |
| 環境マネジメント                 | … | 40  |                    |   |     |
| 気候変動（TCFD）               | … | 45  |                    |   |     |
| 気候変動（脱炭素・脱フロン）           | … | 53  |                    |   |     |
| 水資源保全                    | … | 64  |                    |   |     |
| 生物多様性保全                  | … | 67  |                    |   |     |
| 汚染防止と廃棄物削減               | … | 69  |                    |   |     |
| 製品・サービスにおける取組み           | … | 72  |                    |   |     |
| ■ 社会                     |   |     |                    |   |     |
| 食と健康における新たな価値創造          | … | 75  |                    |   |     |
| 持続可能なサプライチェーンの構築         | … | 84  |                    |   |     |
| 人権                       | … | 94  |                    |   |     |
| 安全な商品とサービスの提供            | … | 98  |                    |   |     |
| 労働安全衛生                   | … | 112 |                    |   |     |
| 人財開発・働きがいの向上             | … | 117 |                    |   |     |
| 健康経営                     | … | 127 |                    |   |     |

# トップメッセージ

## トップメッセージ



### 事業を通じた社会課題の解決に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。

現在も新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が猛威を振るい、引き続き世界中が困難な状況下にあります。罹患された方とご家族の皆様が1日も早い回復をお祈り申し上げるとともに、最前線でご尽力いただいている医療従事者、保健・行政機関の皆様をはじめ、生活を支える物資の生産や供給などに携わられている関係者の皆様に深く敬意を表し、改めて感謝申し上げます。

ニチレイグループは、「暮らしを見つめ、人々に心の満足を提供する」というミッションと「私たちは地球の恵みを活かしたものとづくりと、卓越した物流サービスを通じて、豊かな食生活と健康を支えつづけます。」というビジョンに基づき、日々事業を実践しています。世の中のニーズを捉え、お客様にご満足いただける価値ある商品・サービスを創造し、提供し続けることが私たちの使命であり、存在意義であると認識しています。

今、世界中で、気候変動の影響による地球環境変化やコロナ禍等により、調達や生産・物流が制約を受け、食に関わるサプライチェーンでは様々な混乱が生じています。こうした困難な状況下であるからこそ、持続可能な社会の実現に向け、社会のインフラの一翼を担うニチレイグループはどのような貢献ができるのか？ それを社会から強く問われていると認識しています。

今後も持続可能な食のサプライチェーンを構築していくため、ニチレイグループは、豊かな自然環境や食資源を大切に守りながら地球の恵みを活かしたものとづくりを続け、カーボンニュートラルの実現に向けた活動を積極的進めてまいります。また、ビジネスパートナーやステークホルダーとの共存共栄を前提とした人権課題や労働問題に対しても真摯に取り組んでまいります。これらの実現に向け、ニチレイグループでは2021年11月「国連グローバル・コンパクト」に参加しました。「人権・労働・環境・腐敗防止」に関する10原則を支持し、それぞれの改善に取り組んでいきます。

ニチレイグループは、創業当時よりさまざまな社会課題を解決する事業を通じ成長してきました。今後も社会価値と経済価値の両立による企業価値の最大化をめざし、サステナビリティ経営を推進してまいります。そして、サステナビリティ経営を通じた持続可能な社会の実現と社会課題の解決のもと、ニチレイグループで働く従業員やニチレイグループに関わっていただいているすべてのステークホルダーの方、そして世界中の人々が笑顔で健康な生活を過ごせるWell-beingな社会の実現を目指し取り組んでまいります。

引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2022年4月1日

株式会社ニチレイ  
代表取締役社長

大櫛顕也

# ニチレイグループの重要事項（マテリアリティ）

|  |   |    |
|--|---|----|
| 重要事項（マテリアリティ）  | … | 4  |
| 重要事項（マテリアリティ）のKPI  | … | 8  |
| 重要事項（マテリアリティ）の特定プロセス   | … | 10 |
| DX戦略   | … | 16 |
| 価値創造のあゆみ   | … | 18 |
| 価値創造プロセス   | … | 20 |
| ニチレイのビジネスモデルと強み  | … | 21 |
| 事業を通じた社会課題の解決  |   |    |
| ● ニチレイフーズ プロの味を再現する開発力で、冷凍食品の新たな価値を提供<br>～本格炒め炒飯編～                       | … | 22 |
| ● ニチレイロジグループ 革新的な物流システムの導入により、<br>渋滞緩和やCO <sub>2</sub> 排出量の削減に貢献 ～TC事業編～ | … | 24 |
| ● ニチレイフレッシュ 地域循環型農畜産プロジェクトによる<br>持続可能な食の調達 ～純和鶏編～                        | … | 26 |
| ● ニチレイフーズ 地域社会の発展に貢献するサステナブル調達<br>～アセロラ事業編～                              | … | 28 |
| ● ニチレイフーズ 鶏一羽をすべて使い切るチキン工場(タイ)   | … | 30 |
| ● ニチレイロジグループ 次世代輸配送システム「SULS(サルス)」                                       | … | 32 |
| ● ニチレイロジグループ トラックバース 事前予約システム  | … | 35 |
| ● ニチレイフレッシュ 「生命いのちの森プロジェクト」  | … | 37 |

# 重要事項（マテリアリティ）

## 長期経営目標（2030年の姿）



## 重要事項（マテリアリティ）

2020年6月、ニチレイは長期経営目標「2030年の姿」の実現に向け、5つの重要事項（マテリアリティ）を特定しました。特定にあたっては、社外取締役も含めた役員全員が参画しました。

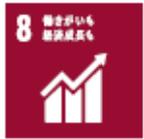
2021年6月、この5つの重要事項（マテリアリティ）を具体的に取り組んでいくため、グループ戦略と事業戦略が連動した目標（施策・KPI）を策定しました。

持続可能な社会の実現に対する期待の高まりをビジネスチャンスと捉え、ステークホルダーとともに社会課題を解決し、企業価値の向上を目指していきます。

食と健康を支える広い領域で事業を展開するニチレイグループの強みを活かし、  
以下の5つの重要事項（マテリアリティ）に取り組みます

| グループ重要事項（マテリアリティ）          |  | 2030年のありたい姿   | グループ施策   | 2030年度 グループ目標（KPI）  | 貢献するSDGsのゴールとターゲット  |
|----------------------------|--|---|--|---|---|
| 食と健康における新たな価値の創造           | 食と健康における既存事業領域を超えた挑戦により、新たな市場や顧客価値を創造する                                  | 素材がもつ健康価値や冷力の新たな可能性を見出し、デジタルを活用した豊かな食生活と健康寿命の延伸に貢献している。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ R&amp;Dを強化し、地球環境に配慮した新たな食資源や健康価値素材を開発</li> <li>・ マーケティング・DX分野への資源配分による、おいしく健康に配慮した商品の開発や、食生活を豊かにするサービスの提供</li> <li>・ 新たな領域で価値を創出・育成する仕組みを作り、イノベーション活動を推進</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たな可能性を追求した素材や、おいしく健康価値を高めた商品・サービス売上高1,000億円</li> <li>・ 人々の豊かな食生活と健康につながる情報提供 延べ2億人/年</li> </ul> |  3.d<br> 8.2<br> 9.5 |
|                            |  |   | 加工食品・低温物流事業における積極的な設備投資を通じた能力増強・業務革新・環境負荷軽減・基盤整備などの推進  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ EBITDAマージン 12%</li> <li>・ EBITDA年成長率 7%以上</li> </ul>   |  2.4<br> 9.1<br>9.4   |
| 食品加工・生産技術力の強化と低温物流サービスの高度化 | 食品の加工・生産、低温物流で培ったコアコンピタンスをさらに磨き上げ、グローバル市場において、社会課題の解決と競争優位性による収益力向上を実現する | 海外事業が新たな収益の柱となっている。                                     | グローバル人材の確保・育成やパートナー企業の開拓、M&Aなどを通じた海外展開の加速  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外売上高比率 30%</li> </ul>   |  8.b   |

|                    |   |  |   |  |   |
|--------------------|---|--|---|--|---|
| 持続可能な食の調達と循環型社会の実現 | 事業の基盤であるサプライチェーンに関わるさまざまな社会課題を解決し、持続可能な食の調達と循環型社会の実現に貢献する           | すべての原料・素材をニチレイグループサプライヤー行動規範・ガイドラインに準拠したサプライヤーやパートナー企業から調達している。      | 人権や環境に配慮したサプライチェーンの構築とデューデリジェンスに取り組む  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ニチレイグループサプライヤー行動規範・ガイドラインに準拠したサプライヤーやOEM先からの調達率 100%</li> <li>主要原材料と重要サプライヤーへのESGデューデリジェンス実施率 100%</li> </ul> |  8.7<br> 12.2<br> 14.4<br> 12.6 |
|                    |   | 新たなビジネスモデルの創出などにより、サーキュラーエコノミー（循環型経済）を推進している。                        | 持続可能な資源調達やサーキュラーエコノミーの実現に取り組む   | <ul style="list-style-type: none"> <li>サーキュラーエコノミーの実現に向けたSDGs教育プログラムの受講率 100%（全従業員）</li> <li>全拠点における廃棄物リサイクル率 99%</li> </ul>                         |  4.7<br> 12.5   |
|                    |   | 水リスクを把握し、水資源に関するレジリエンスが向上している。                                       | 全拠点での水リスクアセスメントを通じた水リスクの特定と保全活動を実施する  | <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に全拠点での水リスクアセスメントを実施し、保全活動やBCPIに取り組む</li> </ul>   |  6.3<br> 13.1   |
| 気候変動への取り組み         | 気候変動の影響を大きく受ける食品・物流企業として、サプライチェーン全体での温暖化対策やエネルギー削減をステークホルダーとともに取り組む | 2050年のカーボンニュートラルの実現を目指し、グループ国内外におけるCO <sub>2</sub> 排出量削減の取り組みが進んでいる。 | 食品工場・物流センターにおける原単位でのCO <sub>2</sub> 排出量削減や再生可能エネルギーの活用を推進するとともに、TCFDの提言に基づく情報開示を行う                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量50%削減（2015年度比、国内Scope1, 2)</li> </ul>  |  7.2<br>7.3  |
|                    |   | 地球温暖化への取り組みとして生産・物流設備の脱フロン化が進展している。                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>国内におけるすべての冷凍・冷蔵設備の自然冷媒への置き換え</li> <li>海外における実態の把握を通じた自然冷媒への置き換え</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自然冷媒化率 生産設備（国内）100%</li> <li>低温物流関係（海外を含む）75%</li> </ul>  |  13.3  |

|             |  |  |   |  |   |
|-------------|--|--|---|--|---|
| 多様な人財の確保と育成 | 持続可能な成長を実現するため、多様な人財を確保・育成するとともに、包摂的な企業風土を醸成する | さまざまな個性や能力を持った多様な人財が、それぞれの力を最大限に発揮することで働きがい向上し、グループの持続可能な成長を支えている。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策の効果をモニタリングするグループ共通のエンゲージメントサーベイ<sup>※</sup>の導入</li> <li>・ グループ従業員がそれぞれのキャリア観などに応じた働き方を選択でき、かつ、生産性向上に寄与する人事制度</li> <li>・ ルールの整備と活用支援</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性取締役・監査役比率 (HD<sup>※</sup>) 30%</li> <li>・ 女性管理職 (ライン長) 比率 (HD<sup>※</sup>) 30%</li> </ul> | <br>4.3<br>4.4 <br>5.1<br>5.5 |
|             |  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 従業員一人ひとりが働きがいを感じ、健康で生き生きと働ける職場環境や企業文化づくりに向けたコミュニケーション活動の推進と公平な学びの機会の提供</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2030年までに人財投資額を2倍<sup>※</sup></li> </ul>   | <br>8.5   |

※ マテリアリティ「食と健康における新たな価値の創造」は2022年にグループ目標 (KPI) などの改定を行いました

# 重要事項(マテリアリティ)のKPI

## 重要事項 (マテリアリティ) のKPI

グループ重要事項(マテリアリティ)の取り組みを推進するため、2030年のグループ目標(グループ施策・グループKPI)を2021年に設定しました。

2022年度からは、中期経営計画「Compass Rose 2024」において、グループKPIの2024年のマイルストーンを設定するとともに、持株会社・各事業会社がそれぞれ取り組む施策と目標値を設定しています。今後継続的にKPIのモニタリングを行い、PDCAサイクルを回していくことで、目標の達成を目指します。

| グループ重要事項<br>(マテリアリティ)      | グループ目標 (KPI)   | 2021年度<br>実績  | 2024年度<br>目標   | 2030年度<br>目標                          | 主に取り組む<br>事業会社   |
|----------------------------|--|---------------|----------------|---------------------------------------|--|
| 食と健康における新たな価値の創造           | 対象テーマ売上高   | -             | -              | 1,000億円                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>ニチレイフーズ</li> <li>ニチレイフレッシュ</li> <li>ニチレイ (持株会社)</li> </ul>                      |
|                            | 生活者・社外向けの情報提供数<br>(延べ人数/年)   | -             | -              | 2億人                                   |  |
| 食品加工・生産技術力の強化と低温物流サービスの高度化 | EBITDAマージン   | 9%            | 10%            | 12%                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>ニチレイフーズ</li> <li>ニチレイロジグループ</li> </ul>  |
|                            | EBITDA年成長率<br>※ 2021年度は2019-2021年の年成長率<br>2024年度は2022-2024年の年成長率<br>2030年度は2025-2030年の年成長率 | 4%            | 7%             | 7%以上                                  |  |
|                            | 海外売上高比率  | 16%           | 20%            | 30%                                   |  |
| 持続可能な食の調達と循環型社会の実現         | ニチレイグループサプライヤー行動規範・ガイドラインに準拠したサプライヤーやOEM先からの調達率  | -             | 検討中            | 100%                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ニチレイフーズ</li> <li>ニチレイロジグループ</li> <li>ニチレイフレッシュ</li> <li>ニチレイバイオサイエンス</li> </ul> |
|                            | 主要原材料と重要サプライヤーへのESGデューデリジェンス実施率  | -             | 検討中            | 100%                                  |  |
|                            | サーキュラーエコノミーの実現に向けたSDGs教育プログラムの受講率  | 100%<br>(役職者) | 100%<br>(全従業員) | 100%                                  |  |
|                            | 全拠点における廃棄物リサイクル率   | 99%           | 99%            | 99%                                   |  |
|                            | 全拠点での水リスクアセスメント実施  | 国内拠点の水害リスク調査  | 2023年度に実施      | 定期的に全拠点での水リスクアセスメントを実施し、保全活動やBCPに取り組む |  |

|             |   |      |       |       |   |
|-------------|---|------|-------|-------|---|
| 気候変動への取り組み  | CO <sub>2</sub> 排出量削減<br>(2015年度比、国内Scope1,2) | △20% | △30%  | △50%  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニチレイフーズ</li> <li>・ニチレイロジグループ</li> </ul>   |
|             | 自然冷媒化率<br>生産設備（国内）                            | 58%  | 80%   | 100%  |   |
|             | 自然冷媒化率<br>低温物流関係（海外を含む）                       | 53%  | 63%   | 75%   |   |
| 多様な人財の確保と育成 | 女性取締役・監査役比率（HD※）<br>※ HD：ニチレイ（持株会社）           | 20%  | 20%以上 | 30%以上 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニチレイフーズ</li> <li>・ニチレイロジグループ</li> <li>・ニチレイフレッシュ</li> <li>・ニチレイバイオサイエンス</li> <li>・ニチレイ（持株会社）</li> </ul> |
|             | 女性管理職（ライン長）比率<br>（HD※）                        | 12%  | 20%   | 30%   |   |
|             | 人財投資額<br>（2018-2020年度平均の人財投資額<br>に対する倍率）      | 0.8倍 | 1.7倍  | 2.0倍  |   |

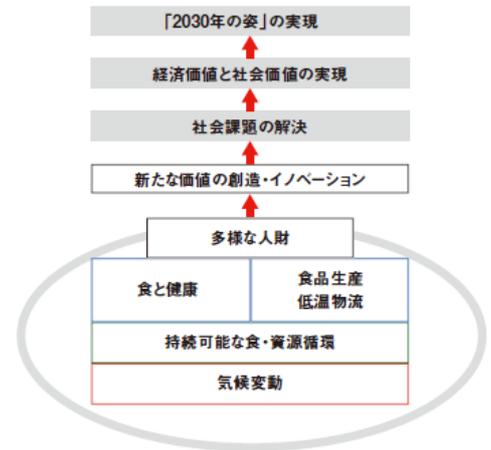
# 重要事項(マテリアリティ)の特定プロセス

## 検討体制

### 検討体制

代表取締役社長をプロジェクトオーナーとし、重要事項（マテリアリティ）と気候変動シナリオの2つのプロジェクトを2019年9月～2020年6月まで同時に立上げ、双方の情報を連携させながら検討を重ねました。重要事項（マテリアリティ）策定プロジェクトは執行役員・経営企画部長がプロジェクトリーダーを担い、取締役会メンバーと執行役員含めた全役員で検討しました。また、気候変動シナリオ検討プロジェクトについては、環境担当掌管役員である取締役執行役員がプロジェクトリーダーを担い、専門家のアドバイスを受けながらTCFDで提唱されているフレームワークに沿って、環境担当部門である技術戦略企画部を中心に各事業会社の経営企画部や環境担当者とともに検討を重ねました。

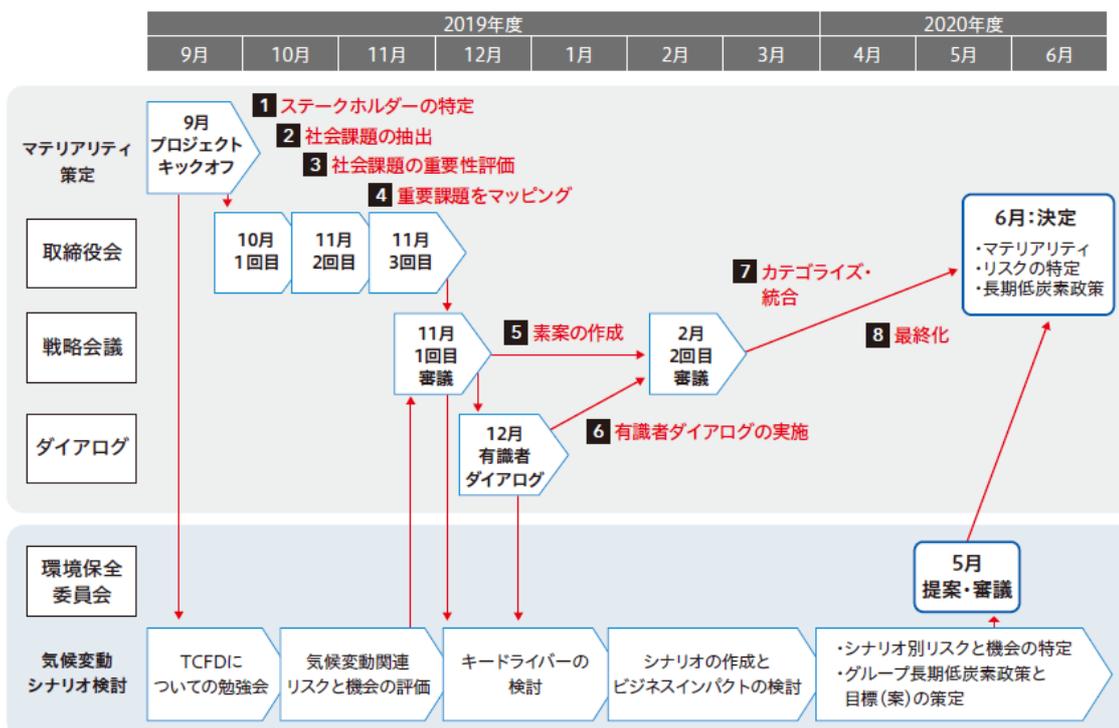
5つのマテリアリティと「2030年の姿」の関係図



## 検討スケジュール

### 検討スケジュール

マテリアリティ策定・気候変動シナリオ検討プロジェクト グランドスケジュール



## 1 ステークホルダーの特定

当社は食の提供を事業領域とし、多くのステークホルダーと関わっています。事業活動自体がステークホルダーの生活や社会へ影響を及ぼすものであり、社会的な責任は大きいと認識しています。そのため、ステークホルダーからの要請度と当社が社会に及ぼす影響度から、ステークホルダーの特定を行いました。

## 2 社会課題（リスクと機会）の抽出

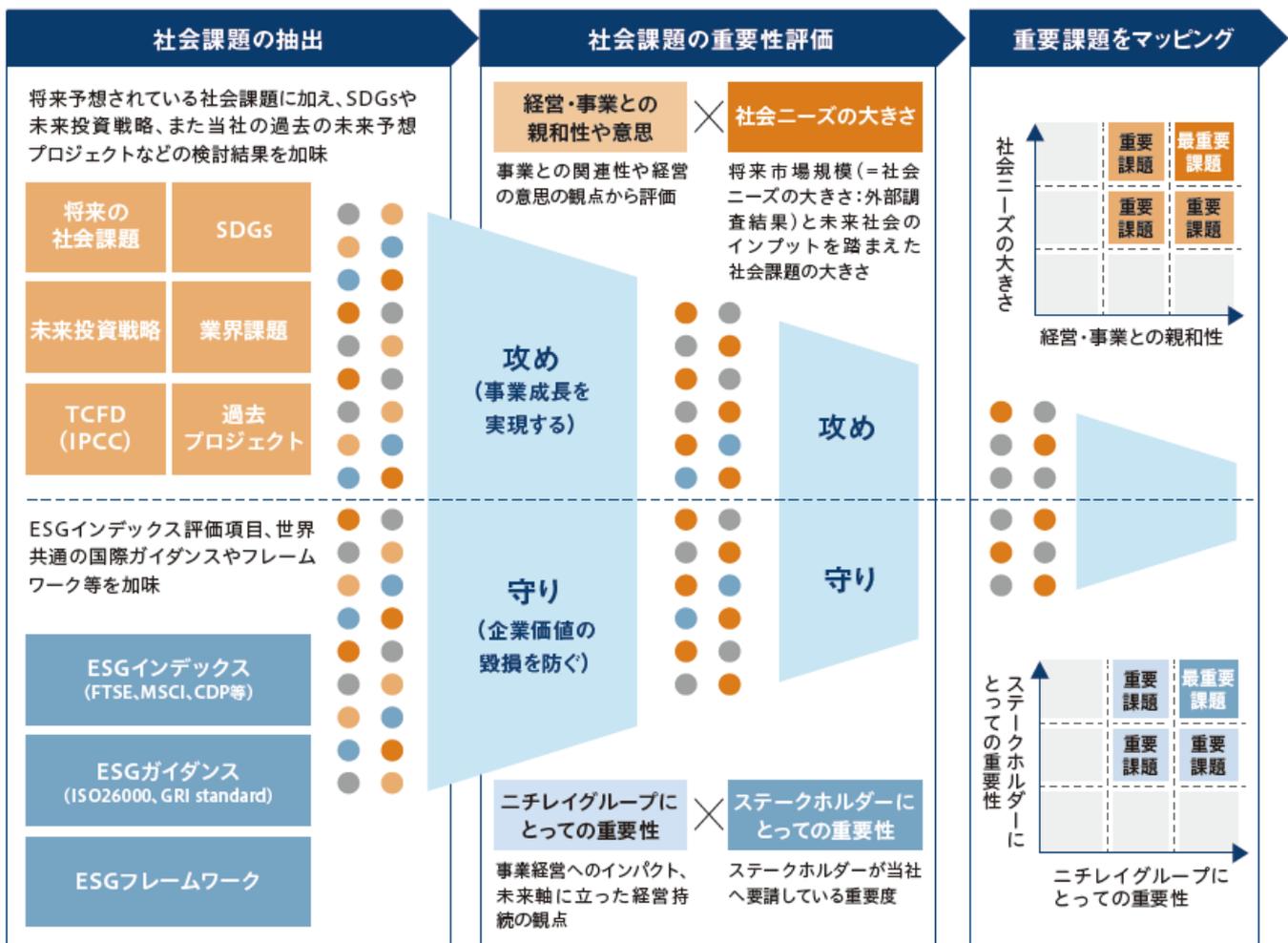
ステークホルダーを選定してから、未来軸・グローバル視点で社会課題を抽出

## 3 社会課題の重要性評価

事業成長を実現する課題を「攻め」、企業価値の毀損を防ぐ課題を「守り」と位置づけ、両軸で、社会課題の重要性評価を実施

## 4 重要課題をマッピング

重要課題を「攻め」と「守り」でマッピングし、2019年11月、経営戦略を議論するグループ戦略会議の場で1回目の審議を実施



(参考) 国連グローバル・コンパクト、国連ビジネスと人権に関する指導原則、OECD多国籍企業ガイドライン、ILO、日本SDGsアクションプラン2019-2020、経済産業省TCFDガイダンス、Society 5.0 等

## 5 素案の作成

「攻め」と「守り」別に素案を作成

6 有識者ダイアログ

2019年12月、検討した素案について、社外有識者による妥当性評価および代表取締役社長を含めた社内役員との意見交換を実施しました。

有識者のみなさま

|  |  |   |
|--|--|---|
| <p><b>竹ヶ原 啓介氏</b></p> <p>(株)日本政策投資銀行<br/>執行役員産業調査本部 副本部長 兼<br/>経営企画部サステナビリティ経営室長</p> | <p><b>富田 秀実氏</b></p> <p>ロイドレジスタージャパン (株)<br/>取締役</p> | <p><b>村上 由美子氏</b></p> <p>経済協力開発機構<br/>東京センター 所長</p> |
|--|--|---|

ニチレイグループの出席者

|   |  |  |
|---|--|--|
| <p><b>大谷 邦夫</b></p> <p>取締役会議長<br/>代表取締役会長</p>                       | <p><b>大櫛 顕也</b></p> <p>代表取締役社長</p>                               | <p><b>田口 巧</b></p> <p>取締役執行役員<br/>持株会社企画管理部門統括</p>             |
| <p><b>金子 義史</b></p> <p>取締役執行役員<br/>株式会社ニチレイフレッシュ<br/>代表取締役社長</p>    | <p><b>川崎 順司</b></p> <p>取締役執行役員<br/>持株会社品質保証・<br/>技術戦略部門統括</p>    | <p><b>竹永 雅彦</b></p> <p>取締役執行役員<br/>株式会社ニチレイフーズ<br/>代表取締役社長</p> |
| <p><b>梅澤 一彦</b></p> <p>取締役執行役員<br/>株式会社ニチレイロジグループ本社<br/>代表取締役社長</p> | <p><b>武永 正人</b></p> <p>執行役員<br/>株式会社ニチレイバイオサイエンス<br/>代表取締役社長</p> | <p><b>三木 一徳 (司会進行)</b></p> <p>執行役員<br/>経営企画部長</p>              |



## 外部有識者からの意見

### 今後の方策の粒度

- ・CO<sub>2</sub>排出削減・自然冷媒への切替などを長期視点で、長期戦略として飛躍するために取り組んでいく。

### 2030年までの時間軸

- ・新たな経営課題のゴールとそれを達成するための手段（社内的なマネジメントテーマ）の2つの視点に分ける。
- ・「責任ある企業の行動指針」のようなグローバルスタンダードを指針として発信するような方向を検討。

### 品質保証

- ・品質・安全性は、当然ではあるが、経営の最重要課題とすることで違和感がない。
- ・現状では、基盤的な項目。攻めの観点で、新たに発生しうるリスクがある場合は、品質管理の強化など、攻めに必要なリスクファクターという位置づけも可能である。

### 持続可能性

- ・持続可能な食料生産では、農業生産性を高めることにより気候変動対応（CO<sub>2</sub>削減）にもつながる。
- ・低温物流を維持しながら、RE100はないのではないかと。各ターゲット項目間の連携を意識するとよい。
- ・食品事業はリスクが大きい業種。事業に紐づいた形でブレイクダウンする必要がある。

### エシカル

- ・日本企業ではまだ、エシカルを大きく打ち出している企業が少なく、競争優位につながる可能性がある。例えば、美味しい瞬間を届けたいエシカルなニチレイなどを打ち出す等。
- ・マーケティングの観点でエシカルが抜けている。美味しく、世界基準でエシカルであることも世界にメッセージとしてうち出せる。

### ニチレイらしさ

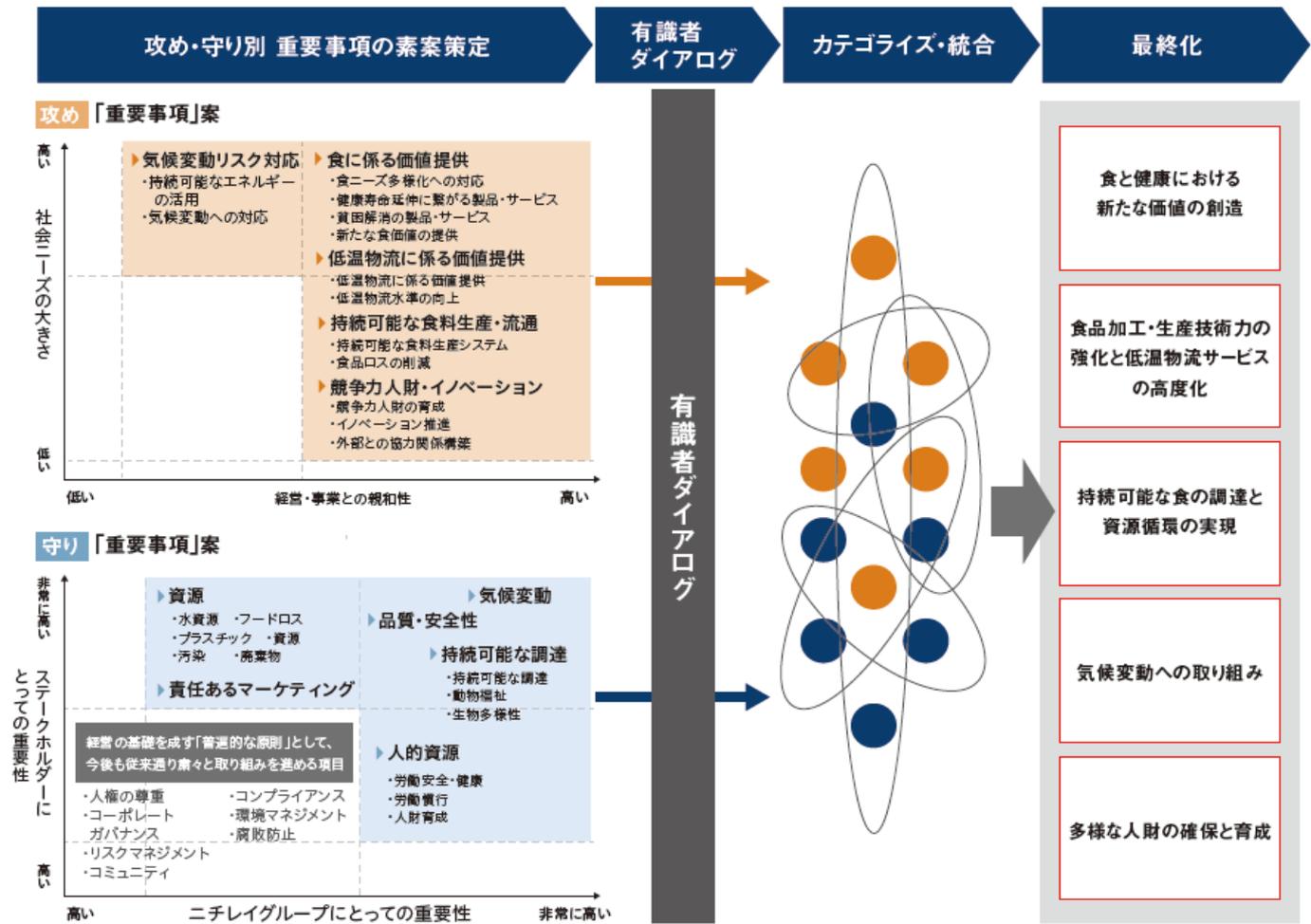
- ・一般的な加工食品に加えて、低温物流、水産・畜産に関する重要課題に見える形で出してみてもどうか。
- ・低温物流ではニチレイらしさを発揮できるのではないかと。良い面も悪い面もあるが、TCFDのフレームの中での取り組みを発信していくとよい。コールドチェーンのリーダーとして、フロン問題についてもメッセージを発信してはどうか。

7 カテゴリズ・統合

有識者からいただいたご意見も加味し、「攻め」と「守り」の重要事項をカテゴリズし統合化を実施しました。

8 素案の最終化

2020年2月、2回目の戦略会議の場において、有識者からの妥当性評価やニチレイらしさについてのご意見などを参考に審議を重ね、最終的に5つのマテリアリティ（案）で意見が固まりました。



## マテリアリティの特定

### マテリアリティの特定

2020年6月、代表取締役会長が議長を務める取締役会にて、5つのマテリアリティが特定されました。「気候変動への取り組み」を除く4項目に関するグループ長期目標（施策およびKPI）については引き続き検討してまいります。なお、5つのマテリアリティに関しては事業会社と議論を重ねており、組織プロフィールの策定を通じて、各社の事業戦略に組み込んでいきます。

### 5つのマテリアリティに込めた想い

| マテリアリティ                    | マテリアリティに込めた想い   |
|----------------------------|---|
| 食と健康における新たな価値の創造           | 二チレイが主要な市場としてきた日本国内は、今後、人口減少に伴う消費の縮小、消費者ニーズの多様化や食・医療のパーソナライズ化など様々な変化が見込まれます。このような環境下においても当社グループが引き続き成長していくために、食と健康という中核領域に立脚しながらも、既存事業の枠にとらわれることなくイノベーションを推進し、新たな市場や顧客価値を創造していきたいと考えます。 |
| 食品加工・生産技術力の強化と低温物流サービスの高度化 | 食の領域におけるニーズの多様化や新たな社会課題の解決に向け、冷凍食品や低温物流への期待は高まっています。AI、IoT、自動運転などの新技術の活用を通じ、コアコンピタンスである「食品加工・生産技術の強化及び低温物流サービスの高度化」を実現し、日本国内はもとよりグローバル市場においても確固たる地位を築いてまいります。                           |
| 持続可能な食の調達と資源循環の実現          | 環境や人権に配慮した持続可能な食の調達への取り組みは、当社の事業の根幹であり、顧客価値の提供と当社グループの成長に直結しています。これは同時に、資源を可能な限り循環させる循環型社会の実現と、包括的な事業継続マネジメント（BCM）強化にもつながっていきます。  |
| 気候変動への取り組み                 | 世界全体で地球温暖化への対策が求められている中、気候変動の影響を大きく受ける食品・物流企業として、地球温暖化ガスの排出量削減に向けた取り組みを、長期環境目標を制定することで加速させていきます。2030年のCO <sub>2</sub> 排出量を2015年比で30%削減することを目指します。                                       |
| 多様な人財の確保と育成                | 当社グループの最も重要な経営資源は「人財」です。基盤である人権尊重、公正な労働慣行、健康・安全の確保はもとより、多様なバックグラウンドを持つ人財がいきいきと働ける職場環境や人事制度の整備・能力開発などを通じて創造力を発揮できる組織風土づくりを進め、新たな価値創造、社会課題の解決につなげていきます。                                   |

# DX戦略

## DX戦略

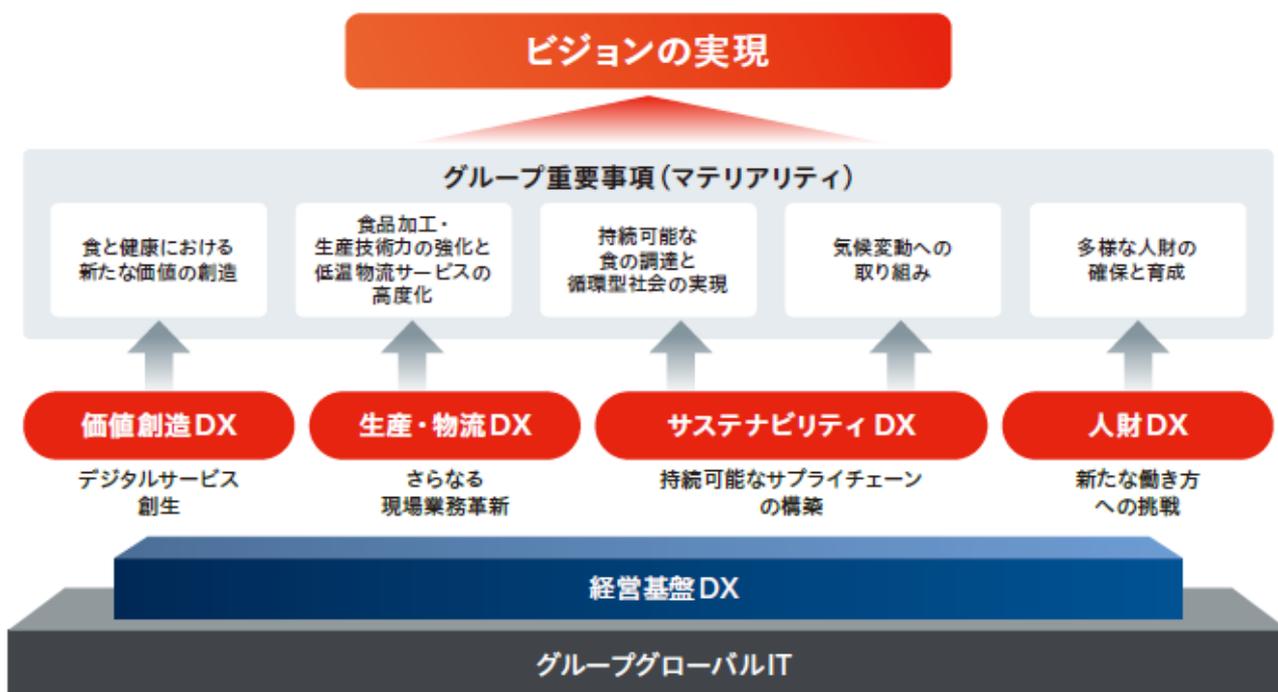
ニチレイグループは5つの重要事項（マテリアリティ）と紐づけたデータ・テクノロジーを活用したビジネス変革活動をDX（デジタル・トランスフォーメーション）として位置づけ、新たな価値の創出を目指します。

### DX戦略

従業員一人ひとりがごく当たり前にデータ・テクノロジーを使いこなし、  
地球と人々に新たな価値を提供し続けます。

### DX戦略の全体像

DX活動にフォーカスした新たなポータルサイトの立ち上げと、グループの従業員一人ひとりがデジタルリテラシーを習得することを目的としたDX研修を実施し、従業員の意識向上を図るとともに、グループ全体でDXを推進し、既存業務の革新や新規業務の創出、サプライチェーンの課題解決などに寄与します。これらにより、ニチレイグループのビジョンの実現を目指します。



DX教育の展開



## ■ 価値創造DX

データ・デジタル技術を活用し豊かな食生活と健康寿命の延伸に貢献する新規事業の創生および顧客体験価値の向上の提供を行い、業界を超えた取り組みにより、新たなエコシステム構築、収益化を目指します。

## ■ 生産・物流DX

IoT・AI・ロボットなどを活用した自動化、工場での生産数量や冷蔵倉庫での入出庫・在庫数量の把握など工場と倉庫を連携させた全体最適化に取り組みます。また、工場・倉庫管理ノウハウを結集した最適な機器運用・保守の実現や複数拠点を俯瞰したコントロールに取り組みます。

## ■ サステナビリティ DX

調達先などをはじめとしたサプライチェーン全体での関係者のサステナビリティ情報を収集・管理・分析し、持続可能なサプライチェーンの構築に取り組みます。

## ■ 人財DX

人財活用においては、社内での“適所適材”を進めていきます。あわせて、外部人財との連携を促進することで、業務の効率化に取り組みます。

## ■ 経営基盤DX

社内外のデータを収集・管理・分析し、価値ある情報に変換したうえでタイムリーに経営に提供し、スピーディーな意思決定を実現します。

ニチレイグループが全社員を対象にデジタル人材育成研修を実施、  
研修ツールとしてアイデミーが「Aidemy Business」を提供  
| 株式会社ニチレイ (nichirei.co.jp)



## 低温物流網の整備

価値創造ストーリー

### 価値創造のあゆみ ~低温流通網の整備~

ニチレイグループは、高度経済成長期の食生活の多様化を支えた製氷事業や冷蔵・冷凍事業、1960年代の健康水準の向上に貢献したコールドチェーンの整備など、時代ごとのさまざまな課題を解決してきました。近年はグローバル化や社会の変化によって、食品物流はますます複雑化・高度化しており、環境への配慮や省人化、食糧資源の効率的利用に対する要望が高まっています。培ってきた国内No.1の設備能力と高品質できめ細かなサービスをグローバルに展開していくことで、これからも社会的価値を提供し続けていきます。

#### 1954 冷凍食品などの販売会社を設立

冷凍食品黎明期は、販売する事業者がいまませんでした。そのため、冷凍食品専門の販売会社を設立し、流通させることにしました。

#### 1959 長距離冷凍トラックを開発

ニチレイが自社開発した長距離冷凍トラック「はやぶさ」は、食品を凍結することなく低温に保つコールドチェーン化にも貢献しました。



#### 1964 東京オリンピックの選手村へ多種多様な冷凍食材を供給



5,000人を超える各国の選手団に、安全でおいしい食事を安定的に提供するため、東京オリンピックの選手村に多種多様な冷凍食材を供給しました。

#### 1965

**科学技術庁(当時)よりコールドチェーン勸告が出される**  
ニチレイはフォークリフトの導入や大型冷蔵倉庫の新設、業界団体の設立など、コールドチェーン確立に向けて中心的役割を果たしました。産地から食卓まで食品の鮮度を保ちながら低温管理下で流通させるコールドチェーンは食品ロス削減にも貢献しています。

#### 社会課題

- ・フードロス削減
- ・CO<sub>2</sub>排出量削減
- ・人手不足への対応

#### 物流の高度化・効率化

- ・共同配送
- ・モーダルシフト
- ・タブレット検品
- ・トラックパス予約システム
- ・自動運転フォークリフト など



#### 2021

日本で初めて、常温のトラクターに低温のトレーラーを連結したトラックの運行をスタート

全長25mのダブル連結トラックによって、冷凍品と常温品の同時大量輸送を実現しました。トラクターとトレーラーの脱着作業のみで同時輸送が可能となるため、ドライバー負担の大幅な低減や、稼働率・輸送効率の向上による稼働率向上の効果が期待できます。

#### 2020s

#### 2000s

#### 2000

##### 3PL事業への参入

顧客企業に代わって物流戦略の企画立案や物流システムを提案する3PL(サーブド・パーティー・ロジスティクス)事業を開始。顧客企業の物流を包括的に完結し、最も効率的な物流を構築しています。

#### 1993

##### 透過型物流センター事業(TC事業)を本格開始

ベンダー様(納品業者)と店舗の間に透過型の専用センター(トランスファーセンター-TC)を設けることで、配送効率を大幅に向上。店舗作業の効率化、CO<sub>2</sub>排出量削減にも貢献。



#### 1990s

#### 1980s

#### 1988

##### 欧州で低温物流事業を開始

オランダの冷蔵倉庫会社買収を皮切りに、欧州で低温物流事業を開始しました。国内で培ったノウハウをもとに、2000年以降、中国やタイ、マレーシアでも低温物流事業を積極的に展開し、「日本の物流品質」を世界へ広げられました。



# 冷凍食品の歴史

## 価値創造のあゆみ～冷凍食品の歴史～

ニチレイグループは70年以上前に冷凍食品を開発して以来、時代ごとにさまざまな課題を解決し、多様化する食生活を支えてきました。これまで培ってきた技術開発力で、これからも新たな価値を提供し続けていきます。



日本国内でワールドチェーン確立以前だったこともあり、業種の冷凍食品の売り場はなかった。そこで、1952年に原宿、東横百貨店に冷凍食品売り場を開拓。当初は冷凍食品が多かったが、次第に加工食品や、焼売やフライパンといった調理冷凍食品へと広がっていった。当時はまだ一般家庭に電気冷蔵庫が普及しておらず、本格的調理には時間を要した。

1954年に日本初の加熱だけで朝食できる調理冷凍食品として発売した「茶碗むし」は、茹き卵を入れた出汁の中に焼肉や卵などの具材を入れて凍結させたもの。解凍した後、蒸し器に入れて蒸す必要があったが、電子レンジがなかった当時としては画期的だった。核家族化が進む中、複数の具材を少煮ずつ揃えることが難しくかったこともあり、評判を得た。

調理冷凍食品が一気に広まったのは業務用分野である給食業界。さまざまな食のすし身を食べやすい状態で加工した「スチック」は、品質・価格が一定で、衣がついた状態で冷凍して納品された。調理現場で大量に揚げ調理できるという簡便性も手伝って、学校、病院、自衛隊の給食で大ヒット商品となった。

1964年の東京オリンピックでは94カ国、約7,500人の参加選手・役員に加え、報道陣なども含め、大人数へ食事を提供することが必要となった。国内の生鮮食品の価格高騰を抑え、品質の安定した冷凍食品を使用することとなった。利用しやすい規格、大きさを何度も検討し、品質の高い冷凍食品を選手村に納品した。選手村運営のため金額から限られたホテルの料理長たちから好評を博し、冷凍食品がホテル業界や外食産業から注目されるきっかけとなった。

家庭用調理冷凍食品の種類が増え、異なるブランドも存在したことから、1974年に家庭用食品を「グリーンベルト」のニチレイに統一。1978年には業務用「レストランパック」シリーズの家庭向け商品として「ホワイトパック」シリーズを発売。弁当用商品からディナー用高価格帯商品も投入、さまざまなシーンに対応していた。

1994年「新・レンジ生活」シリーズとして「我が家サクサク牛肉コロッケ」を発売。3年の研究開発を経て電子レンジ調理でも揚げたてのような衣のサクサク感を出すことに成功。また中層も北海道産小麦粉も使用し、コロッケ本来の味もこだわった。この技術により大幅な時短調理が可能となり、共働き世帯の増加など変化する生活スタイルに対応した。

2001年に家庭用冷凍炒飯として初めて、連続生産ラインで大量のごはんを炒めた「本格炒め炒飯」が発売された。手づくりからの代替需要を捉え、冷凍米飯商品の概念を築いた商品となった。2004年には栄養家が「作りがちな方」に向けた栄養成分コントロール食品として、冷凍惣菜セット「気づき前編」を惣菜限定で発売した。

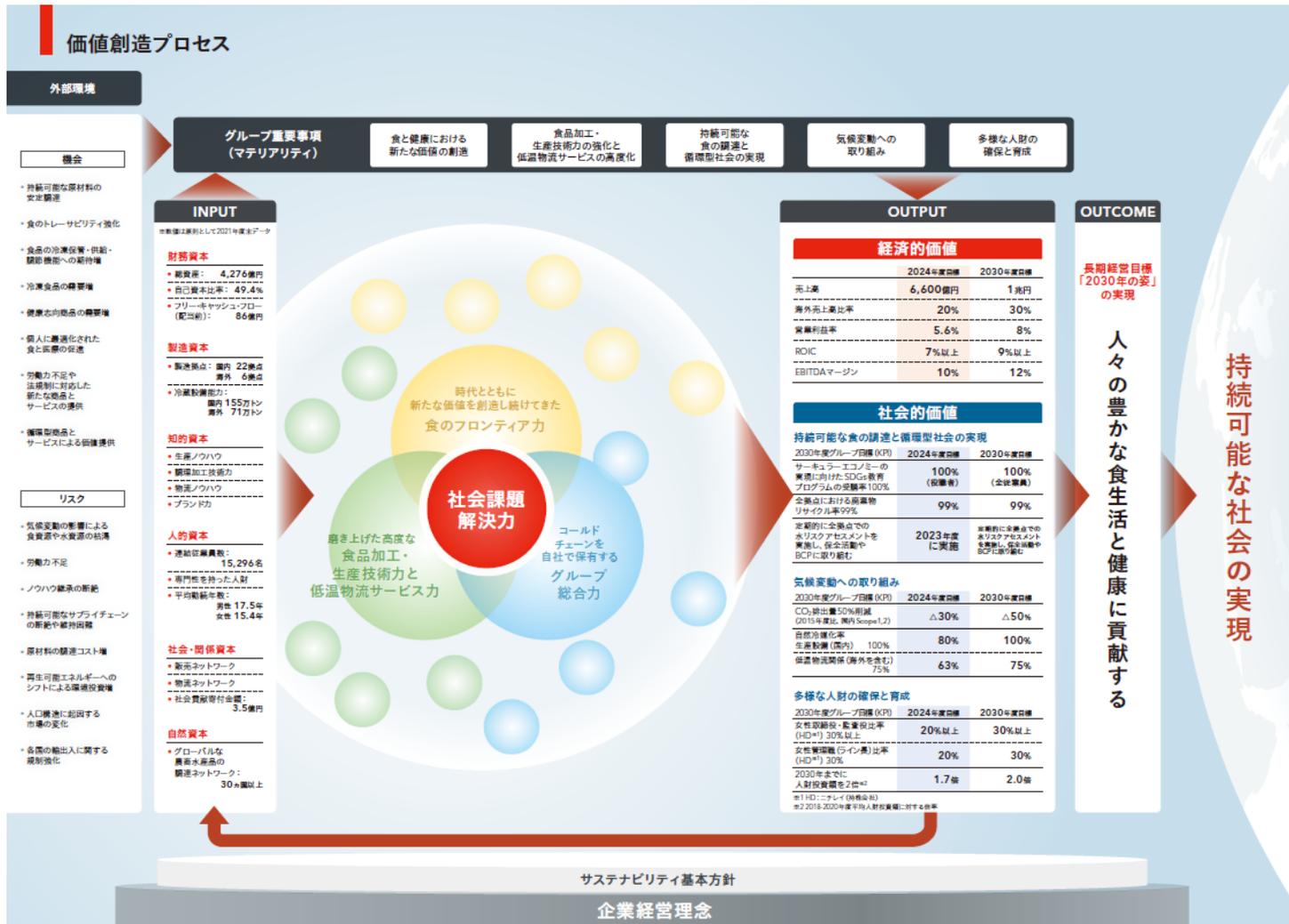
ニチレイフーズ、ニチレイジグループでは2006年からセカンダリーハースト・ジャパンの活動を支援している。これまで、2万ケース以上の冷凍食品を児童養護・母子支援・障がい者支援などの福祉施設に提供してきた。また、商品提供だけでなく、品質保持のための冷凍食品の物流サポートも行っている。

2019年にはコロッケなどの揚げ物をボイル調理で提供できる業務用「ポイルでサクッと」シリーズを発売。2020年には惣菜売り場向け商品「Vegetables」シリーズを発売。複数の具材と調味料がセットになったミルクタイプで人手や調理設備不足の課題を解決することにつながった。

**環境に配慮したパッケージへの取り組み**

- 2006年度：「今川焼」トレー廃止
- 2009年度：焼おにぎり10個入トレー廃止
- 2011年度：「本格炒め炒飯」パッケージ薄肉化
- 2014年度：焼おにぎり10個入パッケージ薄肉化
- 2015年度：「本格炒め炒飯」パッケージ薄肉化（2回目）
- 2018年度：「えびとピラフ」「チキンライス」パッケージ薄肉化
- 2020年度：「えびとチーズのグラタン」「えびとチーズのドリア」トレー薄肉化、手持ち部の幅を縮小
- 2021年度：「焼おにぎり」製のトレー廃止

# 価値創造プロセス

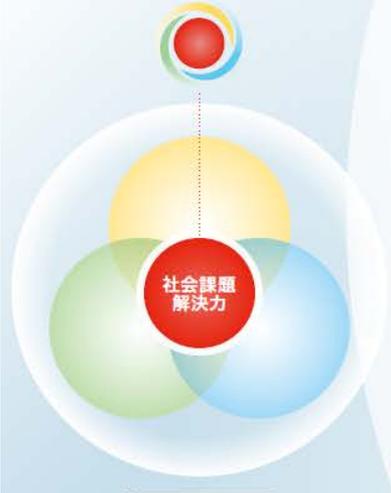


# ニチレイのビジネスモデルと強み

## ニチレイのビジネスモデルと強み

### 3つの強みを掛け合わせ創出される 社会課題解決力

ニチレイグループでは、「食のフロンティア力」「グループ総合力」「食品加工・生産技術力と低温物流サービス力」の強みと機能を併用し、社会課題解決を通じて事業成長につなげてきました。今後もステークホルダーとの協働を通じて社会的価値と経済的価値を創出し、さらなる企業価値の向上を目指していきます。



社会課題解決の事例(工)ちから(19.3.24-P.41)

**時代とともに  
新たな価値を創造し続けてきた  
食のフロンティア力**

### 私たちのDNA

今までにない食シーンや食文化を創造し、新たな価値として商品やサービスを社会へ提供し続けてきた76年間の挑戦



**磨き上げた高度な  
食品加工・生産技術力と  
低温物流サービス力**

### 私たちの独自性

- 独自の食材調達ネットワーク
- 国内No.1の高度な低温物流
- 「おいしさ」を再現する開発力、生産技術力
- 高度な専門知識と経験を有する豊富な人材



**コールドチェーンを  
自社で保有する  
グループ総合力**

### 私たちのフィールド

ニチレイグループが保有する機能の総合力で、コールドチェーンにおける食の調達・加工・物流・販売に至るまでの一貫したバリューを提供



## 価値創造ストーリー ニチレイのビジネスモデルと強み

ニチレイグループは、食の調達、加工、物流、販売に至る広い領域で事業を展開し、多様な顧客のニーズにお応えしています。グループとして保持する機能の総合力で、設立以来、社会や環境・経済環境の変化に対応しつつ新たな領域を開拓し持続的な成長を実現しています。



## 強みとしての グループ総合力

|  |   |  |   |
|--|---|--|---|
| <p><b>独自の食材調達ネットワーク</b></p> <p>世界各地から自社基準を満たした高品質な素材を調達</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サプライヤーとの長年の信頼関係</li> <li>長期契約による肥育・栽培管理</li> <li>調達過程を明らかにするトレーサビリティ</li> </ul> | <p><b>国内No.1の高度な低温物流</b></p> <p>保管・運送能力を最大限に活かし、顧客のニーズに合わせた最適な物流サービスを提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国内最大の冷蔵倉庫保管能力</li> <li>物流の拠出・産地・消費地を結ぶ最適拠点配網</li> <li>1日8,000台に及ぶトラック運行情</li> <li>最適な物流体制を構築・運用するトータル・ロジスティクス</li> </ul> | <p><b>最適加工度で提供できるノウハウ</b></p> <p>良質な素材と最適な加工度合いを組み合わせ、顧客ニーズをサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>素材を知り尽くした最適な加工度での製品提供</li> <li>プロの味とおいしさを再現する開発力</li> <li>安全・信頼を高める品質保証</li> </ul> | <p><b>多種多様な顧客と業態への対応力</b></p> <p>多種多様な顧客層と業態に合わせた各サービス形態や対応力で、顧客のニーズと利便性を実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鮮食・常温専門店</li> <li>冷凍食品</li> <li>コンビニエンスストア</li> <li>スーパーマーケット</li> <li>フードコート</li> <li>ファミリーレストラン</li> <li>コンビニエンスストア</li> <li>学校給食</li> <li>社会福祉</li> <li>病院</li> <li>介護施設</li> <li>行政機関</li> <li>企業</li> </ul> |
| <p>高度な専門知識と 経験を有する人材</p>   |   |  |   |

# プロの味を再現する開発力で、冷凍食品の新たな価値を提供～本格炒め炒飯編～

## 社会課題

### ■ 食生活の多様化に伴う「本物志向」ニーズ

### ■ 高齢者世帯や単身者世帯の増加

1990年代、コンビニエンスストアや、惣菜・デリカ業態、ファミリーレストランなどの市場が拡大し、食に関する選択肢が増大しました。このような「食生活の多様化」に伴い、2000年代初頭には、より本格的な味わいを求める「本物志向」のニーズが現れ始めました。また、高齢者世帯や単身者世帯の増加などから、簡単便利に食事をしたいニーズも根強くありました。

「本格炒め炒飯」は、そのような社会の要請に応え、2001年春に発売。ご自宅でレンジ調理するだけで、中華料理店で食べるようなおいしさとパラパラ感を味わえると、爆発的にヒットしました。その後も常に改良を行い、くらしに笑顔をお届けし続けています。

## 強み

### ■ プロの工程を再現した独自の炒め工程を開発

2001年春の「本格炒め炒飯」発売以前、冷凍炒飯といえば、炒めていない「中華風の混ぜご飯」に近いものでした。ニチレイフーズでは、本物のおいしさをお届けするため、評判店で炒飯を調理する様子を観察。油を熱する温度や時間、卵の投入タイミングなどを学びました。「大量のお米を本当に炒める」ことは不可能と考えられていた時代に、独自の炒め工程を完成させ、プロの技術を大量生産ラインに落とし込みました。



### ■ 2015年に「三段階炒め製法」へ大リニューアル

ニチレイフーズでは、発売以来、圧倒的な人気を得ていた「本格炒め炒飯」のおいしさをさらに磨き上げるため、2015年に約30億円を投じ、「三段階炒め製法」を確立。一段階目ではごはんを卵でコーティング。二段階目では、プロが中華鍋を煽って炒める時と同じ250℃以上の高温熱風で余計な水分を飛ばし、三段階目で仕上げ炒め。「本格炒め炒飯」のおいしさがパワーアップしました。



## ■ 原料にもこだわり

「本格炒め炒飯」の「要」となるお米には、北海道産の一等米を100%使用しています。  
一等米は、お米の粒に「割れ」が少なく、ごはんの粘り気が出にくく、レンジ調理でもパラパラに仕上がります。また、粒が揃っているため、味付けが均質化するのも特長です。



## 提供価値

“プロの技”が活かした冷凍食品で、日本の食生活を支える



統合レポート2021事業を通じた社会課題の解決



# 革新的な物流システムの導入により、渋滞緩和やCO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献～TC事業編～

## 社会課題

- 小売業の構造変化による物流ニーズの多様化
- 交通渋滞緩和やCO<sub>2</sub>排出量の削減に対する社会からの強い要請
- 物流コスト削減と店舗の作業負担軽減ニーズ

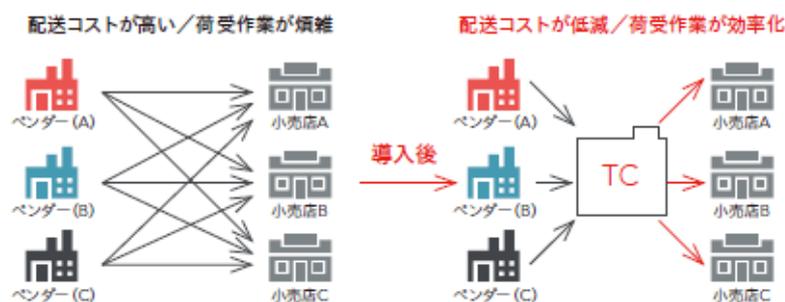
1980年代には、都市への人口集中やモータリゼーションの進展とともに、スーパーマーケットをはじめとした小売業のチェーン化が加速するなど、小売業においてドラステックな構造変化が起こりました。これにより、ジャストインタイムでの納品仕分けや鮮度管理強化の必要性が生じるなど、物流ニーズに大きな変化が生じました。また、1989年にフランスで開催されたサミット（初の環境サミット）を契機に、トラックによる騒音やCO<sub>2</sub>排出、交通渋滞が大きな課題として認識され、流通業界からも物流の効率化が強く求められるようになりました。



## 取り組み

- 小売業の構造変化に合わせた「通過型物流センター」を構築

1980年代からの小売店や飲食店のチェーン化の進展により、物流倉庫では入出庫や輸配送の頻度が激増しました。そこで、ニチレイロジグループは、商品を保管せず、在庫した商品を短時間で仕分け・配送する通過型物流センター（TC※1）による新たな物流システムを構築。GMS※2や食品スーパー、コンビニエンスストア、外食チェーンなどのさまざまな業態に即したTC事業を1993年から本格的に事業化しました。



※1 TC（Transfer Center）：通過型物流センター

※2 GMS（General merchandise store）：大規模小売店・量販店

## ■ 物流の最適化によって、コスト削減とCO<sub>2</sub>排出量の削減を同時に実現

ニチレイロジグループのTCは、生鮮三品<sup>※3</sup>や日配品などのチルド食品を中心にさまざまな小売店や飲食店に商品を配送しています。TCを中継点とするため、従来のようなメーカーや卸から各店舗へ配送するルートと比較して、圧倒的に少ないルート数で小ロット配送が可能になりました。使用するトラック数が抑えられるため、物流コストの削減はもちろん、CO<sub>2</sub>排出量の削減や交通渋滞の緩和にも大きく貢献しています。

※3 青果・精肉・鮮魚の3つを指す。

## ■ “駅ナカ”や“デパ地下”への配送にも対応

現在は、約40ヵ所のTCで24時間365日、それぞれのお客様に対してカスタマイズした最適な物流サービスを提供。“駅ナカ”と呼ばれる駅構内に展開する商業スペースや、百貨店の地階にある食料品売り場、いわゆる“デパ地下”への納品代行も行っています。また、最低限の車両台数でカテゴリ別・棚別に納品されることから、店舗側では検収・陳列などの要員管理が容易となり、軽減された作業人工を本来の顧客サービスへ振り向けることができるメリットもあります。

## ■ PC機能によって店舗での作業負担軽減にも貢献

ニチレイロジグループのTC事業では、PC<sup>※4</sup>と呼ばれる加工・梱包サービスも展開しています。これは、徹底した温度管理のもとで、畜産品や水産品の加工から計量、パック詰め包装、ラベル貼り、配送までを同一のTC内においてワンストップで提供するものです。加工作業までを集約することができるため、店舗での作業負担が軽減できるほか、在庫保管スペースの削減も可能となり、店舗の売り場面積の広範囲な確保を実現できます。



※4 PC（Process Center）：流通加工センター

## 提供価値

### 仕分け・配送・流通加工といったトータルサービスで顧客の業務効率化とCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献



# 地域循環型農畜産プロジェクトによる持続可能な食の調達 ～純和鶏編～

## 社会課題

- 動物性たんぱく質の自給率向上
- 国産飼料の自給率向上
- 地域社会との共生
- 生物多様性（種の持続性）
- 持続可能な食の生産

2018年の調査によれば、日本における肉用鶏の自給率は64%と比較的に高い水準ですが、原種の段階から国内で育種改良された純国産鶏種の自給率は出荷羽数ベースでわずか1～2%程度。近年では国内外を問わず、たびたび鳥インフルエンザが流行することがあり、そのような場合には原種鶏の輸入が停止されてしまう可能性もあります。そうなると、国内の養鶏業が壊滅的な打撃を受けるのはもちろん、食卓から鶏料理が消えてしまう可能性もあります。



## 取り組み

- 生まれも育ちも日本

兵庫県の独立行政法人と協力し、純国産鶏種の「小雪」と「紅桜」を交配し「純和鶏」の開発に成功。原種の段階から日本で生まれた「純和鶏」は、食料の持続的自給の面からも、海外に依存しない、まさに日本のために誕生したの鶏肉ブランドなのです。



- 鶏のストレスを極力減らす飼育方法

最新のコンピュータ養鶏管理システムのもと、鶏にとって快適な環境づくりに努めています。また、飼育期間は一般的な鶏よりも長い約60日。じっくり時間をかけて大切に育てています。そのため、「純和鶏」は、適度な弾力と噛むほどにコクを感じるうまみの濃いもも肉、繊維が細かく柔らかかでジューシーなむね肉など、日本人が求める肉質とおいしいを実現しました。

## ■ 循環型生産プロジェクト

最新の高速バイオマス処理プラントにより、従来3か月以上かかっていた発酵型堆肥製造と比べ、約8時間ほどで有機肥料を製造することが可能となりました。

「純和鶏」の鶏ふんを有機質肥料に加工し、「純和鶏」専用飼料となる飼料米の生産に活用しています。この飼料米をつくる水田の多くは、米の生産調整により生まれた休耕田を活用したものです。「純和鶏」から始まる循環型の生産サイクルは、地域農業の再生にも持続的に貢献しています。



「純和鶏」を通じた地域循環型農畜産サイクル



## ■ 安全・安心のトレーサビリティ

生活者へ安全で安心な鶏肉をお届けするためヒナの受け入れから養鶏記録、ワクチンなどの薬剤管理まですべて厳格なプログラムのもとで行われているため、ルーツである基礎鶏の履歴までもを、ロット単位で遡ることが可能です。

## 提供価値

### 資源循環と食の持続可能性・アニマルウェルフェアに配慮した鶏肉の提供

持続可能な特定JAS鶏肉・卵の紹介動画



純和鶏 ニチレイフレッシュ



参照：持続可能な特定JAS 鶏肉・卵



統合レポート2021事業を通じた社会課題の解決



持続可能性に配慮した鶏肉の特色JAS認証を取得第一号

## 地域社会の発展に貢献するサステナブル調達～アセロラ事業編～

### 社会課題

- 貧困問題
- 教育問題
- 地域環境に配慮した農業
- 地域住民の栄養・健康

豊富なビタミンCを含み、高い抗酸化作用を持つスーパーフードとして、改めて注目されているアセロラ。添加物を極力避ける食品表示「クリーン・ラベル」が広がりを見せるなか、酸化防止剤である合成ビタミンCの代用としても利用されています。しかしアセロラの実は非常にデリケートで、常温下では収穫して2～3日しか鮮度を保つことができません。そこでニチレイフーズは培ってきた冷凍技術を駆使し、果実の欠損を防ぎ、ビタミンCを損ねずに提供しています。

また、主要産地であるブラジルでは貧困問題や教育問題も見受けられます。ニチレイフーズのアセロラ原料ビジネスは、地域の人たちの雇用創出にも寄与しています。



### 取り組み

#### ■ アセロラ事業のパイオニア

1986年にアセロラドリンクを発売するなど、いち早くアセロラを日本に紹介したニチレイ。1990年にはアセロラ原料ビジネスを本格スタートし、1991年ブラジルに子会社のニアグロを設立。アセロラの原料事業を展開しています。

#### ■ 契約農家との信頼関係構築

ニアグロでは契約農家に苗木を無料で配布し、社員が直接栽培指導を行うことにより、高品質な果実の安定的栽培、収穫が可能になっています。また、全量買い取りすることで、契約農家の安定収入につながり、栽培スキルの向上も図られています。この取り組みによって、ニチレイフーズは世界中のお客様に高品質な商品を安定的に供給しています。



## ■ 地域への貢献

ニアグロでは、地元住民へアセロラピューレやジュースを提供。貧困家庭の子供を預かっている学校への週に一度のアセロラジュースの提供や、学校備品の修理など、学校運営を支援しています。また、学生のインターンシップなどにより雇用の創出を行っています。



## ■ 環境への配慮

アセロラという自然の恵みを活用した事業を行う企業の責任として、環境に配慮した取り組みも推進。加工段階で発生する搾りかすを家畜の飼料として活用したり、近畿大学と共同し、養殖魚のぶりの飼料として与えた「アセロラぶり」の開発なども行っています。また、果実洗浄水や果汁濃縮の際に果実から抽出した水は、微生物を活用した水処理を通じて、川に戻しています。

## 提供価値

### アセロラ果実由来のビタミンC提供による「クリーン・ラベル」の実現と、生産地経済への貢献



ニアグロは2021年のエコバディス社（本社：フランス）によるサステナビリティ調査において、評価対象企業全体の上位5%水準相当である「ゴールド」評価を獲得

Nichirei do Brasil Agricola Ltda（ニアグロ）がエコバディス社・サステナビリティ調査（2021年）で「ゴールド」評価を獲得



統合レポート2021事業を通じた社会課題の解決



## 鶏一羽をすべて使い切るチキン工場(タイ)

### 社会課題

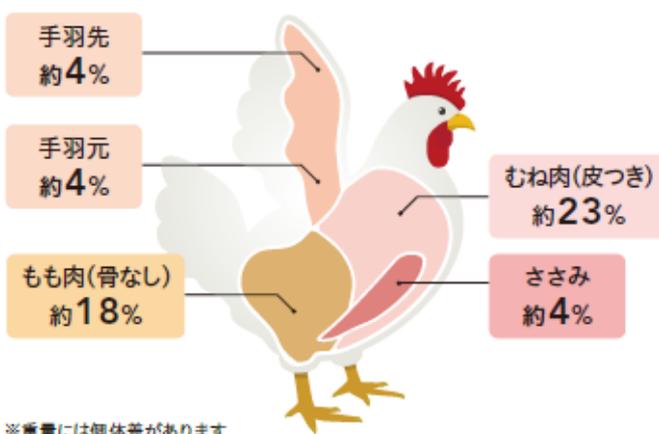
#### ■ 食品廃棄物の発生

～もも肉とむね肉は全体の約4割～

鶏肉は唐揚げやチキンソテーなどさまざまな形で食される、日々の食卓で欠かせない食材です。中でも日本で好まれる部位はもも肉ですが、鶏一羽からとれるのは約2割。欧米で好まれるむね肉も同じく約2割です。

一方、骨や羽根などの精肉以外の部位は4割以上を占めており、活用できなければ食品廃棄物が発生してしまいます。大切に育てられた鶏を無駄にしないためには、加工や販路で工夫し、鶏一羽をバランスよく活用することが求められています。

鶏一羽の部位ごとの割合※(全重量に対する比率)



### 解決に向けた取り組み

#### ■ タイに大手養鶏加工企業との合併会社を設立 (2008年)

鶏肉の需要が世界的に増加を続ける中、日本は消費量が生産量を大きく上回る世界有数の鶏肉輸入国です。

ニチレイフーズは原料の安定調達を目的に、2008年、タイ大手養鶏加工企業と合併でGFPT Nichirei (Thailand) Co., Ltd. (以下GFN) を設立。合併企業のグループ機能も活用し、原料から製品までのフルインテグレーション(完全一貫生産体制)を構築しました。飼料や原種鶏にもこだわった養鶏場より生きた鶏を搬入し、処理・カットを行い、直結されている加工場で加工調理から凍結・包装まで一貫して行うシステムです。



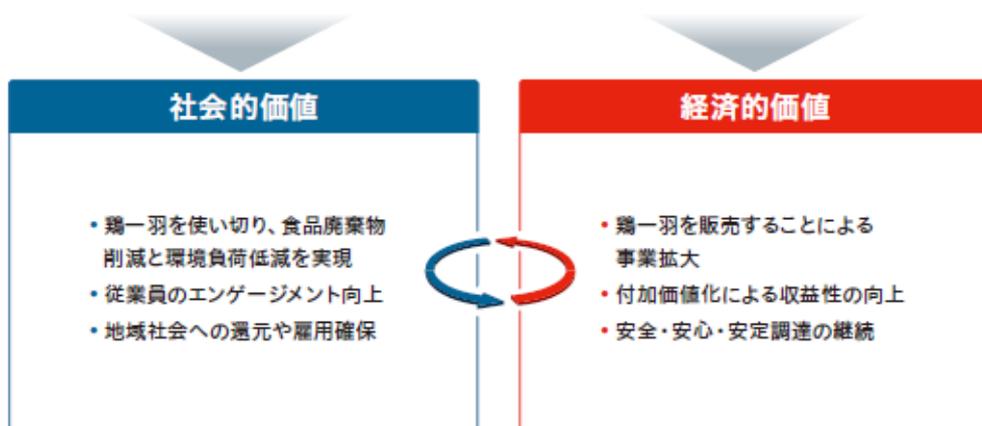
■ 鶏一羽を計画的にすべて有効活用

GFNでは安全・安心な原料の安定調達と生産ができることに加え、鶏一羽をさまざまな用途で活用することで基本的に食品廃棄物が出ないようにしています。肉はもちろん、頭部や羽根、血液に至るまで、部位ごとに有効な用途や販路を考え、付加価値をつけて販売しています(下図参照)。例えば羽根は加工して養殖魚の飼料、骨・腸・頭は加工してペットフード原料として販売、モミジは需要旺盛な中国へ販売しています。

製品品質だけでなく、環境や人権への配慮ができていくかどうかも重要で、むね肉製品を輸出している欧州では特に重視されています。GFNでは、働きやすい環境づくりやアニマルウェルフェアなどの取り組みに力を入れ、ISO14001などさまざまな国際認証を取得しています。



合併先グループ機能を活用した原種鶏から養鶏、そしてGFNでの生産までの一貫した安全・安心への取り組みは、日本および海外のお客様から高い評価を得ています。この工場には、原材料を「捨てる」という考え方はなく、資源を無駄なく使い切ることは、食品廃棄物削減だけでなく、環境負荷も低減します。また、付加価値をつけた製品を増やし、事業を拡大することは、地域社会や従業員への還元、雇用確保にもつながります。GFNは今後もさまざまな社会課題に取り組み、持続可能なチキンビジネスを目指していきます。



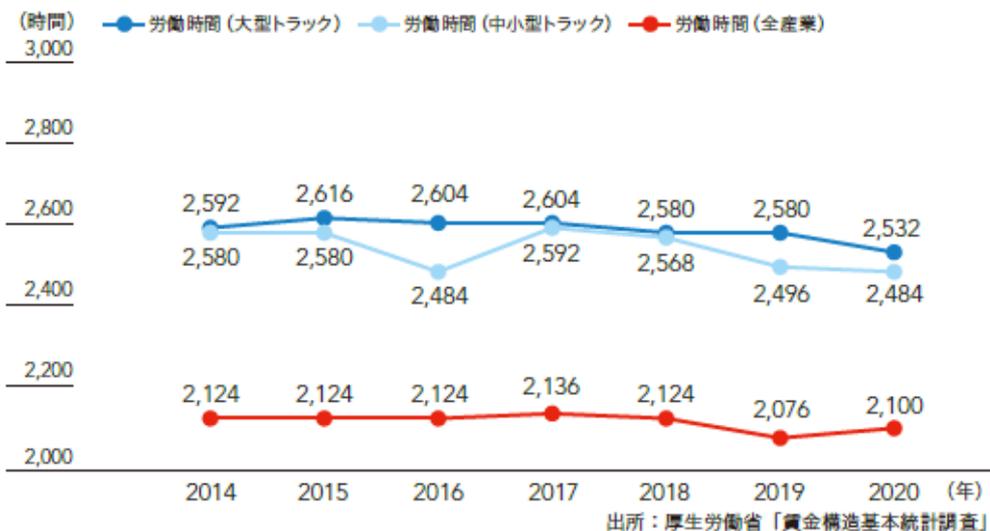
## 次世代輸配送システム「SULS(サルス)」

### 社会課題

#### 「物流業界の2024年問題」－トラックドライバーの不足と長時間労働問題

自動車運転に代表される「トラックドライバーの業務」は長距離輸配送に加え、物流拠点での手待ち時間、運転以外の付帯作業も実質的に請負う商慣行などにより、長時間労働が常態化していました。「物流の2024年問題」とは、このような労働環境の適正化を目的に、働き方改革関連法に基づき、2024年4月1日以降、「自動車運転の業務」の時間外労働時間の上限が、年間960時間に制限されることで、荷主業界・物流業界が対応を迫られる諸課題の総称です。

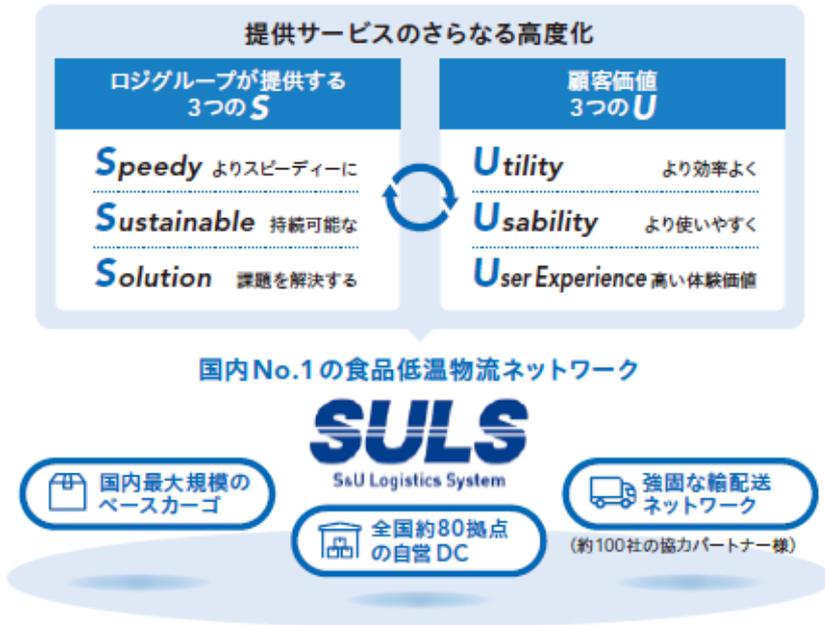
### トラックドライバーの年間労働時間の推移



## 解決に向けた取り組み

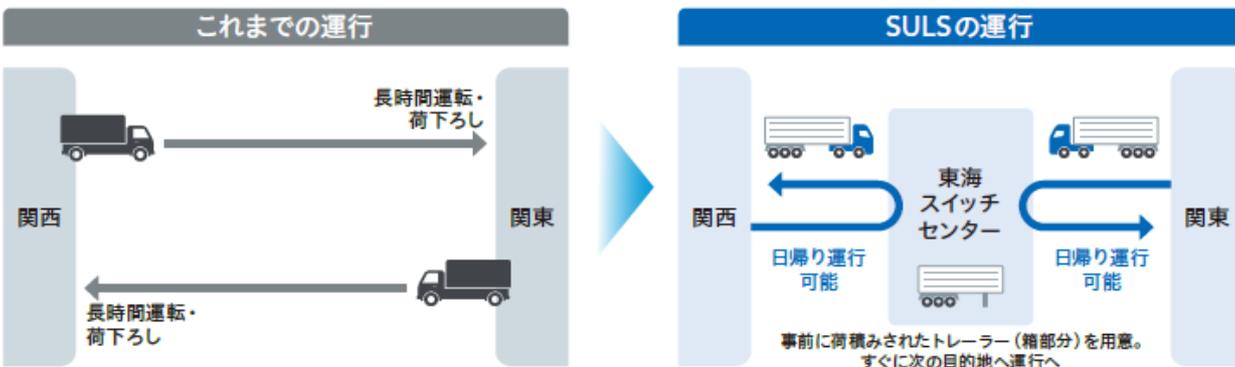
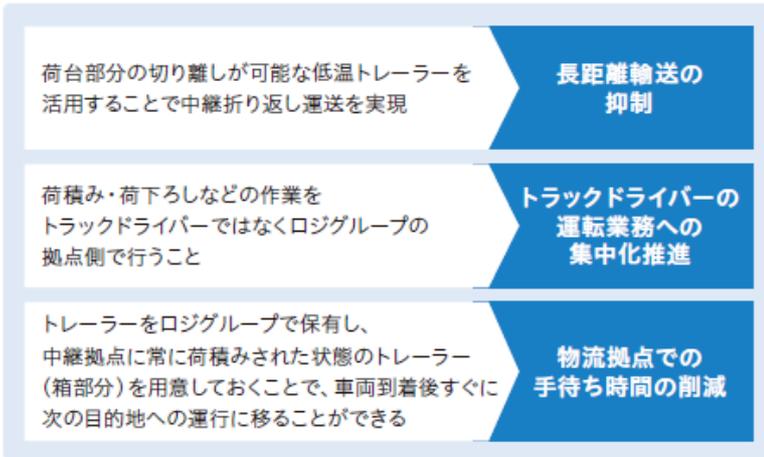
### ■ 次世代輸配送システム「SULS（サルス）」

「SULS（サルス）」の名称は、「S&U Logistics System」の頭文字からとっており、「S」には「3つのS」、Speedy（よりスピーディに）、Sustainable（持続可能な）、Solution（課題を解決する）、そして「U」には「3つのU」、Utility（より効率よく）、Usability（より使いやすく）、User Experience（高い体験価値）、という意味を含めています。ニチレイロジグループの強みを掛け合わせることで「3つのS」を生み出し、社会や顧客に「3つのU」をご提供していきたいと考えています。

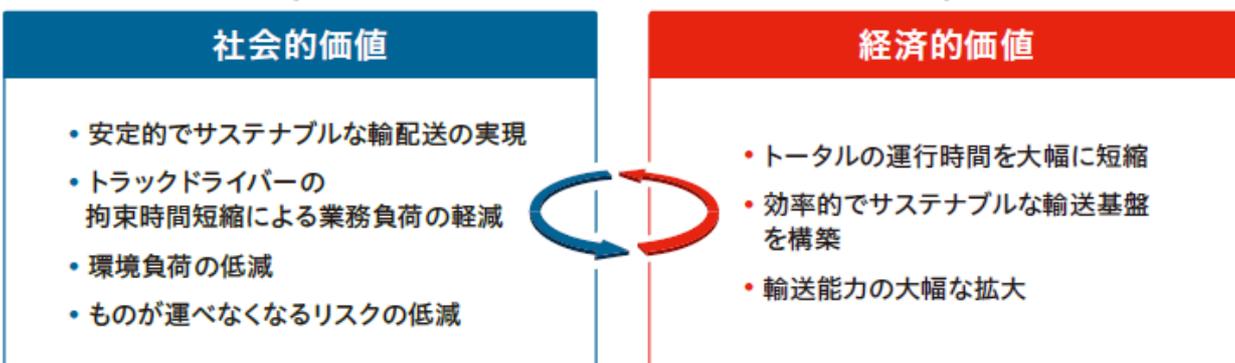


■ 「SULS（サルス）」により新たな低温物流の輸配送基盤を構築

ニチレイロジグループの拠点間輸配送において、「SULS（サルス）」の仕組みをまずは東名阪から開始。今後は全国へ順次拡大予定。低温物流における輸配送をより高品質で持続可能なかたちに進化させ、これからもお客様のサプライチェーンを支え続けます。



|                           |  |
|---------------------------|--|
| <b>期待される効果</b>            | 従来はパレット16枚積みの大型車両であれば、乗務員1名で約48時間かけて2運行、計32パレット分の輸送能力だったが、SULSの運行では約10時間で2運行、計48パレット分の輸送能力を発揮することも可能       |
| <b>ニチレイロジグループだからできる理由</b> | 1. 全国約80カ所ある自社（ニチレイロジグループ）物流拠点<br>2. ベースカーゴとしての圧倒的な保管荷主様の商品取り扱い量<br>3. 30年以上にわたる全国約100社の協力パートナー様とのパートナーシップ |



## トラックバース 事前予約システム

### 社会課題

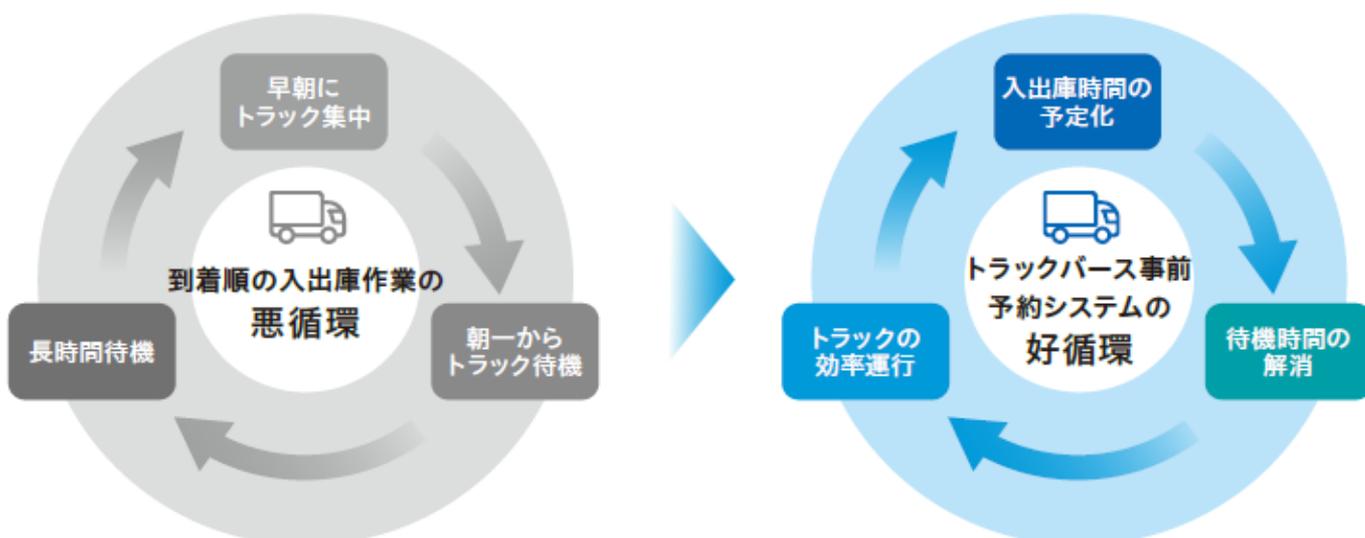
#### ■ 物流センターにおけるトラック待機問題

物流センターにおいてスムーズな荷下ろしや積み込みができないためトラックドライバーが長時間待機・拘束されていることが社会的な課題となっています。主な原因として、特に繁忙期などには、物流センターの限られたトラックバースに対して、多くの入出庫車両が集中し、物流センターの作業処理能力が追いつかなくなる時間帯が発生すること、また多くの荷主の運送車両が出入りする物流センターではそれぞれの車両が何時に荷下ろし（荷積み）に来るか、物流センター側ですべてを把握することが困難なため、事前の庫内作業との調整が難しいという事情もありました。

### 解決に向けた取り組み

#### ■ トラック待機問題の緩和・解消を図る「トラックバース事前予約システム」

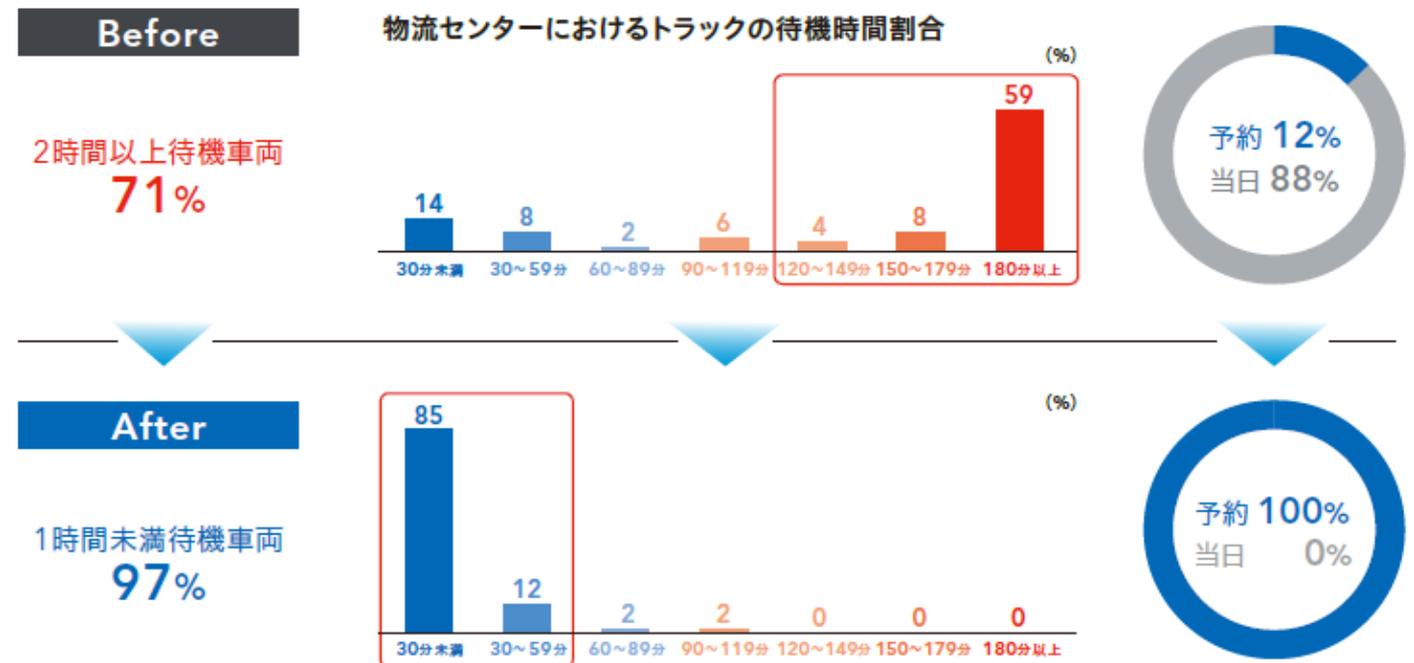
ニチレイロジグループでは2017年10月よりトラック待機問題の緩和・解消を図るため、「トラックバース事前予約システム」を運用開始。物流センターごとに設定された時間帯別の接車可能枠に対して、トラック側（荷主や運送会社）が入庫希望時間を予約できる仕組みです。これまでのような順番確保のための待機が不要になります。



■ 全国30拠点に導入

「トラックバース事前予約システム」では、トラック側から積荷明細（運送依頼書や送り状など）を物流センター側へ事前に送付することで、これまでトラック到着後に行っていた運送会社やオーダーの照会を前もって実施できるようになりました。そのため、到着からトラックバースへの誘導をスムーズに行うことが可能になりました。2020年度は全国30拠点に導入しています。

本システム安定稼働済みのある物流センターでは、完全予約制導入前は約7割の車両に2時間以上の待機が発生していましたが、導入後は97%の車両の待機時間を1時間未満に短縮することができました。あわせて、深夜・早朝時間帯の待機車両や、物流センター周辺における駐車車両の削減、そしてトラックバース接車時間の確認連絡が減少したことにより受付事務の負荷軽減にも効果が出ています。



**社会的価値**

- 待機トラック削減による渋滞や騒音の緩和
- トラックドライバーの拘束時間短縮による業務負荷の軽減
- 環境負荷の低減 (CO<sub>2</sub>削減)

**経済的価値**

- トラック未稼働時間等に伴う経済的損失の削減
- トラックドライバーの就業者層の拡大、離職者数の抑制
- 効率的でサステナブルな輸送基盤の構築



待機トラックが著しく減少



## 「生命の森プロジェクト」

### 社会課題

#### ■ 人工的なえびの集約養殖による環境破壊や生物多様性への影響

えびの養殖には広大な敷地が必要です。多くのアジア諸国では、津波や強風などの影響を軽減する緩衝場としてのマングローブ林を大量伐採し、人工的なえび養殖場（集約養殖）として開墾してきました。

その結果、鳥類や魚類や小動物などの生態系への影響だけではなく、人工飼料に配合された抗生物質や薬剤などが汚染水として土壌や地域の河川や海域に流れ出し、海洋汚染の原因の一つになっていることが課題となっています。

### 解決に向けた取り組み

#### ■ いのち 「生命の森プロジェクト」

いのち「生命の森プロジェクト」は、2006年、えび養殖地域での環境負荷の低減と安全・安心なえびの調達を持続可能にいくため、ニチレイフレッシュとえびサプライヤーとインドネシア・カリマンタン島タラカン市の3者が協働で立ち上げたマングローブ植樹プロジェクトです。

インドネシアで古くから実施されていた粗放養殖えびの収益金の一部をマングローブ基金とし、集約養殖放棄池となった荒池や地域の公園などでの植樹を計画的に実施しています。現在ではジャワ島、スマトラ島でも地元サプライヤーと協働で活動を拡大しています。



プロジェクト10周年記念看板



沿岸部での植樹

#### ■ 粗放養殖えび

粗放養殖はインドネシアの伝統的なえび養殖法。自然の地形を利用し土手やマングローブで囲った10ha超の池に少量の稚えびを放流。飼料は与えず、海のプランクトンを食べて育つため、土壌への負荷が低く、えび特有の病気が蔓延しにくく、えびが大きく育つといった特徴があり、また養殖期間中、電気を使いません。

■ 集約養殖



・1ha未満に  
区画整理されている



・人工飼料を投与  
・飼育期間中、酸素ペダル(電動)を使用



・コンベアーで池の水抜きをし、  
電動バキュームで収穫

■ 粗放養殖



・自然の地形を利用した  
10ha超の養殖池



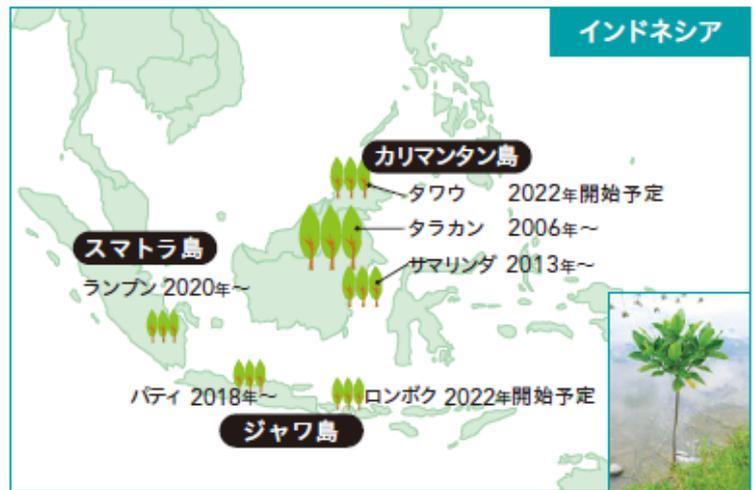
・海のプランクトンを食べて育つ  
・電気は使用しない



・海の潮の干満差を利用して収穫

■ マングローブの植樹活動

2006年カリマンタン島タラカン市から始まったマングローブの植樹活動は、ジャワ島やスマトラ島へも活動を広げています。丸15年植樹を行い、2021年で累計約38万本のマングローブを植樹しました。タラカン市やその周辺では、植樹活動の広がりとともに土壌や生態系が回復してきています。



「生命の森プロジェクト」活動報告



社会的価値

- ・地域の自然生態系回復への貢献
- ・エネルギー使用量の削減
- ・マングローブCO<sub>2</sub>吸収量の増加
- ・地域社会との共生



経済的価値

- ・品質のよい安全・安心なえびの提供
- ・商品ブランド価値の向上
- ・持続可能なえびの提供



# 環境

|                |   |    |
|----------------|---|----|
| 環境マネジメント       | … | 40 |
| 気候変動（TCFD）     | … | 45 |
| 気候変動（脱炭素・脱フロン） | … | 53 |
| 水資源保全          | … | 64 |
| 生物多様性保全        | … | 67 |
| 汚染防止と廃棄物削減     | … | 69 |
| 製品・サービスにおける取組み | … | 72 |

# 環境マネジメント

## 方針・基本的な考え方

### 基本的な考え方

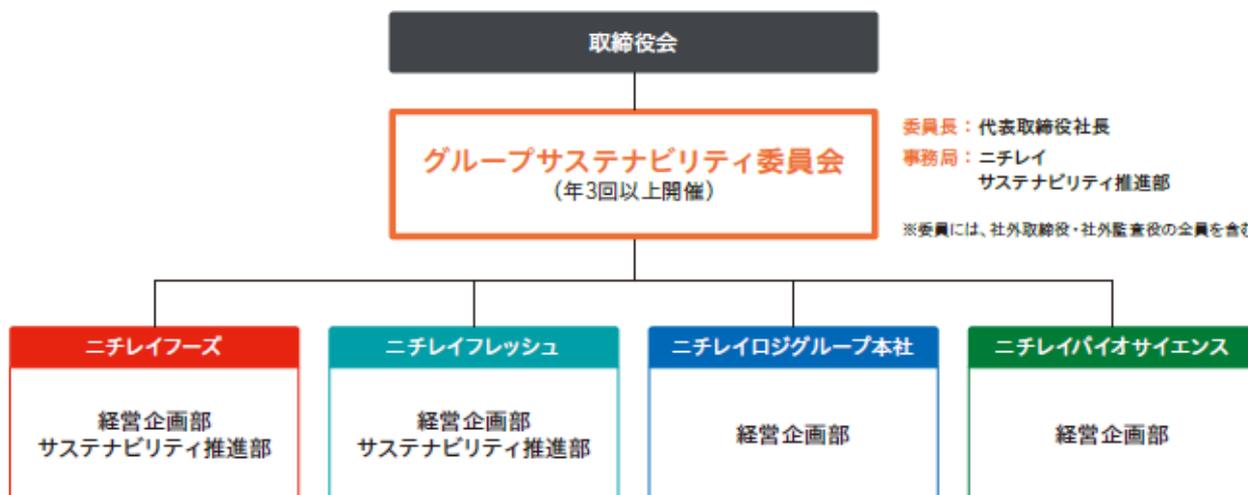
ニチレイグループではグループ環境方針を定め、基本方針を、「卓越した食品と物流のネットワークを備える企業集団として、“食”と“健康”の源である地球の恵みを次世代に引継ぎ、『おいしさ』と『新鮮』を継続してお届けするため、サプライチェーン全体で環境負荷の低減に取り組むとともに、ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて持続可能な社会の実現に貢献していくこと」としています。グループ環境方針では、「気候変動への取り組み」「持続可能な資源循環の推進」「自然との共生」の3つを重点課題としています。「気候変動への取り組み」においては、食品・物流企業として気候変動の影響を大きく受けることを認識しており、以下のように低炭素政策に向けた取り組みを進めています。

[ニチレイグループ環境方針／ニチレイグループ生物多様性方針](#)

## マネジメント体制

### マネジメント体制

多岐にわたる分野の事業会社で構成される当社グループは、各社の事業活動により環境負荷の特性が異なることから、事業会社ごとに年8回行われる「環境担当者会議」を設置し、各社の事業特性に応じた環境対策の立案、実効性の高い環境活動を推進しています。各社の取組みは、年に3回以上開催される「グループサステナビリティ委員会」において報告され、取組みの内容・進捗に応じてグループ全体の環境保全に関する政策・方針の策定や、環境に関する社会動向の共有をしています。サステナビリティ委員会の委員長は代表取締役社長が担い、事業会社の社長や、関係役員らが委員として参加しています。



[環境マネジメント> サステナビリティ委員会](#)

## 中期目標と実績

### ■ グループ環境中期目標

| 2022～2024年度グループ 環境目標                          |           |
|---|-----------|
| 全拠点における廃棄物リサイクル率                              | 99%       |
| 全拠点での水リスクアセスメント実施                             | 2023年度に実施 |
| CO <sub>2</sub> 排出量削減<br>(2015年度比、国内Scope1,2) | △30%      |
| 自然冷媒化率<br>生産設備（国内）                            | 80%       |
| 自然冷媒化率<br>低温物流関係（海外を含む）                       | 63%       |

グループ環境中期目標



CO<sub>2</sub>排出量の削減は総排出量削減目標とし、対象範囲は国内の事業所および所有車両で使用する全てのエネルギーとしています。廃棄物リサイクル率については、99%以上の維持に継続して取組み、国内の食品工場では動植物性残さの削減にも取り組んでいます。水資源の保全については、“食”に関する企業グループとして地球の恵みを次世代に引き継ぐために効率的な水利用のための行動目標を策定し、取組みを進めています。また、「海外事業所における環境に関するデータの収集」についてもグループ全体で取り組んでいます。

#### ※対象事業所

ニチレイグループ（国内）の99%以上の環境負荷を占める範囲を集計している。

環境データ 下記各社の食品工場、物流センターなどを集計対象としている。事業所数が複数ある場合は（ ）内に数を記載。

#### ニチレイフーズ

（株）ニチレイフーズ（9）、（株）ニチレイ・アイス（3）、（株）中冷、（株）キューレイ、（株）ニチレイウエルダイニング

#### ニチレイフレッシュ

（株）フレッシュまるいち（3）、（株）ニチレイフレッシュプロセス（2）、（株）ニチレイフレッシュファーム（2）、（株）フレッシュチキン軽米、（株）フレッシュミート佐久平

#### ニチレイロジグループ

（株）ロジスティクス・ネットワーク（38）、（株）NKトランス（4）、（株）ニチレイ・ロジスティクス北海道（8）、（株）ニチレイ・ロジスティクス東北（5）、

（株）ニチレイ・ロジスティクス関東（10）、（株）ニチレイ・ロジスティクス東海（11）、（株）ニチレイ・ロジスティクス関西（13）、

（株）ニチレイ・ロジスティクス中四国（15）、（株）ニチレイ・ロジスティクス九州（15）、（株）キョクレイ（5）

#### ニチレイバイオサイエンス

開発センター

#### その他

（株）ニューハウジング

※電力排出係数固定：電気事業連合会公表2009年度使用端CO<sub>2</sub>排出原単位0.412 [t-CO<sub>2</sub>/MWh] を全国で共通使用

※電力排出係数変動：各事業所で使用する年度における電力事業者の電力換算係数を使用

※電力排出原単位の対象範囲はニチレイフーズ（国内自営工場および関連工場）および、ニチレイフレッシュ（国内関連工場）のうち以下を除く

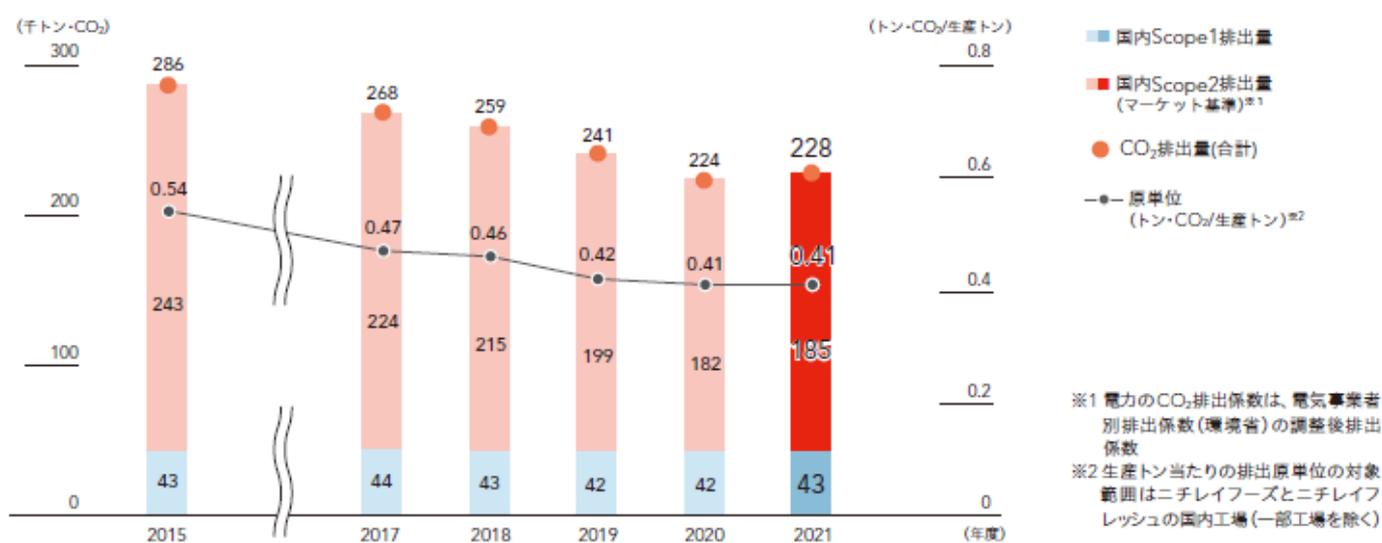
ニチレイフーズ：（株）ニチレイ・アイス

ニチレイフレッシュ：（株）ニチレイフレッシュファーム、  
（株）フレッシュチキン軽米、（株）フレッシュミート佐久平

プレスリリース：長期環境目標の制定とTCFD提言への賛同について

重要事項(マテリアリティ)のKPI

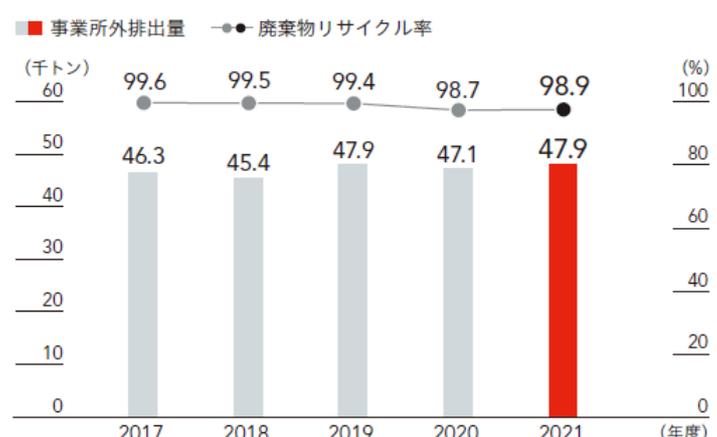
### ●ニチレイグループCO<sub>2</sub>排出量の推移



## —— 持続可能な資源循環の推進 ——

ニチレイグループ重要事項（マテリアリティ）の1つとして目標（KPI）を設定し、食品残渣や事業活動として排出される廃棄物量の削減とリサイクル化に向けた活動を積極的に取り組んでいます。

### ●事業所外排出量／廃棄物リサイクル率



## 水資源の保全

食品安全や環境保全の各種法令を遵守し、水使用量と排水の水質について定期的にモニタリングを行い、把握・管理しています。国内事業所については、積極的な節水活動を行っています。また、各地域の拠点で必要な水資源の入手の可能性やリスクについてどのように影響評価を行っていくかについて、今後検討していきます。

水リスクアセスメントの実施

## 取組みの状況

### マテリアルバランス

INPUT

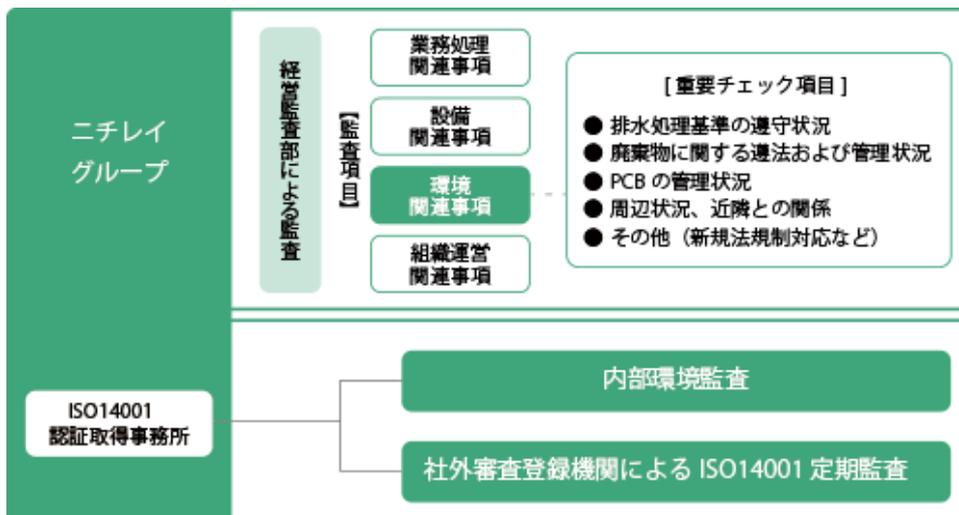
OUTPUT

### ISO14001などの認証取得

ISO14001及びISO13485認証数

### 環境監査

当社グループでは、ニチレイ経営監査部が行う監査において、組織運営、業務処理などの事項とともに、環境法令の遵守や環境保全上の重要事項に対するグループ経営監査を実施しています。また、ISO14001認証取得事業所では、これに加えて内部環境監査および社外審査登録機関による年1回の外部審査を実施しています。



■ 社内環境教育

| 教育名                               | 実施内容  |
|-----------------------------------|---|
| 環境e-ラーニング                         | <p>全従業員を対象として2009年度より実施。<br/>毎年、地球温暖化防止や資源循環、生物多様性などの身近な問題を中心に実施。</p> <p>eラーニング </p> |
| 新入社員研修                            | <p>当社の環境方針や目標、事業と環境のつながりについて研修を実施。</p>  |
| 裏磐梯の社有地における体験型研修                  | <p>社有地のある福島県裏磐梯地域で、従業員を対象とした体験型環境研修を2013年度～2016年度に実施。<br/>特定外来種ウチダザリガニの駆除や、社有地周辺の森林での散策などを実施。</p>   |
| 長野県富士見町における絶滅危惧種アツモリソウの保護支援の体験型研修 | <p>当社は、絶滅危惧種であるホテイアツモリを再生させるための活動—長野県富士見町の「アツモリソウ再生会議」に、設立当初から参画。同町で、従業員を対象としたアツモリソウ保護活動を含む体験型環境研修を実施。アツモリソウの保護活動を実際に行うことで、一度バランスを崩してしまった自然を回復させることの難しさを体験。</p>       |
| 支援林における体験型研修                      | <p>豊かな自然をはぐくむ森を守り育てる「お弁当にGood！森にGood！」プログラムの活動の一環として、支援林で、従業員を対象とした自然体験研修を実施。</p>   |

—— 環境事故、法令違反の状況 ——

2021年度は、環境に重大な影響を与える環境事故、法令違反、環境関連の罰金及び違約金はありませんでした。

環境事故、法令違反の状況 

# 気候変動（TCFD）

## 方針・基本的な考え方

### TCFD 気候変動への取り組み

気候変動の影響は年々深刻さを増し、気候変動が原因の一つとされる異常気象・自然災害が多発し、自然の恵みを享受して事業を行うニチレイグループにとって重要な社会課題であり事業継続に対する脅威と認識しています。

そのうえで、ニチレイグループでは、2020年6月、TCFD提言への賛同を表明するとともに、「TCFDコンソーシアム」に参画しました。気候変動への取り組みは、長期経営目標「2030年の姿」の実現に向けたグループ重要事項（マテリアリティ）の一つとしても位置づけており、気候変動に関連する社会課題の解決に向け、積極的に取り組みを進めています。

気候変動に伴う外部環境の変化によって及ぼされるリスクへの適切な対応を進めるとともに、新たな事業機会の想定も踏まえた複数のシナリオを検討し適切に開示していきます。



## マネジメント体制

### マネジメント体制

ニチレイグループでは、気候変動を含めたサステナビリティ全体の戦略策定や進捗管理を行うグループサステナビリティ委員会を設置しています。グループサステナビリティ委員会は、持株会社の代表取締役社長を委員長とし、気候変動担当役員、社外取締役と社外監査役を含む全役員、各事業会社の経営企画部門・サステナビリティ部門の関係者をメンバーとしています。ここで審議・検討された気候変動に係る戦略や目標値などは、気候変動担当役員より取締役会に答申・報告を行い、適宜、戦略や目標、計画の見直しを行っています。2021年度までは、グループ環境保全委員会がこの機能を担っていましたが、気候変動を含む広範なサステナビリティ課題へ対応するため、2022年4月に持株会社へサステナビリティ推進部を創設、グループ環境保全委員会の機能も引き継ぎ、当該部署を事務局とするグループサステナビリティ委員会が創設されました。2019年より実施しているシナリオ分析の内容についても、上記委員会の中で審議されており、今回の開示内容については、2022年7月に開催された同委員会の審議を経て、開示に至っています。

[環境マネジメント> サステナビリティ委員会](#)



[重要事項\(マテリアリティ\)のKPI](#)



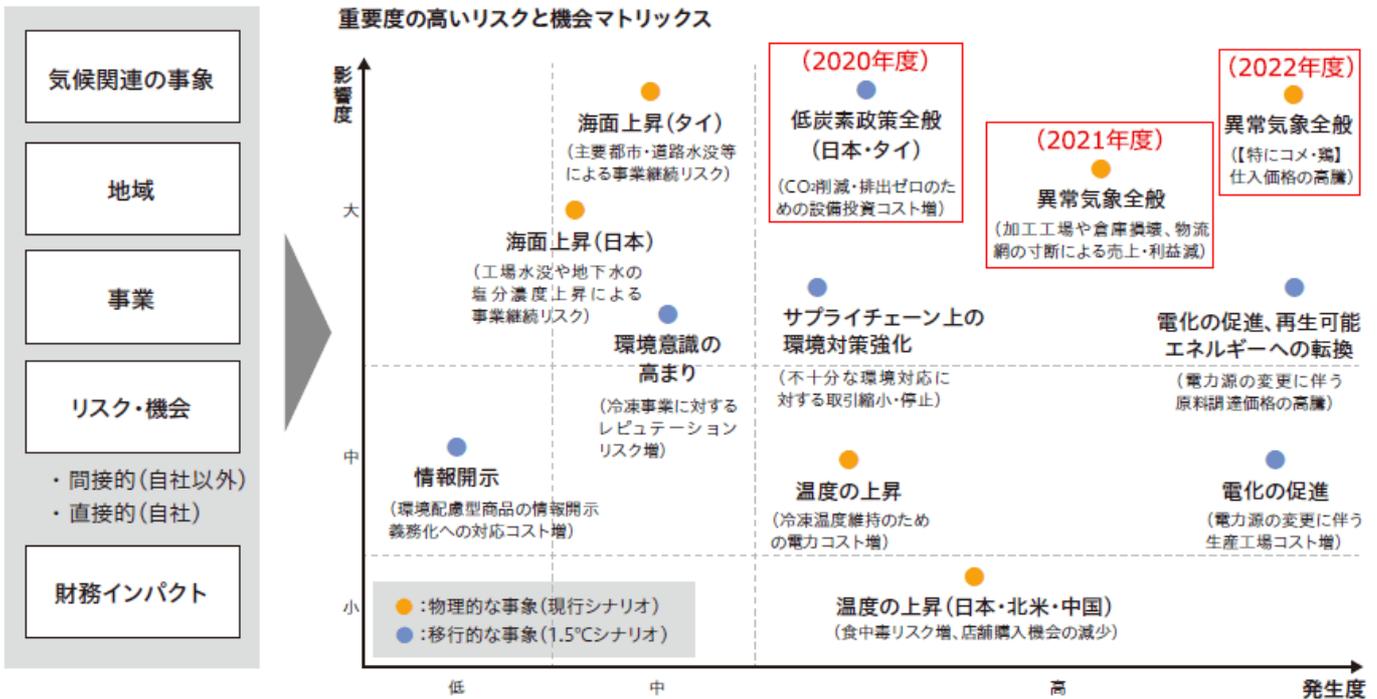
## 戦略

### 重要度の高いリスクと機会の特定

当社グループは、食を中心にグローバルで多岐にわたる事業を展開しており、気候変動による影響を多方面に受けることが予想されます。気候変動が事業活動に及ぼす影響について、シナリオ分析を行っています。特定したリスク・機会をより定量的に把握し、その対応を経営戦略に反映させることで、持続可能な企業を目指していきます。

### 2020年度

ニチレイグループ全体のリスクと機会について2つの気候変動シナリオに基づく重要度の評価を行い、グループ共通の最重要リスクとして「低炭素政策全般（CO<sub>2</sub>排出量削減）」を特定。長期CO<sub>2</sub>排出量削減目標を定め、取り組みをスタートしました。



### 2021年度

### 異常気象による「水リスク」についての気候変動シナリオ

2021年度気候変動シナリオ



2020年度気候変動シナリオ



■ コメとチキンの調達に関する気候変動シナリオ

| 事業     |            | リスク            |   |  |
|--------|------------|----------------|---|--|
| 食品事業   | チキン        | 現行             | 異常気象全般  | <ul style="list-style-type: none"> <li>農業生産の縮小に伴う仕入価格の高騰</li> <li>原材料の品質悪化</li> <li>物流網の寸断による原料入手困難・生産の停滞</li> </ul>           |
|        | コメ         |                |   |  |
|        | エビ         | 1.5℃           | 洪水/海面上昇   | <ul style="list-style-type: none"> <li>生産効率・生産量の減少、養殖池の水没</li> <li>農場・加工場・養殖池の水没</li> <li>サプライチェーン寸断による原料入手困難・生産の停滞</li> </ul> |
|        | 野菜・水産品・畜産品 |                |   |  |
|        | 共通         |                |   | 低炭素政策  |
|        |            | サプライチェーン上の環境対策 | <ul style="list-style-type: none"> <li>取引の縮小、グローバル認証維持等の対策コストの増加</li> </ul> |  |
| 低温物流事業 |            | 現行             | 異常気象全般  | <ul style="list-style-type: none"> <li>冷蔵倉庫・物流センターの損壊</li> <li>災害危険地域における人財確保難</li> </ul>                                      |
|        |            | 1.5℃           | 低炭素政策   | <ul style="list-style-type: none"> <li>自然冷媒化投資の増加やEV車・低炭素自動車など新技術プラットフォーム乗り遅れによるチャンスロス</li> </ul>                              |

| 事業     | 機会   |                  |  |
|--------|------|------------------|--|
| 食品事業   | 現行   | 気象パターンの変化        | <ul style="list-style-type: none"> <li>冷凍食品や加工食品の需要増加</li> </ul>   |
|        | 1.5℃ | サプライチェーン上の環境対策強化 | <ul style="list-style-type: none"> <li>SEDEX対応やグローバル認証の原材料を活かしたエシカル商品の需要増加</li> <li>開発段階での環境配慮型商品の開発や技術開発による、サプライチェーンでのフードロス削減への需要増</li> </ul> |
|        |      | 環境意識の高まり         | <ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な原料の商品開発・需要拡大</li> </ul>  |
| 低温物流事業 | 現行   | 異常気象全般           | <ul style="list-style-type: none"> <li>災害対策、レジリエンス強化による顧客拡大による売上増加</li> </ul>  |
|        | 1.5℃ | モーダルシフト          | <ul style="list-style-type: none"> <li>モーダルシフトによる輸送効率化による費用削減</li> </ul>   |
|        |      | 環境意識の高まり         | <ul style="list-style-type: none"> <li>積極的な環境対策に関する情報開示企業への評価の高まりによる取引先の増加</li> </ul>  |

(注) バイオサイエンス事業においては、気候変動の気象による影響を受けにくい事業特性であり、重要度の高い事項は現時点に

## ■ コメ・チキン調達のリスクと機会

農林水産省発行の「食料・農林水産業の気候関連リスク・機会に関する情報開示（入門編）」および「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第5次評価報告書」に記載の「RCPシナリオ」を参考に、コメ・チキンの調達に対して気候変動が及ぼすリスクと機会を検討しました。この結果、移行リスク（低炭素経済への移行に関連するリスク）においては、コメ・チキン共通のリスクとして、炭素税の導入、低炭素化のための生産方法の導入によるコスト上昇の影響が考えられました。

一方、物理的リスク（気候変動の物理的影響に関連するリスク）については、当社の調達先において気温上昇に伴って生じる生産量への影響を明らかにするために、以下の調査を実施しました。

## ■ 物理リスク影響評価（気候シナリオによる収量の想定推移解析）

コメ・チキンの生産量の変化について、気候シナリオごとの将来の収量予測を解析しました。気候シナリオについてはIPCCのRCPシナリオ（2.6・4.5・6.0・8.5）を用いました。

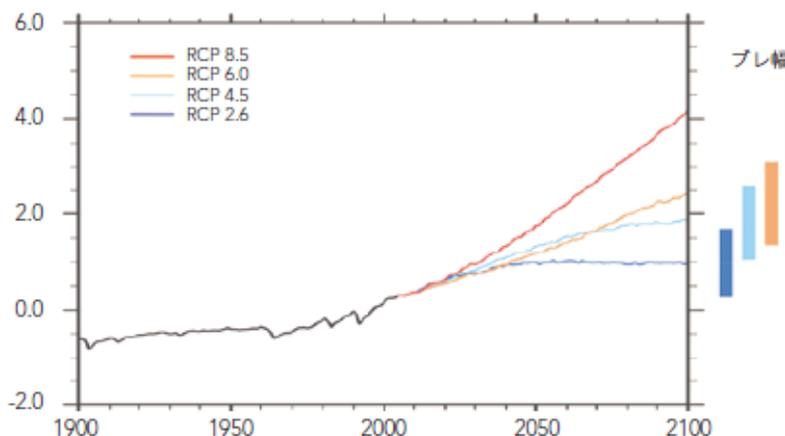
### コメ解析条件

|        |                               |
|--------|-------------------------------|
| エリア    | 関東・東北・北海道生産地 11地区             |
| 気候シナリオ | RCP2.6、RCP6.0                 |
| 使用データ  | ISIMIP（気候影響モデルの相互比較の国際プロジェクト） |

### チキン解析条件

|        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| エリア    | 日本 6地区、タイ 2地区、ブラジル 1地区              |
| 気候シナリオ | 日本 RCP2.6、RCP8.5、海外 RCP4.5、RCP8.5   |
| 使用データ  | CMIP5ベースCDFDM手法による日本域補正データ（国立環境研究所） |

### ● 全球平均気温の偏差の推移（℃）



出所: IPCC <https://www.ipcc.ch/report/ar5/wg1/>

鶏肉の収量については、2006年に公開されている文献で示されている以下の式を用いました。この文献によると、平均気温が23℃以上になると産肉量が減少するとされています。

$$y = -0.3239x^2 + 15.042x - 74.632$$

y = 気温が23℃未満の時の100とした産肉量  
x = 分析対象となるシーズンの平均気温 (単位は℃)

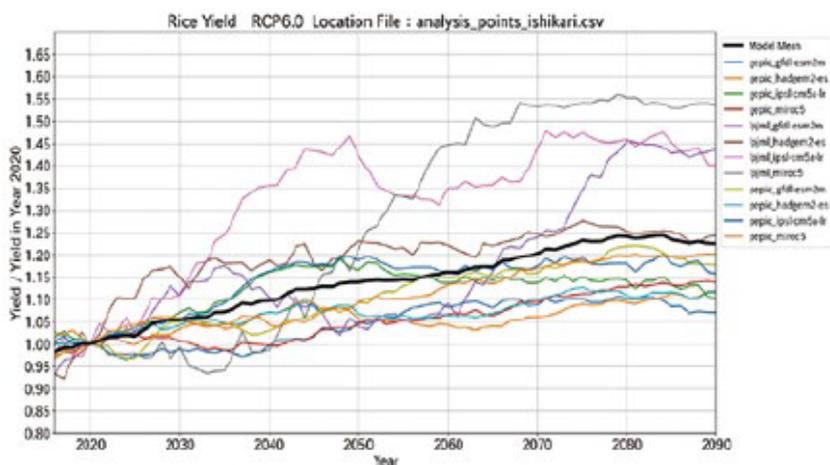
出典: 山崎ら・日本畜産学会報77(2) p.231-235 (2006)

コメの収量は2020年を基準年として、国内主要調達先について2090年までシミュレーションを行いました。下の表は基準年を1.00とした時の2030年、2050年、2080年の収量について、気候シナリオRCP2.6および6.0の解析結果を示しています（値は全球気候モデル4種類と収量モデル3種類の組み合わせで12とおりのシミュレーションの平均値）。気温が上昇するシナリオ（RCP6.0）であっても収量は増加しており、2080年では北海道で1.11～1.50に増加しています。

● 基準年（2020年）の収量を1.00とした時の収量シミュレーションの平均値

|     |       | RCP2.6 |       |       | RCP6.0 |       |       |
|-----|-------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|
|     |       | 2030年  | 2050年 | 2080年 | 2030年  | 2050年 | 2080年 |
| 北海道 | 石狩エリア | 1.06   | 1.15  | 1.13  | 1.06   | 1.14  | 1.24  |
|     | 上川エリア | 1.09   | 1.27  | 1.26  | 1.13   | 1.26  | 1.50  |
|     | 空知エリア | 1.04   | 1.09  | 1.10  | 1.04   | 1.08  | 1.11  |
| 関東  | 茨城県   | 0.99   | 1.04  | 1.02  | 1.02   | 1.04  | 1.09  |
|     | 群馬県   | 1.01   | 1.05  | 1.02  | 1.03   | 1.05  | 1.11  |
|     | 栃木県   | 1.00   | 1.05  | 1.02  | 1.02   | 1.03  | 1.09  |
| 東北  | 青森県   | 1.02   | 1.06  | 1.06  | 1.03   | 1.06  | 1.10  |
|     | 秋田県   | 1.02   | 1.05  | 1.03  | 1.03   | 1.06  | 1.10  |
|     | 山形県   | 1.01   | 1.05  | 1.03  | 1.04   | 1.05  | 1.10  |
|     | 宮城県   | 1.02   | 1.06  | 1.04  | 1.04   | 1.06  | 1.13  |
|     | 岩手県   | 1.03   | 1.07  | 1.05  | 1.03   | 1.06  | 1.11  |

● 解析モデル事例（北海道石狩 RCP6.0 コメ収量）

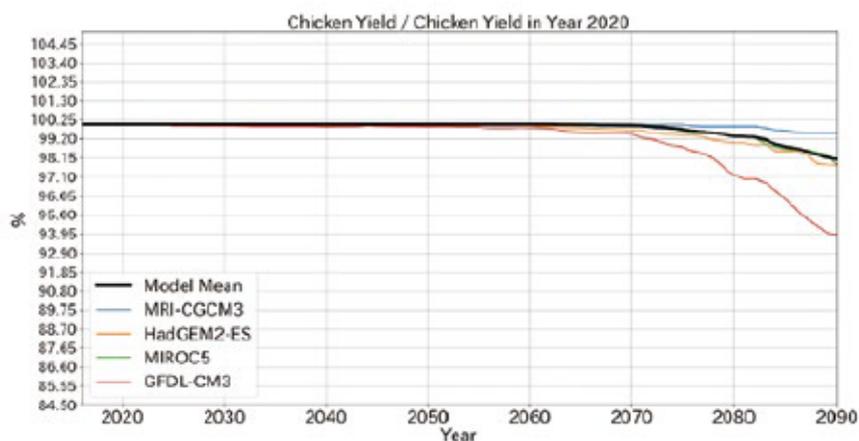


鶏肉の収量は2020年を基準年として、国内・海外主要調達先について2090年までシミュレーションを行いました。下の表は基準年を100とした時の2030年、2050年の収量について、国内は気候シナリオRCP2.6および8.5、海外はRCP4.5および8.5の解析結果を示しています（国内は全球気候モデル4種類、海外は21種類を使用し、1年のうち最も平均気温が高い期間に対するシミュレーションの平均値。国内はすべて7～9月の結果を記載）。岩手県ではRCP8.5でも収量の減少はありませんが、宮崎、鹿児島は2050年RCP8.5で95～97%まで減少しています。海外ではタイにおいて2050年RCP8.5で92%まで減少するという結果でした。

- 基準年（2020年）の収量を100とした時の 収量シミュレーションの平均値

|           |        | RCP2.6 |        | RCP8.5 |        |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
|           |        | 2030年  | 2050年  | 2030年  | 2050年  |
| 岩手県       | 久慈市    | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 |
|           | 八幡平市   | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 |
|           | 九戸郡軽米町 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 |
| 宮崎県       | 日向市    | 99.30  | 98.40  | 99.00  | 97.40  |
|           | 児湯郡    | 99.20  | 98.00  | 98.80  | 96.90  |
| 鹿児島県 鹿児島市 |        | 98.80  | 97.10  | 98.10  | 95.10  |

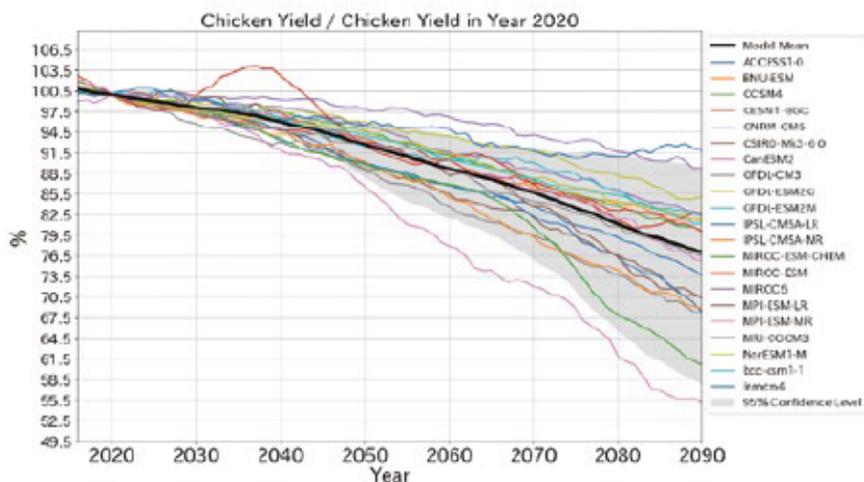
- 解析モデル事例（岩手県九戸郡軽米町 RCP8.5 7-9月鶏肉収量）



- 基準年（2020年）の収量を100とした時の収量シミュレーションの平均値

|            |         | RCP4.5 |       | RCP8.5 |       |
|------------|---------|--------|-------|--------|-------|
|            |         | 2030年  | 2050年 | 2030年  | 2050年 |
| ブラジル（1-3月） | パラナ州    | 99.8   | 99.3  | 99.6   | 98.4  |
| タイ（4-6月）   | ロブプリー県  | 98.4   | 95.6  | 97.5   | 92.6  |
|            | チョンブリー県 | 98.3   | 95.6  | 98.1   | 92.7  |

● 解析モデル事例（タイ RCP8.5 4-6月鶏肉収量）



■ 財務的影響と戦略

ニチレイフーズにおける売上高のうち米飯製品は約1割、チキン製品は約3割を占めています。ニチレイフレッシュにおいては、畜産事業の売上高のうちチキン事業は約4割となっています。

今回の調査において、コメの収量については温暖化が進むシナリオであっても、現在の調達先エリアの収量は増加する結果となりました。しかしながら、農林水産省によると、高温化によって白未熟粒の発生など品質が劣化すると報告があり、加工適性に合ったコメの入手への懸念があります。

チキンでは2050年の温度上昇シナリオで収量が減少するエリアもありましたが、現状、調達先の養鶏場には空調設備が整っているため、気温上昇による収量の減少はないと考えられます。しかしながら、養鶏に適した温度にするための空調に使用するエネルギーの調達額が増える可能性があります。

気候変動の緩和策が強化された場合（移行シナリオ）においては、GHG※排出に対する規制強化により原材料調達コストが増加する可能性があります。

一方、農林水産省が進める「みどりの食料システム法（2022年7月1日施行）」により、農畜産業分野における脱炭素施策が示されており、推進が期待されています。サプライヤーとともにこうした施策に取り組み、原材料に関わるGHG削減を達成することで、移行シナリオにおいても優位性を確保できると考えられます。LCAにより製品ごとの環境負荷を評価しながら、これを低減させる家畜飼料の開発や、高温耐性・多収性のコメの育種などについて、外部研究機関などから情報を収集し、取り組んでいきます。

※ GHG : greenhouse gas（温室効果ガス）

—— リスク管理

当社が事業活動を行ううえで気候変動を含むさまざまなリスクが事業経営へ及ぼす影響については、全体的視点から合理的かつ最適な部門・方法で管理し、代表取締役社長を委員長とする「グループリスクマネジメント委員会」で審議・検討しています。当社の事業経営に関わる重大なリスクへの対応について当委員会でマネジメントしてきましたが、ESGに関わるさまざまな社会課題への迅速かつ的確な対応が求められる中、気候変動を含むESGリスク・機会への対応に特化した審議を、別途2022年度に新設した「グループサステナビリティ委員会」にて行うこととしました。

当該委員会では、ニチレイグループにとって重要なESG課題やリスクに関するテーマを各事業会社の経営企画部門・サステナビリティ部門とともに抽出し、最も重要なテーマが委員会にて審議されます。特に、気候変動シナリオにおけるリスクは全社重要リスクの一つとして位置づけており、シナリオ分析で得られた事業リスクと機会への対応は、当該委員会の中で審議・管理をしていきます。

## 指標と目標

グループ重要事項（マテリアリティ）として「気候変動への取り組み」「持続可能な食の調達と循環型社会の実現」を挙げています。

### ■ ニチレイグループ重要事項（マテリアリティ）

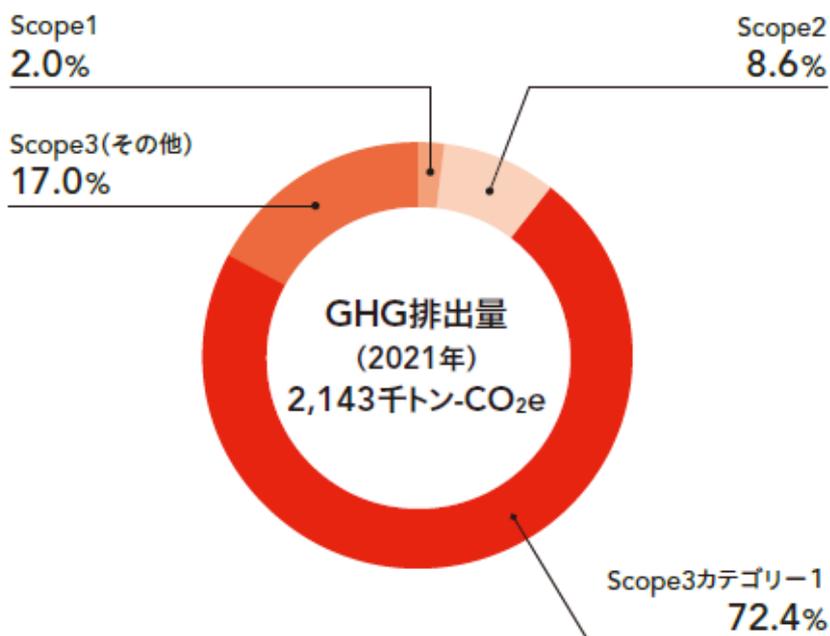
#### マテリアリティ 「気候変動への取り組み」

|         |  |
|---------|--|
| グループ施策  | 食品工場・物流センターにおける原単位でのCO <sub>2</sub> 排出量削減や再生可能エネルギーの活用を推進するとともに、TCFDの提言に基づく情報開示を行う   |
| グループKPI | <b>2024年度</b> ：CO <sub>2</sub> 排出量30%削減（2015年度比、国内Scope1・2）<br><b>2030年度</b> ：CO <sub>2</sub> 排出量50%削減（2015年度比、国内Scope1・2） |

#### マテリアリティ 「持続可能な食の調達と循環型社会の実現」

|         |  |
|---------|--|
| グループ施策  | 持続可能な資源調達やサーキュラーエコノミー（循環型経済）の実現に取り組む               |
| グループKPI | <b>2030年度</b> ：主要原材料と重要サプライヤーへのESGデューデリジェンス実施率100% |

#### ● ニチレイグループのGHG排出量（国内Scope1,2,3）



ニチレイグループは、低炭素政策の取り組みとして、Scope3削減<sup>※</sup>に向けた対応策の推進を挙げています。左の図に示したように、Scope3のカテゴリのうち、原材料調達（カテゴリ1）が、最も高い割合であることから、サプライヤーのGHG削減の取り組みは、Scope3削減に必須と認識しています。

持続可能な調達の実現に向けては、サプライヤーとの協力関係が不可欠です。「ニチレイグループ持続可能な調達方針」に基づき、2022年4月に制定した「サプライヤー行動規範」「サプライヤーガイドライン」に準拠した取り組みを推進し、人権課題や、Scope3を含む環境課題などに取り組んでいきます。

※ 国内Scope1,2削減の取り組みは「気候変動（脱炭素・脱フロン）」ページ

気候変動（脱炭素・脱フロン）



# 気候変動（脱炭素・脱フロン）

## 方針・基本的な考え方

### 基本的な考え方

ニチレイグループではグループ環境方針を定め、基本方針を、「卓越した食品と物流のネットワークを備える企業集団として、“食”と“健康”の源である地球の恵みを次世代に引継ぎ、『おいしさ』と『新鮮』を継続してお届けするため、サプライチェーン全体で環境負荷の低減に取り組むとともに、ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて持続可能な社会の実現に貢献していくこと」としています。グループ環境方針では、「気候変動への取り組み」「持続可能な資源循環の推進」「自然との共生」の3つを重点課題としています。「気候変動への取り組み」においては、食品・物流企業として気候変動の影響を大きく受けることを認識しており、以下のように低炭素政策に向けた取り組みを進めています。

環境マネジメント> サステナビリティ委員会



重要事項(マテリアリティ)のKPI



## 取組みの状況

### 取組みの状況

#### ■ グループ長期環境目標と低炭素政策に向けた取り組み

グループ重要事項（マテリアリティ）の一つとして取り組むとともに、グループ長期環境目標としても低炭素政策を実行します。2021年～2030年の10年間で下記3つの施策に積極的に取り組んでいきます。

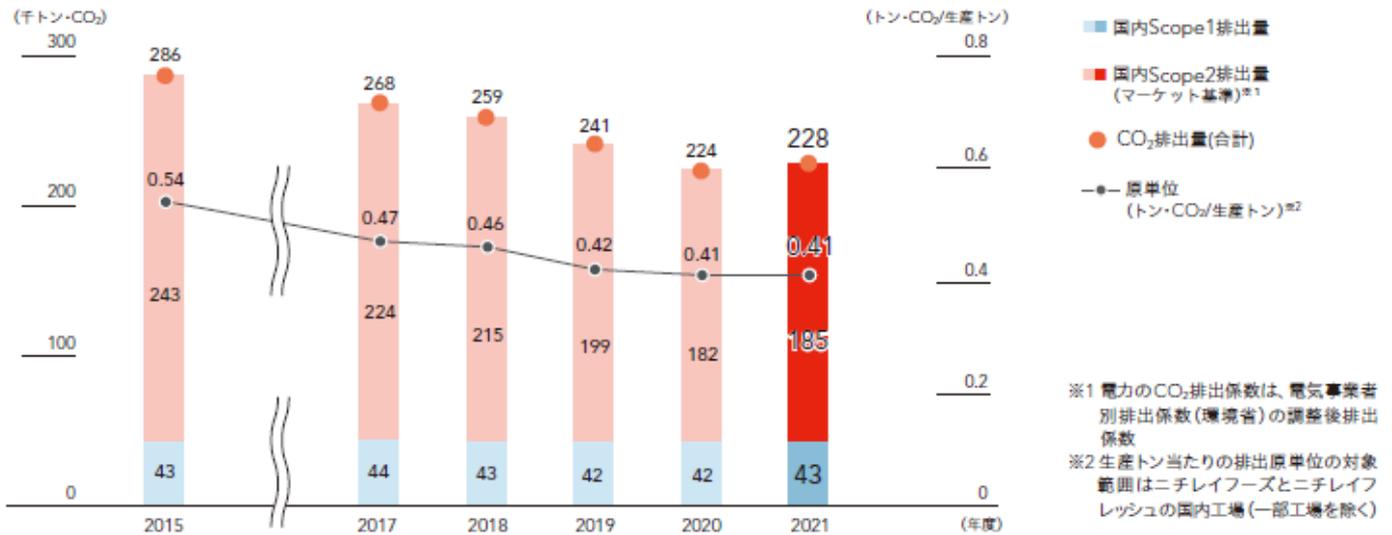
#### ニチレイグループは、TCFD提言へ賛同し、以下の低炭素政策を推進する

| 低炭素政策の柱                                      | 概要  | 対象範囲        |
|--|---|-------------|
| 1. 長期CO <sub>2</sub> 排出量削減目標                 | ・ 2030年に国内・Scope1・2におけるCO <sub>2</sub> 排出量を50%※削減（2015年度比）                  | 国内 Scope1・2 |
| 2. 海外におけるCO <sub>2</sub> 排出量削減に向けた対応策の推進     | ・ 海外事業所におけるデータ収集等の取り組みを推進<br>・ 海外におけるCO <sub>2</sub> 排出削減に向けた対応策を検討・推進      | 海外 Scope1・2 |
| 3. Scope3におけるCO <sub>2</sub> 排出量削減に向けた対応策の推進 | ・ Scope3におけるデータ収集等の取り組みを推進<br>・ Scope3におけるCO <sub>2</sub> 排出削減に向けた対応策を検討・推進 | Scope3      |

※2021年6月、目標値を30%から50%へ上方修正しました。

● ニチレイグループCO<sub>2</sub>排出量の推移

2021年度までに2015年度比でCO<sub>2</sub>排出量20.2%削減を達成しています。



CDP 気候変動 2022年度レポートはこちら

■ 太陽光発電の活用

ニチレイグループでは、食品工場の敷地内・低温物流倉庫の屋上などへ太陽光発電設備を設置し、CO<sub>2</sub>排出量削減に取り組んでいます。中期経営計画「Compass Rose 2024」においては、さらに強化していきます。



太陽光発電量とCO<sub>2</sub>削減量

|              |  |
|--------------|--|
| ニチレイフーズ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・船橋工場</li> <li>・ニチレイ・アイス</li> </ul>   |
| ニチレイロジグループ   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・杉戸物流センター</li> <li>・松江物流センター</li> <li>・釧路物流センター</li> <li>・咲洲物流センター</li> <li>・(株)キョクレイ 大黒物流センター</li> <li>・東扇島物流センター</li> </ul> |
| ニチレイバイオサイエンス | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルイノベーションセンター</li> </ul>  |



咲州物流センター



松江物流センター



釧路物流センター

### ■ 生産設備の燃料転換

食品工場では、揚げる・焼くなどの製造工程にて熱エネルギーを使います。その熱エネルギーをつくるボイラーの燃料を、灯油や重油からCO<sub>2</sub>排出量の少ない都市ガスやプロパンガスへの転換を計画的に実施しています。



### ■ 冷凍トラックのEV化

社会的に脱炭素経営が企業に求められている中、化石燃料から電気（将来的な再生可能エネルギー化）へ切り替えも必要です。しかし、電気冷凍トラックについては、車両価格の他、充電時間・走行距離の制約など課題も多くあります。

車両・充電設備など省エネ設備の検証と共に、電氣化に伴う低温物流システムとしての検証を進めていきます。2023年1月より導入を予定しています。



## ■ グリーン電力証書の活用

ニチレイグループでは2007年よりグリーン電力証書を毎年購入し貯蓄しています。2020年度より、グループ本社ビル（ニチレイ東銀座ビル）で使用する全電力量をグリーン電力証書を活用した再生可能エネルギーに転換しています。また、ニチレイフーズでは、2020年3月より「本格炒め炒飯」の製造ラインで使用する電力相当分のグリーン電力証書を購入し、再生可能エネルギーに転換しています。



※ グリーン電力とは、バイオマス・太陽光・風力など再生可能エネルギーでの発電電力のこと。その再生可能エネルギー発電でのCO<sub>2</sub>排出量削減分を、電力証書という形で取引すること。

## ■ 自然冷媒への切り替え

2030年までにニチレイロジグループの海外拠点含む75%（貸借除く設備トンベース）、ニチレイフーズの国内自営食品工場および投資工場のフリーザーを100%、自然冷媒機への切り替えを実施します。



自然冷媒冷凍設備への更新状況

| 年度     | 低温物流事業  | 活用した補助金事業                              |
|--------|---|--|
| 2013年度 | (株) ロジスティクス・ネットワーク<br>杉戸物流センター  | 「エネルギー使用合理化等事業者支援補助金」                  |
| 2014年度 | ・ (株) ニチレイ・ロジスティクス関西<br>咲洲(さきしま)物流センター<br>・ SCG Nichirei Logistics Co.,Ltd. (タイ)  | —                                      |
| 2015年度 | ・ (株) ロジスティクス・ネットワーク<br>船橋物流センター8期増設棟<br>・ (株) ニチレイ・ロジスティクス東海<br>白鳥物流センター8号館  | 「先進技術を利用した省エネ型自然冷媒機器普及促進事業」            |
| 2016年度 | ・ (株) ニチレイ・ロジスティクス中四国<br>高松西物流センター2号棟<br>・ (株) ニチレイ・ロジスティクス東海<br>春日物流センター2号棟<br>・ (株) ロジスティクス・ネットワーク<br>船橋物流センター4期棟および9期棟   | 「先進技術を利用した省エネ型自然冷媒機器普及促進事業」            |
| 2017年度 | ・ (株)ニチレイ・ロジスティクス東北<br>仙台物流センター1号棟<br>・ (株)ニチレイ・ロジスティクス東北<br>盛岡物流センター2号棟<br>・ (株)ニチレイ・ロジスティクス関東<br>水戸物流センター1号棟  | 「脱フロン社会構築に向けた業務用冷凍空調機器省エネ化推進事業」        |
| 2018年度 | ・ (株)ニチレイ・ロジスティクス九州<br>鹿児島埠頭物流センター1号棟<br>(株)ニチレイ・ロジスティクス九州 那覇新港物流センター   | 「脱フロン・低炭素社会の早期実現のための省エネ自然冷媒機器導入加速化事業」  |
| 2019年度 | ・ (株)ニチレイ・ロジスティクス北海道<br>札幌大谷地物流センター2号棟<br>・ (株)ニチレイ・ロジスティクス東海 春日物流センター1号棟<br>・ (株)ニチレイ・ロジスティクス関西<br>大阪新南港物流センター第2<br>(株)ニチレイ・ロジスティクス東海 名古屋みなと物流センター   | 「脱フロン・低炭素社会の早期実現のための省エネ自然冷媒機器導入加速化事業」  |
| 2020年度 | ・ (株)ニチレイ・ロジスティクス関西 梅町物流センター<br>・ (株)ニチレイ・ロジスティクス中四国 宇品物流センター<br>・ (株)ニチレイ・ロジスティクス中四国 松山物流センター<br>・ (株)ニチレイ・ロジスティクス九州 小倉物流センター<br>・ (株)キョクレイ 本牧物流センター   | 「脱フロン・低炭素社会の早期実現のための省エネ型自然冷媒機器導入加速化事業」 |
| 2021年度 | ・ (株)ニチレイ・ロジスティクス東北 仙台物流センター<br>・ (株)ニチレイ・ロジスティクス東海 小牧物流センター<br>・ (株)ニチレイ・ロジスティクス東海 三重物流センター<br>・ (株)ニチレイ・ロジスティクス中四国 宇品物流センター<br>・ (株)ニチレイ・ロジスティクス中四国 高松東物流センター<br>・ (株)ニチレイ・ロジスティクス九州 箱崎埠頭物流センター | 「脱フロン・低炭素社会の早期実現のための省エネ型自然冷媒機器導入加速化事業」 |

## ■ 冷媒漏れ防止への取り組み

ニチレイロジグループでは既存の冷凍機の冷媒漏れ削減に取り組んでいます。冷媒漏洩点検を定期的を実施するとともに、2021年度からは24時間計測可能な検知器の導入を進めています。

## ■ 冷媒漏れ防止による効率運転

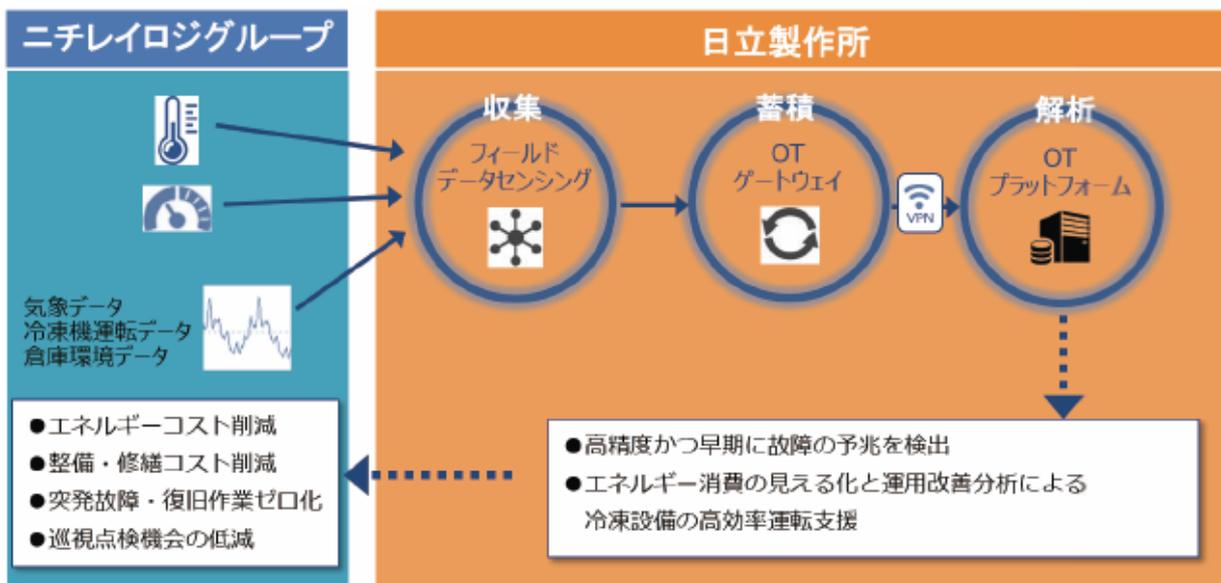
ニチレイロジグループでは冷凍機の冷媒漏洩削減のため、全国のセンターで冷媒漏洩点検の強化を行っています。

2013年度からは、従来の10倍以上の精度を持つ高感度の検知器を導入し、微細な漏れも逃さず見つけれられるようになりました。冷媒を漏らさず適正量に管理することで、冷凍機の運転効率を最大に近づけ、無駄な電力を使わないように努めています。さらに非常駐者による点検を加えることで、常駐者だけでは気づきにくい省エネポイントも浮き彫りになり、電力削減につながっています。また、センター全体を省エネの観点で点検する「省エネ点検」も並行して行っており、冷媒以外にもCO<sub>2</sub>削減・地球温暖化防止に寄与しています。

2018年9月からは日立製作所と共同で、船橋物流センターにおいて、先端IoT技術を活用し、冷凍設備の故障予兆診断と、設備運転・メンテナンスの効率化に向けた共同実証を行っています。エネルギー消費を可視化し、運用改善の分析をすることで、冷蔵設備の高効率運転の支援を可能とし、CO<sub>2</sub>を削減していきます。



### ● 共同実証の概念図



## ■ 第22回オゾン層保護・地球温暖化防止大賞における「審査委員会特別賞」受賞

ニチレイロジグループにおいてエンジニアリング事業を担う株式会社ニチレイ・ロジスティクスエンジニアリング（代表取締役社長：井藤勉）は、日刊工業新聞社日刊工業産業研究所が主催する第22回オゾン層保護・地球温暖化防止大賞において「審査委員会特別賞」受賞しましたので、お知らせ致します。

今回の受賞は、冷媒漏れ予兆診断システムを活用したフロン漏洩削減によるCO<sub>2</sub>排出抑制の取り組みについて評価されたもので、2019年9月12日に表彰を受けました。今後も、冷凍設備の保守管理および修繕計画提案といった品質管理、省エネ提案およびローコスト購買によるコスト削減などのトータルサポートサービスの提供により顧客からの要望に応えながら、更なる環境負荷低減を図って参ります。



第23回物流環境大賞で「先進技術賞」・「特別賞」を受賞 | ニュース | ニチレイロジグループ (nichirei-logi.co.jp)



## ■ 産地での取り組み

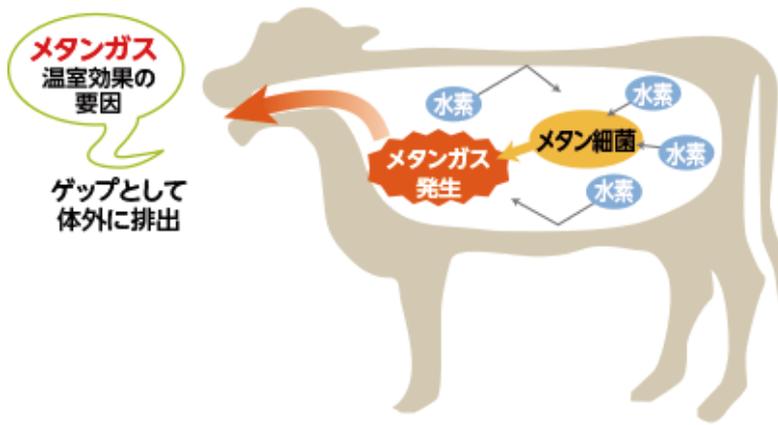
### 牛のメタンガス排出量抑制のための取り組み（ニチレイフレッシュ）

牛、羊などの反芻動物は、エサを分解・消化する際、CO<sub>2</sub>の21倍もの温室効果があるメタンガスを胃の中で発生させ、体外に排出することが知られています。地球温暖化防止が世界的な課題となる中、ニチレイフレッシュは、牛が排出するメタンガスの抑制に取り組んでいます。

消化の過程でルーメン（1番目の胃）内の微生物の働きにより生成される水素は、メタン細菌によりメタンガスを生成しゲップとして体外に排出されます。牛にアマニ油脂肪酸カルシウム<sup>※1</sup>を与えると、ルーメン内の水素は、アマニ油脂肪酸カルシウム中の不飽和脂肪酸と結合して飽和脂肪酸となり、その結果メタンガスの発生が抑制される、という研究成果に着目し、2009年度より国内の農場で交雑種（オスの和牛とメスの乳牛の掛け合わせ）による動物試験を重ねてきました。

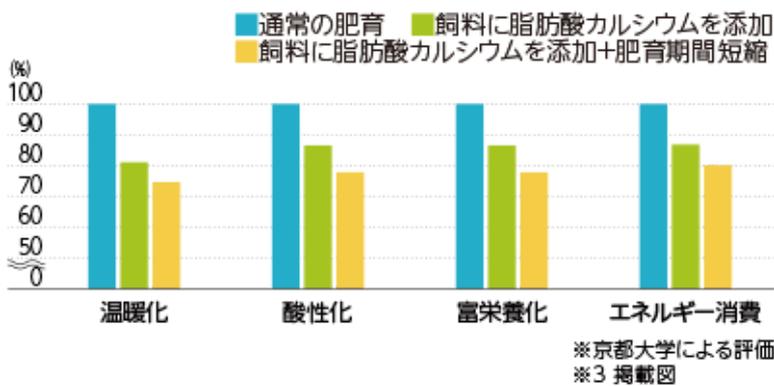
これにより、通常の肥育方法に比べて10%以上の環境負荷低減効果があること（2010年京都大学によるライフサイクルアセスメントLCA<sup>※2</sup>手法による評価）、「オメガバランス」<sup>※3</sup>が改善されること、増体効果で肥育期間が短くなり飼料コストが抑えられること等が確認され<sup>※4</sup>、全国各地でアマニ油脂肪酸カルシウムを用いた飼育プログラムで生産した牛肉の販売を展開しています。また交雑種に加え、和牛やホルスタイン種（オス）にも拡大して生産に取り組んでいます。

● メタンガス発生の仕組み



**アマニ油脂肪酸カルシウムの給与により、メタンガスの発生を抑制します。**

● 地球環境に与えるインパクト評価



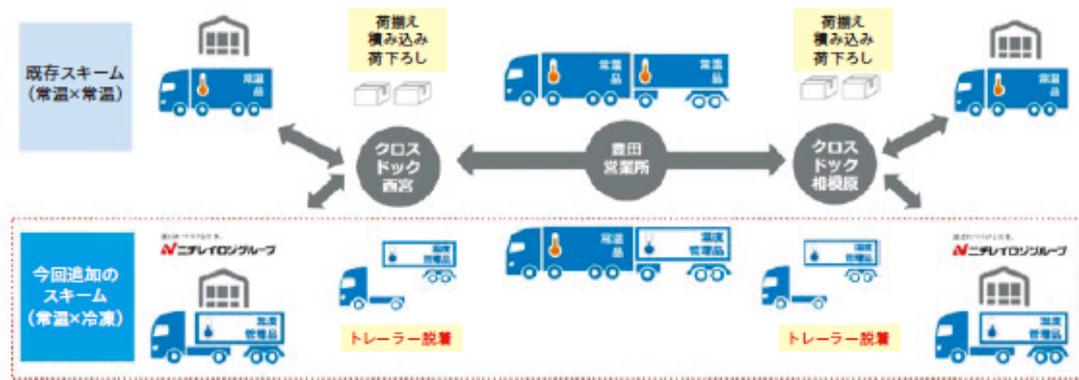
- ※1 アマニ油脂肪酸カルシウム：α-リノレン酸（オメガ3系脂肪酸）を豊富に含むアマニの種子から抽出した油とカルシウムを結合させたもの。
- ※2 LCA(Life Cycle Assessment)は原料から製造・物流・廃棄までの製品のライフサイクル全体で発生する環境負荷を総合的に分析・評価する手法。
- ※3 オメガバランス：人の体に必要な必須脂肪酸のなかでも特に重要な「オメガ6系（n6）脂肪酸」と「オメガ3（n3）系脂肪酸」のバランスのこと。
- ※4 「環境負荷低減型でn6/n3比に優れる低コスト牛肉生産技術の開発」茨城県常陸大宮地域農業研究・普及協議会（2011年発行）

牛のメタンガス排出量抑制のための取組み（ニチレイフレッシュ）

■ ダブル連結トラックによる冷凍品・常温品の同時大量輸送

ニチレイロジグループは、NEXT Logistics Japan株式会社（NLJ）とともに、日本初となるダブル連結トラックによる冷凍品・常温品の同時大量輸送を2021年3月より開始しました。これは、関東と関西のクロスドックと呼ばれる中継拠点間を、常温トラクターと冷凍トレーラーを組み合わせた全長25mダブル連結トラックで運行するものです。

● 運行スキーム概要



ダブル連結トラック



ロジネットコンテナ

■ 従来のトラック2台分の輸送を1回で可能に

ダブル連結トラック運行は、輸配送効率向上によって、これまで深刻だったドライバー不足の課題にも対応できます。冷凍品と常温品を連結させ、ダブル連結トラックで輸送することで、従来トラック2台で運んでいた荷量を1人のドライバーで運ぶことが可能になりました。また、トラクターとトレーラーの脱着作業のみで同時輸送が可能となるため、各クロスドックでの荷役作業や待機時間の削減によるドライバー負荷の大幅な低減も期待できます。

今後は、本運行を通じて、省人化や環境負荷低減などの効果を確認していきます。また、束ねて運ぶ荷種を拡充させ、NEXT Logistics Japan株式会社 (NLJ) が構築を進める高効率な幹線輸送スキームをより幅広い荷主や運送事業者も活用できる仕組みへと進化させていく計画です。

■ モーダルシフト※1の推進

ニチレイロジグループは、2003年から輸送手段をトラック輸送から鉄道、船舶に替えて環境負荷を低減するモーダルシフトに取り組んでいます。

北海道から九州までのフェリー輸送について、2009年からルートを変更したことにより、CO<sub>2</sub>排出量を30%削減※2しました。ニチレイロジグループの(株)ロジスティクス・ネットワークは、冷凍食品輸送におけるモーダルシフト拡大の実績を評価され、2016年に「第14回モーダルシフト取り組み優良事業者公表・表彰制度」でモーダルシフト最優良事業者賞(大賞)を受賞、2017年には「グリーン物流パートナーシップ物流審議官表彰※3」を受賞しました。ロジスティクス・ネットワークは、調達・在庫管理、配送に至るまで、荷主である顧客企業の全物流を改善・運営する3PL※4事業者として、10年以上にわたってモーダルシフトを推進しています。単に鉄道やフェリーを利用するだけでなく、複数の荷主を組み合わせた幹線輸送の共同化、需要予測システムを活用した輸送の効率化・平準化など、さまざまな先進的な取り組みを導入してきました。2017年の受賞は、荷主であるニチレイフーズ、パートナー企業のオーシャントランス(株)、日本通運(株)と共同での受賞となりました。今後も環境負荷低減や労働力不足に対応した持続可能な事業運営を推進していきます。

※1 モーダルシフト(modal shift) : トラックや航空機による輸送を鉄道や船舶による輸送に転換すること

※2 国内でのモーダルシフトにおけるCO<sub>2</sub>排出量30%削減は一運行あたりの計測によるものです

※3 国土交通省などが実施する、物流分野におけるCO<sub>2</sub>削減を促進するための優れた取り組みを表彰する制度

※4 3PL : Third Party Logistics

● 総輸送距離の比較



■ 欧州の物流事業における活動

ニチレイロジグループの海外事業は、1988年のオランダ進出から始まり、ニチレイ・ホールディング・オランダB.V.の傘下に、冷蔵倉庫、低温輸送事業を含め13社を保有（2022年10月現在）し、ロッテルダムを中心にそのサービス圏を拡大しています。欧州域内の物流は、インフラが整備され、トラック輸送が中心となっています。近年、環境配慮への取組みとしてモーダルシフト（Modal Shift）が推進され、トラックによる幹線貨物輸送から大量輸送が可能な海運や鉄道輸送への移行が進んでいます。一般的に、コンテナ船がロッテルダム港に入港すると、コンテナヤードでコンテナを一つひとつ船から降ろし、トラックで倉庫へ運びます。コンテナ船は年々大型化しており、大きい船では40フィート※コンテナを9,000本超積むことができます。これをトラック輸送すると車両9,000台を使用することになり、相当量のCO<sub>2</sub>を発生させます。

そこでオランダのヒワ・ロッテルダム・ポート・コールド・ストアーズ社では、CO<sub>2</sub>削減のため、バージ船を活用しています。バージ船とは、河川を航行できる運搬船です。同社の倉庫は岸壁に隣接しているため、コンテナヤードから倉庫までの輸送にバージ船を活用し、トラック利用を極限まで少なくしています。バージ船1隻でコンテナ25本を積むことができ、トラック25台で運ぶ場合と比較すると、バージ船1運航当たり約3.5トンのCO<sub>2</sub>削減が可能です。現在、ロッテルダム港湾局の専用バージ船2隻にて運営されています。

また、フランスにあるゴドフロア社の運送部門では、環境への取組みとしてドライバーへのエコドライブ教習を2011年度より導入しました。倉庫部門においては、社会貢献活動として、保管商品で期限切れに近いものを荷主様の了解を得て慈善団体に寄付しています。

※ 40フィート：12.192m



ヒワ・ロッテルダム・ポート・コールド・ストアーズ社



バージ船

## ■ 緑化の取り組み

CO<sub>2</sub>削減の取り組みとして、排出量を減らすとともに、その吸収源を育てていく活動にも取り組んでいます。敷地内の緑地を管理するほか、近隣の方々とともに植林や花植え・草取りなどの活動にも参加しています。



関西工場の緑化



# 水資源保全

## 方針・基本的な考え方

### 基本的な考え方

ニチレイグループでは、「持続可能なサプライチェーンの構築」のため、原材料生産や事業運営に使用する水資源の重要性を認識し、水資源保全に取り組んでいます。水リスクに取り組むに当たり、拠点の取り組み状況とともに地域の状況を把握することが重要です。当社では、水リスクアセスメントとして、第三者機関の水リスク評価サービスにより、拠点の水リスクを評価しています。評価においては、地域の水リスクを評価するWRI Aqueduct<sup>※</sup>に加え、拠点の取り組み状況を把握するべく、グループ全拠点へのアンケート調査を実施しました。水リスクアセスメントは、ニチレイグループの国内・海外の全拠点（152拠点）について、WRI Aqueduct<sup>※</sup>の評価項目である「水量、水質、規制・評判」を対象に実施しました。2020年度は、水リスクが高いと特定された3拠点について実際にヒアリングを実施し、現時点において「水量、水質、規制・評判」の水リスクが起きていないことを確認。2021年度では、国内拠点における大型台風や豪雨などによる河川の洪水リスクと高潮リスクについて調査しました。

※ WRI Aqueduct：国際環境NGOである世界資源研究所（WRI; World Resources Institute）が公開する、世界の水リスクを位置座標または住所から簡易的に評価するツール

## マネジメント体制

### マネジメント体制

事業で使用した水資源については、国内事業所での水の使用量・排水量の年間実績を、ESG定量データにて社外に開示しています。これらのデータは経営層を委員とするサステナビリティ委員会で報告しています。

水源保全につながる森林保護活動については、ホームページや、社内イントラネットにて社内外に周知をしています。また、従業員の環境意識向上を目的として、ニチレイフーズは独自の“ハミダス活動”を全国の生産工場で森林保全活動や地域貢献活動を実施しています。

[環境マネジメント > サステナビリティ委員会](#)



[環境マネジメント > 中期目標と実績](#)



[売上の一部で森林保全活動を支援](#)

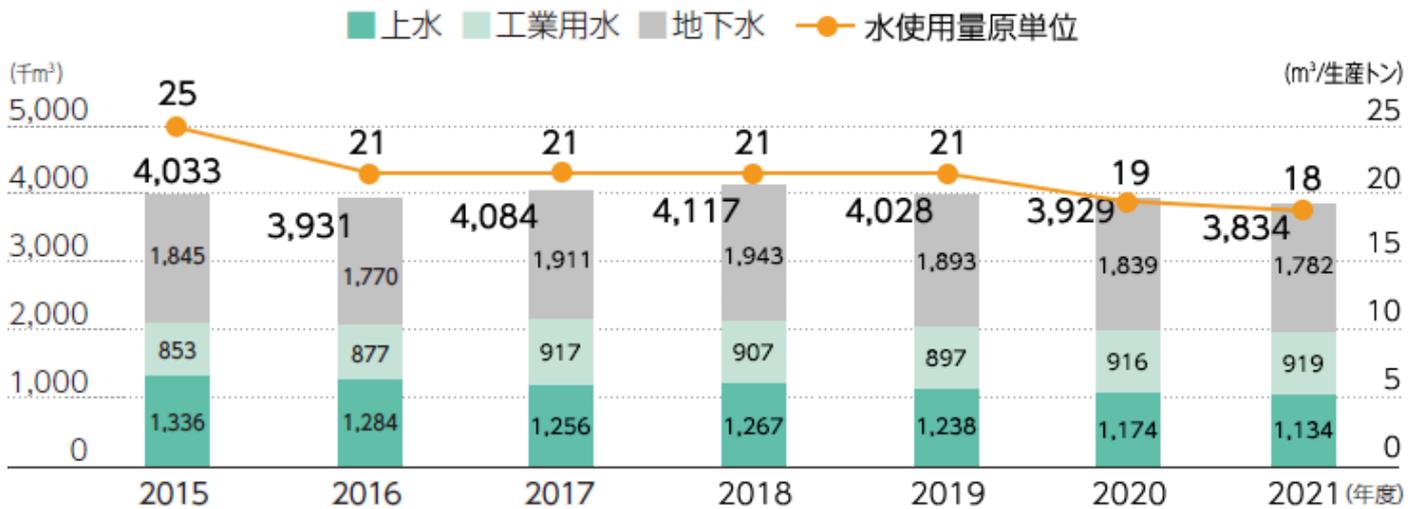


## 取組みの状況

### 取組みの状況

事業活動に関わる水資源への取組みとして、食品工場や低温物流倉庫では節水に取り組むとともに、ポスター掲示等を通じて従業員に対する啓発を行っています。国内事業所では各種法令を遵守し、水の使用量と排水の水質について定期的にモニタリングを行い、把握・管理しています。拠点ごとに削減目標を設定し、グループ全体で水の削減に努めています。

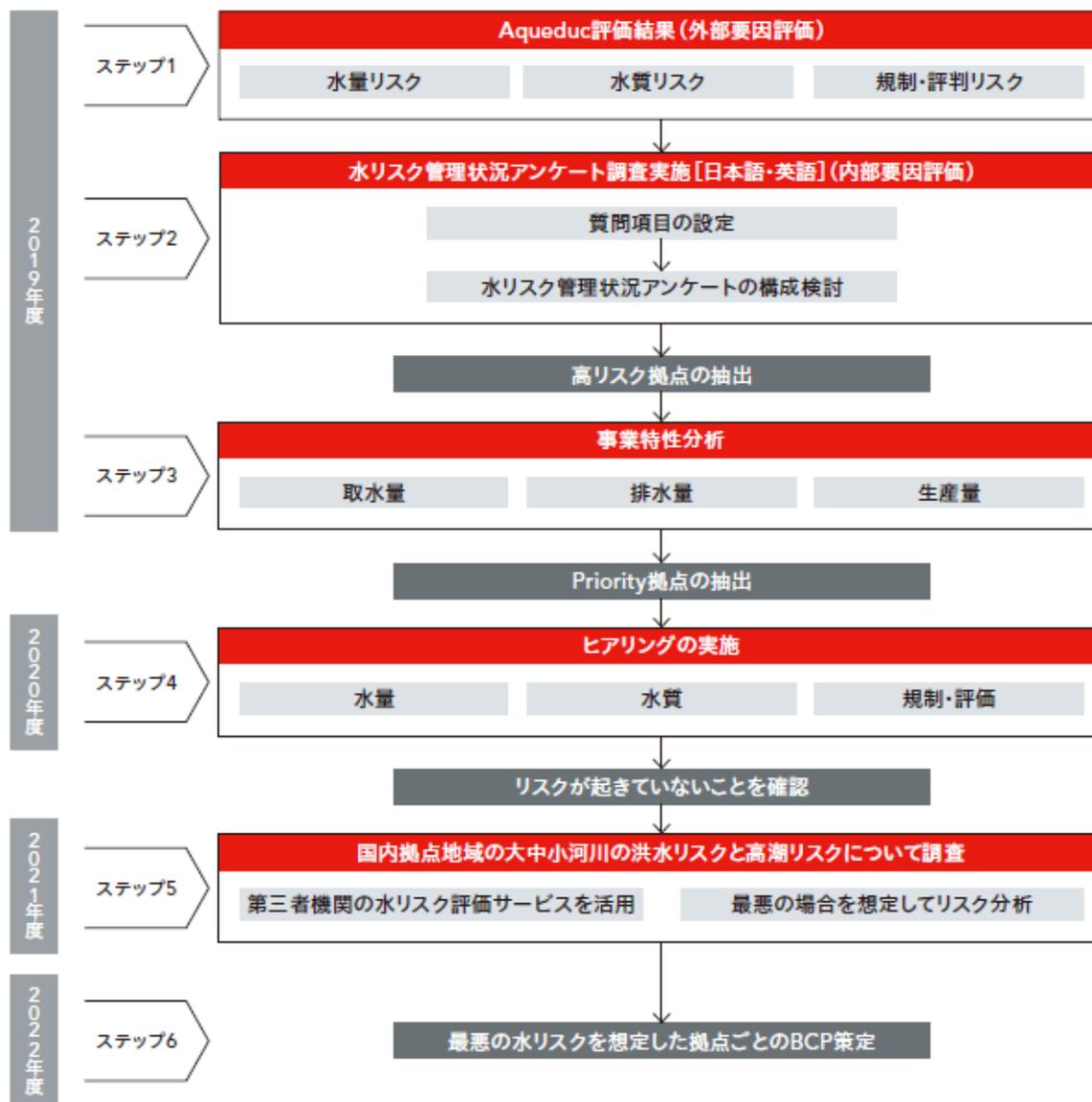
#### ● 水使用量（取水源別）



## ■ 水リスクアセスメントの実施

2019年度ではグループ全拠点（国内外152拠点）の水リスクアセスメントを実施し、外部要因と内部要因の両面から水リスクが高い拠点を特定。2020年度は、水リスクが高いと特定された3拠点について実際にヒアリングを実施し、現時点において「水量、水質、規制・評判」の水リスクが起きていないことを確認。2021年度では、国内拠点における大型台風や豪雨などによる河川の洪水リスクと高潮リスクについて調査しました。

### ● 水リスクアセスメントフロー図



※ WRI Aqueduct : 国際環境NGOである世界資源研究所 (WRI; World Resources Institute) が公開する、世界の水リスクを位置座標または住所から簡易的に評価するツール

CDP Water 2022年度レポートはこちら



社外からの評価



# 生物多様性保全

## 方針・基本的な考え方

### 基本的な考え方

ニチレイグループ環境方針／ニチレイグループ生物多様性方針



## マネジメント体制

### マネジメント体制

ニチレイグループでは、「自然との共生」をグループ環境方針の3つの重点課題の柱の一つとして、環境保全活動に取り組んでいます。事業活動において、持続可能な素材や加工品の積極調達、取引先や地域と協力して行う循環型システムの構築、事業所や調達先での生物多様性保全や環境啓発活動、情報発信などを行っています。

取組みは事業会社ごとの年八回行われる「環境担当者会議」と年三回以上行われる「グループサステナビリティ委員会」において報告され、内容・進捗に応じてグループ全体の環境保全に関する方針・政策を策定しています。生物多様性の取組みは、策定された計画に基づき行っています。

## 取組みの状況

### 取組みの状況

#### ■ あさり漁業で「MSC漁業認証」を取得～生物多様性の保全と持続可能な生産の両立を実現～

日本が輸入しているあさりの約60%の主要生産地は中国の黄海沿岸の湿地です。ニチレイフレッシュは2006年よりこの中国産あさりを「こだわり素材」として調達していましたが、年々減少していくあさりの収穫量や自然環境の悪化を懸念してきました。

2016年、持続可能なあさりの調達を目指したいニチレイフレッシュと黄海沿岸域（鴨緑江河口域）の生物多様性保全を提言していたWWFの想いが重なり、あさりのサプライヤーである丹東泰宏食品有限公司とともに漁業改善プロジェクトをスタートさせました。

2021年9月にMSC漁業認証※取得し、鴨緑江河口域のあさり漁業が、渡り鳥の休息や採餌に欠かせない黄海沿岸域の豊かな自然環境に配慮した持続可能な漁業と認められました。このあさり漁業のMSC認証の取得は、中国と日本のサプライチェーン上の関係者が協働する漁業改善プロジェクトとして中国では初めての事例となりました。

今後もニチレイフレッシュは持続可能な漁業認証であるMSC水産品の取り扱いを高めていきます。

※ MSC認証：MSC（Marine Stewardship Council：海洋管理協議会）による持続可能な天然水産物の認証

● 鴨緑江河口域沿岸湿地生態系の主要素



■ 福島県裏磐梯の自然環境調査・環境および生物多様性の保全活動を支援

ニチレイグループは福島県裏磐梯の桧原湖周辺に土地を所有しており、周辺の自然環境の調査と、それにもとづく環境や生物多様性の保全活動の支援を行っています。裏磐梯の所有地周辺は1888年の磐梯山の噴火によって植生が消失しましたが、130年以上経過したことにより、アカマツ林、シロヤナギ、ヨシの湿地、湖沼の水生植物群落など、遷移途中の植生を見ることができます。一方、裏磐梯高原には、この地に緑を蘇らせようとした人々によって植林されたアカマツの林が広がっていますが、当社所有地には植林地がなく、ほとんど手つかずの自然の遷移の様子を観察できる、学術的に貴重な土地となっています。ニチレイでは2011年度より、福島大学大学院共生システム理工学研究科実践教育推進センターの自然共生・再生プロジェクト部（2016年より福島大学プロジェクト研究所「磐梯朝日自然環境保全研究所」）が実施する裏磐梯の自然に関する調査への支援を行ってきました。2019年度は「裏磐梯地域にある株式会社ニチレイ社有地内のヨシ湿地の昆虫相解明」と「『裏磐梯植物誌』出版を目指した植物の種多様性研究」に対する支援を実施しました。



裏磐梯地域の湖沼における水質調査



新種の可能性の高いヒメシロカゲロウ属

■ 絶滅危惧種アツモリソウの保護活動支援

ニチレイグループは、長野県富士見町で洋ランをはじめとする園芸植物の研究・育種を行っていたことなどから、2003年度よりホテイアツモリをはじめとするアツモリソウ類の保全再生活動に参加しています。2014年には人工増殖によるホテイアツモリの開花に成功し、2019年度には32株が開花するという成果を上げました。2019年2月、長野県と富士見町、そして富士見町アツモリソウ再生会議と当社との間で「生物多様性保全パートナーシップ協定」を締結。アツモリソウ類の保全再生に必要な技術提供や、活動に必要な経費の一部を支援しています。2021年6月には、人工増殖させた株・苗を販売することができるまでになりました。販売する目的は、山野で生息している天然の固有種の乱獲を防ぐためです。人工授粉は同一系統の株間での交配は極力避け、遺伝的多様性の保全に十分配慮しています。



# 汚染防止と廃棄物削減

## 方針・基本的な考え方

### 基本的な考え方

ニチレイグループでは、環境への取組みとしてグループ環境方針を定めており、「持続可能な資源循環の推進」をテーマに掲げています。当社グループでは、企業の事業活動が自然環境に及ぼす影響は大きいことを認識しています。事業活動を通じた汚染物質の排出や化学物質の使用が大気や土壌に影響を与えたり、事業活動の拡大により、廃棄物の発生も増加し、有限な資源に影響を及ぼします。特に、グループの事業は原材料調達において自然生態系に大きく依存しており、それらが損なわれることは事業上大きなリスクになるとともに、食品廃棄物の発生は大きな課題です。

上記の課題認識にもとづき、当社グループは、取引先やパートナー企業、さらには消費者の皆さまの協力を得ながら、有限な地球資源を効率的に利用していくとともに、事業活動を通じて廃棄物や汚染物質の軽減、資源の再利用、リサイクルを推進します。また、再生資源の購入や仕組みづくりに取り組み、循環型社会システムの構築に貢献します。

グループ環境中期目標として、食品工場、物流センターから排出される廃棄物リサイクル率99%以上を維持するとともに、国内食品工場では動植物性残渣の削減を目標としています。

ニチレイグループの環境保全への考え方



## マネジメント体制

### マネジメント体制

環境マネジメント> サステナビリティ委員会

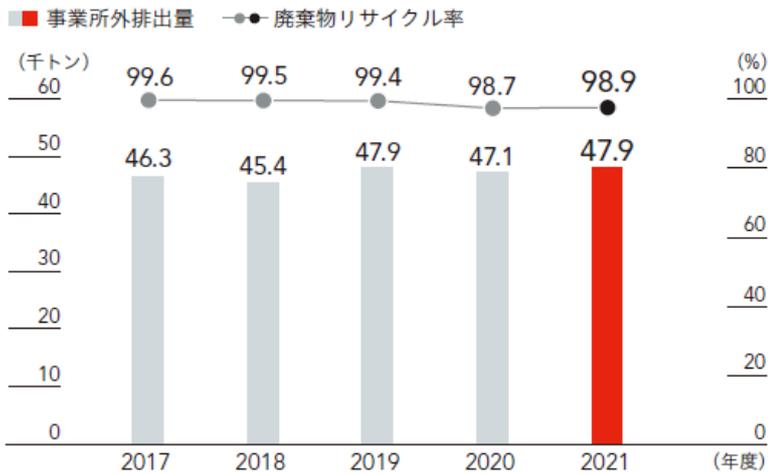


## 取組みの状況

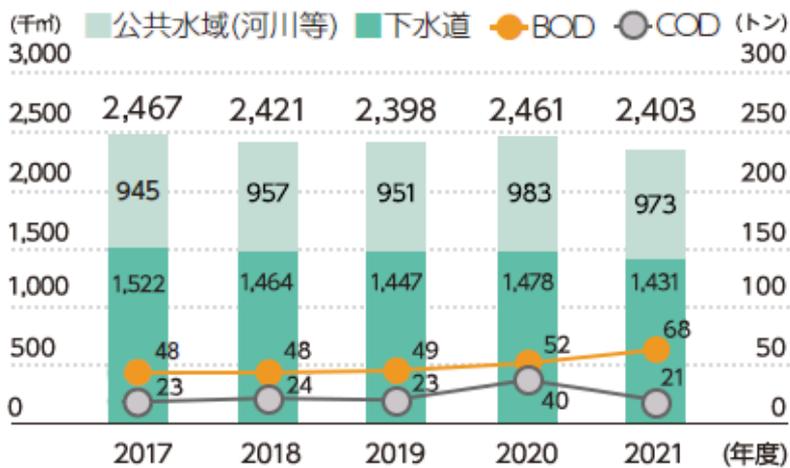
### 取組みの状況

ニチレイグループ重要事項（マテリアリティ）の1つとして目標（KPI）を設定し、食品残渣や事業活動として排出される廃棄物量の削減とリサイクル化に向けた活動を積極的に取り組んでいます。

● 事業所外排出量／廃棄物リサイクル率



● ニチレイグループ排水量と排水負荷量



■ 工程残さ（残りカス）を利用して作る肥料・飼料

ニチレイフーズは、生産工程における廃棄物排出削減を目指し、さまざまな取り組みを行っています。生産工場における徹底した生産管理や、各工程で起こるトラブルを未然に防ぐ取り組みを推進するとともに、それでも製品にならなかった原材料など工程残さのリサイクルを行っています。

工場で発生した工程残さは肥料や飼料にリサイクルし有効に活用しています。今後も数値目標を設けて積極的に廃棄物排出削減に取り組むと同時に、やむを得ず発生する工程残さについては、最大限の有効活用を目指していきます。

■ 工場排水は専用設備で浄化後に排出

食品工場で使用した水は、食品系の有機物や洗浄剤、殺菌剤などを含んだ排水となります。当社グループでは、工場排水を処理設備で浄化し、法令で定められた排出基準を遵守した上で工場外に排出しています。

■ PRTR対象物質の管理

2021年度も継続してPRTR法※の届出対象物資（取扱量1t以上）はありませんでした。今後も化学物質の適正管理を継続します。

※ PRTR法：人の健康や動植物の生息、生育に支障を及ぼす可能性のある化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたかなどのデータを集計し、公表する仕組みについて定めた法律。

詳細はこちら



## ■ PCBの管理

PCB（ポリ塩化ビフェニール）は、変圧器の絶縁油などに使用されてきましたが、1970年代に毒性が明確になったことで使用が禁止されました。PCB含有を確認した機器については、法に定められた基準に則り、適切に保管しています。現在、国が管理する全国5カ所のPCB処理施設の操業計画にもとづき、順次処理が行われています。2021年度も継続して、当社グループ全体で3基が収集・運搬・処理されました。

## ■ アスベストへの対応

2005年度の調査において、屋根裏への吹付けなど飛散の可能性がある状態で発見されたアスベストは、除去などの処置を実施しました。また、事業所の閉鎖などにより施設の解体を行う際には、再調査の上、アスベストを含む建材がある場合は、法令を遵守し適切な処置を実施しています。

## ■ 土壌汚染への対応

土地の売却・購入や賃貸時には適切な情報開示を実施するとともに、必要に応じて土壌汚染状況の調査および適切な対応を実施しています。2019年度は、ニチレイ・ロジスティクス東海 名古屋みなと物流センター新設工事において、土壌分析を実施し、適切な処理を行いました。キューレイの新工場においても、土壌分析を実施し、適切な処理を行っております。

# —— 大気への化学物質の排出管理について ——

## ■ NOx、SOx、PMの排出を低減

食品工場では、ボイラーなどで重油やガスを燃焼する際にNOx（窒素酸化物）やSOx（硫黄酸化物）が発生します。工場では、適正な設備管理により、法令で定められた排出基準を遵守し、総排出量削減を図っています。ニチレイロジグループでは、輸配送については、鉄道やフェリーを活用したモーダルシフトや共同配送などの物流効率化を推進。使用する車両については、排ガス規制適合車両への切り替え、適正な車両整備、エコドライブの推進などを行うことで、NOxやPM（粒子状物質）の排出低減を進めています。また、ニチレイグループの事業上、VOCの排出基準に相当する排出はありません。

SOx排出量



## ■ 自然冷媒への切り替え

2030年までにニチレイロジグループの海外拠点含む75%（貸借除く設備トンベース）、ニチレイフーズの国内自営食品工場および投資工場のフリーザーを100%、自然冷媒機への切り替えを実施します。



## ■ 冷媒漏れ防止への取り組み

ニチレイロジグループでは既存の冷凍機の冷媒漏れ削減に取り組んでいます。冷媒漏洩点検を定期的を実施するとともに、2021年度からは24時間計測可能な検知器の導入を進めています。

自然冷媒化率KPI



自然冷媒への切り替え



# 製品・サービスにおける取組み

## 方針・基本的な考え方

### 基本的な考え方

ニチレイグループはサプライチェーン全体での環境負荷の最小化を意識したモノづくり・サービスを提案します。当社グループは気候変動の影響を大きく受ける“食”に関わる企業グループとして製品におけるCO<sub>2</sub>排出削減に取り組んでいます。また、限られた地球上の資源をできるだけ継続的に利用していくため、廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化にも取り組みます。地球からの恵みである生物資源を無駄なく効率的に使うことや、使い切ることができなかったものは飼料や肥料などに再利用し循環させていくことに注力しています。

## マネジメント体制

### マネジメント体制

環境マネジメント> サステナビリティ委員会



## 取組みの状況

### 取組みの状況

#### ■ 冷凍食品の容器包装におけるプラスチック削減

ニチレイフーズでは2006年より家庭用冷凍食品の容器包装におけるプラスチック削減に取り組んでいます。施策実施前と比べ、直近では対象7商品(群)で200トン強の削減になっています。今後も、パッケージや容器包装の見直しによりプラスチック削減を進めるとともに、CO<sub>2</sub>排出量削減に努めていきます。



## ■これまでのプラスチック削減への取り組み

| 年度     | 対象アイテム                    | 施策               |
|--------|---------------------------|------------------|
| 2006年度 | 「今川焼」                     | トレー廃止            |
| 2009年度 | 「焼おにぎり10個入」               | トレー廃止            |
| 2011年度 | 「本格炒め炒飯」                  | パッケージ薄肉化         |
| 2014年度 | 「焼おにぎり10個入」               | パッケージ薄肉化         |
| 2015年度 | 「本格炒め炒飯」                  | パッケージ薄肉化（2回目）    |
| 2018年度 | 「えびピラフ」「チキンライス」           | パッケージ薄肉化         |
| 2020年度 | 「えびとチーズのグラタン」「えびとチーズのドリア」 | トレー薄肉化・手持ち部の幅を縮小 |
| 2021年度 | 「焼おにぎり」類                  | トレー廃止            |

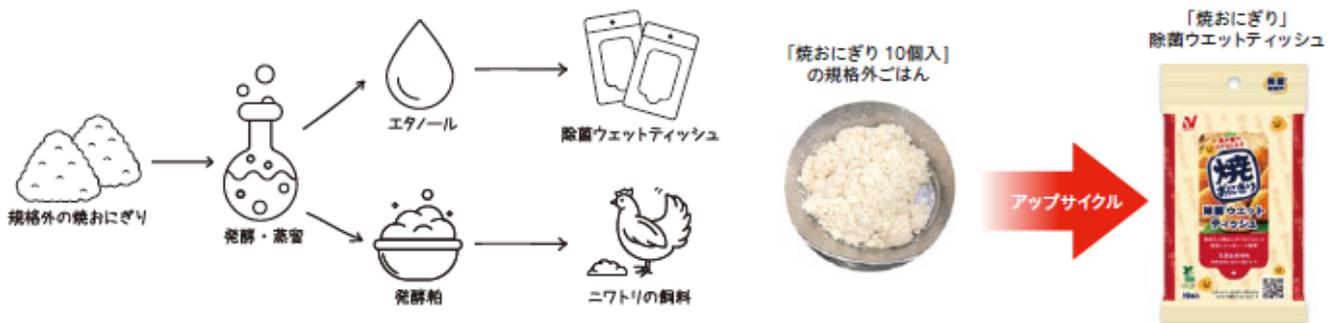
## ■アップサイクル商品への挑戦

### 「焼おにぎり 10個入」の規格外ごはんをアップサイクル

ニチレイフーズはこれまで、こども食堂やフードバンクへの寄付を通じてフードロス削減に取り組んできました。また、工場の生産過程でどうしても出てしまう食品残渣は、すべてを肥料や飼料にリサイクルしています。しかし、食を支える企業として、食品残渣に「社会的価値」を付加しアップサイクルすることで、これまで以上に豊かな社会を実現したいという想いがありました。

その第一弾として、食品・飲料の製造過程で出る規格外品・副産物や農産物の規格外品などを独自の発酵技術でアップサイクルさせる株式会社ファームステーションと協業し、当社のロングセラー商品である「焼おにぎり10個入」の規格外ごはんを除菌ウエットティッシュへ生まれ変わらせ、提供いたします。

- 「焼おにぎり」除菌ウエットティッシュができるまで



アップサイクル商品の発売



# 社会

|                  |   |     |
|------------------|---|-----|
| 食と健康における新たな価値創造  | … | 75  |
| 持続可能なサプライチェーンの構築 | … | 84  |
| 人権               | … | 94  |
| 安全な商品とサービスの提供    | … | 98  |
| 労働安全衛生           | … | 112 |
| 人財開発・働きがいの向上     | … | 117 |
| 健康経営             | … | 127 |

# 食と健康における新たな価値創造

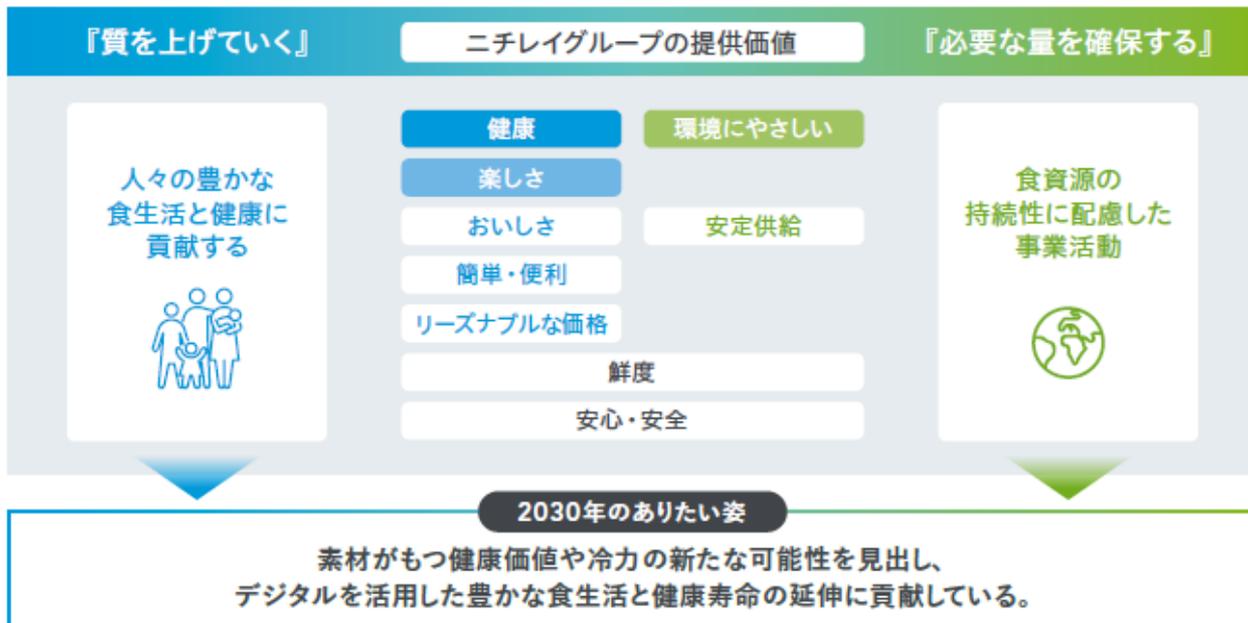
## 基本的な考え方

### 基本的な考え方

ニチレイグループでは重要事項（マテリアリティ）の一つである「食と健康における新たな価値の創造」を推進するため、ニチレイらしい健康で持続可能な、新たな独自素材・商品・サービスの開発と、栄養への取り組みを強化していきます。重点的に取り組むテーマは「健康課題の解決につながるものか」、「持続可能で環境に配慮した新たな食資源・素材であるか」、「新たなビジネスモデルに挑戦しているか」という3つの視点で抽出をしました。

ニチレイで進める3テーマと事業会社との連携で進める2テーマの計5つと、それらを支える基盤となる、独自の心理統計学による心の見える化や、冷凍の新たな価値を見出すための研究、独自の栄養目標づくりに向けた取り組みに資源を集中して進めていきます。

### 食と健康における既存領域を超えた挑戦により、新たな市場や顧客価値を創造する



#### グループ施策

- R&Dを強化し、地球環境に配慮した新たな食資源や健康価値素材を開発
- マーケティング・DX分野への資源配分による、おいしく健康に配慮した商品の開発や、食生活を豊かにするサービスの提供
- 新たな領域で価値を創出・育成する仕組みを作り、イノベーション活動を推進

## 取組みの状況

●健康や持続可能な素材に取り組む新たなビジネスモデル



### ①食の好み分析に基づくデータサービス事業を推進 ～献立自動生成アプリ「me:new (ミーニュー)」～

働き方の変化や女性の活躍、超高齢社会の進展などにより「家庭内における食事の準備にかかる時間は短縮したい」という生活者ニーズは高まっています。一方で、栄養バランスや食物アレルギーなど健康に配慮した食事を摂りたいというニーズも高まってきており、多くの生活者が日々の献立づくりに苦労しています。これらの課題を解決するため、ニチレイは2021年8月、献立自動生成アプリ「me:new (ミーニュー)」を持つ株式会社ミーニューの全株式を取得し新規事業として自社開発したアプリ「conomeal kitchen」とサービスを統合、AIによる食提案サービス事業に参入しました。「me:new」は最長1週間分の献立をまとめて作成するアプリで、主に小さい子どもがいる家庭に向けて、親と子どもと一緒に食べられるレシピや、アレルギー対応のレシピを提案するという特徴がありBtoCだけでなくBtoBのニーズも高まっています。今後は食の好みやおいしさの研究に基づくデータサービス事業という新たな価値提供にも取り組んでいきます。

me:new



献立自動生成アプリ「me:new(ミーニュー)」



## ②健康新素材

### ～「ごはんのみらい」～

日本の食文化であるお米は直近50年で消費量が半減しています。健康ブームによる極端な摂取制限志向で糖質は嫌厭され、さらに偏った栄養摂取による新型栄養失調といった新たな健康課題もあり、お米を炊く手間とともにお米の消費減退に歯止めがかからない状況です。ニチレイはお米を原料とした手軽で機能的な「新しい主食」を提供すると同時に糖質摂取に対する不安を解消し、米食文化をもう一度見つめなおすきっかけを設けたいと考えました。「ごはんのみらい」は米粉とお米由来の食物繊維を独自の再組織化技術で成型した新しい主食です。糖質は約半分、食物繊維は約1日分を含んでおり、食べる人の健康状態に合わせて鉄分やカルシウムなどの栄養素を加えられます。お米由来の原料を使用しているため食べ馴染みのある食感や風味を再現しており、なおかつ調理もお湯を注ぐだけ。ストレスなく続けられる健康的な主食です。また、栄養バランスのとれたレシピや、食に関する疑問・悩みを管理栄養士に相談できるサービスの提供により、一人ひとりに合った健康サポートをしています。専用Eコマースでの直接販売とコミュニケーションを通じて得た顧客データを製品やサービスの向上に活用し、常にニーズにマッチしたサービスを展開していきます。



「ごはんのみらい」



## ③昆虫食のスタートアップ企業「TAKEO」への出資

将来直面し得る食料不足に備え、安定的かつ持続的な供給を責務とするニチレイにとって、新たな「食」提供は重要なテーマとなります。

昆虫は環境負荷が少なく、栄養価や生産効率に優れた持続可能な食資源として期待されており、ここ数年は今までにない新しい食材としても注目されています。

昆虫が野菜、魚、肉などと同じように食材として楽しめるような食卓を実現すべく、多種多様な商品やサービスを展開し、国内の昆虫食市場の草分け的存在であるTAKEO株式会社に出資し、TAKEOが持つノウハウと、当社の加工技術を掛け合わせることで、昆虫食の可能性を広げ、これまでになかった食の世界をつくり出していきます。

より身近で、地球にも人にも優しい、当社の新たな挑戦として昆虫食の開発とサービスの提供を目指しています。



「TAKEO株式会社」



#### ④オメガ3系脂肪酸に着目した食肉生産

##### 「亜麻仁の恵み®」食肉の提供

ニチレイフレッシュでは、人の健康に欠かすことのできない栄養素であるオメガ3系脂肪酸に着目し食肉の生産・販売を行っています。α-リノレン酸を多く含む健康素材、アマニ由来の成分を使用した配合飼料を鶏・豚・牛※に与えることでオメガ3系脂肪酸とオメガ6系脂肪酸のバランスを改善しつつ、肉質が柔らかく、脂の口どけが良いお肉を開発し、2006年より販売しています。

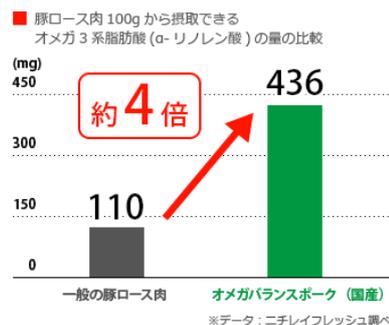
オメガ3系脂肪酸は、α-リノレン酸を代表とした必須脂肪酸で青魚やアマニ油、えごま油に多く含まれます。これらは体内でEPAやDHAに変換されます。体内でつくることができない必須脂肪酸、中でもオメガ3系脂肪酸は現代の日本人の食生活において日ごろ不足しがちと考えられており、バランスよく摂取することは現代社会に生きる私たちにとって大切であると考えられています。

ニチレイフレッシュは、日常の食シーンで多く登場するお肉を通じて、健康管理や食バランスのサポートを提案していきます。

※ 牛については個体差があります。



あまに  
亜麻仁の恵み® 豚



「亜麻仁の恵み」



#### ■ 支える基盤

##### 心の見える化

心理統計学とは心を定量化し、数値データやモデルとして可視化する技法です。緻密に設計した質問調査と多変量解析や構造方程式モデルといった高度な統計手法で定量化・可視化し、消費者の思考の流れを直観的に捉えることができ、数値的な裏づけも得ることができます。ニチレイは大学との共同研究により、この独自の心理統計手法を従業員満足度調査や企業イメージ調査などに応用・展開していますが、今後は独自の生活者マーケティング活用としても進めていきたいと考えています。

##### 冷凍研究

ニチレイでは「不凍タンパク質 (Antifreeze Protein:AFP) 」について、広範な用途と実用化を目指し研究を続けています。AFPは氷の結晶に直接結合し氷結晶の成長を抑制する機能を有します。AFPがもたらす効果は、氷結晶成長抑制、氷結晶の再結晶化抑制、溶質の均一分散化、非凍結低温環境下における細胞保護機能などがあり、その応用は食品から医療、化粧品、試薬、工業分野など多岐にわたると想定されています。ニチレイではこの研究結果と冷凍技術を組み合わせ、新たな商品・サービスにつなげていきます。

##### 栄養への取り組み

“栄養過剰と栄養不良の二重負荷”という健康課題を解決すべく、栄養への取り組みを強化していきます。過剰摂取が懸念される成分は過剰摂取せず、摂取が推奨されるものは推奨量摂取できることを担保する目標の策定に向け、厚生労働省の「健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ」への参画などを通じた取り組みを進めています。

## ■ 動物性の肉を一切使用しない代替肉

### 大豆ミート

ニチレイフーズでは、冷凍食品の新たな挑戦として、サステナブルな社会実現へ向けた代替肉の商品開発を進めています。肉を使わずにおいしさ、肉らしさを再現するため、大豆の先進的な研究をしているDAIZ社の独自技術から作られる発芽大豆を原料とした大豆ミートに、さまざまな種類の大豆ミートを独自に組み合わせ、さらに当社が培ってきたおいしさの再現ノウハウ、技術を融合させることで健康感とおいしさを両立した商品となりました。



## ■ アセロラの新たな効果の可能性

アセロラビタミンCの高い体内吸収力に関する研究で、当社のアセロラ果実粉末およびアセロラ果汁が腸内由来の微生物へ与える影響について解析を行いました。

その結果、ヒトの腸内由来の微生物に、アセロラ果実粉末やアセロラ果汁を与えると、ビフィズス菌などの有益な腸内細菌のみならず、体に良い成分として知られる酢酸や酪酸などの代謝物質も、増加していることが認められました。

今後は、より発展的な研究を行い、結果を深掘りすることで、さらなるメカニズムの解明や、新たな研究開発、商品開発への活用が期待されます。生活を豊かにする食に科学的な視点からアプローチし、より良い健康社会の実現を目指します。



アセロラの新たな効果の確認について



## ■ コンパニオン診断薬

個々に合わせたがん治療のための診断薬の提供

ニチレイバイオサイエンスは、患者さん一人ひとりの体質や病態にあった適切ながんの治療法や医薬品の選択をするための「コンパニオン診断薬」を、2014年に日本で初めて承認を受け、製造販売を開始しました。これまで培ってきた免疫関連技術により、効果が高く副作用の少ない適切な治療法や医薬品の選択を実現する個別化医療の発展に貢献しています。



コンパニオン診断薬 ヒストファインALK iAEP®キット

ヒストファイン ALK iAEP® キット



## —— 新技術の開発 ——

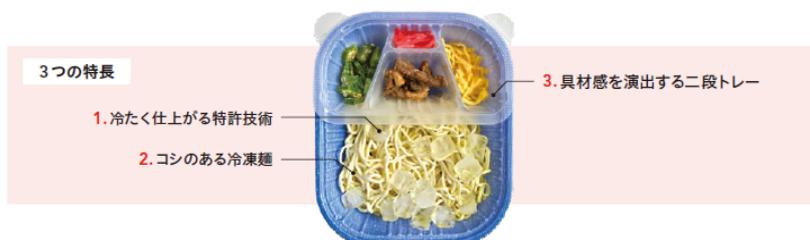
豊かな食生活に対するお客様や社会のニーズはますます高まり、多様化しています。これまで培った生産技術力や物流ノウハウに、人工知能（AI）※・IoT・自動運転・ロボットなど新たな技術力によってさらにコアコンピタンスを強化し、社会の課題解決に積極的に取り組んでいます。

※ 人工知能（Artificial Intelligence：AI）とは、コンピュータを使って、人間の知能のはたらきを人工的に実現したものです。具体的には、人間の使う自然言語を理解したり、論理的な推論を行ったり、経験から学習するコンピュータプログラムなどのことをいう。

## ■ 独自技術を活用した電子レンジで温めても冷たく仕上がる「個食麺」の発売開始

ニチレイフーズは電子レンジ調理が可能な個食麺の第一弾として家庭用冷凍食品「冷やし中華」を開発し、2022年3月に発売しました。電子レンジは、食品に含まれる水分子をマイクロ波で振動させて加熱しています。氷は水分子が結合しており、マイクロ波の影響が小さいため溶けにくく、一方で冷凍麺は氷よりも水分子が点在しているため温まりやすいといった性質を持っています。このような食品ごとの特徴の差を応用し、「電子レンジで冷たい麺に仕上がる」という独自技術※を開発しました。本商品は構想から約5年、具現化するまで約3年かかっていたの商品化となりました。業界初となる氷の特性を利用するという発想は、冷凍食品を長年研究し続けてきた、当社ならではのものであったと自負しています。

※ 特許申請済



2022年の秋には、第二弾として「極太つけ麺」を発売します。こちらも氷を使用した独自技術で、麺は冷たく、スープは温かく仕上がります。また、全粒粉を使用した自家製極太麺と、濃厚魚介豚骨味のスープが特長となっています。

これらの商品の開発は、調理や食事を家庭外に依存するライフスタイルの定着に加え、単身世帯の増加による「パーソナルユース需要」（1人前規格の主食・主菜や片手で食べられる軽食メニューの需要）が増加していることが背景にあります。このような社会背景を受けて、山形県天童市のニチレイフーズ山形工場では、約40億円を投資し、パーソナルユース需要向けの商品の生産を目的に冷凍個食ラインを導入。2022年2月から稼働を開始しました。今後も伸長が見込まれるパーソナルユース需要の対応や巣ごもり消費の取り込みにつなげていきます。



電子レンジでチンして“冷たい麺”が出来上がる『冷やし中華』



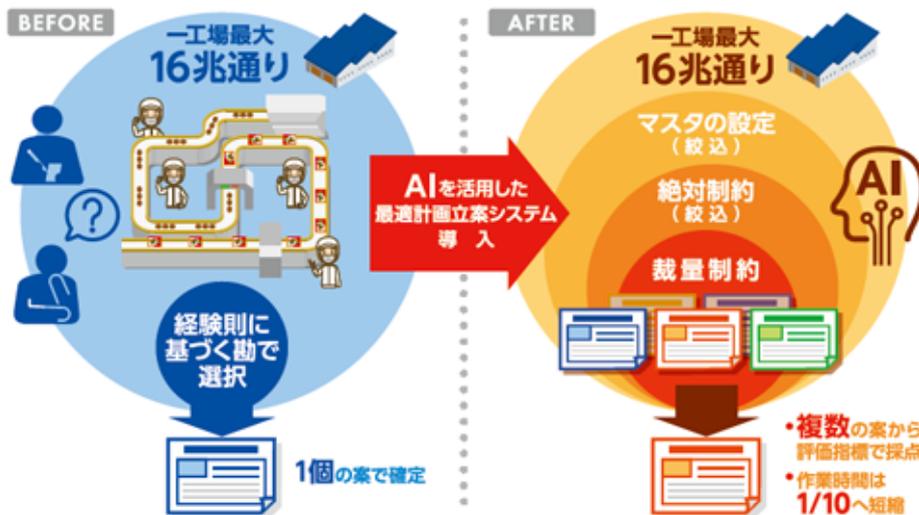
## 食品加工・生産技術力の強化と 低温サービスの高度化

### ■ AIを活用した最適生産・要員計画自動立案システムの運用開始

ニチレイフーズは、AIを活用して最適な生産計画と要員計画を自動立案するシステムを（株）日立製作所と協創し、2020年度から国内の2工場で運用を開始しています。本システムは、熟練者が複雑な制約条件のもとに立案していた計画を、高度なAI技術により再現・進化させるものです。例えば要員計画の作成には「法規制」のほか、「個々の力量」「残業、有休」などさまざまな条件を考慮する必要があり、これまでは熟練者が経験に基づく勘に頼って、「なるべく、できるだけ」それらの条件に配慮しながら計画を作成していました。今回、こうした「なるべく、できるだけ」という感覚までもAI技術を用いて数値化し、さまざまな組み合わせの中から最適解を自動立案することに成功。これにより計画立案にかかる時間を従来の10分の1程度に短縮することができるほか、熟練者以外の従業員も計画を作成できることから、労働時間の低減や休暇取得の向上など「働き方改革」の一助となることが期待されます。また、近年、食品メーカーでは、需要変動に対応して商品を生産・供給することが求められるため、先進のデジタル技術を活用し、効率の良い生産体制を構築することで、顧客満足度の向上にも寄与します。ニチレイフーズではこれからもデジタル技術の活用を通じて、生産性向上・リードタイム短縮・在庫圧縮への取り組みや働き方改革をさらに推進していきます。



●生産計画立案イメージ



1工場で最大16兆通りの組み合わせがある中から、日別のラインごとの生産商品・生産量などの生産計画、作業者のシフトスケジュールなどの要員計画を自動立案。

最適生産・要員計画自動立案システム



■ タブレット検品に賞味期限読取AIソリューションを導入

ニチレイロジグループは、撮影画像からAIを用いて賞味期限を自動で読み取るソリューションの実証実験を終え、2020年度では全国50拠点へ実導入を開始しています。庫内作業のフルデジタル化を目標に掲げ、その一環として作業のタブレット化に取り組んでおり、AIソリューション導入はその機能拡充を目的としています。これまで手動で行われていた賞味期限入力業務を、AIソリューションにより93%以上という高い読取精度と約2秒という高い処理速度で、手入力することなく完結します。その結果、さらなる品質管理向上につながり、賞味期限画像の記録化、オペレーション簡素化による業務の「誰でもできる化」への転換、ストレスのない作業運営を実現することが可能となりました。

※ 賞味期限自動読取AIソリューション：AI-OCR（Optical Character Recognition/Reader：光学的文字認識）と画像認識による画像前処理技術によって、画像から賞味期限の文字を識別し、認識された賞味期限情報をクラウド上で突合することで、より高精度な読み取りを可能とするもの



## ■ 自動運転フォークリフトの導入・実用化

ニチレイロジグループでは、2018年1月より自動運転フォークリフトの冷凍倉庫内での実証実験を行い、2021年にグループ傘下の（株）キョクレイ大黒物流センターにて実導入しています。自動運転フォークリフトは、タブレット端末で指示を出すため、体力や操作技術の経験がない従業員でも簡単にミスなく動かすことができるのが特長です。今後は順次、自動運転フォークリフトを実導入できる拠点数を増やし、労働時間の削減や現場作業の省力化、および庫内の労働安全衛生につなげていきます。



グループ広報誌「OriOri」より

## ■ 無人搬送機（AGV）の導入・実用化

ニチレイロジグループは、2021年より（株）ニチレイ・ロジステイクス東台物流センターにて、画像処理技術や自動搬送機器を手がける（株）Phoxter（本社：大阪府豊中市、代表取締役CEO：園田淳一）が提供する「パレット搬送型AGV（Automated Guided Vehicle）」を導入しました。また「カゴ車輸送機」についてもTC（通過型物流センター）5拠点で実導入しています。労働力不足や作業者の負担軽減、さらには現場作業の「誰でもできる化」を目的とした業務革新に注力しており、今後もヒトと機械の双方の特性を活かした最適な労働環境体制の構築を進めていきます。



AGVのパレット搬送機



AGVのカゴ車輸送機

## ■ 新型ロボットの導入に向け実証実験を開始

ニチレイロジグループ本社は、Telexistence株式会社（以下、TX社）と協同し、物流施設の冷蔵エリアで、TX社製の遠隔操作ロボットがカゴ台車に混載積み付けをする実証実験を行いました。

本実験では、冷蔵エリアに配置されたロボットを人間が事務所から遠隔操作することで、物流センター作業におけるリモートワークとストレスフリーな作業環境構築の可能性を検証しました。オペレーターは対象物や積み付け場所などを目視確認。遠隔操作によってロボットを移動させたりアームを動かすなどして、作業を進めました。

今後も先端技術の導入や作業のデジタル化を積極的に推進し、サプライチェーンを支える持続可能な物流の実現に取り組んでいきます。



ゴーグルを通して映像を確認し、  
コントローラーで遠隔操作を行う



積み付け作業を行うロボット

# 持続可能なサプライチェーンの構築

## 方針・基本的な考え方

### 基本的な考え方

ニチレイグループは、2022年4月1日より、持続可能なサプライチェーンの構築に向け、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」や国連グローバル・コンパクトの10原則等に則り、グループ人権方針および持続可能な調達方針の改定およびサプライヤーの皆様に向けた行動規範・ガイドライン等を制定しました。これらはニチレイグループサステナビリティ基本方針「ニチレイの約束」に基づき、当社が特定した重要事項（マテリアリティ）「持続可能な食の調達と循環型社会の実現」の根幹をなす方針となっています。今後、「ニチレイグループサプライヤー行動規範・ガイドライン」をサプライヤー様に適用していただくための取り組みを進めていきます。サプライチェーン上のリスク要因を把握し、事業への影響度に応じて、サプライヤー様と協働で改善に取り組んでいきます。グループ内はもとより、サプライヤーの皆様との価値観の共有と密接な協力関係の構築を通じて、持続可能なサプライチェーンの実現を目指します。

| 方針名                  | 改正・制定のポイント  |
|----------------------|---|
| ニチレイグループ人権方針         | 自社およびサプライチェーン全体に関わる人権の尊重、人権デューデリジェンスの実施、苦情処理メカニズムの導入 など<br><a href="#">ニチレイグループ人権方針</a>             |
| ニチレイグループ持続可能な調達方針    | サプライチェーン全体に関わる人権の尊重・環境負荷への低減・動物福祉や生物多様性への配慮 など<br><a href="#">ニチレイグループ持続可能な調達方針</a>                 |
| ニチレイグループサプライヤー行動規範   | 「ニチレイグループ持続可能な調達方針」に基づき、ニチレイグループのサプライヤーであるお取引先様に遵守を要請する事項を明文化<br><a href="#">ニチレイグループサプライヤー行動規範</a> |
| ニチレイグループサプライヤーガイドライン | 上記「ニチレイグループサプライヤー行動規範」各事項について解説<br><a href="#">ニチレイグループサプライヤーガイドライン</a>                             |

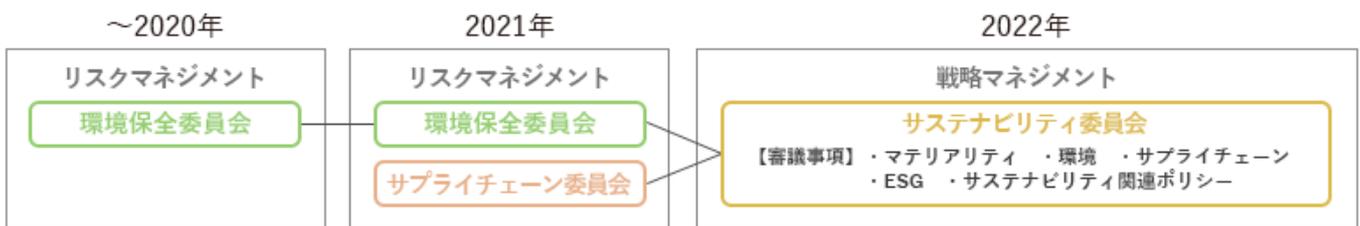
## マネジメント体制

当社グループは、国内外での事業活動を通じて、サプライチェーンも含めて社会と環境にさまざまな影響を与える可能性があることを認識し、社会・環境の面からも、ステークホルダーとの適切な関係を築いていきたいと考えています。

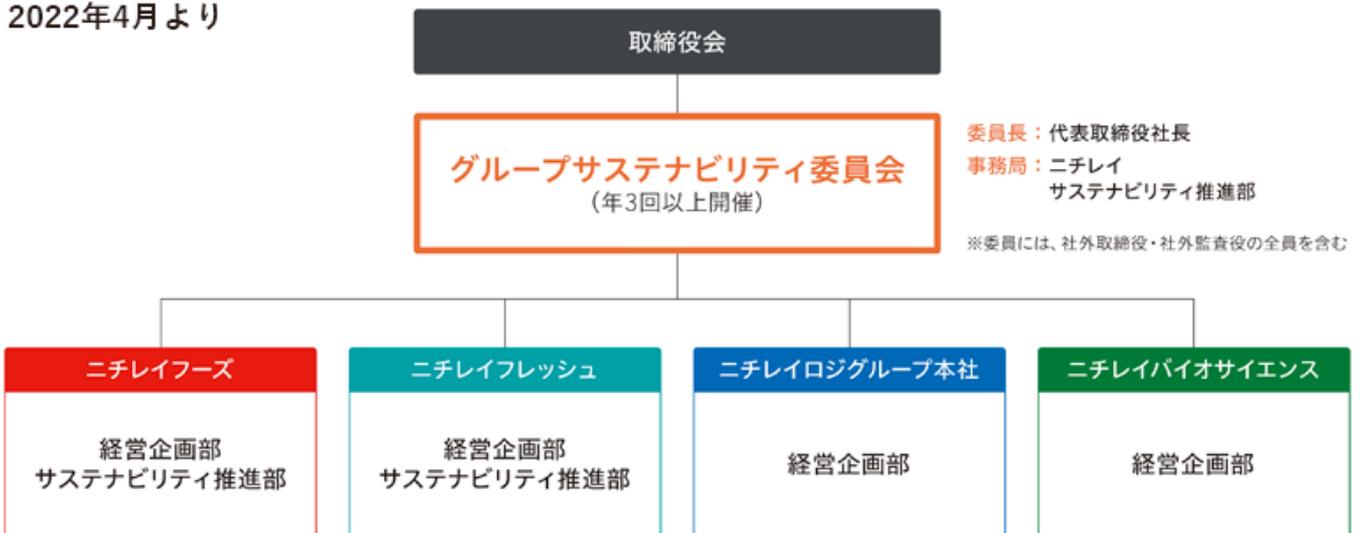
### ■ グループサステナビリティ委員会の設立

2022年度より発足したグループサステナビリティ委員会は、持続可能な社会の実現に向けたニチレイグループの取組を審議し、社会的価値と経済的価値の両立により、ニチレイグループの企業価値の最大化に寄与することを目的としています。

#### ● 委員会体制の変遷



#### 2022年4月より



サステナビリティ推進体制



## 取組みの状況

### 取組みの状況

#### ■ パーム油(RSPO認証クレジット)の導入

ニチレイグループは、2018年8月、持続可能なパーム油の生産と利用を促進する非営利組織、RSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil：持続可能なパーム油のための円卓会議）に加盟し製品に使用するパーム油を持続可能なパーム油にする取り組みを進めています。パーム油を使用しているニチレイフーズの食品工場（国内外の連結対象子会社）では、使用しているパーム油の全量（100%）に該当するRSPO認証油クレジット（ブック&クレーム方式）を2018年から継続して購入しています。



4-1055-18-100-00

会員プロフィールページ（英文）

<https://rspo.org/members/7750>

### ASC／MSC認証商品

#### ■ ASC認証・MSC認証の水産物への取り組み

ニチレイフレッシュでは、2006年からインドネシアのカリマンタン島で持続可能なブラックタイガーえびの粗放養殖とマングローブの植樹による自然環境保護活動「<sup>いのち</sup>生命の森プロジェクト※1」に取り組んでいます。その活動をインドネシアのスマトラ島のバナメイえびの養殖池へも広め、2018年にASC認証※2を取得しました。2020年からは、約28万本のマングローブ植樹を実施しています。また、MSC認証※3の水産物の取り扱いも順次増やしており、2022年6月時点では18魚種の水産物を取り扱っています。今後も、持続可能な水産物の取り扱いを増やしていきます。

※1 <sup>いのち</sup>生命の森プロジェクト：<https://www.nichireifresh.co.jp/inochinomori/>

※2 ASC認証：ASC（Aquaculture Stewardship Council：水産養殖管理協議会）による持続可能な養殖水産物の認証

※3 MSC認証：MSC（Marine Stewardship Council：海洋管理協議会）による持続可能な天然水産物の認証

## ■ニチレイフレッシュのMSC/ASC認証取得水産物

| 認証                           | 認証取得水産物  |
|------------------------------|--|
| ASC<br>【認証番号】<br>ASC-C-01632 | ブラックタイガー、パナメイエビ、マガキ、タイセイヨウサケ、ギンザケ、ニジマス   |
| MSC<br>【認証番号】<br>MSC-C-52165 | カナダホッキガイ、カレイ類、シマホッケ、カラフトシシャモ、キングサーモン、シロザケ、ギンザケ、タイセイヨウニシン、アサリ、アメリカケンサキイカ、マダラ、マガキ、カラフトマス、タラバガニ、ズワイガニ、ベニザケ、スケソウダラ、ホタテガイ |

(2022年6月時点)



MSC認証アラスカ産ベニザケの魚卵を加工した水産加工品（塩筋子）

## ■ <WWFインドネシア・WWFジャパンとの連携> 10年超にわたる「生命(いのち)の森プロジェクト」を通じて、北カリマンタンの生物多様性保全を推進

インドネシアのカリマンタン島にある北カリマンタン州は、農園や植林地、えびの養殖池の開発などで深刻な自然破壊に直面しています。沿岸地域はえびの養殖池が急増して、森林やマングローブが次々に伐採され、環境の急激な変化により、貴重な野生生物が絶滅の危機にさらされています。

ニチレイフレッシュは、マングローブの減少を危惧して、調達先のPT. Mustika Minanusa Aurora (MMA) 社および北カリマンタン州タラカン市と共同で2006年に「生命の森プロジェクト」を開始しました。配合飼料や電気を使わない粗放養殖えびを販売し、収益の一部をMMA社の「マングローブ基金」に寄付して植樹活動や地域の生態系保全に役立てられています。現在はWWFインドネシア、WWFジャパンと協力し「WWF北カリマンタン海と森の保全プロジェクト」の一環として養殖改善活動を推進しています。10年間で302ヘクタールに達する面積に植樹を実施し、マングローブ林が回復することで、小鳥やカニ、小魚などの動物が増え、テングザルも外部からの連れてきたものが自然繁殖しました。



半世紀で約50%の森が失われています



大きく育ったえび



マングローブの再生



マングローブの植樹活動

詳細は以下をご参照ください。

[ニチレイフレッシュ「生命\(いのち\)の森」プロジェクト](#)



[事業を通じた社会課題の解決 ニチレイフレッシュ「生命の森プロジェクト」](#)



■ あさり漁業で「MSC漁業認証」を取得 ～生物多様性の保全と持続可能な生産の両立を実現～

日本が輸入しているあさりの約60%の主要生産地は中国の黄海沿岸の湿地です。ニチレイフレッシュは2006年よりこの中国産あさりを「こだわり素材」として調達していましたが、年々減少していくあさりの収穫量や自然環境の悪化を懸念してきました。2016年、持続可能なあさりの調達を目指したいニチレイフレッシュと黄海沿岸域（鴨緑江河口域）の生物多様性保全を提言していたWWFの想いが重なり、あさりのサプライヤーである丹東泰宏食品有限公司とともに漁業改善プロジェクトをスタートさせました。2021年9月にMSC漁業認証※取得し、鴨緑江河口域のあさり漁業が、渡り鳥の休息や採餌に欠かせない黄海沿岸域の豊かな自然環境に配慮した持続可能な漁業と認められました。このあさり漁業のMSC認証の取得は、中国と日本のサプライチェーン上の関係者が協働する漁業改善プロジェクトとして中国では初めての事例となりました。今後もニチレイフレッシュは持続可能な漁業認証であるMSC水産品の取り扱いを高めていきます。

※ MSC認証：MSC（Marine Stewardship Council：海洋管理協議会）による持続可能な天然水産物の認証

### 鴨緑江河口域沿岸湿地生態系の主要素



第4回ジャパン・サステナブルシーフード・アワード コラボレーション部門で「チャンピオン」受賞 

## ■ アマモ場再生に向けた取り組み

ニチレイフレッシュでは、2022年6月より株式会社福岡魚市場および天草漁業協同組合と協同し、熊本県天草市で漁獲される天然芝海老の販売収益の一部を資金とするアマモ場再生活動「生命の海プロジェクト」をスタートしました。アマモは魚介類の産卵・保育の場であり海の生態系に重要な役割を果たしています。しかし、アマモは年々減少しており、生物の生存環境が損なわれたり水質悪化の原因となっています。

ニチレイフレッシュはこれまで海外で培ったノウハウや経験を日本で活かしながら、魚介類生態系および海洋環境を保護し、持続可能な水産品調達に積極的に取り組んでいきます。



©2010 熊本県くまモン  
#K32003

## じゅんわけい

## ■ 「純和鶏」を通じた地域循環型農畜産サイクル

ニチレイフレッシュでは、2009年より13年間、岩手県のJA・軽米町や洋野町の農家の皆様と協働で、飼料米プロジェクトを立ち上げ、<sup>じゅんわけい</sup>「純和鶏」の生産を通じた地域循環型農畜産サイクルを実施しています。スタート時は約15ヘクタールだった飼料米水田も、2021年度では約249ヘクタールまでに広がり、約1,700トン収穫できました。

養鶏の排泄物（鶏糞）を農場内にある高速鶏糞処理プラントで有機質肥料化し、その肥料を鶏肉専用の元休耕田だった飼料用米水田に撒いて土壌の栄養分として活用。収穫された飼料米は「純和鶏」の配合飼料として給餌しています。また、高速鶏糞処理プラントでの廃熱エネルギーは、鶏舎を温める熱源として利活用しています。



高速鶏糞処理プラント



有機質肥料化された鶏糞



事業を通じた社会課題の解決 地域循環型農畜産プロジェクトによる持続可能な食の調達～純和鶏編～



ニチレイフレッシュ 純和鶏



エフェー  
 ■ 薬剤に頼らない養鶏技術：「FA (Free from Antibiotics) チキン」  
<https://www.nichireifresh.co.jp/product/livestock/detail/?id=376>

一般ブロイラー養鶏では、病気の治療のほか、密飼いによる病  
 気リスクの予防や、成長促進効果を期待して、抗生物質や合成  
 抗菌剤などの薬剤が使用されています。

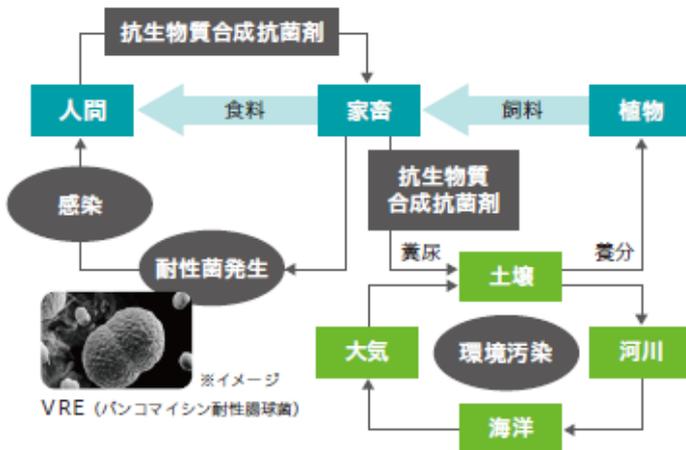
ニチレイフレッシュが2004年より17年間販売している「FAチ  
 キン」は、ワクチンは使用しますが、全育成期間を通じ、これ  
 らの薬剤を使用していません。鶏本来が持つ免疫力を最大限に  
 引き出せる養鶏方法により、抗生物質や合成抗菌剤など、耐性  
 菌※を生み出す恐れのある薬剤を使用しない養鶏を行っていま  
 す。



抗生物質や薬剤を使わないで飼育する養鶏技術では、飼育環境  
 への配慮はもちろん、鶏の健康維持や免疫力向上に役立つ乳酸菌などの生菌剤や植物性の生薬（漢方）などを用い、動物本来の免疫力  
 を高め病気への抵抗力をつけるニチレイフレッシュ独自のノウハウで養鶏しています。抗生物質が投与された鶏糞は土壌菌や地下水に  
 も影響を及ぼすと言われており、生態系サイクルの保全にもこのFAチキンの養鶏方法は寄与しています。

●生態系サイクルを脅かす耐性菌

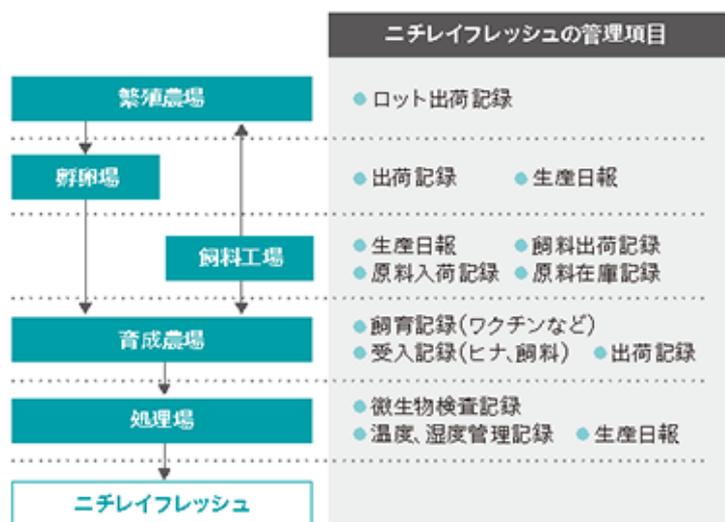
※ 薬剤耐性菌問題：抗菌薬（抗生物質）が効か  
 ない「薬剤耐性菌」への対策が、国際的な社会課  
 題となっています。耐性菌とは抗生物質が効か  
 ない細菌のことで、免疫力が低下した人間の体  
 内で活性化するとヒトへ抗生物質を使用したと  
 しても効かないという状況に陥ってしまいま  
 す。この耐性菌は、薬剤（抗生物質・合成抗菌  
 剤）を投与し続けた家畜の体内で出現すると言  
 われています。米国では消費の現場でも関心が  
 大きく、抗生物質を使用せずに生産された食肉  
 の販売が大きく伸長しています。ヒトの健康維  
 持をサポートし薬剤耐性菌問題に配慮した鶏肉  
 生産を今後も続けていきます。



## ■ 安心の管理体制：FA監査

ニチレイフレッシュでは、独自の「FA監査」を実施しています。「FA監査」は大きく分けて生産工程確認と製品検査を行います。担当者が定期的に産地に赴き、飼料工場から飼育農場・処理工場まで「FAチキン」の生産の各工程において独自に設定した基準に沿って管理が行われているかを確認しています。また、製品検査としては、(株)ニチレイ品質保証部食品安全センターで「FAチキン」の専用飼料や鶏肉製品の残留抗生物質検査も行っています。ニチレイフレッシュでは飼料から出荷までの全過程を監査して、品質管理に努めています。

### ● 「FAチキン」における品質管理システム



FAチキン (Free from Antibiotics)



## —— サプライヤーとの取り組み

### ■ 主要なサプライヤーへのアンケート調査と進捗

ニチレイグループは、持続可能なサプライチェーンの構築に取り組むため、基本方針に則って商品やサービスの調達を行うとともに、この方針の理解と実践をお取引先へ働きかけています。

|           | 2017年  | 2018年      | 2019年                | 2020年                                    | 2021年  |   |
|-----------|--|------------|----------------------|--|--|---|
| ニチレイフーズ   | 国内外の重要サプライヤーに「ニチレイグループ持続可能なサプライチェーン基本方針」を共有し、アンケート形式の調査を実施 | アンケートを全て回収 | アンケート内容の分析実施         | ・ Sedexへ加入<br><br>・ サプライヤーCSRガイドラインの作成開始 | 国内自営投資工場(2工場)でSMETA監査を実施<br><br>国内のサプライヤーへCSRガイドラインに基づいたアンケートを実施 | 国内自営投資工場(残り13工場)すべてでSMETA監査を実施<br><br>アンケートを回収継続中 |
| ニチレイフレッシュ |  |            | 一部のサプライヤーに訪問し意見交換を実施 | アンケート内容の分析・継続                            | 国内・海外のサプライヤーリストを新たに作成中<br><br>CSRアンケートを作成中                       |   |

2022年度からは、「ニチレイグループサプライヤー行動規範・ガイドライン」をニチレイグループ全体のサプライヤー様に適用していただくための取り組みを進めていきます。サプライチェーン状のリスク要因を把握し、リスクの特定、コミュニケーションを行いながら、事業への影響度に応じてサプライヤー様と協働で是正・改善に取り組んでいきます。

グループ内はもとより、サプライヤーの皆様との価値観の共有と密接な協力関係の構築を通じて、持続可能なサプライチェーンの実現を目指します。

### ■ Sedex加入とSMETA監査の実施

ニチレイフーズでは2019年7月に「Sedex<sup>※1</sup>」に加入しました。2020年10月に「ニチレイフーズサプライヤー CSRガイドライン」を策定し、5カ国語で開示しました。2020年度から監査準備を進め、2021年度は国内の自営投資工場13工場において「SMETA監査<sup>※2</sup>」の実施を完了しました。自営食品工場のほか、2つの主要OEM先についても各1回ずつ監査を実施しました。2022年度も全工場にて「SMETA監査」を実施しました。

※1 Sedex (Supplier Ethical Data Exchange) : 2004年に英国で設立された、サプライチェーンにおける責任あるビジネス慣行の実現を目指し、企業の倫理情報を管理・共有するためのプラットフォームを提供する非営利団体。

※2 SMETA (Sedex Members Ethical Trade Audit) 監査 : 企業、監査会社から構成されるSedexステークホルダーフォーラムが倫理的監査に関するベストプラクティスを集約して開発した監査手法。



### ■ サプライヤーとの協働

ニチレイブラジル農産有限会社では、契約農家に対してアセロラの苗と栽培技術を提供し、その成果物である果実は同社が全量買い取るというスキームで、農家の指導と地域の雇用、収入に貢献しています。

事業を通じた社会課題の解決> アセロラ事業編



ニチレイフーズ> アセロラ原料



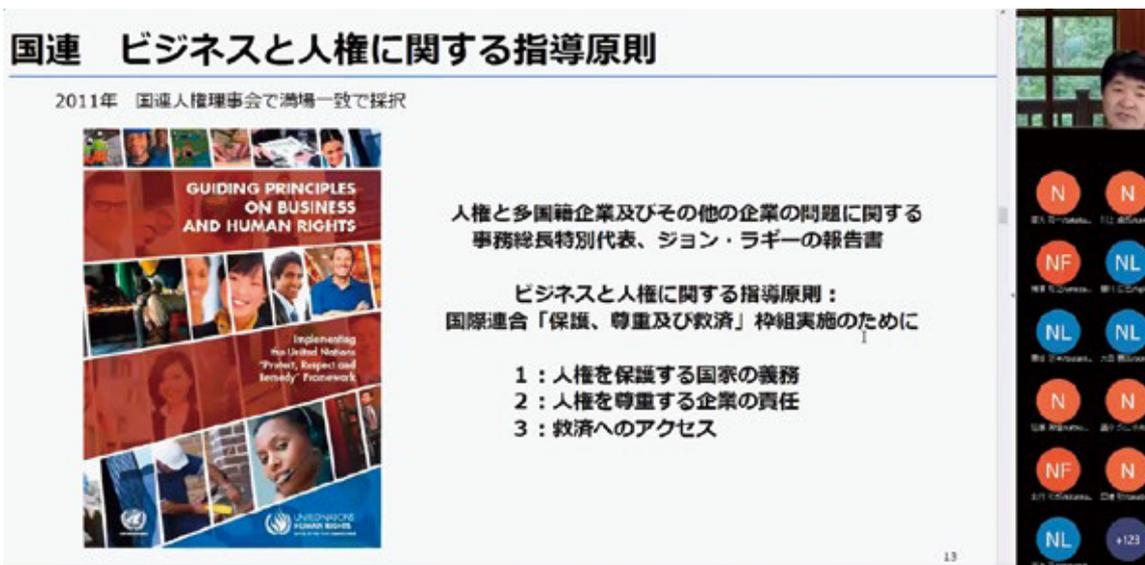
Nichirei do Brasil Agricola Ltda (ニアグロ) エコバディス社・サステナビリティ調査 (2022年) で上位5% 水準相当の「ゴールド」評価を2年連続で獲得



## —— 持続可能な調達に向けた教育 ——

### ■ 経営層向けのサステナビリティ勉強会

2022年度、有識者をお招きしてサステナビリティに関する経営層向けの勉強会を開催しています (計5回開催予定)。第3回として、LRQAサステナビリティ株式会社の富田秀実様より「持続可能な調達と人権課題」についてご講演いただきました。139名<sup>※</sup>が参加し、サプライチェーン上での人権課題などに対する意識を高めました。



※ 持株会社・事業会社役員85名、関係部門54名

|     | 開催日        | テーマ  | 講師                               | 参加者数<br>(うち、取締役<br>人数) | 取締役<br>出席<br>率 |
|-----|------------|--|----------------------------------|------------------------|----------------|
| 第1回 | 2022年4月26日 | 企業が直面するサステナビリティ課題                          | (株)ニューラル代表取締役CEO 夫馬賢治様           | 124名 (10名)             | 100%           |
| 第2回 | 2022年5月24日 | 食料と輸送の未来                                   | (株)ニューラル代表取締役CEO 夫馬賢治様           | 127名 (10名)             | 100%           |
| 第3回 | 2022年6月28日 | 持続可能な調達と人権課題                               | LRQAサステナビリティ(株) 代表取締役 富田秀実様      | 139名 (10名)             | 100%           |
| 第4回 | 2022年8月23日 | SDGsの重要性と企業が取り組む意義                         | SDGパートナーズ(有) 代表取締役 CEO 田瀬和夫様     | 131名 (10名)             | 100%           |
| 第5回 | 2022年9月27日 | サーキュラーエコノミーへのビジネス変革                        | アマタ(株) 田部井進一様                    | 140名 (10名)             | 100%           |
| 第6回 | 2023年1月24日 | サプライチェーンで取り組む『人権』～今、企業に期待される人権デューデリジェンスとは～ | NPO法人経済人コー円卓会議日本委員会<br>事務局長 石田寛様 | 157名 (10名)             | 100%           |

※ なお、社外取締役も含む取締役会メンバー全員が全開催回に参加しました。

■ 従業員向けe-ラーニングの実施

■ 2022年度

|   | 開催期間               | テーマ         | 受講率   |
|---|--------------------|-------------|-------|
| 1 | 2022年5月9日～5月27日    | サーキュラーエコノミー | 97.1% |
| 2 | 2022年11月14日～12月12日 | SDGs全般      | 93.8% |
| 3 | 2022年12月1日～12月28日  | ビジネスと人権     | 93.9% |

# 人権

## 方針・基本的な考え方

### 基本的な考え方

ニチレイグループは「地球の恵みを活かしたものづくりと、卓越した物流サービスを通じて、豊かな食生活と健康を支えつづけます」というビジョンのもと、新たな顧客価値を創造し、社会課題の解決に貢献することで、社会から必要とされる存在であることを目指しています。

ニチレイグループは、事業を行う過程で直接または間接的に人権に影響を及ぼす可能性があることを認識し、私たちのビジネスに関わる全ての人々の人権を尊重する責任を果たすために、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づく「ニチレイグループ人権方針」を制定し、これを指針として人権尊重に取り組んでまいります。

### ニチレイグループ人権方針

|  |
|--|
| 人権の尊重  |
| 人権デューデリジェンスの実施   |
| 事業活動に関わる人権課題<br>差別、ハラスメント、強制労働と児童労働、結社の自由と団体交渉権、労働安全衛生、労働時間と賃金、サプライチェーンにおける影響、地域社会への影響 |
| 苦情処理メカニズム  |
| 教育と研修  |
| モニタリングと報告  |

ニチレイグループ人権方針



## マネジメント体制

### マネジメント体制

事業活動における人権の配慮に取り組むにあたり、当社グループでは、国内外での事業活動を通じて、サプライチェーンも含めて社会と環境にさまざまな影響を与える可能性があることを認識し、社会・環境の面からも、ステークホルダーとの適切な関係を築いていきたいと考えています。2019年4月に人権方針を制定し、2022年4月にはニチレイグループ サステナビリティ基本方針「ニチレイの約束」の制定に基づき、人権方針を改定しました。人権に対する課題については、グループサステナビリティ委員会で議論しています。

サステナビリティ推進体制



## 取組みの状況

### 社外とのコミュニケーション

#### ■ ステークホルダーエンゲージメント・プログラムへの参加

2019年～2022年に開催されたコー円卓会議のステークホルダー・エンゲージメント・プログラムに参加し、NGO等からの問題提議、および企業間の意見交換を実施し、食品産業や物流事業に固有の人権問題の特定に取り組むとともに、人権課題への対処について掘り下げた議論も行いました。

その結果は当社の人権の取組みに活かすと共に、引き続き業界固有の人権課題を特定するため、ステークホルダーエンゲージメントを行っていきます。

#### ■ 参加実績

| 年度   | 参加人数 | 参加者所属                                   |
|------|------|---|
| 2019 | 2名   | ニチレイ グループコミュニケーション部                     |
| 2020 | 2名   | ニチレイ グループコミュニケーション部                     |
| 2021 | 4名   | ニチレイ グループコミュニケーション部、ニチレイフーズ サステナビリティ推進部 |
| 2022 | 5名   | ニチレイ サステナビリティ推進部、ニチレイフーズ サステナビリティ推進部    |

ステークホルダー・エンゲージメント・プログラムの報告書はCRT日本委員会のWebサイトからダウンロードできます。

2020年度ステークホルダーエンゲージメントプログラム



2021年度ステークホルダーエンゲージメントプログラム



2022年度ステークホルダーエンゲージメントプログラム



また、国内外のNPO/NGOや人権の専門家が参加する「ビジネスと人権に関する国際会議」（CRT日本委員会主催）にも、2019年から2022年まで毎年参加しています。

ビジネスと人権に関する国際会議



経済人コー円卓会議日本委員会



## 従業員の人権への取り組み

ニチレイグループでは、グローバルな事業を行う上で、従業員はもちろんのこと、グループの事業に関わるステークホルダーの人権を尊重することが不可欠であり、また、この考え方はあらゆる人や企業に対して適用されるべきものであると認識しています。

以上の認識に立ち、当社グループは、「労働における基本的原則および権利に関するILO宣言」※1および「国連ビジネスと人権に関する指導原則」※2を含めた国際的な人権基準を参考とし、グループの「行動規範」にて、以下の考え方を明示しています。「ニチレイグループは、人権を尊重し、人種、肌の色、性別、宗教、政治的見解、国籍、社会的地位、出身などにもとづく一切の差別を行いません。ニチレイグループは、あらゆる形態の強制労働、児童労働を排除します。また、職場においては、差別的な言動、暴力行為、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどを禁止し、賃金（法定の手当てを含みます）および労働時間につき、法定の基準を遵守します。」

※1 すべての加盟国に対し、雇用および職業における差別の排除、児童労働の実効的な廃止、強制労働の禁止、結社の自由と団体交渉権の実効的な承認について、尊重、促進および実現の義務を負うことを宣言

※2 国連事務総長特別代表のジョン・ラギー氏が策定し、その目的は、多国籍企業のビジネスと人権に関する基準と慣行を強化するために策定した「保護、尊重及び救済の枠組（ラギーフレームワーク）」の実行

従業員への人権に関する周知については、社内イントラネットでは人権にかかわる情報の周知に取り組んでいます。



サステナビリティ推進ポータルサイト

従業員の人権に関する教育については、年1回、世界人権デーに合わせて「ビジネスと人権」に関するeラーニングを全従業員に対して実施しています。

eラーニング



### ■ 労使関係

ニチレイ労働組合は、活動理念「労使対等を堅持し、相互に意欲をもって活動できる環境を作る」のもと、当社グループが健全な発展をするために、組合員個々を尊重する活動を目指しています。「労使協議制」「第一線現場の組合員の要望集約と改善」「健康経営確立」などに重点を置いて活動しています。

労働組合の活動と労使連携

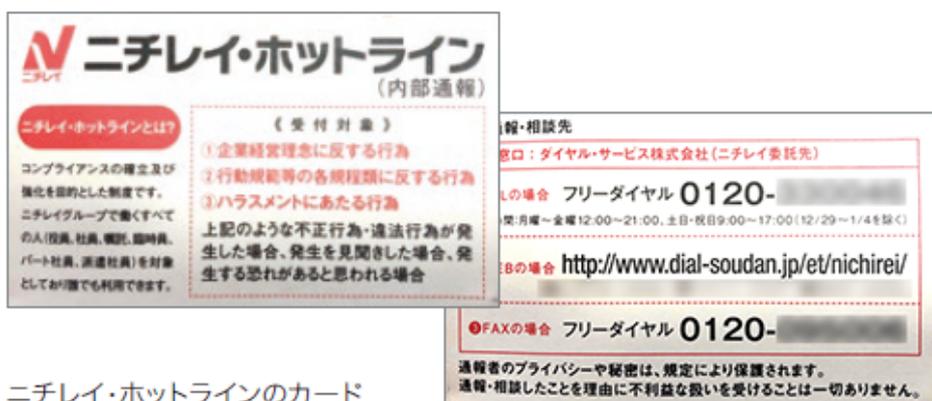


## ■ 内部通報制度（ニチレイ・ホットライン）

法令や定款・社内規程に違反する行為、社会規範上問題のある行為などに関して、従業員からの通報・相談に応じるため、2003年10月に内部通報・相談制度（ニチレイ・ホットライン）を導入しました。2015年度には、コーポレートガバナンス・コードが求める「経営陣から独立した内部通報窓口」に対応した制度改正を行い、監査役や社外役員によるモニタリングおよびチェック機能を導入いたしました。2022年には、同年6月の改正公益通報者保護法の施行に伴い、改正法の趣旨に沿い、政府の指針に準拠してあらためて制度設計を見直しました。通報者保護や守秘義務の強化、通報者の範囲拡大など、対応体制の再整備を行っています。

役員・従業員への制度周知のため、全国の各事業場には周知ポスターを掲出し、「ニチレイ・ホットライン」携帯カードを全役員・従業員に配布しています。ニチレイ・ホットラインで受けつけたすべての通報・相談は、グループ内部通報規程の定めに従い、事務局が事実確認のための調査を行い、必要な場合は是正処置を施しています。通報者は匿名性が確保され、会社や通報の対象となった者などからの報復行為を含む不利益な取り扱いは一切禁止されています。また、通報者が求める場合には事務局からフィードバックを受けることができます。

内部通報・相談の対応状況については、定期的に取り締役に報告され、適切に運用されているかモニタリングしています。



ニチレイ・ホットラインのカード

## ■ 人権問題に関する内部通報・相談件数

内部通報件数



コンプライアンス



## ■ 経営層向けのサステナビリティ勉強会を開催

2022年度、有識者をお招きしてサステナビリティに関する経営層向けの勉強会を開催しています（計5回開催予定）。第3回として、LRQAサステナビリティ株式会社の富田秀実様より「持続可能な調達と人権課題」についてご講演いただきました。139名<sup>※</sup>が参加し、サプライチェーン上での人権課題などに対する意識を高めました。

### ● 勉強会の実施風景（オンライン開催）



※ 持株会社・事業会社役員85名、関係部門54名

# 安全な商品とサービスの提供

## 方針・基本的な考え方

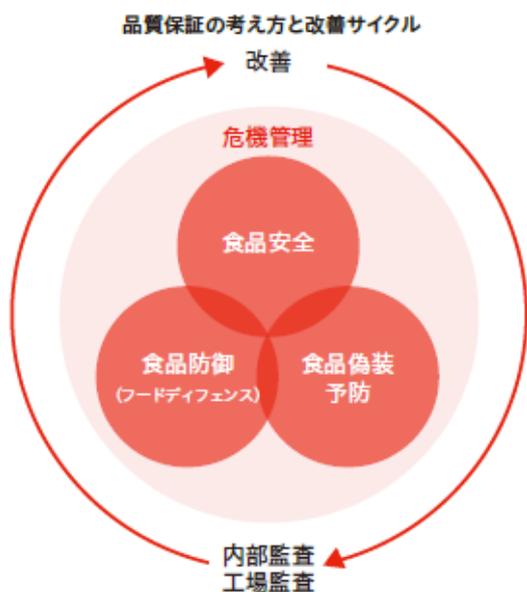
### 基本的な考え方

ニチレイグループが提供する食品に関する商品・サービスの品質および安全性を確保することで、生活者の健康被害を防止し、ニチレイグループ全体の品質管理・品質保証水準および顧客満足維持・向上を図ることを目的として、品質保証に関する基本方針を定めています。

QMS※1やFSMS※2の内部監査や品質工場監査を活用し、不備があれば改善を促す流れでPDCAサイクルを回転させ、さらなるレベルアップを目指して取り組んでいます。

※1 QMS:品質マネジメントシステム

※2 FSMS:食品安全マネジメントシステム



品質保証に関する基本方針



## マネジメント体制

### マネジメント体制

#### ■ ニチレイグループの品質保証体制について

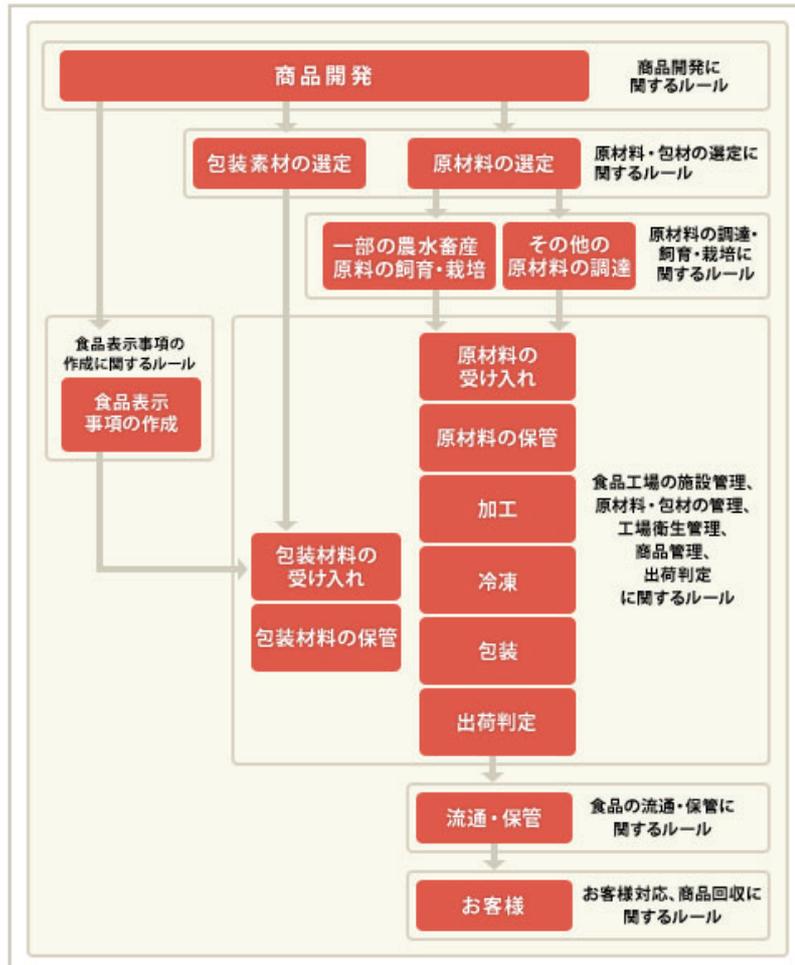
(株)ニチレイの品質保証部は、品質管理・品質保証に関する規程や基準を制定し、品質マネジメント基準に基づく内部監査とモニタリング検査を行い、グループの品質マネジメントの仕組みが有効に機能しているかを確認しています。

各事業会社の品質保証部門は、自社の商品・サービスに対する品質監査を行い、取組み状況を「品質保証委員会」および「グループ品質保証委員会」で報告・共有し、品質保証体制のさらなる改善・強化を図っています。

● ニチレイグループの品質保証体制図



● 商品に関する品質保証



当社グループではさまざまな特性を持った商品・サービスを扱っています。各事業会社にて、取り扱っている商品・サービスの特性に応じた基準やルールを制定しています。

基準やルールの制定に当たっては、食品衛生上の危害要因と言われている生物学的危害、化学的危険、物理的危険の予防活動に重点を置いたHACCPシステムの考え方とマネジメントシステムを融合させることを基本としています。これが当社グループの考える食品安全の取組みです。この考え方は基本的にはすべての食品に適用され、ルールに則って取組みが進められています。

食品安全の取組みで予防することのできない『人間による意図的な異物混入』から食品を守ることを目的とした食品防御の取組みと、健康被害をもたらす事件・事故が発生した際に迅速に的確な情報を発信するための危機管理の取組みを付加することで、食品の安全性確保の精度を向上させ、リスクコミュニケーションの充実を図っています。

## 取組みの状況

### ■ 定期監査の実施(2018～2021年度)

定期監査は、各事業会社が年間計画を作成し、実施しています。計画は、リスクマネジメントや、国際規格の認証取得の有無、年間取り扱い予定数量や製品の特性などをもとに、リスクの大小を合理的・客観的に評価して決めています。監査結果は、翌年の監査計画策定時に、監査の方針や実施事業所の決定という形でも反映され、定期監査の中でもPDCAを回転させています。

※ 2020年度以降は新型コロナウイルス感染症の世界的流行による行動制限のため、定期監査の実施件数は計画を下回る結果となっていますが、リモート監査の拡充・見直しを行うことにより要求事項の確認、安全確保に努めています。

### ■ 定期監査（2018～2021年度）

| 品質保証監査            | 2018年度 |      | 2019年度 |     | 2020年度 |     | 2021年度 |     |
|-------------------|--------|------|--------|-----|--------|-----|--------|-----|
|                   | 国内     | 海外   | 国内     | 海外  | 国内     | 海外  | 国内     | 海外  |
| グループ年間監査件数（国内／海外） | 66     | 38   | 52     | 20  | 40     | 10  | 46     | 16  |
| グループ年間実施率（対計画）    | 96%    | 100% | 87%    | 80% | 58%    | 28% | 66%    | 48% |

### ■ 国際規格の積極的導入による品質管理体制の構築

ニチレイグループでは、さまざまな特性を持った商品・サービスを取り扱っています。その特性に合った社内ルールの運営とともに国際規格の認証取得を積極的に進め、品質保証体制の強化を図るとともに、安全な商品とサービスの提供に取り組んでいます。

## ■ 認証取得状況（2018～2021年度）

| 認証規格   | 事業会社         | 認証取得率※4 |        |        |        |
|--|--------------|---------|--------|--------|--------|
|  |              | 2018年度  | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
| ISO9001（品質マネジメントシステム）                        | ニチレイフーズ      | 3/15    | 3/15※5 | 3/15※5 | 3/15   |
|  | ニチレイフレッシュ    | 8/9     | 8/9    | 5/8    | 5/8    |
|  | ニチレイロジグループ   | 104/115 | 81/115 | 83/117 | 86/117 |
| FSSC22000※1、ISO22000※2、SQF※3（食品安全マネジメントシステム） | ニチレイフーズ      | 14/15   | 14/15  | 14/15  | 15/15  |
|  | ニチレイフレッシュ    | 6/8     | 7/7    | 7/7    | 7/7    |
|  | ニチレイロジグループ   | 2/115   | 2/115  | 2/117  | 2/117  |
| ISO14001（環境マネジメントシステム）                       | ニチレイフーズ      | 11/15   | 11/15  | 11/15  | 10/15  |
| ISO13485（医療機器・体外診断用医薬品）                      | ニチレイバイオサイエンス | 2/2     | 2/2    | 2/2    | 2/2    |

※1 FSSC22000:ISO22000を基盤とする食品安全に関する国際的なマネジメントシステム

※2 ISO22000:HACCPの食品衛生管理手法をもとに食品安全のリスクを低減する食品安全マネジメントシステムに関する国際規格

※3 SQF（Safe Quality Food）認証:購入する製品が、HACCPなどの食品安全と品質における厳格な国際基準に合格していることを保証するもの。ヨーロッパ以外の国で、世界食品安全イニシアチブ（GFSI）によって認められているプログラム

※4 認証取得率：取得事業所数/国内の連結対象子会社の事業所数（食品工場、物流センターなど）

※5 FSSC22000へ移行

## ■ フードディフェンスの取り組み

ニチレイグループでは、食品への「意図的混入」などを防止するためには、事業所と従業員の信頼関係を高め、事故が起これにくい職場をつくるのが最も重要だと考えています。またソフト面およびハード面での防御策や、事故が発生した際の検証手段を備えるなど、商品形態などに応じた食品防御（フードディフェンス）の仕組みを構築しています。訪問者用・作業委託者対応用・セルフチェック用などについての社内運用ルールを設け、定期的に工場監査を実施して安全を確認するとともに、従業員満足度調査や面談に基づいた職場環境改善にも取り組んでいます。さらに、自社食品工場内においては、国内海外とも、全工場へカメラや顔認証システムを導入、商品特性に応じて食品を守る仕組みを講じ、問題が発生した際に追跡調査を実施できる体制を構築しています。問題が発生した時には、食品危機管理の仕組みと連動し、迅速に適正な情報を発信し対応していきます。

食品防御(フードディフェンス)



## ■ サービスに関する品質保証

ニチレイロジグループの新設の物流センターでは、高度なセキュリティ機能と免震構造など、最新鋭の設備を備えています。また、品質面においてはグループのノウハウ・技術を集結した温度管理に加え、トレーサビリティ機能、在庫管理機能など高度な物流品質を実現しています。低温物流網においては、自社保有を含め、毎日約4,000台のトラックによる輸配送が全国への物流網を支えており、運送会社との連携が欠かせません。そのため、運送会社とは協力会組織を設け、ドライバーコンテストや研修・表彰制度など安全・品質向上に向けた取り組みを行うことで密接な協力関係を築いています。



ロジネット協力会ドライバーコンテスト全国大会（年1回：7年目）



全国フォークリフト運転競技大会（年1回：3年目）



点検技能審査

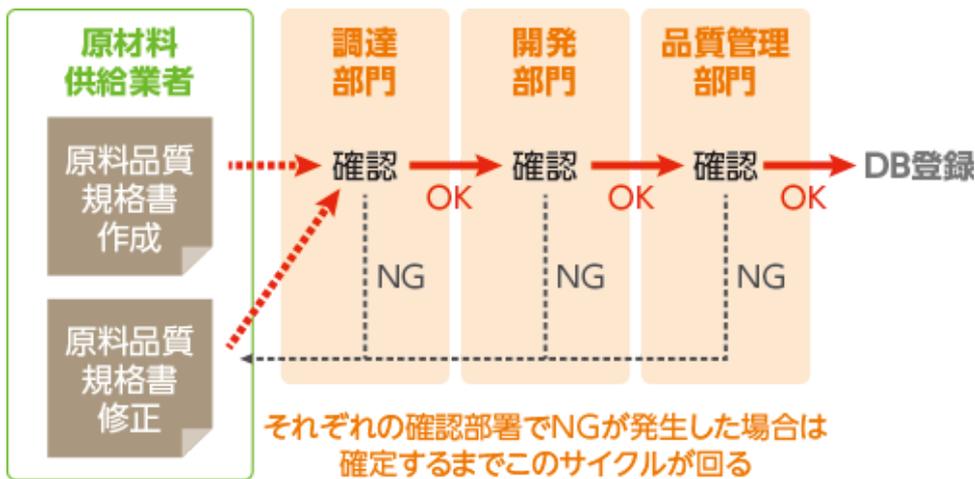


競技の様子

## ■ 原材料の管理

ニチレイフーズは原材料のもとになる素材を3段階まで遡って調査し、配合割合、品質・微生物規格、製造工程、含有アレルギーなどを管理しています。原材料供給業者には、それらの内容を一覧化した「原料品質規格書」を原材料ごとに提出してもらいます。「原料品質規格書」に記載されている内容はデータベースに保管し、食品表示の作成やお客様からの問い合わせ対応に活用しています。新規の原材料を使用する際には、事前に行う生産工場の工場診断や工場指導、「原料品質規格書」の内容確認、事前サンプルチェックなどを総合判断して取り引きの可否を決めています。取り引き開始後も工場診断や工場監査を行い、工場改善を継続的に実施させることで原材料の品質をさらに向上させるようにしています。また原材料受入時に品質をチェックすることにより、工場診断・工場監査の効果検証を実施しています。

「原料品質規格書」の精査フロー

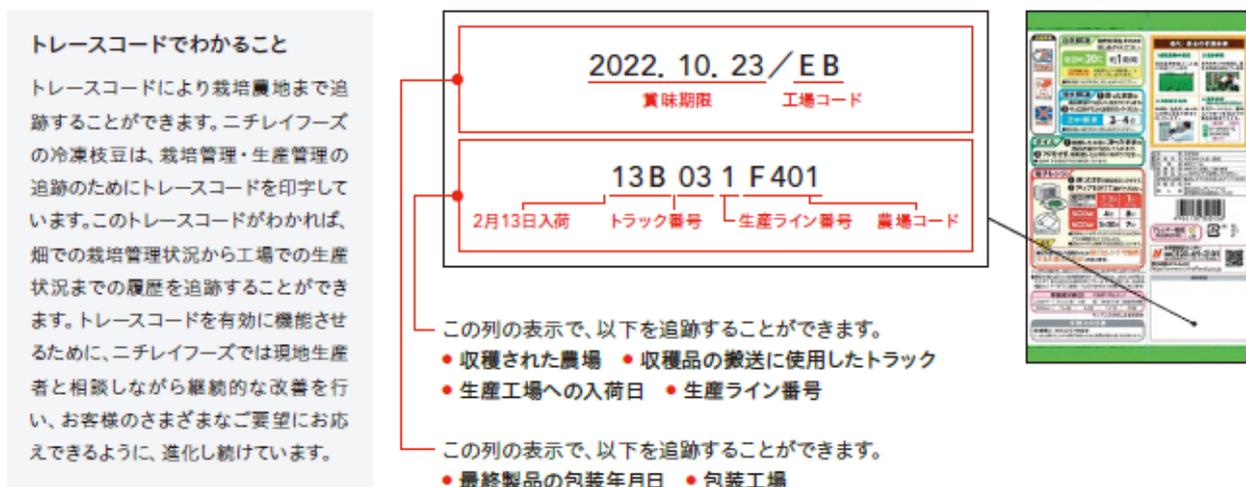


## ■ トレーサビリティの構築

ニチレイグループでは、常に安全・安心で高品質な食品を提供するため、原材料から製品まで徹底した品質管理と検査を実施するとともに、それぞれの商品特性に合ったトレーサビリティシステムを構築しています。トレーサビリティの充実により、万が一の事故の時には被害の拡大を防ぎ、迅速に原因究明することが可能です。また、生活者の不安を払拭するための正確かつ迅速な情報提供も行っています。

トレーサビリティの構築にはサプライチェーンにおいて原材料供給側・製造メーカー側・流通側までの連携・協働が必要です。ニチレイグループでは、品質情報について共通認識を深めるため、定期的に勉強会を開いています。また、情報をデジタル化してつなげるために、一元管理できる自社独自のシステム活用を進めています。

### ● 冷凍枝豆の場合のトレーサビリティ（イメージ図）



### 【栽培管理】

ニチレイフーズが中国やタイなどで生産する冷凍野菜は、畑の環境（土壌、水質など）、農薬の管理状況などのニチレイフーズ基準をクリアした農場を選定しており、これらの農場には定期的に冷凍野菜生産工場の農場指導員が巡回して栽培状況を調査し、適正に管理されていることを確認しています。ニチレイフーズはこの仕組みが確実に実行されていることを現地におもむいて確認しています。

冷凍野菜の品質管理について



### 【生産管理】

ニチレイフーズが冷凍野菜の生産を委託している契約工場には品質管理のノウハウを指導しており、適正に栽培管理された野菜を入荷・選別・洗浄・加工・凍結・包装・検品・出荷と徹底した品質管理のもと製品化し、生産記録を残しています。残留農薬については、下処理時に現地の検査機関で問題がないことを確認し、出荷時にもニチレイが技術指導を実施している生産工場検査部門で問題がないことを検証しています。さらに、日本国内においてもニチレイ食品安全センターで残留農薬、衛生状態などを計画的に検査し、安全性を検証すると共に、現地での仕組みが適正に機能しているかを確認しています。

調理冷凍食品の品質管理について



## ■ お客様とのコミュニケーションにおける取り組み

お客様に確かな品質の商品をお届けすることはもちろん、お客様に適切な情報を提供することが第一の努めです。ニチレイフーズでは、パッケージにおける過剰なアピールを廃し、適切な情報提供を行っています。

また、お客様相談センターの活動を通じて、お客様の声を品質向上のため現場にフィードバックしています。

### Nマークを付与するパッケージ表示

パッケージ表示には、多くの情報を集約して記載しています。一括表示と言われる裏面や側面に枠で囲って記載している情報は各種法令で定められている事項であり、ミスがあってははいけません。ミスを防ぐために一括表示はダブルチェック体制で確認しています。配合レシピにもとづいて、使用しているすべての原材料に関する規格書を原材料供給業者から提出してもらい、内容を精査し、原材料名・原料原産地を表示しています。さらに賞味期限とロット番号を表示することで、その商品がいつ、どんな原材料を使って生産したものなのかを調べることができるようにしています。ニチレイフーズでは、お客様とのコミュニケーションが大切だと考えており、お問い合わせ用フリーダイヤル番号を見やすい場所に表示するように工夫しています。

文字はどなたにも見やすい書体(ユニバーサルフォント)を採用。  
 配色や表現はカラーユニバーサルデザイン(CUD)対応。  
 アイコンやイラストにより、分かりやすい表示を心がけています。

うら

アイコン

イラストで直観的に理解できるように記載

一般社団法人  
 日本冷凍食品協会認定マーク

調理方法

栄養成分表示

容器の包装材質および識別表示

**保存上の注意**  
 いったん解けたものを再度凍らせると品質が変わることがありますのでご注意ください。  
 -18℃以下で保存してください

**栄養成分表示** 1個当たり(22g)  
 エネルギー 42kcal | たんぱく質 2.6g | 脂質 2.4g | 炭水化物 2.5g | ナトリウム 118mg  
(食塩相当量 0.3g)

**調理方法**  
 ①凍ったままトレイを切りはなします。  
 ②ラップをかけず温めてください。  
 調理時間  

| 種類により<br>多少異なります | 1個  | 2個  | 4個    |
|------------------|-----|-----|-------|
| 500w             | 40秒 | 1分  | 1分30秒 |
| 600w             | 40秒 | 50秒 | 1分20秒 |

 ●加熱ムラを防ぐため500Wまたは600Wでの調理をおすすめします。  
 ●冷たい場合は10秒間ずつ追加加熱してください。  
 ●遅めすぎは調理不良の原因になります。

**フライパン**  
 ①温めたフライパンに油をひき、凍ったままの商品を入れます。  
 ②ふたをして弱火で焼いてください。  
 表と裏 約3分ずつ (調理時間は目安です)  
 ●加熱しすぎは調理不良の原因になります。

**アレルギー物質 (27品目中)**  
 小麦 卵 乳成分 牛肉 大豆 豚肉

**アレルギー表示はイラストで直観的に理解できるように記載**

**一括表示とは**  
 商品選択に必要な情報(原材料・内容量など)をまとめて表示したものです。

**生産工場名**  
 (株)ニチレイフーズ 船橋第二工場 (千葉県船橋市) でつくっています。

**お問い合わせ用フリーダイヤル**  
 お客様相談センター  
 ☎0120-69-2101  
 受付時間 9:00~17:00(土・日・祝日を除く)  
 原料原産地情報や商品情報はこちらから  
<http://www.nichireifoods.co.jp>

**「お弁当にGood!」の売り上げの一部で森の保全活動を支援しています。**

安全情報や商品選択情報を漏れなく記載するために、表示の作成から商品が出荷されるまでに、さまざまなチェックを実施しています。遵法性はもちろんのこと、お客様に誤解を与える表現がないように細心の注意を払っています。ブランド審査の中でも、この2点を意識した表示チェックを実施しており、合格した商品だけが生産可能となります。

| 栄養成分表示 |      |      |      |       | 1個当たり(22g) |
|--------|------|------|------|-------|------------|
| エネルギー  | たん白質 | 脂 質  | 炭水化物 | ナトリウム |            |
| 42kcal | 2.6g | 2.4g | 2.5g | 118mg |            |

(食塩相当量 0.3g)

## 作成

- ・まず、取得した原材料に関する規格書とレシピにもとづいて配合明細表、配合割合表を作成します。
- ・次に、配合明細表、配合割合表を元に、チェックリストに沿ってパッケージに記載する内容を作成していきます。
- ・このチェックリストの中には、法律や食品業界のガイドラインで定められている内容はもちろんのこと、自主的に定めている内容（商品特性・調理方法）も含まれています。
- ・また、栄養成分を表示する場合（家庭用商品）には、実際に分析した値を記載しています。



| アレルギー物質<br>(27品目中)   |   |   |  |  |  |
|--|---|---|--|--|--|
| <br>小麦 | <br>卵 | <br>乳成分 | <br>牛肉 | <br>大豆 | <br>豚肉 |

## 確認

- ・配合割合表をもとに、表示内容が正確に記載されているかどうかを細かく確認しています。
- ・また、記載された表示内容が、法律や条例、社内基準に合致しているか、徹底した確認を実施しています。
- ・特に健康危害に直結するアレルギーの表示については、抜け漏れや誤記入のないように十分な注意を払っています。
- ・家庭用商品については、日頃からお客様の要望を受けているお客様相談センターでもパッケージを確認し、表示内容の改善に役立てています。





表示確認

## 審査

- ・Nマークを付した商品パッケージについては、表示内容のチェックを実施しています。アレルギー表示など健康危害に直結する内容を含め、法律に規定されている表示を重点的にチェックしています。
- ・また、お客様視点で表示内容を全体的に確認し、誤解を生むような表現や分かりづらい部分がないか確認しています。特にセールストークなど商品購買に影響する重要な表示については、誇大表示や虚偽表示にならないか、十分注意するようにしています。



食品工場で、パッケージに商品が充填された後、出荷前の確認



印字チェック

## 工場

- ・まず、工場に納入されたパッケージフィルムや段ボールが、事前に確認した表示内容と一致しているかどうかを確認します。
- ・次に、工場印字した賞味期限やロット番号、トレースバックコードについて、正確な内容となっているか、かすれや滲みなどの印字不良がないかなどをチェックしています。
- ・出荷前の最終チェックとなりますので、工場内でも2重3重のチェックを実施しています。

## —— 食物アレルギー ——

現在日本では、食物アレルギーを引き起こす食品は28種類設定されており、その内の7種類（えび、かに、小麦、そば、卵、乳、落花生）は発症事例数の多さや発症時の重篤度から食品表示法により表示するように義務化がなされています。

ニチレイグループでは、使用する原材料を調査し、製造工程中での意図しない混入の可能性も調査したうえで、食品表示法にしたがい食物アレルギー物質の表示をしています。特にニチレイフーズが扱っている家庭用調理冷凍食品では含有する食物アレルギー物質を一覧で確認できるような工夫をしています。

### 正確な商品情報を伝えるために

商品情報を正確に伝えるためには原材料に関する情報が正確でなければなりません。当社グループでは原材料情報を得るために原材料に関する規格書を原材料供給業者に提出してもらっています。受け取った規格書は内容について、何度もやり取りを重ねて精査し、商品パッケージの作成材料として活用します。加工度の高い原材料では精査に数カ月要することもあります。お客様が求める情報を正確に得られるまでやり取りを重ねています。また、食品表示に関する法令変更には順次対応しています。

原料・原産地情報、アレルギー情報の検索



食品安全センターの取組み



お客様とのコミュニケーション



## —— 製品やサービスに関する報告 ——

2021年度、製品およびサービスに関する法規の違反はありませんでした。

## —— 健康・栄養への取り組み ——

食に関わる事業を行うニチレイグループは、よりよい栄養へのアクセスは人の健康において非常に重要であると考えています。ニチレイフーズでは健康をサポートするウェルネス製品の開発・販売を行っています。また、ニチレイバイオサイエンスでは、免疫染色に関連する学術・技術情報を一般に公開し、医療従事者向けの情報サイトを通じて提供することで、事業を通じた健康な社会づくりに貢献しています。

ニチレイフーズでの「ウェルネス食品」の開発・販売



医療従事者向けに情報サイトの提供（ニチレイバイオサイエンス）



## 業界団体等との協働

ニチレイグループは、業界団体での活動にも積極的に参加し、提言・提案・働きかけを通じて社会的問題の改善・解決に貢献しています。

ニチレイおよびニチレイフーズは一般社団法人日本冷凍食品協会の正会員であり、ニチレイロジグループ本社およびニチレイロジグループの主要子会社は一般社団法人日本冷蔵倉庫協会の会員、ニチレイが一般財団法人食品産業センターの会員になっています。

一般社団法人日本冷凍食品協会



一般社団法人日本冷蔵倉庫協会



一般社団法人食品産業センター



## ニチレイフーズ お客様相談センターの取組み

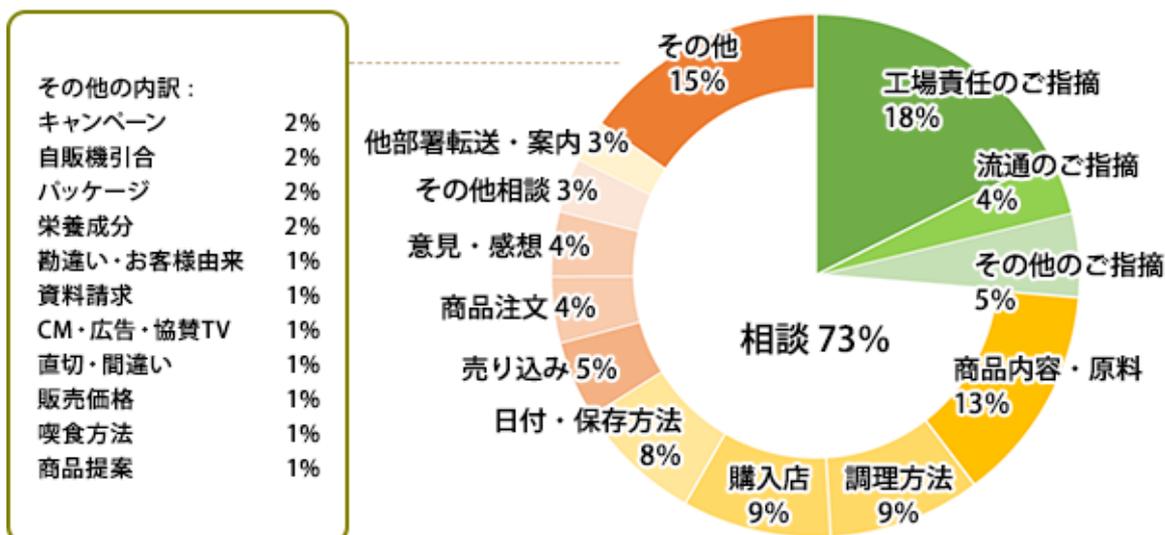
### 品質向上へ向けての取組み

ニチレイフーズお客様相談センターでは、お客様からいただくご意見やご指摘に迅速・適切に対応することで、お客様満足と企業価値の向上を目指しています。また、正確な商品情報の提供や安全で信頼感のあるブランド認知を目指しています。

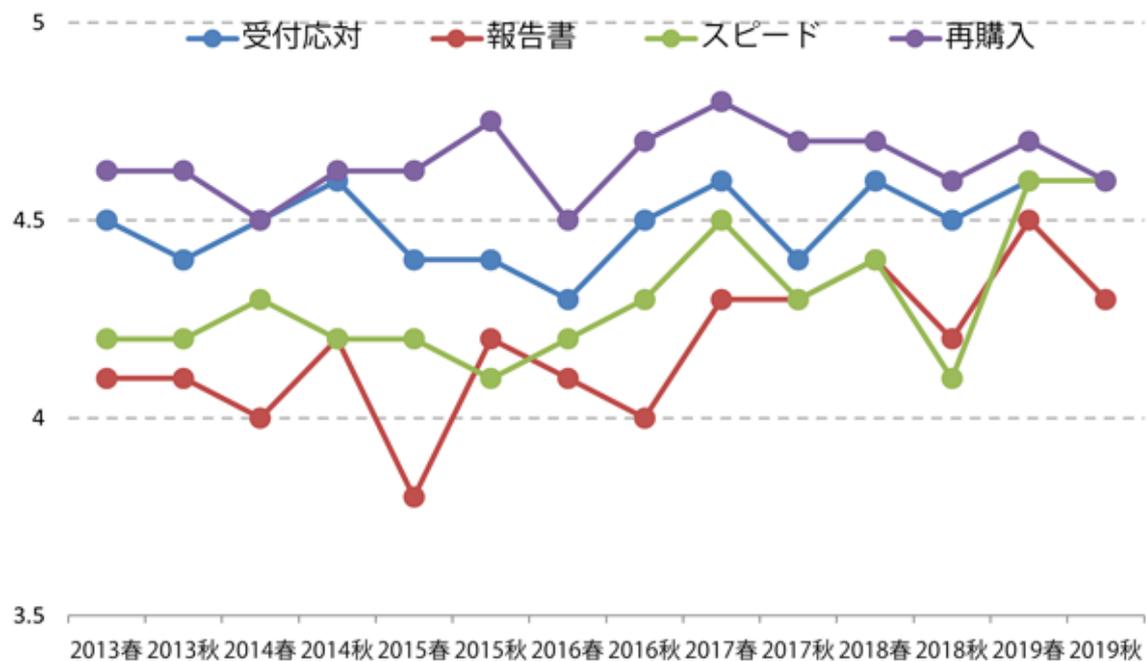
### CSアンケート調査

お客様相談センターでは、お客様対応の品質向上を目指し、お客様満足度（CS）アンケート調査を実施しています。商品についてご指摘をいただいたお客様へ、報告書とともにアンケート葉書を同封し、返信していただく形をとっています。アンケートには「電話応対時の印象（受付対応）」・「調査報告書の内容（報告書）」・「受付から報告までのスピード（対応速度）」・「今後のご購入意欲（再購入）」という4項目の5段階評価と、ご意見を自由に書き込めるフリーコメント欄を設けています。集計結果は応対品質の向上に活用しており、今後もCSアンケート調査を継続することで、お客様相談センターの業務改善を推進します。

### ● 2019年 お客様の声の内訳



● お客様満足度の評価



製品リコールの状況について

過去5年の製品リコールの状況です。

| 日付    | 対象        |
|-------|-----------|
| 2017年 | ありませんでした。 |
| 2018年 | ありませんでした。 |
| 2019年 | ありませんでした。 |
| 2020年 | ありませんでした。 |
| 2021年 | ありませんでした。 |

|           | 研修                     | 内容   | 2018年度 |         | 2019年度 |         | 2020年度 |         | 2021年度 |         |
|-----------|------------------------|--|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|
|           |                        |  | 人数     | 時間      | 人数     | 時間      | 人数     | 時間      | 人数     | 時間      |
| ニチレイフーズ   | 技能職1～3年次研修             | 円滑なコミュニケーション、問題解決手法、生産ラインの衛生状態の管理            | 78名    | 924時間   | 92名    | 1,008時間 | 97名    | 727時間   | 107名   | 1,058時間 |
|           | リーダー候補研修               | 若手の育成や業務遂行に関するマネジメントの実演                      | 41名    | 1,309時間 | 41名    | 1,320時間 | 45名    | 1,041時間 | 42名    | 1,029時間 |
|           | FSSC22000認証取得・維持に向けた研修 | FSSC22000の規格事項の解釈、内部監査員の養成、HACCP関連文書の作成方法    | 183名   | 72時間    | 264名   | 84時間    | 20名    | 140時間   | 91名    | 547時間   |
| ニチレイフレッシュ | 1～2年次研修                | 品質保証の基礎知識、工場チェック、表示、お申し出対応 他                 | 17名    | 42時間    | 18名    | 44時間    | 18名    | 44時間    | 19名    | 46時間    |
|           | 中堅社員研修                 | 工場監査・指導のポイント、こだわり素材、金検・X線の仕組み、洗浄殺菌の基礎、表示作成 等 | 3名     | 6時間     | 7名     | 26時間    | 2名     | 12時間    | 18名    | 48時間    |
|           | 工場品質管理者研修              | 改善活動、防虫防鼠、法令・規程、プレゼン                         | -      | -       | -      | -       | -      | -       | 30名    | 180時間   |
|           | 法令改正の説明会               | 食品表示基準、食品アレルギー追加等                            | 25名    | 25時間    | 30名    | 30時間    | 300名   | 300時間   | -      | -       |

# 労働安全衛生

## マネジメント体制

### マネジメント体制

ニチレイグループでは、労働安全衛生法に基づいて従業員が参画する安全衛生委員会を設置し、労働災害の防止や従業員の健康管理を目的とした安全衛生管理を推進しています。本社、各支社においては労働時間管理の取り組みとして、時間外労働時間、総実労働時間の削減促進、年次有給休暇の取得促進などを実施しています。

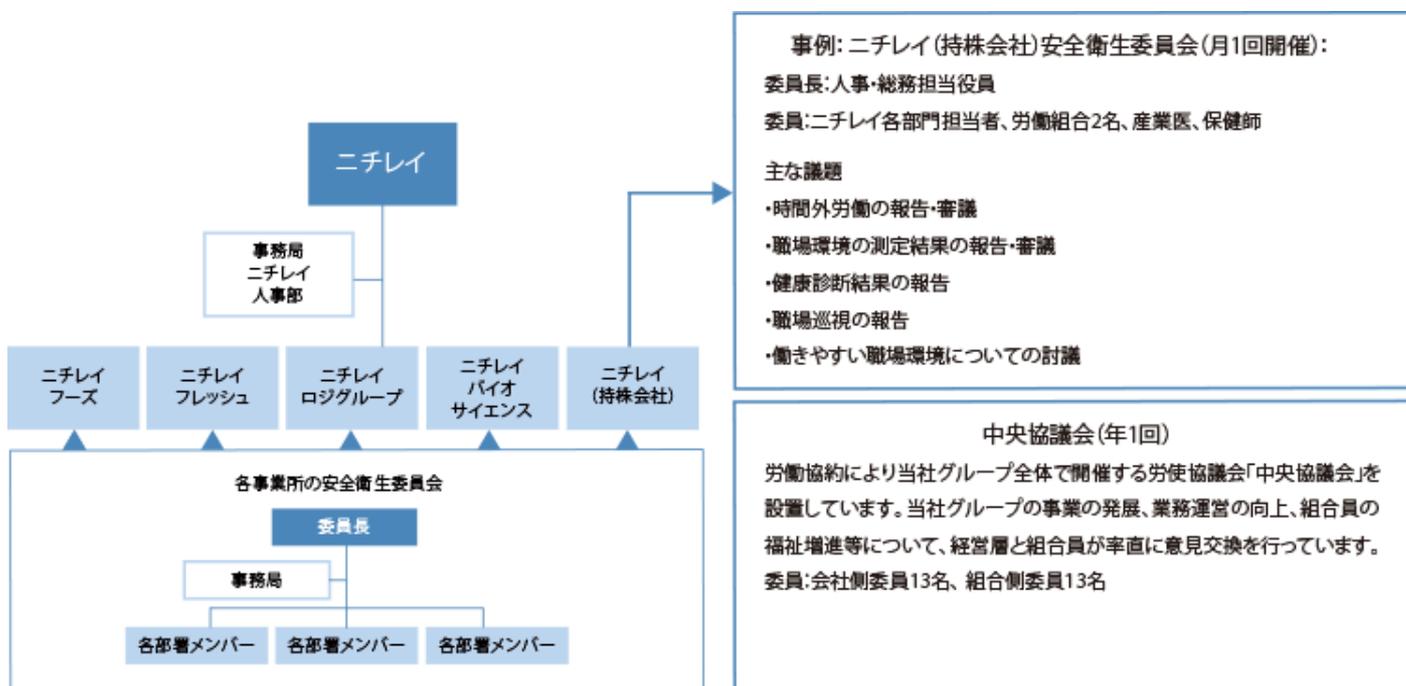
また、食品工場、冷蔵倉庫においては労災事故削減を、主な課題として、各職場の状況に応じて職場環境の改善などに取り組んでいます。

健康および安全衛生リスクに関しては、グループ健康推進連絡会にて議論し取り組みを進めており、その状況は、取締役会ならびにグループ人財委員会にて定期的に報告・モニタリングしています。

中央協議会(年1回開催)では、経営層と労働組合が働き方改革や組合員の働きがい、職場環境などについて協議を行っています。

さらに、当社では、労働安全衛生の取り組みとして、健康診断受診率100%の達成、診断結果についてのフォローなど事後措置実施を徹底しているほか、全従業員を対象とした体験型健康支援プログラム「健康塾」の実施、ニチレイ健康保険組合とのコラボヘルスによるウォーキングキャンペーンの実施、ストレスチェックを起点としたメンタルヘルス総合対策、安全衛生委員会で作案した安全衛生計画の実施、評価、改善等を関係部署と連携して行っています。これらの取り組みが認められ、株式会社ニチレイは厚生労働省より「安全衛生優良企業」の認定を受けました。

#### ● 安全衛生委員会体制図



## 取組みの状況

### ■ 労働安全衛生マネジメントシステム（OHSMS）の取得推進

当社グループでは、「働きがいの向上」と「従業員重視の職場づくり」を目指し、従業員の満足度の高い職場づくりに努めています。主な取組みは以下をご参照ください。

ニチレイフーズ白石工場は、2005年3月に当社グループとして初めて、また全国で49番目の事業所として「JISHA方式適格OSHMS（労働安全衛生マネジメントシステム）認定」を取得し、安全水準の向上を目指して労働安全衛生の取組みを進めています。

ニチレイフーズ白石工場「JISHA方式適格OSHMS（労働安全衛生マネジメントシステム）認定」



労働安全衛生に関する国際規格であるOHSAS18001<sup>※</sup>を海外1拠点で取得しています。  
2018年度取得拠点：タイGFPT Nichirei (Thailand) Co., Ltd.。認証事業所比率0.6%。

※ OHSAS18001 (Occupational Health and Safety Assessment Series)

### ■ VRを活用した安全品質研修センターリニューアル

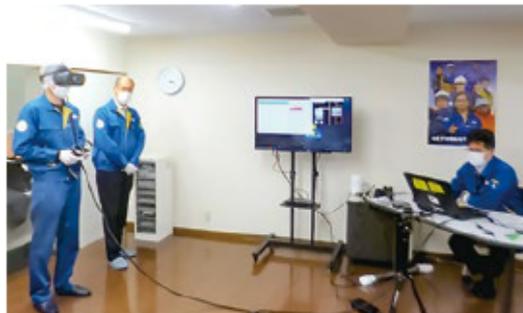
ニチレイロジグループでは、現場でのオペレーションにおける安全と品質のさらなる向上を目的とし、2021年9月の東京研修センターに続き、2022年6月、名古屋研修センターのリニューアルを実施しました。

「名古屋ニチレイサービスで働くすべての人が事故ゼロを実現することで、安全で安心な職場環境を構築する」というコンセプトのもと、受講者が主体的に参加できる対話型の安全教育を通じて、現場における安全行動の体現を目指します。今回のリニューアルでは、開放的なデザインの教室を設けることで、リラックスして座学研修を受講できる環境を整えました。

また、実技研修については、講師が各事業所の月2回の安全巡回に同行し、現地の業務特性に合った形式で行うようにしたほか、VR（仮想現実）などのデジタル技術を活用した研修メニューも導入しています。



名古屋ニチレイサービス制作の研修テキスト



VR講習風景

## ■ 低温物流事業の安全衛生教育

### 物流センターの安全品質研修

ニチレイロジグループでは品質・環境・安全を最優先の課題とし、全国に「安全品質研修センター」を開設しています。物流センターの現場スタッフが安全と品質に関する知識や技能、マインドを習得するための施設です。研修内容は「座学による基礎知識の再確認」「危険体感」「フォークリフト基本操作の再確認」を主な構成とし、受講者が直感的に理解しやすいよう映像やイラストを多用しています。研修プログラムや教材はすべてオリジナルで、講師には豊富な知識と経験を持つベテラン社員が体系的なカリキュラムに実体験を交えながら講義を行っています。物流センターではフォークリフトで重い荷物を運搬したり、高所での荷捌き等の作業もあるため、「墜落制止用器具」の有用性の確認実習をカリキュラムに組入れるなど、労働安全と品質の向上に努めています。

またニチレイロジグループでは、新入社員研修で安全体感研修を実施し2022年度は67名が参加しています。品質キーマン研修においても2022年10月までの実績で28名が労働安全衛生について学んでいます。



宙吊りになった状態で

「墜落制止用器具」の有用性を確認する様子



専用コースでのフォークリフト

技能研修「指さし呼称」で安全を確認しながら運転する様子

フォークリフト技能大会（ニチレイロジグループによる実施）



ドライバーの安全研修（ロジスティクス・ネットワーク）



## ドライバーコンテスト全国大会やエコドライブ講習会の実施でドライバーの意識を向上

物流品質の向上を目的としたドライバーコンテストやエコラン講習会を毎年実施しています。ドライバーコンテストでは、お客様にご提供する輸配送サービスにおける安全と品質に関する基本的ルールなどの学科試験と、日常点検についての実務試験の総合得点で競い合います。

コンテストを通じて、出場者の安全かつ高品質な輸配送サービス提供の維持・向上、点検技術、安全運転意識の向上を図るとともに、一人ひとりの仕事への誇りや社会的責務の自覚へつなげていきます。2019年度は、さらなる物流品質向上を目指し、第7回全国大会を実施しました。

また、幹線輸送のパレット化、定時発着運行を2014年度から本格的に開始しました。拠点での待機時間、積み込み時間が大きく短縮され、長距離ドライバーの労働環境改善につながりました。



ドライバーコンテストの様子

## 安全・安心な職場環境とサービス品質向上に向けた活動

ニチレイロジグループでは、倉庫内での安全第一、品質第一を目指し、毎年4回テーマを決めて、国内全拠点（114カ所）で事故防止活動を行っています。



## ■ 食品工場の安全活動

ニチレイフーズは、食品工場における安全活動の重点施策として「安全パトロール」「ヒヤリハット活動」「安全ルールを守る」の3点を『安全活動の3本柱』として掲げています。

「安全パトロール」（月1回実施）においては、パトロール項目を工場ごとにカスタマイズし、現場の声をもとに、実効性の高い取り組みとしています。管理者が手薄となる早朝・深夜を中心にパトロールを実施し、従業員から問題点や意見を吸い上げています。

また、「ヒヤリハット活動」（随時実施）においては、啓蒙活動を図るとともに、従業員から挙がってきたヒヤリハット報告を確実に防止策へとつなげる仕組みづくりに鋭意取り組んでいます。

■ 外国人技能実習生とのコミュニケーションを通じた労働安全衛生への取り組み

ニチレイグループでは、国内で働いていただいている外国人技能実習生の方に、労働安全衛生などの研修を受けていただき、不慣れな日本での生活や日本語上達に向けてのサポートも含め労働災害の防止や健康管理を目的とした安全衛生管理への理解促進に努めています。ニチレイグループで働いていただく方全員が、安全安心に健康で働きがいを持って働ける職場づくりに努めています。



ベトナム語のポスター



日本語スピーチ大会の開催

衛生管理者

ESGデータ集 衛生管理者



# 人財開発・働きがいの向上

## 方針・基本的な考え方

### 基本的な考え方

ニチレイグループでは、従業員をかけがえのない存在と考え、「人材」ではなく「人財」と表記しています。サステナビリティ基本方針に基づき「2030年の姿」を実現するためには、人財に関する拠り所を明確にする必要があることから、ニチレイグループの人財に関する理念（考え方）と、目指すべき人財・組織（グループ人財方針）を新たに制定しました。この人財の考え方、グループ人財方針のもとに5つの人財戦略を掲げ、具体的な人財施策の検討、遂行、情報共有、進捗確認を行っていきます。

#### ■ 人財の考え方（理念）

「サステナビリティ基本方針」を実現する最重要資産は人財です。

- ・ 持続可能な社会の実現に向けて、食と健康を支える企業としての責任を果たす鍵は、人財にあります。
- ・ 多様な人財が意欲をもって、いかに活躍、成長できるかが、ニチレイグループの発展につながります。
- ・ 経営戦略と連動した人財戦略を展開するとともに、社員が自らの社会価値を実感し、行動変革を促進していくことが重要であります。

#### ■ グループ人財方針（どんな人財・組織を目指すのか）

|                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| 事業を通じた社会課題の解決に共感し、行動する人財の育成       | 「食は人と人をつなぐ」という発想からニチレイグループが目指す社会的インパクトと社員一人ひとりが抱く志とを結び、主体的に行動する人財を育成します。 |
| 多様な知とデジタルを掛け合わせ、新たな価値を創造し続ける組織の構築 | 様々な視点を取り入れ、データ・デジタル技術活用による環境変化に即応した行動により、人びとの豊かな食生活と健康に貢献する組織を構築します。     |
| 挑戦を促す安全安心な企業文化の醸成                 | 仕事への想いや考えを率直に伝えあい、お互いを信じ、受容することで、失敗を恐れずに新たな挑戦ができる企業文化を醸成します。             |

グループ人財方針



■ 人財戦略（現状とのギャップを埋めるための5つの観点）



## マネジメント体制

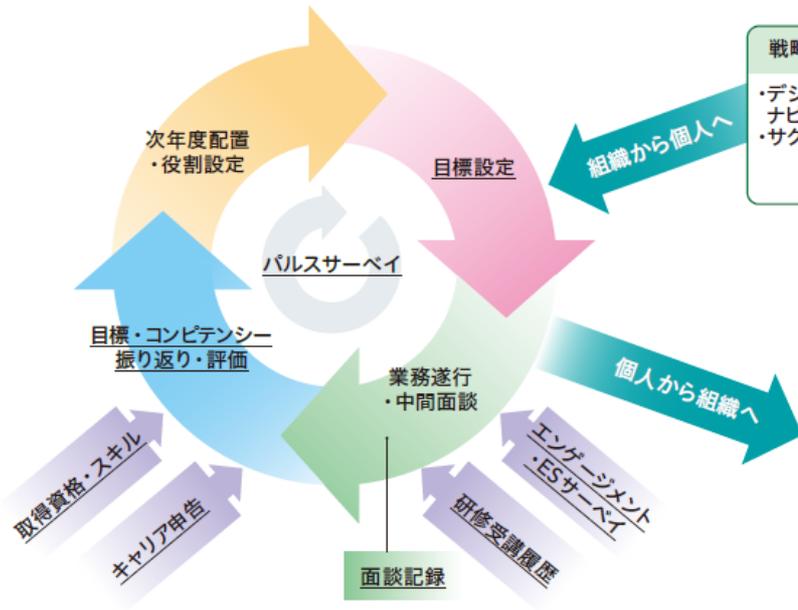
### マネジメント体制

ニチレイグループでは、グループ教育訓練規程に則って毎年人財委員会で決定した1年間の教育プログラムを社員へ提供し、各個人のキャリアアップに向け支援しています。また、イントラネットを使い、品質安全やガバナンス・コンプライアンスに関するeラーニングを国内の全従業員を対象に実施し、リテラシーの向上を目指しています。

グループ人財委員会とダイバーシティ推進協議会をグループ横断的に組織し、各社が推進している「働きがいの向上」に向けた施策を上記二つの会議体で情報共有し、進捗確認を行っています。

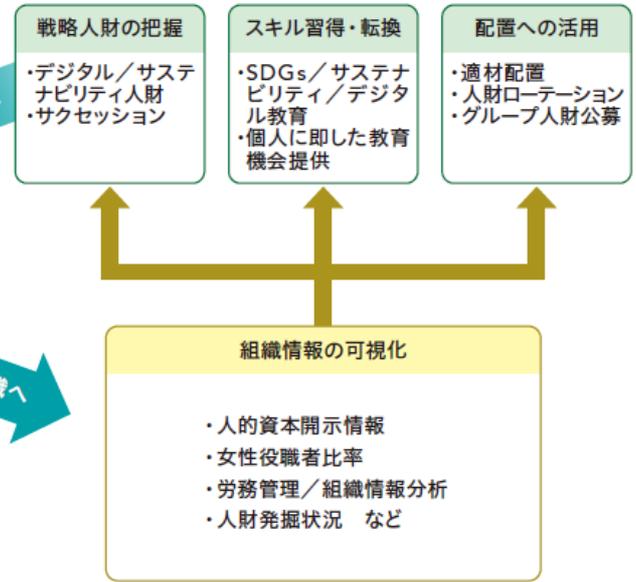
## 従業員のパフォーマンス向上

従業員のスキル・志向性・パフォーマンス状況等を可視化、一元管理し、必要なタイミングで打ち手を講じることで、従業員パフォーマンスの最大化とステップアップを図る



## 組織の人財ポートフォリオ最適化

グループで共通化した従業員データをもとに、組織の状態をダッシュボードで可視化し、分析した結果を踏まえて、人財ポートフォリオの最適化に必要な人事施策を講じる



## 取組みの状況

### 人財開発

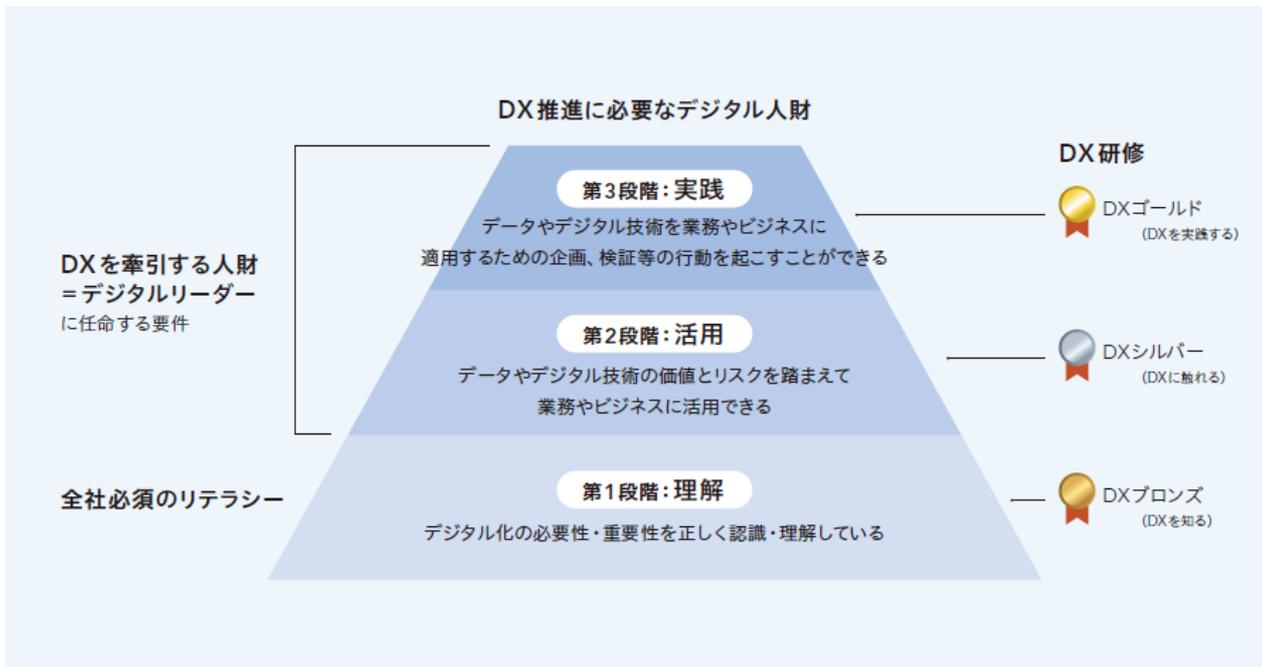
#### DX教育の展開

2022年度からの中期経営計画「Compass Rose 2024」では、特に重点的に取り組む人財育成施策として、データ・テクノロジー活用を二子レイグループ内で推進することを挙げており、このための教育機会の提供を進めています。

今後、世の中のデジタル化はさらに加速していきますが、そうした環境下で、生活者や取引先、社会が抱える課題を解決していく手段としてデータ・テクノロジーの活用がますます重要になり、このことに備えることが、二子レイグループの競争力を高めると考えているからです。

具体的には、データ・テクノロジー活用を推進するデジタルリーダーを今中期経営計画の最終年に国内主要会社の各部署に一人ずつ任命することを目指し、必須のデジタルリテラシーを身につける基礎編であるDXブロンズ、さらに上位のDXシルバー・DXゴールドと、段階を設けたプログラムを実施します。このうち、DXブロンズについては国内主要会社の社員全員（約3,500人）を対象に順次受講を進めており、2023年度までに全員が受講を完了する計画となっています。

DX推進は二子レイグループのビジョン実現に大変重要なビジネス変革の取り組みであると捉え、グループ一丸となって変革を推進していきます。



■ 階層別研修プラン(持株会社)

| 階層別研修プラン       | 目的  | 対象                    |
|----------------|---|-----------------------|
| エグゼクティブコーチング   | 組織の成長や業績向上に向けて、よりよい経営判断をし、ポジティブな変化を起こしていく（エグゼクティブ自身の変化、周囲への波及効果さらには組織の生産性の向上）   | 執行役員                  |
| 次世代経営幹部育成プログラム | 経営人材に必要な「マネジメント力」「グローバルリーダーシップ」に加え、哲学、思想などの大局観の涵養を通じて『意思決定基軸』を構築する  | 部長、部付部長               |
| リーダー研修         | 【プレイヤーから真のマネジャーへの変革】解決すべき課題を発見し、自ら解決策を創り出していき、強靱で自律的な組織、事業会社から頼りにされる組織づくりの一翼を担う人材の育成  | 役職層                   |
| 評価者研修          | 評価の原理原則を学び、目標管理・評価制度の目的・意義についての理解を深める   | 未受講者（新卒・キャリア採用者・転籍者等） |
| ファシリテーション研修    | 効率的な会議を実現するために、事前準備から会議運営、フォローまで同一のスキームを理解する  | 全員                    |
| 新任役職者研修        | 組織を牽引するマネジャーに求められる役割とその役割遂行にあたり必要とされる視座・視点および言動のポイントを学習する   | 新任役職者                 |
| ファーストキャリア研修    | 組織や上司の期待する成果を正しく把握し、論理的に解決しながら、その期待する成果を創出できる人材になるための基本行動の確立を行う   | 新入社員、2年目社員、3年目社員      |
| 新入社員研修         | <ul style="list-style-type: none"> <li>学生から社会人への意識転換を行う（主体的な行動、規律のとれた行動を身に付け、ビジネスマナーを取得する）</li> <li>Nグループの理解を促し、帰属意識を醸成させる</li> </ul> | 新入社員、2年目社員、3年目社員      |

ニチレイグループの主な教育研修体系



ニチレイグループの教育時間及び参加人数



### ■ 女性の活躍推進

ニチレイフーズでは、女性の活躍を推進する社内活動のプロジェクトを立ち上げ、メッセージの動画配信や現状把握のためのアンケート調査、女性役員との対話の会「女性あぐら」を実施しています。このうち「女性あぐら」は、2021年度に23回開催、94名の社員が参加しましたが、自身の今後のキャリアを考えるのみならず、同世代の悩みの共有や互いを支援するネットワーク構築につながり、女性社員がさまざまなチャレンジをしていく礎となっています。今後もプロジェクトを推進することで、女性社員のキャリアデザインを支援、さらには男女関係なく、全従業員の働きの向上につなげていきます。



ニチレイロジグループでは、女性活躍の取り組みの一環として、2020年1月に第8回「咲カセル ロジ女フォーラム」を開催しました。全国各地から女性社員約70名が集まり、女性活躍推進の取り組みの経緯と現状および今後の展望について、理解を深めました。参加者が仕事に対する価値観や女性が自分らしく働ける環境作りについてのディスカッションを通して、各人の仕事に対する価値観の再認識や各地域間の社員同士のネットワーク作りを促進しました。

ニチレイフーズでは、2019年度、他の食品メーカーと共同で女性社員向けセミナーを実施しました。意識の形成を目的としたダイバーシティフォーラム「SPIRAL UP!」や、社外ネットワーク構築とキャリア開発を目的としたキャリアセミナー「LADY, GO UP!」を開催しました。



咲カセル ロジ女フォーラム

## 障がい者雇用の積極的な実施

ニチレイグループは人財活用の一環として積極的に障がい者雇用を進めています。当社グループの特例子会社である（株）ニチレイアウラでは、障がいのあるスタッフが、本社やグループ会社の食品工場や物流センターの事務所内の清掃や緑地環境整備などをはじめ幅広い業務に従事しています。これからも、障がい者の皆さんが働きやすいよう職場環境づくりに取り組んでいきます。

障がい者雇用率



## 外国人技能実習生の母国でのキャリア継続に向けて

ニチレイグループでは、多様な人材がそれぞれの職場において働きがいを持って生き活きと活躍できるよう、キャリアマップやキャリア向上に向けた教育の機会を提供しています。国内で働いている外国人技能実習生の方にも働きがいを持てる職場づくりに努めています。

食品衛生管理や労働安全衛生など日本で実習したことを母国で活かすため、各事業会社の進出国での職場を紹介し、ご本人のキャリアが継続できるような提案を行っています。

### ニチレイフレッシュまるいち（本社：福島県小名浜工場）

フレッシュまるいち小名浜工場で2015年から4年間勤務したベトナム人の技能実習生が、ベトナムに新設したニチレイフレッシュの水産加工工場で品質管理の仕事で継続して働いていただいています。日本の食品製造現場や品質管理で学んだことを活かして母国で活躍していただいています。2020年度も新たに1名、元外国人技能実習生の方がベトナムの同加工場で入社しました。今後も外国人技能実習生のキャリアアップを支援していきます。



グループ広報誌「OriOri」2020春号に掲載されたフレッシュまるいち小名浜工場の紹介記事  
ベトナム語訳(右)も作成し、ベトナムの工場(Trans Pacific Seafood Co., Ltd.)でも紹介

### ベトナムTPSの元実習生とテレビ電話で対話!



ドー・ティ・イエン（イエンさん）  
2015年来日。技術実習生としてフレッシュまるいち若松工場に3年間在籍後、小名浜工場で1年間品質管理の基礎を学ぶ。ベトナム帰国後、ニチレイフレッシュが2018年に新設した水産加工工場（TPS）に勤務。

フレッシュまるいちは、すごく従業員に優しい会社。社長からパートさんまで、みんな優しく親切で、毎日楽しかったです。私はベトナムの大学で製菓の勉強をしていたので、若松工場での実習期間が終わるときに、フレッシュまるいちの大西社長（当時）に「品質管理の仕事もやってみては」と言われて、小名浜工場に行きました。品質管理の重要性を、すごく感じるようになりました。

もっと日本で働きたいと思ったのですが、ベトナムに日本の工場をつくと聞いて、それなら子どもと一緒に暮らせるし、嬉しいと思って。今の目標は、TPSの仲間とがんばって、まずはしっかり利益を出したいと思います！

## 転居ができない社員に配慮

ニチレイフーズは2015年度から2016年度にかけて人事制度を改定し、転居を伴う異動のない職群を設けました。結婚、育児、介護、傷病などの個人事由により、やむを得ず転居を伴う異動ができない場合や、一定の在籍期間を超えた社員については、個人のキャリア観に基づき、事由の有無を問わず本人の希望する勤務地で働き、転居を伴う異動の対象とならない職群を選択することができます。ニチレイフーズでは社員一人ひとりの多様な価値観を尊重し、働きがいのある職場づくりを目指します。

## シニア雇用の創出

ニチレイグループでは、定年退職後の就業機会提供について2002年から「シニアスタッフ制度」を設置し、定年退職後の就職機会の提供に取り組んでいます。60歳の定年を迎えた後、希望者を65歳まで雇用。現在100名を超えるシニアスタッフがその経験や知識を活かし、グループの発展に寄与しています。



出張工場見学で冷凍食品について講義

## キャリア申告制度

社員の働きがいを向上させるためには、社員自身のキャリアプランに即した役割を提供することが重要です。当社グループでは年に1度、全社員がキャリアの棚卸を行い将来的なキャリア観を申告し、それを人事異動の参考にしながら異動・配属を決定する「キャリア申告制度」を導入しています。

## 育児休業からの復職率と男性の育児休業の取得

### ■ 男性の育児休業取得の推進

ニチレイグループの育児休業制度は元々、法定を上回って整備されておりましたが、この度の育児・介護休業法改正に伴う規程改正の結果、制度がより充実し、育児休業の取得について選択肢が広がりました。ニチレイグループでは、労使で協議し、この機会に育児のための休暇・休業に関する目標値として「男性従業員の3日以上取得率100%」を掲げ、男性が子育てに参画することを契機に女性の活躍の場を拡大すること、その結果、男女ともに子育て期のワーク・ライフ・バランスを実現することを目指して参ります。

育児休業取得者数



## 給与の男女比

当社グループの給与は役職や職務によって設定されており、性別による違いはありません。また、昇格や昇給に関する評価についても性別によって違いはありません。

## 公正な雇用機会の提供

新卒採用については、ホームページ上に募集要領や各種情報を公開し、広く募集を受け付け、公正な選考を行っています。

労働組合の活動と労使連携



従業員数（雇用の種類別、階層別、男女別）



採用者数（新卒・キャリア）



社員以外の従業員の割合



## 多様な働き方（就業における選択肢の拡充）

### ■ 企業内保育施設を新設

2018年4月、東京都中央区築地の本社ビル内に、企業内保育所を開設しました。ニチレイグループが現在進めている働き方改革の施策の一つとして、子育て中の従業員の早期復職や仕事と家庭の両立支援を目的としていることに加え、一定枠を地域の方に開放することで、待機児童状況の緩和に貢献したいという考えから設置しました。



保育園児の職場訪問の様子

### ■ ボランティア休暇制度

ニチレイグループではボランティア休暇制度を通じて、従業員の活動を支援しています。

ボランティア休暇取得者数



## 過去の取り組み(2017~2021)

ニチレイグループでは、従業員をかけがえのない存在と考え、「人材」ではなく「人財」と表記しています。多様な人財や価値観や発想を受け入れ組織を活性化することで、さらなる生産性の向上や活力ある職場づくりを目指しています。2017年には「ニチレイグループ 働き方改革方針」を定め、事業会社ごとに同方針に基づく目標を設定し2021年度までの5年間にわたってさまざまな取り組みを進めました。

「働きがいの向上」を推進する組織としてグループ人財委員会の下にグループダイバーシティ推進協議会とグループ健康推進連絡会を組織し、グループ全体の持続的な成長の実現に資する人財戦略を協議し、施策の意見交換、情報共有、進捗確認を行いました。

|           |                    |  |
|-----------|--------------------|--|
| 多様な働き方の実現 | ▶ 就業における選択肢の拡充     | 働く場所や時間といった就業環境に自由度を持たせた制度を導入し、状況に合わせて選択できるようにする                                 |
|           | ▶ キャリア継続の仕組みを構築    | 出産や育児、介護、配偶者の転勤、健康不安・罹患など、従業員が置かれている様々な状況に係わらず、キャリア分断が起こらない仕組みを構築する              |
| 長時間労働の是正  |                    | 労使協働で働き方改革に取り組み、従業員一人ひとりが健康で働きがいをもち、能力がより発揮できる適切な労働時間を実現する                       |
| 公平な機会の提供  | ▶ 女性活躍の推進          | 公平に機会・教育の場を提供し、ニチレイグループの貴重な戦力となるよう支援する   |
|           | ▶ 障がい者が生き生きと働く場を提供 | 『障がい者と健常者が分け隔てなく共存する社会（共生社会）の実現』という理念のもと、障がいのある方の働く場や機会を創出し、いきいきと働き、生活していく事を支援する |
|           | ▶ シニア雇用の創出         | 健康寿命が延びる中、シニアならではの経験を活かし、一人ひとりの価値観、働き方に応じた活躍の場を創出する                              |

**人財委員会**

「ニチレイの約束」の1つである「働きがいの向上」を進めていく委員会としてグループ人財委員会を年2回開催しています。グループ人財委員会の下部組織であるダイバーシティ推進協議会は、労使協働で年2回開催し、女性の活躍支援、外国人雇用、ライフステージや年齢に応じた多様な働き方、障がいのある方の雇用や協働など、従業員一人ひとりの人権や働きがい・働き方などに関する取り組みを中心に、各社施策の検討とモニタリングを行っています。

**人財育成**

ニチレイグループでは、各事業会社の社長を責任者として、自社に最適な「人財」を育成するための制度を構築しています。「人財育成」の施策は、各事業会社の教育訓練方針に則り、毎年見直しを実施し、その計画の内容や成果については、年2回開催されるグループ人財委員会においてモニタリングしています。

■働き方改革の主な施策と活動進捗（2018-2020）

| 方針        | 目指す姿   | 重点施策         | 主な活動   |   |  |  |
|-----------|--|--------------|--|---|--|--|
|           |  |              | 2018年度   | 2019年度  | 2020年度   | 2021年度   |
| 多様な働き方の実現 | 働く場所や時間といった就業環境に自由度を持たせた制度を導入し、状況にあわせて選択できるようにする                       | 就業における選択肢の拡充 | <ul style="list-style-type: none"> <li>企業内保育施設を新設<br/>2018年4月、東京本社ビル内に開設</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>テレワークの本格導入<br/>食品工場および低温物流の事業所を除く全拠点</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>スーパーフレックステル務制度の導入<br/>工場、物流センターなどの現場を除きコアタイムを原則廃止</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ロジグループにてサテライトオフィスを拡充<br/>・ SateCo大阪梅田（22年2月開所）<br/>・ SateCo横浜（22年3月開所）</li> </ul>       |
|           | 出産や育児、介護、配偶者の転勤、健康不安・罹患など、従業員が置かれているさまざまな状況にかかわらず、キャリア分断が起こらない仕組みを構築する | キャリア継続の仕組み   | <ul style="list-style-type: none"> <li>女性向けキャリア開発プログラムの実施<br/>女性活躍イベント（Next Step for 2021）<br/>対象：163名</li> <li>介護セミナー実施<br/>4回実施、115名参加</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>カムバック制度の導入<br/>目的：ライフイベントや成長のためのキャリア継続支援</li> <li>配偶者の転勤に伴う休職制度<br/>目的：他企業と連携したマルチキャリア形成の検討と導入</li> <li>介護セミナー実施、介護ハンドブック作成<br/>4回実施、103名参加</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>子の看護介護休暇の拡充<br/>・ 時間単位での取得可<br/>・ 半日および1日単位の場合は積立年次有給休暇への振替可</li> <li>介護セミナー（オンライン開催）<br/>11/18・26実施（@60分）計60名<br/>介護と仕事の両立支援情報のイントラ掲示</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>介護セミナー（オンライン開催）<br/>・ 31名が参加<br/>仕事と治療の両立支援、職場復帰と復職の対応フローの見直しと、産業保健スタッフの体制増強</li> </ul> |
| 長時間労働の是正  | 労使協働で働き方改革に取り組み、従業員一人ひとりが健康で働きがいをもち、能力がより発揮できる適切な労働時間を実現する             | 有給休暇取得の推進    | <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな労働時間管理システム導入<br/>100%</li> <li>労働時間管理システム導入による長時間労働者への指導を実施</li> <li>労使協働による過重労働対策の実施</li> <li>労使協働でニチレイグループ労働時間ガイドラインを策定</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>NEW経費精算システム導入</li> <li>計画年休制度5日間導入</li> <li>e-ラーニングの実施：改正労働法、労働時間の啓発<br/>対象：社員、5,101名受講</li> <li>労使協働による過重労働対策の実施</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>定量目標（グループ平均年次有給休暇取得10日以上）を掲げ、年休取得を推進</li> <li>労使協働による過重労働体側の実施継続</li> <li>e-learningによる労務管理の啓蒙実施</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>労使協働による過重労働対策の実施継続<br/>平均有給取得率：68.3%</li> </ul>   |

| 方針   | 目指す姿   | 重点施策  | 主な活動   |  |   |   |
|--|--|---|--|--|---|---|
|  |  |   | 2018年度   | 2019年度   | 2020年度  | 2021年度  |
| 公平な機会の提供   | 公平に機会・教育の場を提供し、ニチレイグループの貴重な戦力となるよう支援する   | 女性活躍推進  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロジグループ：第5回、第6回『咲かせるロジ女フォーラム』<br/>対象：女性社員129名（通算404名参加）<br/>テーマ：参加者が仕事に対する価値観や女性が自分らしく働ける環境づくりについて</li> <li>・フーズ：「LADY GO UP」<br/>対象：食品メーカー6社の女性社員（フーズ女性社員8名）<br/>概要：社外ネットワーク構築とキャリア開発を目的としたセミナー</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロジグループ：第7回、第8回『咲かせるロジ女フォーラム』<br/>対象：女性社員118名（通算522名参加）</li> <li>・フーズ：「LADY GO UP」<br/>対象：食品メーカー6社の女性社員（フーズ女性社員8名）<br/>概要：社外ネットワーク構築</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・フーズ：「LADY GO UP」<br/>対象：食品メーカー6社の女性社員（フーズ女性社員8名）<br/>概要：社外女性役員からの講演と社外ネットワーク構築とキャリア開発を目的としたセミナー</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・フーズ：「LADY GO UP」食品メーカー6社による合同プログラムの実施</li> <li>・フーズ：女性活躍推進プログラムの実施（ネットワーキング・あぐら（車座ミーティング））</li> <li>・ロジグループ：上司伴走型の女性役職者研修の実施。（期待効果）<br/>・職域の拡大</li> <li>・ありがたい姿の設定と踏み出し</li> <li>・ネットワーキング</li> </ul>   |
|  |  | ダイバーシティ&インクルージョン  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・フーズ：ダイバーシティフォーラム「SPIRAL UP」<br/>食品メーカー6社の各社部長・課長クラスを中心に多様な働き方の理解を深める。フーズ35名（男性26名、女性9名）</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・フーズ：ダイバーシティフォーラム「SPIRAL UP」<br/>食品メーカー6社の各社部長・課長クラスを中心に多様な働き方の理解を深める。フーズ60名（男性46名、女性14名）</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・フーズ：ダイバーシティフォーラム「Meet To UP」<br/>・講演会実施（2021年2月25日）<br/>・対象：役員8名参加、従業員約140名<br/>フーズ：食品6社部長会議<br/>・食品メーカー6社企画の部長会議</li> <li>・執行役員2名、部長5名、事務局14名（21名/6社）<br/>フーズ：J-win 第10期<br/>・NPO法人J-win主催の女性リーダー育成プログラム（1年間）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・フーズ：ダイバーシティフォーラム「SPIRAL UP」の実施</li> <li>・ロジグループ：地域各社でダイバーシティ担当役員を選任</li> <li>・ロジグループ：イントラネット（MIRU心）を通じてダイバーシティ&amp;インクルージョン活動の内容発信・共有</li> <li>・ロジグループ：アンコンシャスバイアスe-ラーニングの実施<br/>※ 役員・役職総数450名/一般社員総数1,340名</li> <li>・ロジグループ：アンコンシャスバイアス組織分析（国内12社）の実施</li> </ul> |
|  | 『障がい者と健常者が分け隔てなく共存する社会（共生社会）の実現』という理念のもと、障がいのある方の働く場や機会を創出し、活き活きと働き、生活していく事を支援する | 障がい者が活き活きと働く場を提供  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者雇用率2.56%（障がい者雇用人数104名）</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者雇用率2.75%（障がい者雇用人数101名）</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者雇用率2.80%（障がい者雇用人数101名）</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者雇用率2.80%（障害者雇用人数101名）</li> </ul>   |
| 健康寿命が延びる中で、シニアならではの経験を活かし、一人ひとりの価値観、働き方に応じた活躍の場を創出する | シニア雇用の創出   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・定年後再雇用者数59名（定年退職者数64名）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・定年後再雇用者数57名（定年退職者数65名）</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・定年後再雇用者数51名（定年退職者数59名）</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・定年後再雇用者数27名（定年退職者数33名）</li> </ul>   |   |

## 方針・基本的な考え方

### 基本的な考え方

ニチレイグループでは、2015年より「『働きがいの向上』は従業員の健康がベースにある」という考え方のもと、従業員の健康の保持・増進を経営課題として位置づけ、ニチレイ健康推進センターが中心となり取り組みを推進しています。

#### ニチレイグループ 健康宣言

**「おいしい瞬間を届けたい」、その想いを大切に、  
ニチレイグループで働く一人ひとりの健康づくりに取り組みます**

#### 基本方針

1. 「働きがい」のベースには心と身体の健康があるという考えのもと、労使協働で活力ある職場づくりを推進します。
2. 従業員一人ひとりが健康意識を高め、主体的に健康増進に取り組む環境づくりに努めます。
3. 健康保持増進・メンタルヘルス対策・安全衛生管理を3つの柱とし「健康マネジメント」に取り組みます。

## マネジメント体制

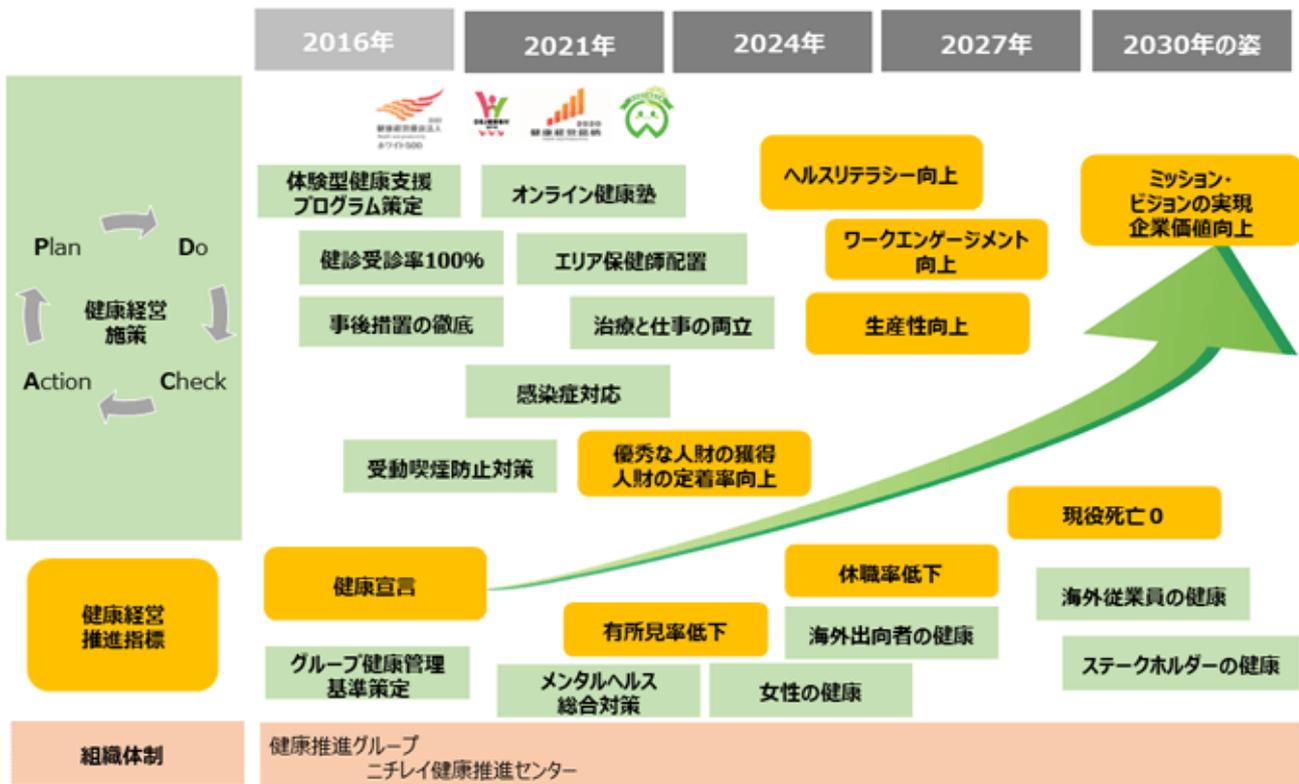
### マネジメント体制

2015年度に健康経営の専任部署として人事総務部内に「健康推進グループ」を新設し、2016年度には、「ニチレイグループ健康宣言」および「グループ健康管理基準」を制定しました。この宣言を社内外に発信するとともに、持株会社に最高健康推進責任者、グループ内の各事業会社に健康推進責任者・担当者を任命し、健康管理を進めています。2018年4月には、グループ全体に方針の周知徹底並びに迅速な施策推進を図るため、「健康推進グループ」を「ニチレイ健康推進センター」に改組しました。

健康と安全衛生に関するリスク評価として、健康診断の結果分析を重視しています。分析内容は「健康白書」に記載して社内公開し、従業員の健康状態の傾向に合わせた健康に関する教育や取り組みを行なう他、社員食堂で提供するメニューをより健康的にするための参考としても活用しています。

健康経営推進イメージ

2030年に実現したい未来の姿に向けて、健康経営各施策におけるPDCAサイクルを迅速に回し、健康づくりの取組みを推進していきます。

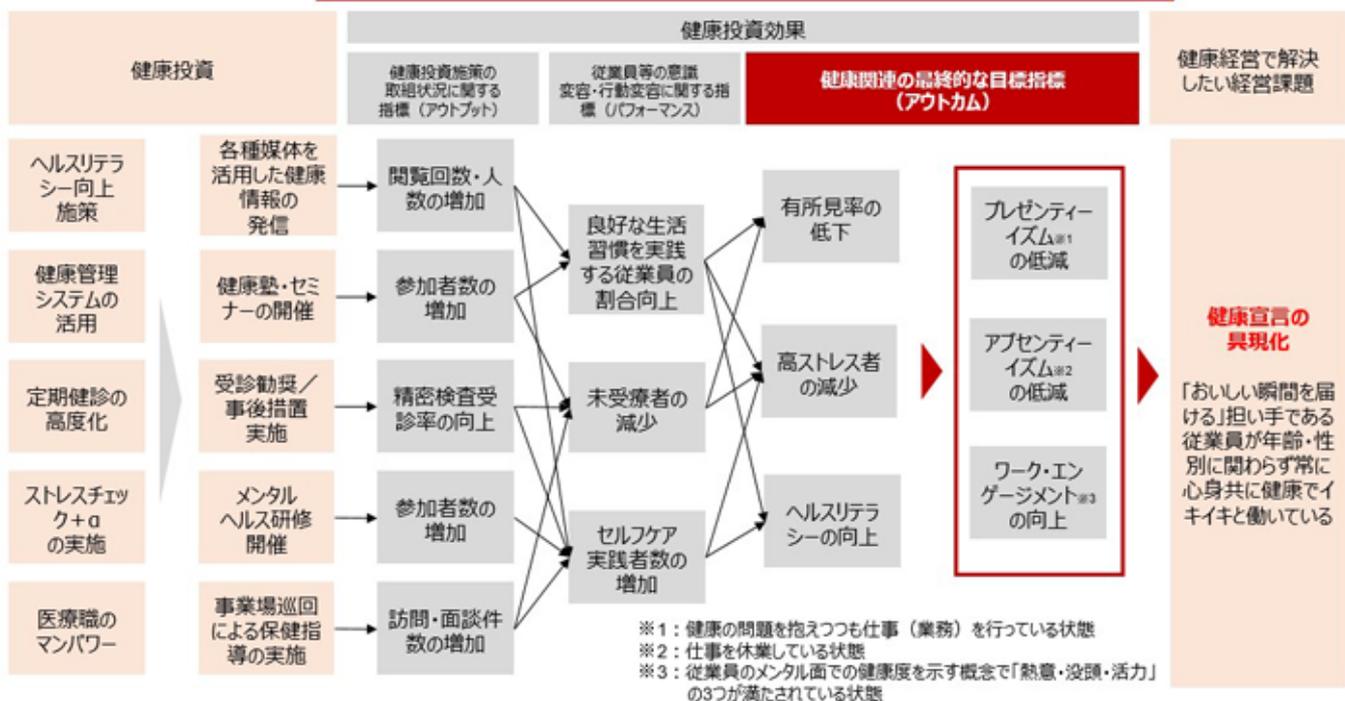


ニチレイグループ健康経営戦略マップ

健康経営で解決したい経営課題を「ニチレイグループ健康宣言の具現化」とし、「『おいしい瞬間を届ける』担い手である従業員が年齢・性別に関わらず常に心身共に健康でイキイキと働いている」ことをめざしています。

～ニチレイグループ健康宣言～

「おいしい瞬間を届けたい」、その想いを大切に、ニチレイグループで働く一人ひとりの健康づくりに取り組みます



## 健康経営の取り組み

### 健康経営に向けた取り組み

「持続的成長を目指す会社にとって、従業員の健康は重要な経営課題である」との認識のもと、2015年度に健康経営の専任部署として人事総務部内に「健康推進グループ」を新設し、2018年4月には、グループ全体に方針の周知徹底並びに迅速な施策推進を図るため、「健康推進グループ」を「ニチレイ健康推進センター」に改組しました。

定期健康診断では、結核の早期発見のためのレントゲン検診を実施し、結核についても取り組んでいます。各種がん検診を追加し、産業保健スタッフによる事後措置の徹底をしています。また、健康診断時の健康啓発活動やストレスチェックの実施、ニチレイフーズの冷凍健康管理食「気くばり御膳<sup>®</sup>」を活用した従業員向けの体験型健康支援プログラム「ニチレイ健康塾」などのさまざまな健康増進施策を展開しています。小規模事業場や海外勤務者については、ICTの活用による遠隔面談を行っています。

こうした取り組みが評価され、当社グループは経済産業省より、「健康経営優良法人2022～大規模法人部門（ホワイト500）～」の認定を受けました。（2016年度より連続認定）

認定一覧



### ヘルスリテラシーの向上

#### 「ニチレイ健康塾」の開催

生活習慣病予防や健康づくりの機会を提供するため2016年度より体験型健康支援プログラム「ニチレイ健康塾」を定期的に開催しています。重要課題の「血圧」「血糖」「脂質」をテーマに、病態生理編、食事編、運動編の各パートをそれぞれのスペシャリストから解説、柔軟性テストやクイズといった体験学習もあり、楽しみながら理解を深めることができます。特別編として、「交代勤務・深夜業の食事セミナー」「睡眠」「メンタルヘルス」など様々なテーマで、健康増進や生産性向上に繋がるセミナーも開催しており、各セミナーでは参加者の92%以上が「有益であった」とアンケートで回答されました。コロナ禍において、2020年度よりオンラインに切り替え、2021年度からは、より多くの従業員が参加できるよう、毎月開催しています。2021年度末までにのべ3,791名が参加しました。

さらに、ステークホルダーの皆さまを含む「社会全体の健康増進」に貢献するため、グループの枠を超えて健康課題への取り組みを進めていくことをめざして、「ニチレイ健康塾」への従業員の家族や取引先様からの参加も広く募っています。



メンタルヘルス社内セミナー



#### 受動喫煙防止対策

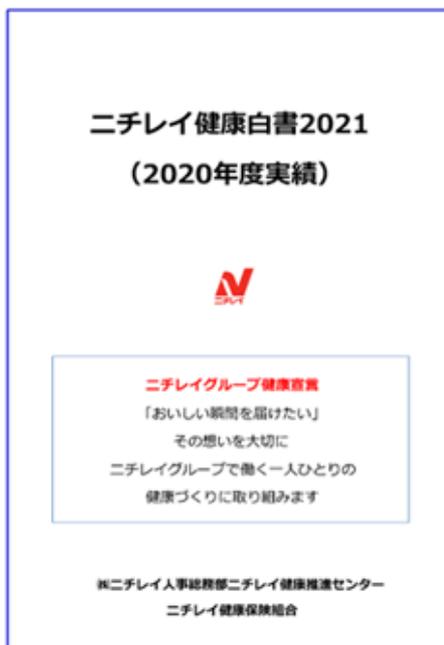
2022年4月よりグループ全従業員を対象とした就業時間内禁煙を開始、原則屋内喫煙室を閉鎖しました。2021年6月からはニチレイ健康保険組合が禁煙外来治療の補助制度を導入し、ニチレイ健康推進センターと連携して禁煙希望者をサポートしています。卒煙プログラムおよび禁煙外来補助には2021年度末までに101名参加し、その内41名が禁煙に成功しました。

### ー女性の健康づくりー

「女性の健康づくり」の施策を推進するため、2022年1月に全従業員へアンケートを実施。その結果から「女性特有の健康課題で困っている」女性従業員と「困っていることに気づいていない」男性管理職が多数いることが分かりました。その結果をもとに従業員のヘルスリテラシー向上のためにセミナーの継続開催を行っています。加えて、2023年度までにオンライン診療（月経・更年期）を導入して体調不良改善による生産性向上の可視化を進めていきます。

### ー「ニチレイ健康白書」「ニチレイグループ健康経営ガイドブック」の発行ー

従業員一人ひとりが健康意識を高め、主体的に健康増進に取り組む環境づくりをめざして健康白書、健康経営ガイドブック（国内全従業員対象、2020年7月初版、2022年10月第二版）を発行しています。



ニチレイ健康白書2022

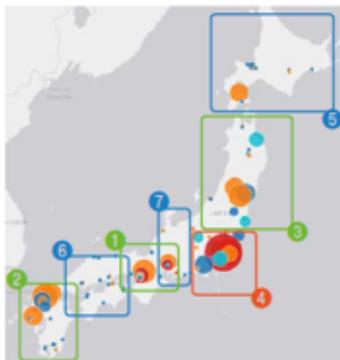


ニチレイグループ健康経営ガイドブック(第2版)



## ■ 産業保健体制の整備

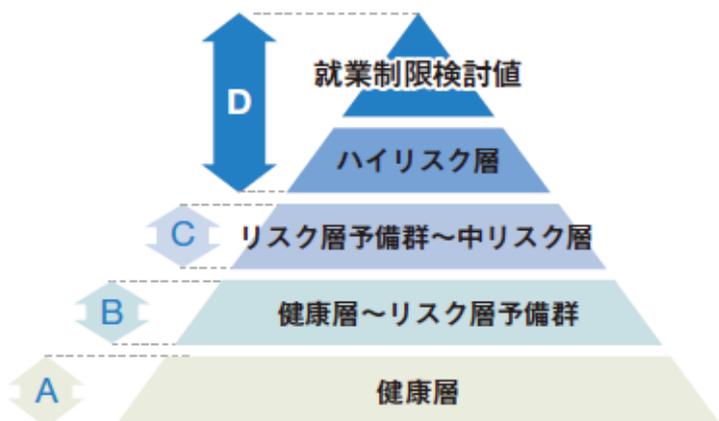
「全国の事業場に同水準の健康支援サービスを提供する」ことを目標に、保健師による事業場訪問を実施しています。健康診断後の面談や職場の安全管理の確認、その他にもメンタルヘルスや感染症など働く方の健康に関わる相談にも対応しています。対面での面談・相談以外にも、オンラインによる相談も実施しています。2020年度より全国各エリアに保健師を配置しており、2027年度までに順次増員していきます。



- 2020年度10月 関西エリア保健師配置①
- 2021年度7月 九州②、1月 東北③
- 2022年度7月 本社保健師による首都圏訪問開始④
- 2025年度以降 北海道エリア保健師配置予定⑤  
中四国エリアへの関西エリア保健師の訪問範囲拡大予定⑥  
中部への本社保健師の訪問開始予定⑦

## ■ 心の健康づくりの推進

ストレスチェックを起点とした「メンタルヘルス総合対策」に取り組み、メンタルヘルス不調者への対応はもとより、セルフケアやラインケア、職場でのコミュニケーションの活性化などを含めた心の健康づくりを推進しています。セルフケア、ラインケアに関するeラーニングほか、オンラインセミナーを年10回開催し、400名以上の従業員が参加しています。



## ■ 健康管理と事後措置の徹底

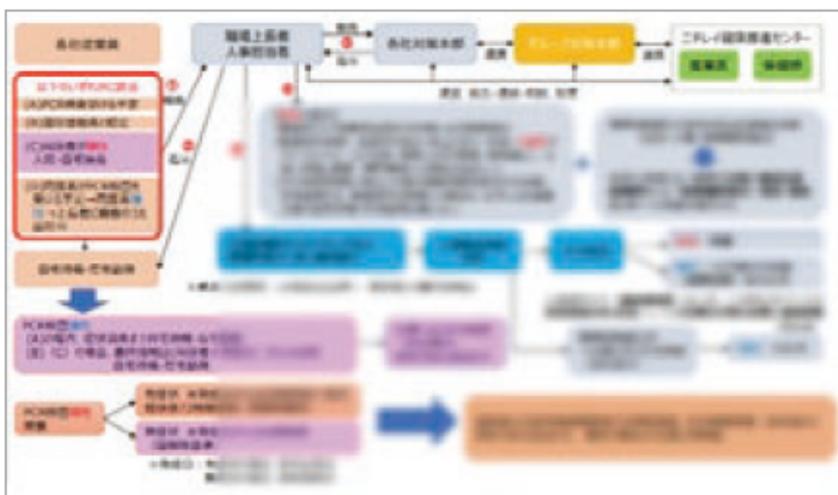
2018年度からは、コロナ禍においても従業員の健康診断受診率は100%を達成しています。健診後は、要医療の方への受診勧奨自動メールの配信や、産業医判定にもとづく産業医面談のほか、保健師による年度末までの徹底的なフォローを実施しています。

## ■ 具体的な健診後のフォローは主に下記の3つを行っています。

1. D判定(要医療)者全員への受診勧奨  
(自動メール等で受診を促し受診日を確認)
2. 最も心配な就業制限検討値該当者への産業医面談実施や、保健師による年度末までの徹底的なフォロー
3. 産業医が「治療状況詳細確認」「面談指導」等を必要と判断した方への個別対応

## ■ 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルスへの感染予防・感染後の対応などについては、産業保健スタッフがグループ対策本部や、ニチレイ健康保険組合、ニチレイ労働組合と連携しながら、サポート体制を構築しています。



新型コロナウイルス感染症対応フロー図

# ガバナンス

|               |   |     |
|---------------|---|-----|
| コーポレートガバナンス   | … | 134 |
| コンプライアンス/内部統制 | … | 144 |
| リスクマネジメント     | … | 148 |

# コーポレートガバナンス

## 方針・基本的な考え方

### 基本的な考え方

ニチレイグループは、持株会社体制のもと、事業会社が加工食品、水産・畜産、低温物流およびバイオサイエンスなどの多岐にわたる事業を展開しています。当社の取締役会が当社グループの戦略を立案し、事業会社の業務執行を監督するという構造を採り、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指します。

持株会社は、コーポレートガバナンス・コードの各原則に照らし、公正かつ透明性の高い経営の実現を重要な経営課題と認識し、取締役会の監督のもと、適切な資源配分、意思決定の迅速化、コンプライアンスの徹底を推進するなど、コーポレートガバナンスの充実に努めています。

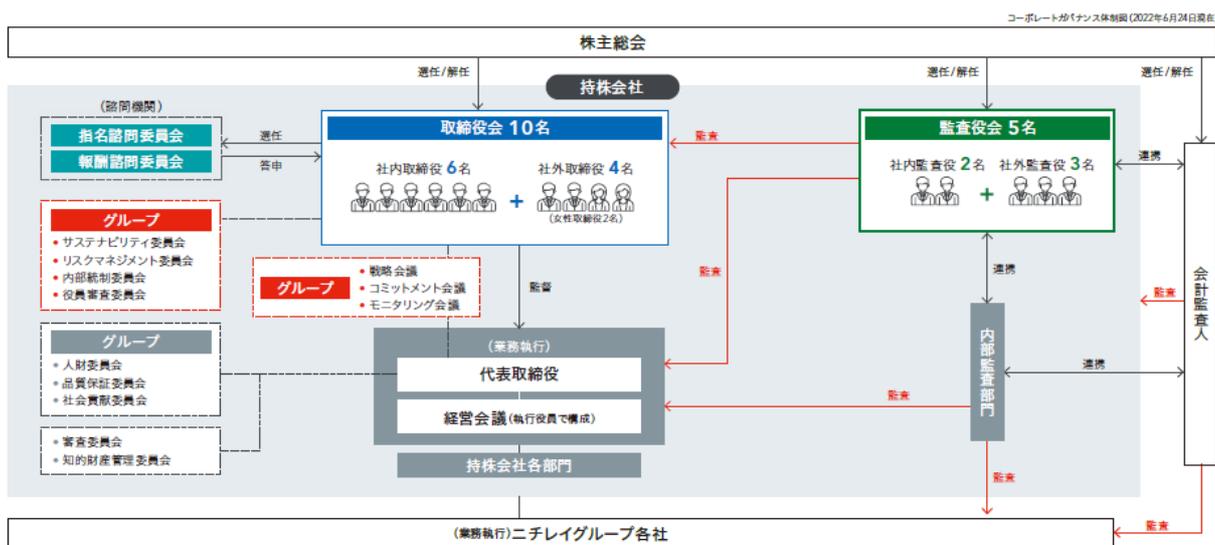
また、会社法上の機関設計として監査役会設置会社を採用しています。

コーポレートガバナンス基本方針

## マネジメント体制

### マネジメント体制

#### ■コーポレートガバナンス体制



統合レポート2022 コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンス体制

|             | 2001年度    | 2005年度                  | 2006年度       | 2012年度 | 2015年度             | 2016年度                         | 2018年度                   | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度   | 2022年度        |
|-------------|-----------|-------------------------|--------------|--------|--------------------|--------------------------------|--------------------------|--------|--------|--|---------------|
| グループの体制     |           | 持株会社体制へ移行               |              |        |                    |                                |                          |        |        |  |               |
| 経営の監督と執行の分離 | 執行役員制度の導入 |                         |              |        |                    |                                |                          |        |        |  |               |
| 社外取締役       |           | 独立社外取締役3名体制へ            |              |        |                    |                                |                          |        |        | 4名   |               |
| うち女性社外取締役   |           | 1名<br>女性社外取締役(1名)が初めて就任 |              |        |                    | 2名                             |                          |        |        | 3名   | 2名            |
| 社外監査役       |           |                         |              | 3名     |                    |                                |                          |        |        |  |               |
| 任意の委員会の設置   |           |                         |              |        |                    |                                |                          |        |        |  |               |
| 取締役会の実効性評価  |           |                         |              |        |                    | 取締役会の実効性評価を開始                  |                          |        |        |  |               |
| 役員報酬        |           |                         | 役員退職慰労金制度の廃止 |        |                    |                                |                          |        |        | 役員報酬制度を改定  | 役員報酬制度を改定     |
| その他         |           |                         |              |        | コーポレートガバナンス基本方針の制定 | 当社株券等の大量買付に関する適正ルール(買収防衛策)の再更新 | ニチレイグループディスクロージャーポリシーの策定 |        |        | 「コーポレートガバナンス基本方針」改正(資本政策の改定等・社外監査役の独立性確保の観点からの在任期間(上限)の変更) | スキル・マトリックスの開示 |

## ■ 取締役会の概要

|            |   |
|------------|---|
| 構成         | 取締役10名（うち社外取締役4名）   |
| 2021年度開催実績 | 全19回  |
| 実施内容       | 当社グループの戦略立案および事業会社の業務執行を監督することを通じて、グループの適切な資源配分、意思決定の迅速化、コンプライアンスの徹底を推進しています。年2回開催されるグループ戦略会議の審議を経たうえで当社グループの戦略を策定、承認し、四半期ごとにグループ各事業の実行状況を確認するとともに、業務執行取締役および執行役員に対する実効性の高い監督を行います。 |

## ■ 監査役会の概要

|            |  |
|------------|--|
| 構成         | 監査役5名（うち社外監査役3名）   |
| 2021年度開催実績 | 全16回   |
| 実施内容       | 取締役会から独立した機関として、毎期の監査方針・監査計画などに従い、取締役、内部監査部門経営監査部をはじめとする持株会社各部門などと意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めています。 |

## ■ 任意の委員会の設置状況、委員長の属性

| 委員会     | 役割  | 委員長             | 開催頻度 |
|---------|---|-----------------|------|
| 指名諮問委員会 | 経営陣幹部および取締役・監査役の候補者として適切な人材や後継者育成計画などについて、審議のうえ取締役会へ答申する。 | 社外取締役<br>昌子 久仁子 | 6回   |
| 報酬諮問委員会 | 報酬制度、報酬水準、報酬の妥当性などについて、審議のうえ取締役会へ答申する。                    | 社外取締役<br>濱島 健爾  | 6回   |

## ■ 取締役の任期・選出方法

取締役の員数を11名以内とし、経営環境の変化に対する機動性を高めるため任期を1年と定めています。取締役の選任決議は、議決権を行使できる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行います。なお、透明性向上と監督機能強化のため、現行取締役10名のうち社外取締役を3名選任しており、毎月1回以上の取締役会を開催しています。取締役会議長は代表取締役会長で、執行役員を兼務しています。代表取締役会長と代表取締役社長は、共同でグループ全体の業務執行を統括しています。

## ■ 監査役制度と監査役会の役割

当社は監査役制度を採用しており、監査役5名のうち金融機関経験者1名、法曹界より弁護士1名、行政機関経験者1名の合計3名を社外監査役として選任しています。監査役会は原則月1回開催され、必要に応じて随時開催しています。業務執行に対する監査役の監督機能を充分果たせる仕組みの構築を通じ、監査役の機能を有効に活用しながら、経営に対する監督機能の強化を図っています。

## ■ 独立性を保持した社外取締役・社外監査役の選出

ニチレイグループでは、取締役会がその役割・責務を実効的に果たすため、事業経営に関わるそれぞれの分野について、社内外を問わず十分な知識と経験を有する人材で構成される必要があると考えています。会社経営の観点から当社にとって重要と考えられる知識・経験を下記のように定義しています。すべての分野について適切な知見を有することに加えて、当社として特に期待する分野を定めたくて取締役候補者を選定しています。

第104期 定時株主総会招集ご通知



## ■ スキル・マトリックス

ニチレイグループでは、取締役会がその役割・責務を実効的に果たすため、事業経営に関わるそれぞれの分野について、社内外を問わず十分な知識と経験を有する人材で構成される必要があると考えています。会社経営の観点から当社にとって重要と考えられる知識・経験を下記のように定義しています。すべての分野について適切な知見を有することに加えて、当社として特に期待する分野を定めたくて取締役候補者を選定しています。

■ 保有する経験・スキル

|     |   | 企業経営         | ESG/ サステナビリティ | グローバル (国際性) | イノベーション/ マーケティング | 財務会計/ ファイナンス | 法務/ コンプライアンス |
|-----|---|--------------|---------------|-------------|------------------|--------------|--------------|
| 取締役 | <br>大柳 顕也              | ●            | ●             | ●           | ●                |              |              |
|     | <br>川崎 順司              |              | ●             |             | ●                |              | ●            |
|     | <br>梅澤 一彦              | ●<br>(低温物流)  |               | ●           | ●                |              |              |
|     | <br>竹永 雅彦              | ●<br>(加工食品)  |               | ●           | ●                |              |              |
|     | <br>田邊 弥             | ●<br>(水産・畜産) |               | ●           | ●                |              |              |
|     | 新任<br><br>鈴木 健二      |              | ●             | ●           |                  | ●            |              |
|     | 独立役員<br><br>昌子 久仁子   |              | ●             |             | ●                |              | ●            |
|     | 独立役員<br><br>鍋嶋 麻奈    |              | ●             | ●           |                  | ●            |              |
|     | 新任 独立役員<br><br>濱 逸夫  | ●            | ●             |             | ●                |              |              |
|     | 新任 独立役員<br><br>濱島 健爾 | ●            | ●             | ●           |                  |              |              |

|     |  |  |   |  |   |  |   |
|-----|--|--|---|--|---|--|---|
| 監査役 | <br>加藤 達志         |  | ● |  |   |  | ● |
|     | 新任<br><br>片瀨 哲郎   |  | ● |  |   |  | ● |
|     | 独立役員<br><br>斉藤 雄彦 |  | ● |  |   |  | ● |
|     | 独立役員<br><br>朝比奈 清 |  |   |  | ● |  | ● |
|     | 独立役員<br><br>清田 宗明 |  |   |  | ● |  | ● |

※1 田邊弥氏、鍋嶋麻奈氏、加藤達志氏は2021年6月22日開催の第103期定時株主総会において新たに選任され、就任したため、就任後に開催された取締役会または指名諮問委員会または報酬諮問委員会または監査役会への出席状況を記載しています。

※2 鈴木健二氏、濱逸夫氏、濱島健爾氏、片瀨哲郎氏は2022年6月24日開催の第104期定時株主総会において新たに選任され、就任したため、2021年度の出席状況は記載していません。

役員情報（2022年6月24日現在）



取締役会の構成



各種委員会等の開催回数と役員の出席回数



## 役員報酬制度

取締役および執行役員の報酬体系は第三者機関の意見を取り入れて設計しており、報酬は基本報酬と賞与で構成されています。基本報酬は、報酬基準表に基づく固定報酬にて支給しています。賞与は、当社グループの業績ならびに各役員が担当する事業の業績予算達成率および個別の定性的評価を基にした業績連動の考え方にに基づき、支給しています。社外取締役については固定報酬のみとし、賞与は支給していません。代表取締役社長、常勤監査役と社外取締役を構成員とした報酬諮問委員会を設置しており、原則年1回開催し、報酬制度、報酬水準、報酬の妥当性等について審議の上、取締役会へ答申します。役員報酬については、取締役会で決定しています。なお、取締役の報酬額と賞与の総支給額は、株主総会において決議された総枠の範囲内としています。

### ①役員報酬等の決定方針の決定方法

当社取締役の個人別の報酬等の決定方針は、報酬諮問委員会において、毎期、その妥当性を審議したうえで、取締役会にて決定しています。報酬諮問委員会の審議においては、経営環境の変化や株主・投資家の皆様からのご意見等を踏まえるとともに、グローバルに豊富な経験・知見を有する第三者機関より審議に必要な情報等を得ています。

## ②役員報酬等の決定方針の変更点

当社は、2022年度からの新中期経営計画「Compass Rose 2024」の開始とあわせて、業績連動賞与の評価指標（KPI）を変更することとしました。具体的には、事業ポートフォリオの最適化と資本効率の向上ならびに株主利益の向上を目的として、従来のREP<sup>※1</sup>に替えてROICおよび当期純利益を選定するとともに、当社のサステナビリティをめぐる課題への対応を強化することを目的として、新たにESG第三者評価を選定することとしました。その他、役員報酬等の決定方針に関して、特に重要な変更等はございません。

### ■〔業績連動賞与の全社評価指標（KPI）〕

| 改定前（～2021年度）                  | 改定後（2022年度～）           | KPIの選定理由              |
|-------------------------------|------------------------|-----------------------|
| 連結売上高                         | 連結売上高                  | 企業規模の拡大               |
| 連結EBITDA                      | 連結EBITDA               | キャッシュの創出力向上と本業の収益性の向上 |
| 連結REP <sup>※1</sup> （経済的獲得利益） | 連結当期純利益                | 株主利益の向上               |
|                               | 連結ROIC                 | 事業ポートフォリオの最適化と資本効率の向上 |
| —                             | ESG第三者評価 <sup>※2</sup> | サステナビリティをめぐる課題への対応強化  |

※1 当社グループ独自の経営管理指標であり、NOPATから資本コスト（使用資本×WACC）を控除することにより算出。

※2 ESG第三者評価については、評価の客観性・公正性を担保するため、複数のESG評価機関の評価を活用します。具体的には、以下の3つとします。

| ESG第三者評価   | 選定理由  |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ FTSE4Good Index Series</li> <li>・ MSCI ESG Ratings</li> <li>・ CDP Climate Change</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ESGに関するリスクと機会の適切な管理</li> <li>・ 気候変動への対応強化</li> </ul> |

## ■ 役員報酬等の決定方針

### ①基本方針

|               |  |
|---------------|--|
| 取締役（社外取締役を除く） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当社グループの企業経営理念、サステナビリティ基本方針「二重レイの約束」、ならびに経営戦略に則した職務の遂行を強く促すものとする。</li> <li>・ 長期経営目標を実現するため、グループ重要事項（マテリアリティ）や中期経営計画等における具体的な経営目標の達成を強く動機づけるものとする。</li> <li>・ 当社グループの持続的な成長に向けた健全なインセンティブとして機能させるため、短期的な成果や職務遂行の状況等に連動する報酬（業績連動賞与）と中長期的な成果や企業価値に連動する報酬（株式報酬）の割合を適切に設定する。</li> <li>・ 当社グループが担う社会的役割や責任の大きさ、食品・物流業界をはじめとした当社グループとビジネスや人材の競合する他社の動向、ならびに経営環境の変化を勘案したうえで、当社の役員にふさわしい処遇とする。</li> </ul> |
| 社外取締役         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 独立かつ客観的な立場から当社の経営を監督するという役割に鑑みて、基本報酬（固定報酬）のみとする。</li> </ul>   |

### ②報酬構成・報酬水準

#### ■ 社外取締役を除く取締役の報酬

基本報酬（固定報酬）である「役割給」「取締役手当」および変動報酬である「業績連動賞与」「株式報酬」により構成します。報酬水準は、客観的な報酬市場調査データ（食品・物流業界をはじめとした当社グループとビジネスや人材の競合する企業の報酬水準）等を参考に、当社取締役の職責・員数、および今後の経営環境の変化等を勘案し、第三者機関の意見を取り入れたうえで、適切な金額に設定します。

● 社外取締役を除く取締役の報酬の割合の目安



| 報酬構成要素            | 目的・概要   |
|-------------------|---|
| 役割給               | 業務の執行（職務の執行）に対する基礎的な報酬<br>各取締役の役割の大きさに応じて設定   |
| 取締役手当             | 経営の意思決定およびその遂行を監督する職責に対する報酬<br>取締役について一律の金額で設定  |
| 業績連動賞与            | 毎期の財務目標・戦略目標の達成を動機づける報酬<br>目標達成時に支給する額（「基準額」）は役割給に対する割合で設定<br>目標達成度に応じて基準額の0～200%の範囲内で金銭を支給                 |
| 株式報酬<br>（譲渡制限付株式） | 長期視点・グループ全体視点ならびに株主・投資家視点の経営を促すための報酬<br>毎期交付する株式の価値（「基準額」）は役割給に対する割合で設定<br>毎期、基準額相当の譲渡制限付株式を交付し、退任時に譲渡制限を解除 |

■ 社外取締役の報酬

基本報酬（固定報酬）のみとします。報酬水準は、各社外取締役に期待する役割・機能を果たすために費やす時間・労力ならびに客観的な報酬市場調査データ（当社と業態や規模が類似する企業の報酬水準）等を勘案したうえで、適切な金額に設定します。

③業績連動賞与

業績連動賞与として個人別に支給する金銭の額は、全社業績、事業業績、個人業績の目標達成状況等に応じて、役職別基準額の0～200%の範囲で変動します。

個人別賞与支給額 = 役職別基準額 × 業績評価係数（0～200%）

業績評価係数 = 全社業績評価係数（a） + 事業業績評価係数（b） + 個人業績評価係数（c）

| 評価ウエイト    | (a) 全社業績評価 |        |       |      |     | (b) 事業業績評価 |        |      | (c) 個人業績評価 |
|-----------|------------|--------|-------|------|-----|------------|--------|------|------------|
|           | 売上高        | EBITDA | 当期純利益 | ROIC | ESG | 売上高        | EBITDA | ROIC |            |
| 代表取締役     | 100%       |        |       |      |     | -          |        |      | -          |
|           | 10%        | 40%    | 10%   | 20%  | 20% |            |        |      |            |
| 取締役（事業担当） | 60%        |        |       |      |     | 30%        |        |      | 10%        |
|           | 10%        | 20%    | 10%   | 10%  | 10% | 5%         | 15%    | 10%  |            |
| 取締役（機能担当） | 70%        |        |       |      |     | -          |        |      | 30%        |
|           | 5%         | 30%    | 5%    | 15%  | 15% |            |        |      |            |

④報酬決定手続き

取締役の個人別の報酬等に関する事項は、その妥当性と客観性を確保するため、独立社外取締役を中心とした報酬諮問委員会の審議・答申を経て、取締役会において決定します。

2021年度の役員報酬等の額は第104期有価証券報告書に記載しています。



## ■ 2021年度 役員報酬等の総額

| 役員区分          | 報酬等の種類別の総額（百万円） |            |            | 報酬等の総額<br>（百万円） | 対象となる<br>役員の員数<br>（人） |
|---------------|-----------------|------------|------------|-----------------|-----------------------|
|               | 基本報酬            | 業績連動賞与     | 譲渡制限付株式報酬  |                 |                       |
| 取締役（社外取締役を除く） | 259<br>(159)    | 69<br>(40) | 80<br>(80) | 409<br>(280)    | 8<br>(8)              |
| 社外取締役         | 40              | -          | -          | 40              | 4                     |
| 監査役（社外監査役を除く） | 48              | -          | -          | 48              | 3                     |
| 社外監査役         | 32              | -          | -          | 32              | 3                     |
| 合計            | 380<br>(280)    | 69<br>(40) | 80<br>(80) | 529<br>(401)    | 18<br>(18)            |

※1 上記には、2021年6月22日開催の第103期定時株主総会終結の時をもって退任した取締役1名及び常勤監査役1名、2022年1月17日付で辞任により退任した取締役1名を含んでおります。

※2 上記の報酬等の総額は連結報酬等（当社及び当社子会社が支払った又は支払う予定の若しくは負担した費用等の合計額）として記載しております。取締役（社外取締役を除く）については、括弧内の金額が、当社が負担する報酬等の総額となります。社外取締役及び監査役については、連結報酬等の総額の全額が当社が負担する報酬等の総額となります。合計については、括弧内の金額が、当社が負担する報酬等の総額となります。

※3 上記「基本報酬」の額は、2021年度に支払った報酬等の合計額（全額金銭報酬）となります。

※4 上記「業績連動賞与」の額は、2021年度の業績等の結果を踏まえて、2022年6月に支給する見込みの額（全額金銭報酬）となります。

※5 上記「譲渡制限付株式」の額は、2021年度に費用計上した金額の合計額です。2021年度は、取締役（社外取締役を除く）7名に対して、金銭報酬債権を付与し、当該債権の全部を当社に現物出資させることにより、当社普通株式27,770株を株式報酬として交付しました。当該株式の交付にあたっては、当社役員としての地位を退任するまで譲渡しないこと等を条件としております。

※ 当社は取締役を兼務しない執行役員に対して取締役と同様の譲渡制限付株式報酬制度を導入しており、2021年度は執行役員4名に対して当社普通株式を9,748株交付しました。

※6 株主総会でご承認いただいております取締役及び監査役の報酬等の上限金額等は以下のとおりです。

| 役員区分 | 株主総会決議日                 | 基本報酬                     | 業績連動賞与   | 譲渡制限付株式 |       | 役員の員数         |
|------|-------------------------|--------------------------|----------|---------|-------|---------------|
| 取締役  | 2019年6月25日(第101期定時株主総会) | 2億7千万円以内(うち社外取締役：5千万円以内) | 1億3千万円以内 | 1億円以内   | 7万株以内 | 10(うち社外取締役：3) |
| 監査役  | 2012年6月26日(第94期定時株主総会)  | 1億2千万円以内                 | -        | -       | -     | 5(うち社外監査役：3)  |

※ 取締役の報酬等の上限金額には、使用人兼務取締役の使用人分の給与は含まれておりません。

有価証券報告書2022 > 2021年度 役員報酬等の総額



取締役及び監査役の報酬等の額 第104期定時株主総会招集ご通知 P33



## ■ 実効性評価

### 取締役会評価の状況

当社の取締役会は、その実効性を担保するために、必要に応じて外部専門家の支援を受けながら、取締役会の運営状況などに関する分析・評価を行い、その結果の概要を開示することとしています。

|                    |  |
|--------------------|--|
| <b>評価の実施方法</b>     | 対象者：取締役、監査役（計15名）<br>時期：2022年1月から2月<br>手法：外部専門家に委託してアンケートを実施する第三者関与の自己評価方式   |
| <b>2021年度の評価結果</b> | 昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響により取締役会の運営方法が変更された中での開催ではあるものの、発言しやすい雰囲気の中で自由闊達な議論が行われており、また取締役会での議論をより充実したものとするための取り組みとして、取締役会資料の内容および提供時期についてさらなる工夫・改善が進められているなど、全体として当社取締役会の実効性は相当程度確保されているという肯定的な意見が多く見られました。 |

## ■ 対応すべき課題

| 抽出した課題               | 評価・意見   | 今後について  |
|----------------------|---|---|
| <b>1. 機関設計</b>       | 現在の監査役会設置会社であることに問題を感じないとの意見や他の機関設計への移行の必要性を感じないとの意見が大半であるものの、機関設計の在り方に関するメリット・デメリットを整理したうえで検討を行う必要があるとの意見や、今後の事業環境の変化も踏まえて、監査役会設置会社以外の機関設計への移行を検討する必要があるとの意見も複数ありました。                    | 現時点では機関設計の変更は必ずしも必須事項とは考えていないものの、2022年5月開催の指名諮問委員会において、経営戦略、今後の事業環境の変化およびコーポレートガバナンス・コードの要請等を踏まえた、現在の監査役会設置会社という機関設計の有効性に関する検討について、引き続き、中長期的な課題として取り組むことを確認しました。今後については指名諮問委員会において、監査役会設置会社とそれ以外の機関設計との比較検討も含めて、議論を具体化・活性化させ、取締役会で適宜報告・審議することとしました。   |
| <b>2. 取締役会の付議事項</b>  | 取締役会の付議事項については適切であると評価する意見が複数見られた一方で、取締役会の議題が多く、各議題の審議に十分な時間をかける結果、取締役会が長時間化しつつあることも懸念されており、付議事項の見直し（さらなる絞り込み）を行ってもよいのではないかとの意見もありました。また、取締役会の役割の一つとして、中長期的な経営戦略の方向性を定めることを挙げる意見も複数ありました。 | コーポレートガバナンス・コードにおいて取締役会の役割・責務として掲げられている「企業戦略等の大きな方向性を示すこと」など、取締役会で審議すべき重要度の高い付議事項について、開催時間の長時間化を避けつつ、さらに十分な審議時間を確保するために、年間付議スケジュールを作成し、現行の付議事項をあらためて整理することとしました。また、上記で述べた、機関設計の検討とともに、付議事項の見直しも検討することとしました。   |
| <b>3. 取締役会の規模・構成</b> | 取締役会の規模や構成については、全体として適切であるとの評価でした。一方で、女性役員（特に女性の社内取締役）を増やすべきとの意見が多く見られ、女性の社内取締役がないことに特に問題意識を持つ役員が多くいました。また、社外取締役として、学識経験者にも加わってほしいとの意見があったほか、DX分野に精通した人物を求める声も複数ありました。                    | 当社は、スキル・マトリックスの策定を通じて当社の経営戦略に照らした取締役会が備えるべきスキル等を特定し、コーポレートガバナンス報告書の記載の一部として開示しています。また、長期経営目標「2030年の姿」の実現に向け特定した重要事項（マテリアリティ）のうち「多様な人財の確保と育成」のKPIとして「持株会社の女性管理職比率30%」を設定、取り組みを推進しています。このように母集団となる女性管理職の登用を進めることで女性の社内取締役の選任、取締役会メンバーの多様性の確保につなげ、経営戦略、事業環境の変化等に応じて、スキル・マトリックスを適宜見直し、取締役会の規模・構成を継続的に検討することとしました。 |
| <b>4. 役員トレーニング</b>   | 当社の取締役会の役割を果たすための役員トレーニングの機会については、基本的な研修の機会が設けられていること等から適切であるとの評価が多くあった一方で、外部環境の激しい変化に合わせた知識習得・研鑽の機会の提供を望む意見が複数あるなど、本年度においては、トレーニングや知識習得の機会は必ずしも十分ではないとの意見も見受けられました。                      | 外部環境の変化等に伴い必要となる知識を適宜特定したうえで、その知識習得・研鑽の機会の提供を継続的に検討することとし、一例として、当社の重要課題であるサステナビリティ経営に関する外部専門家による勉強会を企画し、本年中に計5回開催することとしました。   |



### ■ 有意義な議論を行うための取り組み

当社は、社外役員と有意義な議論を行うために、取締役会の資料は、会日の3日前までに各取締役および各監査役に配布しています。なお、独立社外取締役や独立社外監査役の指示を受けて会社の情報を的確に提供できるよう社内との連絡・調整が必要となる場合には、担当秘書が窓口となり、社内の関連部署と必要な連携が取れるようにしています。

取締役または監査役が新たに就任する際は、会社法およびその他の関連法令、経営戦略、財務分析などに関する研修を必要に応じて行い、就任後も法改正や経営課題に関する研修を適宜実施します。また、社外役員に対しては、当社グループの事業概況の説明や主要拠点の視察を必要に応じて実施します。

### ■ 政策保有株式の考え方

政策保有株式については、取引・協業関係の維持・強化などを通じて当社の企業価値向上に資すると判断した場合のみに保有します。また、取締役会で毎年、個別の政策保有株式について中長期的な経済合理性などを検証し、保有意義が薄いと判断する株式は売却します。検証にあたっては、取引上の利益・配当金等の便益やリスクが資本コストに見合っているかを個別に精査したうえで、戦略的な重要性などの定性的評価も勘案し総合的に判断します。

政策保有株式の議決権行使については、すべての議案内容を確認し、投資先企業が次のいずれかの項目に該当する場合には、個別に精査したうえで判断します。

- (1) 株主価値の毀損につながる行為がある場合
- (2) 業績や株価が著しく悪化している場合
- (3) その他議案に賛成することに重大な疑義がある場合

# コンプライアンス/内部統制

## 基本的な考え方

### 内部統制についての考え方

当社グループは、「業務の有効性と効率性の向上」「財務報告の信頼性確保」「事業活動に関わる法令等の遵守」「資産の保全」を図るため、内部統制システムを整備・運用していくことが、企業価値の向上につながるものと認識しています。

当社は、会社法に基づく「取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務ならびに当該株式会社およびその子会社からなる企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして法務省令で定める体制の整備」として、内部統制システムの基本方針を下記のとおり定めていますが、経営環境の変化などに対応するために毎年見直し、改善に努めています。

内部統制システムの基本方針



最新の内部統制報告書



### コンプライアンスについての考え方

ニチレイグループは、事業を展開する各国の法令や社会規範を遵守し、倫理性の高い事業活動を推進するために、さまざまな取り組みを行っています。役員・従業員が法令や定款を守り、企業倫理に即して行動するための指針となる「グループ倫理規程」を制定し、ニチレイグループで働くすべての人々が遵守すべき基本的事項を「行動規範」として定め、コンプライアンスの徹底を図っています。

「行動規範」には国際的なコンプライアンスの視点で重要と判断される「インサイダー取引の禁止」「反社会的勢力との関与、取引の禁止」など腐敗防止に関する事項も含まれています。コンプライアンス経営の理念および体制がより浸透するように、役員・従業員を対象としたコンプライアンス研修を実施しています。

#### ニチレイグループの行動規範

1. 人権の尊重・労働に関する法令の遵守
2. 環境保全への取り組み
3. 法令および社内規程の遵守
4. 会社財産の管理と保全
5. 会社財産の私物化の禁止
6. インサイダー取引の禁止
7. 財務情報の信頼性の確保
8. 情報の管理と利用
9. 会社の利益と相反する個人の行為の禁止
10. 公務員、取引先などとの不当な利益の授受の禁止
11. 反社会的勢力との関与、取引の禁止
12. 行動規範の遵守と報告・相談について



## マネジメント体制

### マネジメント体制

#### ■ コンプライアンス意識を強化・徹底するために

当社グループの社内規程は、会社が組織的、効率的に運営されるために必要なルールを明文化したものであり、会社のガバナンスや内部統制上不可欠なものであり、当社グループで働くすべての人が正しく理解し遵守しなければなりません。この考え方にに基づき、行動規範の遵守を取締役会が監督しながら、コンプライアンスや腐敗防止の取り組みを全社的に行っていきます。

具体的には、すべての従業員が法令や定款を守り、企業倫理に即して行動するための指針や具体的な事例を明示した「行動規範」および「行動規範事例集」を作成し、配布しています。また、行動規範等におけるコンプライアンス経営の理念および体制が、社内により浸透するように、行動規範の内容に関する事例集を用いて従業員および新入社員を対象とした研修を実施しています。具体的な事例に基づき行動規範の内容を学ぶことにより、従業員や新入社員のコンプライアンス意識の啓発および周知徹底を図っています。行動規範やコンプライアンスの取り組みについては、その有効性を定期的に評価し、必要に応じて改正・改善を行ってまいります。

#### ■ 内部通報・相談制度

法令や定款・社内規程に違反する行為、社会規範上問題のある行為などに関して、従業員からの通報・相談に応じるため、2003年10月に内部通報・相談制度（ニチレイ・ホットライン）を導入しました。2015年度には、コーポレートガバナンス・コードが求める「経営陣から独立した内部通報窓口」に対応した制度改正を行い、監査役や社外役員によるモニタリングおよびチェック機能を導入いたしました。2022年には、同年6月の改正公益通報者保護法の施行に伴い、改正法の趣旨に沿い、政府の指針に準拠してあらためて制度設計を見直しました。通報者保護や守秘義務の強化、通報者の範囲拡大など、対応体制の再整備を行っています。

役員・従業員への制度周知のため、全国の各事業場には周知ポスターを掲出し、「ニチレイ・ホットライン」携帯カードを全役員・従業員に配布しています。ニチレイ・ホットラインで受けつけたすべての通報・相談は、グループ内部通報規程の定めに従い、事務局が事実確認のための調査を行い、必要な場合は是正処置を施しています。通報者は匿名性が確保され、会社や通報の対象となった者などからの報復行為を含む不利益な取り扱いは一切禁止されています。また、通報者が求める場合には事務局からフィードバックを受けることができます。

内部通報・相談の対応状況については、定期的に取り締役に報告され、適切に運用されているかモニタリングしています。

**ニチレイ・ホットライン**  
ニチレイ (内部通報)

**ニチレイ・ホットラインとは?**

コンプライアンスの確立及び強化を目的とした制度です。ニチレイグループで働くすべての人(役員、社員、嘱託、臨時員、パート社員、派遣社員)を対象としており誰でも利用できます。

**《 受付対象 》**

- ① 企業経営理念に反する行為
- ② 行動規範等の各規程類に反する行為
- ③ ハラスメントにあたる行為

上記のような不正行為・違法行為が発生した場合、発生を見聞きした場合、発生する恐れがあると思われる場合

#### 内部通報・相談先

受付窓口：ダイヤル・サービス株式会社(ニチレイ委託先)

① TELの場合 フリーダイヤル **0120-** [ ]

受付時間:月曜～金曜12:00～21:00、土日・祝日9:00～17:00(12/29～1/4を除く)

② WEBの場合 <http://www.dial-soudan.jp/et/nichirei/>

③ FAXの場合 フリーダイヤル **0120-** [ ]

通報者のプライバシーや秘密は、規定により保護されます。通報・相談したことを理由に不利益な扱いを受けることは一切ありません。

ニチレイ・ホットラインのカード

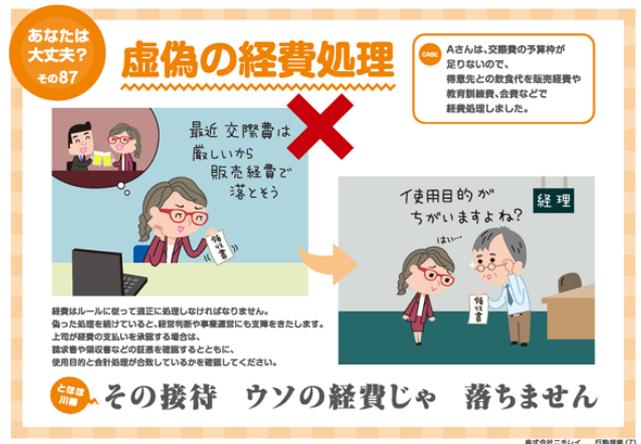


## コンプライアンスの徹底への取り組み

ニチレイグループは、役員・従業員の高い倫理観によって、広く社会から信頼され、好感を寄せられる企業として存続・発展していくことを目指しています。役員・従業員一人ひとりの倫理観の醸成に関しては、従業員手帳の冒頭に企業経営理念やニチレイの約束に加えて「行動規範」を掲載し、役員・従業員の行動の拠り所として、いつでもどこでも確認できるようにしています。

また、行動規範の具体的な事例を示した「行動規範事例集」をイラストを用いてわかりやすく解説した啓発用スライド「あなたは大丈夫？」シリーズを作成し、毎月社内イントラネットに掲載しています。

そのほか、グループ教育訓練規程に基づき、各種eラーニングを実施し、教育・啓発を行うなど、コンプライアンス教育を継続して行っています。



啓発用スライド「あなたは大丈夫？」シリーズ

eラーニング実施状況

### ニチレイグループグローバルガバナンス基本規程の制定

ニチレイに以前からあったポリシーや規程をベースに、海外子会社向けにわかりやすくまとめ直した「ニチレイグループグローバルガバナンス基本規程」を2021年に制定しました。日本と海外では法律も文化も異なり、また、M&Aによって買収した会社にはそれぞれ築き上げてきた企業風土があることから、各社の自主性を尊重しつつ、ニチレイとして一番大事な概念だけを盛り込んだものがこの規程です。日本語、英語、中国語、ベトナム語、ポルトガル語の5言語に対応し、順次適用と周知・運用を進めています。これにより、「2030年の姿」である海外売上高比率30%の実現へ向け、海外子会社のガバナンス体制の強化を図っていきます。





# リスクマネジメント

## 基本的な考え方

### 基本的な考え方

当社グループは、事業活動を行ううえでのさまざまなリスクを、全体的視点から合理的かつ最適な方法で管理し、当社グループの企業価値を最大化するため、代表取締役社長を委員長とするグループリスクマネジメント委員会を設置しています。委員会がグループ全体のリスクの識別・評価を行い、構築したリスクマネジメントサイクルに基づき、当社および各事業会社は自主的に対応するとともに、重要な事項については当社の取締役会等への報告のうえ対応を協議します。

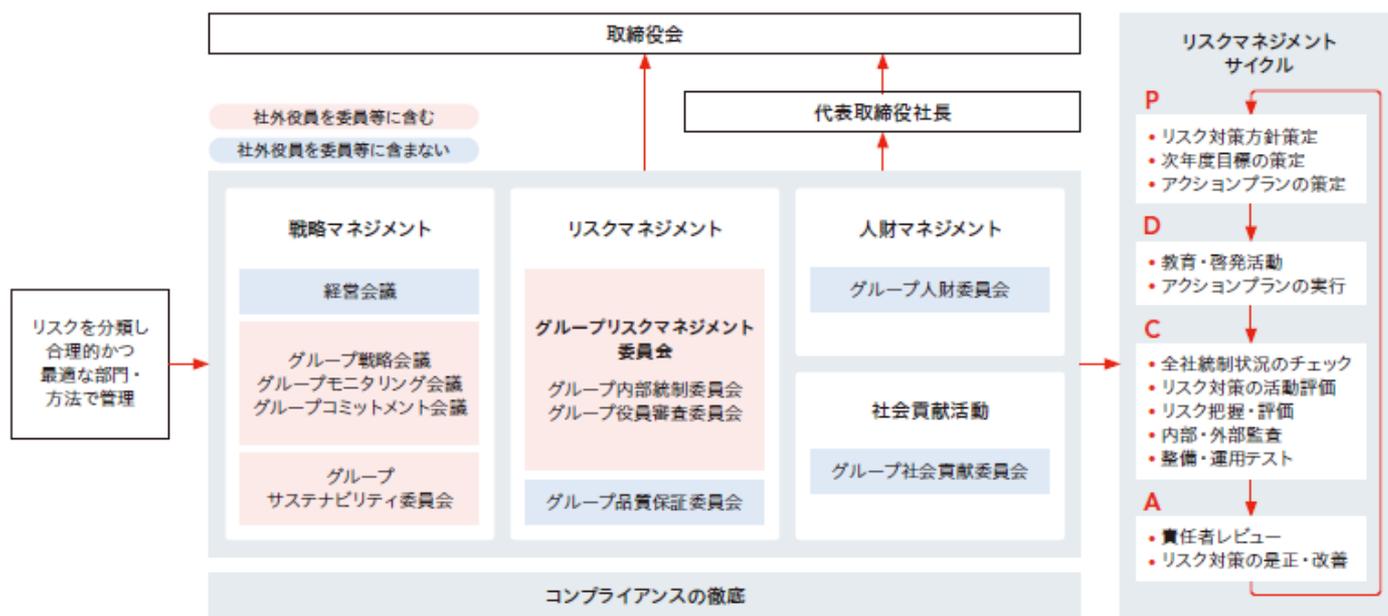
リスクマネジメントの考え方



## マネジメント体制

### マネジメント体制

さまざまなリスクを未然に防ぐためには、従業員一人ひとりの行動が重要であると考え、環境・社会・ガバナンスの各領域のコンプライアンスや倫理的行動に関わる、12カ条からなる行動規範を制定（2014年に内容を改訂）し、周知徹底を図り、コンプライアンス違反等のリスク低下に努めています。グループリスクマネジメント委員会においてグループ全体のリスク(ESG含む)の識別・評価を行い、グループのリスクマネジメントの仕組みを整備しています。リスクマネジメントのプロセスにおいて特定された重要なリスクについては、持株会社の取締役会へ報告のうえ対応を協議します。



コンプライアンス（行動規範の周知・教育活動）



| リスク項目             | リスク  | 対応・取り組み  | マネジメント体制   |
|-------------------|--|--|--|
| 1.経済状況および事業環境     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（国内市場）人口減少に伴う長期的な総需要の縮小／世帯構成・ライフスタイルの変化を背景とした新たな需要</li> <li>・（海外市場）経済成長などを背景とした地域ごとに異なるニーズの拡大</li> <li>・持続可能な社会の実現に向けた期待と要請の高まり</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・イノベーションの推進、社会課題を解決する新たな価値の創造</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略マネジメント</li> </ul>                        |
| 2.ウクライナ情勢         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・金融市場への影響</li> <li>・エネルギー価格の上昇、サプライチェーンへの影響</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情勢を注視し、事業活動に及ぼす影響を最小化</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略マネジメント</li> </ul>                        |
| 3.新型コロナウイルス感染症の影響 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらなる世界経済の停滞やサプライチェーンの混乱</li> <li>・当社グループ内での感染者発生による事業活動中断</li> <li>・国際的な労働者の移動制限による労働力不足</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員の健康と安全を最優先した各種感染症対策の実施</li> <li>・先端技術を活用した自動化の推進</li> <li>・人々の生活様式や価値観の変化に伴う新たな事業機会の創出</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略マネジメント</li> <li>・リスクマネジメント委員会</li> </ul> |
| 4.食品に関する品質問題      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生基準、農薬・動物用医薬品残留基準の超過、異物混入、特定家畜伝染病など、食品に関する品質問題の発生</li> <li>・大規模な商品回収の発生</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品安全マネジメントシステムの導入</li> <li>・適切な原材料・商品の品質・生産管理、トレーサビリティシステム、フードディフェンス、要員の育成・適正配置</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・品質保証委員会</li> </ul>                         |
| 5.多様な人材の確保および育成等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な人材の確保と育成</li> <li>・少子高齢化に伴う労働力不足への対応</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・働く環境の整備や生産性の向上</li> <li>・健康経営の推進</li> <li>・人的資本への投資</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人財委員会</li> </ul>                           |
| 6.情報セキュリティ        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務上使用するシステムにおける運用上のトラブルやサイバー攻撃などによるシステムの停止・重要情報の漏洩や改ざんなど</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイアウォール、侵入検知システム、認証システムの整備</li> <li>・社内規程類の整備、eラーニングなどによる従業員への教育、情報システム管理体制の整備</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクマネジメント委員会</li> </ul>                    |
| 7.商品や原材料等の価格変動    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市況や作柄による原材料価格の大幅な変動（畜産品・水産品など）</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産性向上などによるコストダウン</li> <li>・提供価値を高めた商品の開発、差別化商品の拡大</li> <li>・需給バランスに沿った調達・販売</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略マネジメント</li> </ul>                        |
| 8.原油価格等の変動        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・原油価格などの高騰による電力料・軽油・重油など燃料調達費用の増加、商品・原材料の調達コストの増加</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新技術の導入や業務改善などによるコストダウン</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略マネジメント</li> </ul>                        |
| 9.為替変動の影響         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・米国ドル、タイバーツ、ユーロなどの変動による商品や原材料の調達価格の変動、および海外子会社業績の為替換算影響</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・為替予約取引の実施など</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略マネジメント</li> </ul>                        |
| 10.法規制等の変更        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外における法規制・ソフトローの変更</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各国・地域の法規制等の動向の注視、コンプライアンスの徹底</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略マネジメント</li> </ul>                        |

| リスク項目        | リスク  | 対応・取り組み   | マネジメント体制   |
|--------------|--|---|--|
| 11.持続可能な食の調達 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サプライチェーン上の人権や労働環境への配慮、天然水産資源の管理、食品ロスの削減、海洋プラスチック問題の解決などに対する社会的要請の高まり、法規制・ソフトウェアの変更や新設</li> <li>・ 不十分な取り組みあるいは取り組みが不十分と見なされた場合の原材料などの安定調達への支障や、社会的信用の毀損</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持続可能な調達方針、サプライヤー行動規範・ガイドラインの整備、お取引先様へのESGアンケートの実施</li> <li>・ MSC・ASC認証水産物の取り扱い、持続可能なパーム油の調達への取り組み、循環型農畜産の養鶏事業への取り組みなど</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サステナビリティ委員会</li> </ul>  |
| 12.気候変動      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温室効果ガスの排出削減に向けた社会的要請、炭素税の賦課などの政策や規制強化（当社は冷凍・冷蔵技術を基盤とし、電力を中心にエネルギーを消費）</li> <li>・ 地球温暖化に伴う気温の上昇および異常気象の発生による原材料調達、生産、物流などのサプライチェーンへの影響</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フロン冷媒から自然冷媒等への切り替え、太陽光発電設備の導入やグリーン電力証書の購入などの再生可能エネルギーの活用</li> <li>・ TCFDの提言に準じた継続的な気候変動の影響評価および情報開示</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サステナビリティ委員会</li> </ul>  |
| 13.大規模自然災害   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巨大地震や局地的な暴風雨などによる、当社グループ拠点および近隣の道路・港・鉄道などへの甚大な被害の発生、あるいは市場の縮小、サプライチェーンの寸断、営業活動の制限など</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 耐震補強工事、非常用発電機の配備、従業員安否確認システム、防災マニュアル・事業継続計画（BCP）の整備、データセンターの複数拠点化など</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リスクマネジメント委員会</li> </ul> |
| 14.技術革新      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタル技術やフードテックの急速な進展など、技術革新による当社グループの持つ技術や提供する商品・サービスの競争力の低下</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタル技術やデータ活用による業務プロセスの変革、イノベーションの推進</li> <li>・ ISO56002に基づいたイノベーション・マネジメントシステムの運用</li> </ul>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦略マネジメント</li> </ul>     |
| 15.固定資産の保有   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物流センターでの荷主企業の移転や道路交通網の変化等を原因とした立地条件の悪化による減損</li> <li>・ 生産工場での設備の老朽化・陳腐化や販売不振による減損</li> <li>・ 出資時の事業計画からの乖離の発生によるのれんや投資有価証券の減損・評価減</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投資起案時の検討項目や事後検証ルールの明確化</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦略マネジメント</li> </ul>     |
| 16.政策保有株式    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 政策保有株式の時価や発行会社の財政状態の大幅な変動</li> </ul>  | <p style="text-align: center;">政策保有株式の考え方 </p>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取締役会へ毎年報告</li> </ul>    |

## 取組みの状況

### 事業継続計画（BCP）の取組み

#### ■ 従業員の安全確保

##### グループ対策本部（新型コロナウイルス感染症対応）の設置

2020年1月、新型コロナウイルス感染症に対応するため、社長を本部長とする二チレイグループ対策本部を設置しました。二チレイグループ全体の情報収集・分析・共有を行うとともに、事業継続の視点に立った感染防止対策として、2020年1月から2022年7月までに50回に及ぶ指示・通達を発信しています。従業員の感染防止と事業活動の両立を図るための危機管理体制を構築しています。

## 災害時等の安否確認

ニチレイグループ全体で、安否確認システムを導入しています。震度5強以上の地震などの災害等が発生した場合に、安否確認メールや現地情報を入力する旨のメールが従業員に一齐送信され、それらの情報が専用ホームページで閲覧および集計できるなど、情報共有を迅速に行えるシステムです。

## ■ 情報システムのBCP

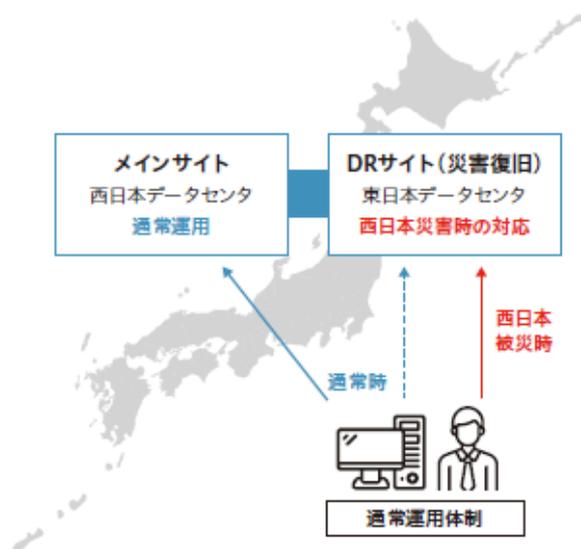
当社グループの主要な基幹システムは、事業継続を目的としてディザスタリカバリ（以下、DR）を含め冗長化しております。具体的な事例は以下のとおりです。

### 物流基幹システムのBCP対応の強化

ニチレイロジグループでは、リスクマネジメントの一環として、2018年2月より物流基幹システムのBCP対応の強化を図りました。一極集中となっていたデータセンタの被災を想定して、迅速な事業継続を可能とするDRを構築しました。大規模災害の発生時、メインサイトからDRサイトに切り替える「2拠点化」を実現することにより、速やかに業務復旧を進めることができます。

DR発動からオンライン再開までの時間は約1時間と、さまざまな状況下でお客様の業務や食品物流に影響を与えない最大限の配慮がなされています。取引先の事業継続にも寄与することを目指し、食品物流のライフラインとして先進的な取り組みを実践していきます。

### 物流基幹システムBCP概念図



## ■ 事例 ニチレイロジグループでの事業継続計画（BCP）の取り組み

### ニチレイロジグループでのBCPの取り組み

近年自然災害により各地で甚大な被害が発生しており、ニチレイロジグループでは地震・津波、台風等風水害に関し事業継続計画（BCP）を策定し、従業員等の安全確保、取扱貨物の保全を優先したリスクマネジメントを行っています。毎年台風シーズン前には、「台風等災害発生予測時の対応について」の文書をホームページで発信するとともに、取引先様に臨時休業・営業時間の変更を行う場合の対応についてご案内しています。また、新型コロナウイルス対応については、事業所での感染防止対策の実施だけでなく、時差出勤・テレワークの推進やサテライトオフィスの開設など勤務方法の変革にも取り組み、従業員の安全確保と事業継続の両立を図っています。



# ステークホルダーエンゲージメント

## 方針・基本的な考え方

### 基本的な考え方

ニチレイグループは、グローバルに展開する事業活動において、さまざまなステークホルダーとの対話が重要だと認識しています。ステークホルダーとのさまざまなコミュニケーション活動や情報開示を通じて当社事業への理解を促進するとともに、当社へいただいたご期待やご意見を事業活動へ反映し、長期的な信頼関係を構築することで、企業価値の向上を目指します。

| ステークホルダー  | 目的  | 認識している課題   | コミュニケーション手段・方法   | 頻度   |
|-----------|---|--|--|--|
| お客様       | 生活者の皆様からいただくご意見やお申し出に対し迅速かつ適切にそして真摯に対応することで、お客様のご満足とコーポレートブランドの向上を目指す | <ul style="list-style-type: none"> <li>商品やサービスについての品質保証</li> <li>適切な情報提供</li> <li>食のおいしさや豊かな食シーンの提供</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>お客様相談センター</li> <li>お客様満足度（CS）調査</li> <li>ウェブサイト</li> <li>ソーシャルメディア</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常的</li> <li>年1回</li> <li>都度</li> <li>都度</li> </ul>   |
| 株主・投資家    | 適時・適切な企業情報を開示することにより当社への理解促進を図り、企業価値向上につなげる                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>企業価値の維持・向上</li> <li>適正な利益還元</li> <li>適時適切な情報開示</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>株主総会</li> <li>決算説明会</li> <li>事業説明会・施設見学会</li> <li>国内外投資家との個別面談</li> <li>IRサイト</li> <li>ESGサイト</li> <li>統合レポート</li> <li>株主通信</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>年1回</li> <li>年4回</li> <li>年1回</li> <li>都度</li> <li>都度</li> <li>都度</li> <li>年1回</li> <li>年2回</li> </ul>                                      |
| ビジネスパートナー | サプライチェーンにおけるビジネスパートナーと、強固で良好な関係を長期的に安定して維持していくことを目指す                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>サステナブル調達</li> <li>カスタマーインティマシーによる相互発展</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>サプライヤーへのサステナブル調達に関するアンケートの実施</li> <li>ビジネスパートナーを招待しての会合やセミナーの開催</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>2018年～調査継続中</li> <li>年1回（3事業会社で実施）</li> </ul>   |
| 従業員       | 従業員のモチベーションの向上と活力ある組織風土の醸成を目指すとともに良好で継続的な労使関係を保つ                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>労働安全衛生</li> <li>働きがいの向上</li> <li>働き方改革</li> <li>健康経営</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>内部通報窓口の設置</li> <li>EAP心の相談窓口の設置</li> <li>労使協議会</li> <li>安全衛生委員会</li> <li>経営層と従業員との座談会</li> <li>広報誌</li> <li>イントラネット</li> <li>社員表彰制度</li> <li>従業員満足度（ES）調査</li> <li>従業員ストレスチェック</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>24時間</li> <li>24時間</li> <li>年2回</li> <li>月1回</li> <li>年1回（全事業所）</li> <li>年4回</li> <li>日常的</li> <li>年1回</li> <li>年1回</li> <li>年1回</li> </ul> |

| ステークホルダー     | 目的  | 認識している課題   | コミュニケーション手段・方法   | 頻度   |
|--------------|---|--|--|--|
| 地域社会         | 地域社会との良好な関係を築くことで、好感と信頼を寄せられる企業として長期で円滑な事業を営むことを目指す                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会との共生</li> <li>・地域環境の保全</li> <li>・地域教育活動</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会貢献活動</li> <li>・地域行事への参加</li> <li>・ボランティア活動</li> <li>・食育活動（エシカル消費）</li> <li>・食品工場や物流倉庫の見学会</li> <li>・スポーツイベントの開催</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・都度</li> <li>・都度</li> <li>・都度</li> <li>・都度</li> <li>・都度</li> <li>・都度</li> </ul>   |
| 業界団体・NGO・NPO | 業界団体の協議会などへ積極的に参加することにより、他社との連携を図る。また、国内外のさまざまなNGO・NPOとの連携や協働により社会課題の解決を目指す | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権</li> <li>・気候変動</li> <li>・フードロス</li> <li>・持続可能な食の調達</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・TCFDコンソーシアム</li> <li>・（一社）日本冷凍食品協会</li> <li>・（一社）日本冷蔵倉庫協会</li> <li>・（一社）大日本水産会</li> <li>・WWF（自然保護）</li> <li>・RSPO（持続可能なパーム油）</li> <li>・（認定NPO）経済人コーポラティブ会日本委員会</li> <li>・ザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム</li> <li>・国連グローバルコンパクト</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・都度</li> <li>・都度</li> <li>・都度</li> <li>・都度</li> <li>・都度</li> <li>・年1回</li> <li>・都度</li> <li>・都度</li> <li>・都度</li> </ul> |

## 取組みの状況

### 社有資産の活用による貢献

#### 小笠原諸島父島

小笠原諸島の父島にニチレイの源流となる製氷会社のひとつである日東製氷株式会社が製氷工場を設置していました。敗戦後の米国による小笠原接収をめぐりぬけ、昭和43年の日本への返還とともに、この土地と建物はニチレイの所有地として登記されました。父島ではタコノキの葉を使ったタコノキの葉細工やフラダンスサークル等の地域活動が盛んです。その活動場所として利用していただくと考え、残存していた建物を解体の上、工場跡地に芝を張り、きれいに整備しました。



#### 裏磐梯

社有資産の活用による貢献 > 裏磐梯



### ニチレイフーズの食育活動

ニチレイフーズでは、子どもたちの健やかな未来のために、さまざまな食育活動を進めています。毎日の生活の中で、「食」はいのちと深く関わる大切な存在。豊かな食生活は、カラダだけではなく心も健やかに育みます。子どもたちが健やかに育つには、「食」の大切さの気づきや、「食」についてのさまざまな知識、そして「食」を選ぶ力が欠かせません。ニチレイフーズでは、子どもたちと一緒に「食」について学び、考え、実践するさまざまな取組みを行っています。

#### ニチレイフーズの食育活動



### 「食品開発センター」キッザニア東京、キッザニア甲子園

#### キッザニア東京、キッザニア甲子園にパビリオンを提供



### 出張工場見学

コンセプトは、見る！学ぶ！楽しく！ニチレイフーズの社員が講師となり、小学生を対象に、リアルな動画とパワーポイントを使って、冷凍食品（本格炒め炒飯®や今川焼など）ができるまでの製造工程を分かりやすく紹介します。実際の工場見学でも見られないような映像や冷凍食品クイズを盛り込みながら楽しく学べるプログラムです。ニチレイフーズのていねいなものづくりへの想いと冷凍食品の良さを子どもたちに伝えたいと考えています。2019年度は52回の出張工場見学を実施し、1,700名の児童が参加し、ときに笑顔で、ときに真剣な眼差しで動画に見入っていました。



### 五味の識別テスト

甘味・酸味・塩味・苦味・旨味の「味」を感じる五味テスト体験と題して、味はどのように感じるか？冷凍食品とは？というテーマで講義をし、五味の識別テストを体験して頂く、食育プログラムです。2019年度は11回実施し、400名以上の方に参加いただきました。  
※公募はしていません

### FamilyApps

親子で楽しめるスマートフォン向けアプリケーション「FamilyApps」に、ニチレイフーズの冷凍食品を活用したお弁当づくりができる「ニチレイの美味しいお弁当をつくらう!」を配信しています。子どもたちが楽しくお弁当づくりを体験し、食品に対する興味や関心を深めることができるようなコンテンツになっています。2019年度は11回イベントを開催し、4,400名に体験していただきました。

## ニチレイフレッシュの食育活動

(株)フレッシュチキン軽米では、軽米町の小学校や幼稚園で食育授業を行っています。授業では、岩手県は宮崎県、鹿児島県に次いで全国で3番目に鶏肉の生産量が多いことや、当社製品の「純和鶏」は軽米町で生産する飼料米を食べて育っていること、そして「純和鶏」の鶏ふんが飼料米の有機質肥料として活用されていることなどを分かりやすく紹介。地域で行われている循環型の生産サイクルを学んでもらうとともに、当日の給食には「純和鶏」のメニューを食べていただいています。今後もこのような地域の方とのふれあいを大切にしながら、魅力ある事業展開を進めていきます。

岩手県軽米町の小・中学校に訪問し、「純和鶏」をPR



## 物流に関する教育

### 物流業界インターンシップへの参加

ニチレイロジグループでは、2014年から毎年行われている日本物流団体連合会主催の「物流業界インターンシップ」に受入企業として参加しています。この取組みは大学生を対象に物流業を横断的に見学・体験してもらうためのものです。受入当日は、ニチレイロジグループの事業紹介や食品物流についての講義と物流センター見学のプログラムを提供し、参加した学生さんからは「食品物流の重要性が理解できた」「物流に興味がわいた」との声を多く頂きました。これからも物流業界を幅広くアピールするために積極的に参加していきます。

## 事業所見学・職場体験の受け入れ

### 物流センターでの事業所見学の受け入れ

ニチレイロジグループは、各地の物流センターで、周辺地域の小中学生を中心とした事業所見学を継続的に受け入れています。2019年7月、ニチレイ・ロジスティクス東北 仙台物流センターにおいて、国土交通省主催の『夏休み！仙台港みなと探検隊！』計29名（県内一般親子）を対象に見学会を実施しました。仙台物流センターでは地域貢献活動の一環として、例年、夏休みの小学生を対象として“みなと”の役割をはじめ、仙台港を利用する企業について理解を深めてもらうため、同様の見学会を実施しています。当日は当センターの概要と業務内容を説明した後、各温度帯の構内見学や、冷凍庫内で濡れタオルを凍らせる実験等を行いました。物流センターを実際に体験することで、食品物流への理解を深めてもらいました。

## フードロス削減活動

### 専用サイト「ニチレイ食品ロス研究所」の開設

ニチレイグループでは、社会課題であるフードロス削減に向けて取り組むにあたり、食品ロスの原因を科学とサプライチェーンの両面からあらためて見つめ、どうしたら削減できるのか？また、ニチレイグループのコールドチェーン機能を使った削減方法についてご提案しています。

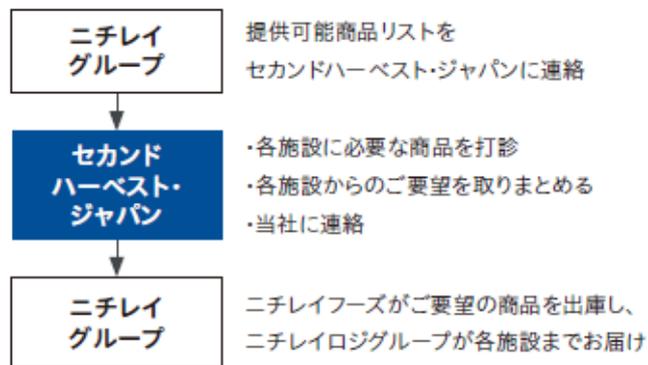


ニチレイ食品ロス研究所



### フードバンク

ニチレイフーズ・ニチレイロジグループでは2006年から15年間にわたり、セカンドハーベスト・ジャパン（認定NPO法人）の活動を支援しています。これまで、約2万ケース以上の冷凍食品を児童養護・母子支援・障がい者支援などの福祉施設に提供しています。また、商品提供だけではなく、安心して冷凍食品を食べていただくため、冷凍食品の物流サポートも行っています。



ご提供までの流れ

### ハミダスもったいない活動（社員食堂）

ニチレイフーズでは、物流や流通において外装が潰れたりしているが食品としては何の問題もなく食べることができる商品について、独自の活動「ハミダスもったいない活動」を通じ社員食堂での試食会を開催しています。また、農林水産省が提唱しているフードロス削減運動「食べものに、もったいないを、もういちど。」にも賛同し、フードロス削減に向けた寄付活動や社内啓発活動に取り組んでいます。



ハミダス活動



## こども食堂

ニチレイフーズでは、2021年より、全国の子ども食堂を支援している「認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ」のご協力をいただき、こども食堂への支援を始めました。



## 事業活動を通じた支援

### ニチレイフーズ育みの森

北海道にあるニチレイフーズ森工場は、北海道茅部郡森町と協定を結び、森町の町有地を森林整備する「ニチレイ 育みの森」活動を始めました。この取組みは、「森にGood!」活動の一環として、森町の1.2ヘクタールの町有地に植林し、10年間に森町の花である桜（ソメイヨシノ）400本を植樹し、育てていく計画です。森工場の従業員とその家族、地域の皆様にも参加いただき、地域に根付いた活動として取り組んでいます。

「森にGood!」森林保全活動は各工場に拡大しており、(株)キューレイでは福岡県宗像市のさつき松原の再生、ニチレイフーズ白石工場では蔵王のぶなの森づくりを支援しています。

### 東日本大震災の被災地支援の継続～石巻市の小学校で 出前授業「出張工場見学」実施（ニチレイフーズ）

ニチレイフーズは、東日本大震災の被災地支援として仮設住宅で料理教室を開催してきました。住民の方の多数が転居された後は、小学校での「出張工場見学」を通じて支援を継続しています。出張工場見学とは、従業員が小学校に出向いて工場見学を体験してもらうプログラムです。このプログラムを通じて、生産現場のリアルな映像や音声で冷凍食品ができるまでの過程とともに、ニチレイフーズの安全・安心への取組みと、ものづくりへのこだわりについても、小学生に分かりやすく伝えています。2019年度は宮城県の石巻市立二俣小学校と湊小学校で実施し、合計41名の児童が授業を受けました。

### ミャンマーの病院への検査薬提供（ニチレイバイオサイエンス）

ニチレイバイオサイエンスでは、2006年度から、新潟大学医学部病理学教室を通じ、ミャンマーでは入手困難な病理検査に使われる当社製品を現地の医療機関へ無償提供しています。免疫染色用の43種類の抗体と検査に必要な試薬は、第一、第二医科大学、サンピュア病院およびヤンキン小児病院などの計6施設に贈られ、各施設での研究や病理診断など実地の医療に活用されています。2020年1月には、新潟大学の内藤眞先生らが第二医科大学を訪れ、当社からの抗体を手渡したほか、病理診断における免疫染色の重要性について経験症例を用いて解説し、注意点や精度管理の要点などを説明しました。今後もミャンマーでの病理研究・診断、医学教育の向上に貢献していきたいと考えています。



## 「ホスピタリティ・ゲストハウス ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO」への施設サポート

原因不明の子どもの難病は500種類以上あり、20万人もの子どもが病気と闘っています。ご家族の精神的苦痛や経済的負担も計り知れません。難病児とご家族の支援団体「ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO」は、難病児が生きる勇気を持ち、ご家族が苦悩を軽減するよう、東京旅行で楽しい思い出を作ってもらう活動を実施しています。ニチレイグループはこれに賛同し、ニチレイ研修センター・スコレ雪ヶ谷を宿泊先として提供しているほか、ニチレイフーズもキッザニア見学などの支援を行っています。



ニチレイ研修センターを宿舎として提供

## 次世代アスリートをお肉で応援する「MIRAI MEAT」プロジェクト

ニチレイフレッシュは2019年12月20日より、次世代アスリートをお肉で応援する新プロジェクト「MIRAI MEAT（ミライ・ミート）」を始動しました。「MIRAI MEAT」は、未来へ向けて、夢に向かって頑張っている次世代（満10歳から満29歳まで）のアスリートを、当社のごこだわり畜産品「亜麻仁の恵み®」シリーズで応援するプロジェクトです。

アスリートには、疲労回復やからだづくり、ウエートコントロールなどの観点から、質の高い食事が不可欠です。トップアスリートの多くは、食事面で専門のサポートを受けています。しかし、そのようなサポートを受けられるのは一部のアスリートだけに限られているとも言えます。

良質な動物性たんぱく質を皆さまにお届けするという使命をもった当社としては、もっと次世代の新しい才能を食の面から応援したいという強い思いを持ち、本プロジェクトを立ち上げました。

応募者の中から、当社審査を通過した次世代アスリートに、オメガ3系脂肪酸を豊富に含んだ“アマニ”成分を加えた飼料で育てたお肉、「亜麻仁の恵み®」シリーズを1年間にわたって提供していきます。

MIRAI MEAT ミライ・ミート



## 健康な生活のためのスポーツ支援

ニチレイは、「食」とともに健康を支えるもうひとつの柱である「スポーツ」を応援していきます。

健康な生活のためのスポーツ支援



ニチレイレディス



「ニチレイpresentsオールジャパン メダリスト・オン・アイス2022」特別協賛について



## ニチレイグループ社会貢献活動

ニチレイグループ社会貢献支出額（5年間）

非営利組織への寄付



## 被災地への義援金の拠出

ニチレイは東日本大震災で甚大な被害を受けた3地方自治体（岩手県、宮城県、福島県）に対して、2011年度より5年間にそれぞれ毎年1千万円ずつ、合計1億5千万円の義援金を寄付いたしました。2011年6月に開催した日本女子プロゴルフ公認トーナメント・ニチレイレディスでは入場料収入全額などを千葉県、千葉市へ寄付しました。

また、2016年の熊本地震では、熊本県に対して1千万円の義援金を寄付するとともに、熊本県の要請を受けて宇城市役所に「レストランビーフカレー」9,000食を提供しました。

甚大な被害を被った被災地の早期復興を支援するため、日本赤十字社を通じて義援金および有志従業員の賛同金と会社からの拠出によるマッチングギフト制度である「ニチレイふれあい基金」より、同じく日本赤十字社へ寄付金を拠出しました。

## ふれあい基金からの拠出

当社グループでは、寄付・募金活動を通じて社会に貢献することを目的に1993年に「ニチレイふれあい基金」を設立し、従業員と会社からの賛同金を募り、社会福祉支援、災害・医療支援や災害等に見舞われた国内外の被災地に対して、義援金や救援金という形で支援を行っています。

主な寄付先としては、「中央共同募金会」「東京善意銀行」を通じて、社会的養護からの自立支援を目的とした「卒業祝い金」および、生活困難やいじめなどからの救済を目的とした「子ども食堂」への支援を行っているほか、「日本赤十字社」には、災害対応の事前準備費用を支援しています。

グループ社会貢献拠出総額（寄付金等）として、2018年度は3億1,000万円を拠出しました。

## 公益信託経団連自然保護基金への協力

ニチレイは、公益信託経団連自然保護基金の趣旨に賛同し、1994年から寄付を続けています。同基金は、アジア太平洋地域を主とする開発途上地域における自然保護活動、日本の優れた自然環境保全のために行う保護活動、および持続可能な活用を支援しています。

## エコキャップ

当社グループ各事業所では、ペットボトルのキャップを集めて開発途上国の子どものためのワクチンに替えるNPO法人の運動に協力しています。回収したキャップはNPO法人に送付し、プラスチック原材料として売却されリサイクルされます。キャップ800個（20円に相当）でポリオワクチン1人分の購入が可能です。また、ゴミとして焼却処分されると、キャップ400個で3,150gのCO<sub>2</sub>が発生しますが、リサイクルすることによりCO<sub>2</sub>排出削減につながります。

## TABLE FOR TWO への参加

当社グループは「社員食堂から始める社員参加型社会貢献活動」として「TABLE FOR TWO」に参加しています。これは、開発途上国の子どもの学校の給食1回分に当たる20円を、社員食堂のメニュー代金に加算し、食料支援への寄付にあてる活動です。また、寄付対象メニューは低カロリーのヘルシーメニューに限定されており、社員の健康増進にも役立っています。現在、ニチレイ東銀座ビルおよび技術開発センターの2事業所の食堂にて実施しています。

## 「一般財団法人ニチレイMIRAIterrace財団」設立

「食」と「健康」に関連する社会課題の解決に長期的な視点で取り組むことを目的として、2022年8月10日に「一般財団法人ニチレイMIRAIterrace財団」を設立いたしました。

当社は、「戦後の食糧難で苦しむ人々に新鮮な食材を安定的に届けたい」という強い想いのもと、食品の製造や低温物流事業を通じて日本の食生活を支える企業として成長するなかで、設立以来さまざまな社会課題の解決に取り組んでまいりました。

近年、ライフスタイルの多様化や少人数世帯の増加など食と健康を取り巻く環境に大きな変化が生じており、日々の食事における栄養摂取の偏りなどから生涯にわたる健康への影響が懸念されています。

このような課題の解決には、社会の一員として関係する皆様と広く対話し、共に考え、行動する必要があると当社は考え、本財団を設立いたしました。

本財団では、子ども食堂をはじめ社会福祉に取り組まれている団体に対する助成金の給付を中心とした支援を行ってまいります。豊かな食生活と健康増進を実現し、一人でも多くの方に心の満足を届けられるよう貢献してまいります。



# レポートライブラリー

## 統合レポート

|            |                          |
|------------|--------------------------|
| 統合レポート2022 | <a href="#">PDF (和文)</a> |
|            | <a href="#">PDF (英文)</a> |
| 統合レポート2021 | <a href="#">PDF (和文)</a> |
|            | <a href="#">PDF (英文)</a> |
| 統合レポート2020 | <a href="#">PDF (和文)</a> |
|            | <a href="#">PDF (英文)</a> |
| 統合レポート2019 | <a href="#">PDF (和文)</a> |
|            | <a href="#">PDF (英文)</a> |
| 統合レポート2018 | <a href="#">PDF (和文)</a> |
|            | <a href="#">PDF (英文)</a> |

## レポートライブラリー

|   |                                  |
|---|----------------------------------|
| CSRレポート2021                               | <a href="#">PDF (和文)</a>         |
|   | <a href="#">PDF (英文)</a>         |
| CSRレポート2020                               | <a href="#">PDF (和文)</a>         |
|   | <a href="#">PDF (英文)</a>         |
| CSRレポート2019                               | <a href="#">PDF (和文)</a>         |
|   | <a href="#">PDF (英文)</a>         |
|   | <a href="#">ESGデータ集</a>          |
| CSRレポート2018<br>※GRI Standards(2016)の内容を参照 | <a href="#">PDF (和文)</a>         |
|   | <a href="#">PDF (英文)</a>         |
| CSRレポート2017                               | <a href="#">PDF (コミュニケーション版)</a> |
| CSRレポート2016                               | <a href="#">PDF (コミュニケーション版)</a> |
| CSRレポート2015                               | <a href="#">PDF</a>              |
| CSRレポート2014                               | <a href="#">PDF (ダイジェスト)</a>     |

|             |                                     |
|-------------|-------------------------------------|
| CSRレポート2013 | <a href="#"><u>PDF (ダイジェスト)</u></a> |
| CSRレポート2012 | <a href="#"><u>PDF (ダイジェスト)</u></a> |
| CSRレポート2011 | <a href="#"><u>PDF (ダイジェスト)</u></a> |
| CSRレポート2010 | <a href="#"><u>PDF (ダイジェスト)</u></a> |
| CSRレポート2009 | <a href="#"><u>PDF (ダイジェスト)</u></a> |
| 社会環境報告書2008 | <a href="#"><u>PDF</u></a>          |
| 社会環境報告書2007 | <a href="#"><u>PDF</u></a>          |
| 社会環境報告書2006 | <a href="#"><u>PDF</u></a>          |
| 社会環境報告書2005 | <a href="#"><u>PDF</u></a>          |
| 環境報告書2004   | <a href="#"><u>PDF</u></a>          |
| 環境報告書2003   | <a href="#"><u>PDF</u></a>          |
| 環境報告書2002   | <a href="#"><u>PDF</u></a>          |
| 環境報告書2001   | <a href="#"><u>PDF</u></a>          |
| 環境報告書2000   | <a href="#"><u>PDF</u></a>          |

# ESGナビゲーション

## ESGナビゲーション

|                       |                       | 掲載箇所へのリンク         |
|-----------------------|-----------------------|-------------------|
| ニチレイグループのサステナビリティ経営推進 | トップメッセージ              | <a href="#">●</a> |
|                       | サステナビリティ基本方針（ニチレイの約束） | <a href="#">●</a> |
|                       | サステナビリティに関する推進体制      | <a href="#">●</a> |

|    |                  | コミットメント           | マネジメント体制          | 目標と実績             | 取り組み              |
|----|------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 環境 | 気候変動             | <a href="#">●</a> | <a href="#">●</a> | <a href="#">●</a> | <a href="#">●</a> |
|    | 水使用              | <a href="#">●</a> | <a href="#">●</a> |                   | <a href="#">●</a> |
|    | 廃棄物・資源活用         | <a href="#">●</a> | <a href="#">●</a> |                   | <a href="#">●</a> |
|    | 汚染・化学物質管理        | <a href="#">●</a> | <a href="#">●</a> |                   | <a href="#">●</a> |
|    | 生物多様性            | <a href="#">●</a> | <a href="#">●</a> |                   | <a href="#">●</a> |
|    | サプライチェーン（環境）     | <a href="#">●</a> | <a href="#">●</a> |                   | <a href="#">●</a> |
| 社会 | サプライチェーン（社会）     | <a href="#">●</a> | <a href="#">●</a> |                   | <a href="#">●</a> |
|    | 人権               | <a href="#">●</a> | <a href="#">●</a> |                   | <a href="#">●</a> |
|    | ステークホルダーエンゲージメント | <a href="#">●</a> |                   |                   | <a href="#">●</a> |
|    | 健康と安全への取り組み      | <a href="#">●</a> | <a href="#">●</a> |                   | <a href="#">●</a> |
|    | 労働安全衛生           | <a href="#">●</a> | <a href="#">●</a> |                   | <a href="#">●</a> |
|    | 働き方改革（ダイバーシティ含む） | <a href="#">●</a> | <a href="#">●</a> |                   | <a href="#">●</a> |

|       |             |                          | 掲載箇所へのリンク         |
|-------|-------------|--------------------------|-------------------|
| ガバナンス | コーポレートガバナンス | コーポレートガバナンス基本方針          | <a href="#">●</a> |
|       |             | 取締役等の報酬決定方針および手続き        | <a href="#">●</a> |
|       |             | 取締役等の選任に関する考え方           | <a href="#">●</a> |
|       |             | 取締役等の専門性・経歴等             | <a href="#">●</a> |
|       |             | 内部統制システム基本方針             | <a href="#">●</a> |
|       |             | ガバナンス体制図（取締役会および監査役会の構成） | <a href="#">●</a> |
|       |             | 委員会の設置                   |                   |
|       |             | 経営監視機能について               |                   |
|       | コンプライアンス    | コンプライアンス体制               | <a href="#">●</a> |
|       |             | 内部通報窓口について               |                   |
|       |             | 行動規範                     |                   |
|       | リスクマネジメント   | リスクマネジメントに関する基本的な考え方     | <a href="#">●</a> |
|       |             | 情報セキュリティ                 | <a href="#">●</a> |
|       | 株主総会関係      | 招集ご通知                    | <a href="#">●</a> |
|       |             | 決議ご通知                    |                   |

# ESGに関する方針一覧

## ESGに関する方針一覧

### ■ニチレイグループ ESGに関する方針一覧

| テーマ         | 関連する方針  |
|-------------|---|
| 企業の基本的な方針   | <a href="#">サステナビリティ基本方針「ニチレイの約束」</a><br><a href="#">人権方針</a>   |
| 環境に関する方針    | <a href="#">環境関連方針</a><br><a href="#">環境方針</a><br><a href="#">生物多様性方針</a>   |
| 社会に関する方針    | <a href="#">品質保証に関する基本方針</a><br><a href="#">持続可能な調達方針</a><br><a href="#">社会貢献に関する方針</a><br><a href="#">人財に関する方針</a><br><a href="#">サプライヤー行動規範</a><br><a href="#">サプライヤーガイドライン</a> |
| ガバナンスに関する方針 | <a href="#">コーポレートガバナンス基本方針</a><br><a href="#">内部統制システムの基本方針</a><br><a href="#">行動規範</a>  |

# ESGデータ集

## ESGデータ集

▼ 環境データ集

▼ 社会データ集

▼ ガバナンスデータ集

### ■ 環境データ集

|                              |                                  |   |                          |
|------------------------------|----------------------------------|---|--------------------------|
| ▼ グループ環境中期目標                 | ▼ ニチレイグループCO <sub>2</sub> 排出量の推移 | ▼ CO <sub>2</sub> 排出原単位（千トン-CO <sub>2</sub> ） | ▼ ニチレイグループ事業所外排出量とリサイクル率 |
| ▼ ニチレイグループのマテリアルバランスINPUT    | ▼ ニチレイグループのマテリアルバランスOUTPUT       | ▼ ニチレイグループ有害廃棄物（特別管理産業廃棄物）排出量                 | ▼ 環境事故、法令違反の状況           |
| ▼ 太陽光発電量とCO <sub>2</sub> 削減量 | ▼ PRTR対象物質の管理                    | ▼ SOx排出量                                      |                          |

### ■ グループ環境中期目標

| 2022～2024年度グループ 環境目標                          |           |
|---|-----------|
| 全拠点における廃棄物リサイクル率                              | 99%       |
| 全拠点での水リスクアセスメント実施                             | 2023年度に実施 |
| CO <sub>2</sub> 排出量削減<br>(2015年度比、国内Scope1,2) | △30%      |
| 自然冷媒化率<br>生産設備（国内）                            | 80%       |
| 自然冷媒化率<br>低温物流関係（海外を含む）                       | 63%       |

海外データ…海外事業所における環境データの収集に取り組む

| 2019～2021年度グループ 環境目標   |   |
|------------------------|---|
| CO <sub>2</sub> 排出量の削減 | 2021年度の総CO <sub>2</sub> 排出量を、2013年度実績「維持」   |
|                        | ※電力係数：2013年度の係数で固定                          |
| 廃棄物のリサイクル率維持と発生の抑制     | ・食品工場、物流センターから排出される廃棄物リサイクル率99%以上の維持        |
|                        | ・動植物性残さの削減に取り組む（国内の食品工場）                    |
| 水資源の保全                 | 各地域の水を取り巻く環境事情を考慮し、持続可能な水利用に向け、効率的な水利用を通じて、 |
|                        | 水資源の保全に取り組む（国内の食品工場）                        |

海外データ…海外事業所における環境に関するデータの収集に取り組む

## ■ニチレイグループCO<sub>2</sub>排出量の推移

|                          | 単位                      | 2015年度<br>基準年 | 2017年度  | 2018年度  | 2019年度  | 2020年度  | 2021年度  |
|--------------------------|-------------------------|---------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| SCOPE1排出量                | 千トン-<br>CO <sub>2</sub> | 42,990        | 44,441  | 43,420  | 41,739  | 41,890  | 42,946  |
| SCOPE2排出量（マーケット基準）<br>※1 |                         | 242,827       | 223,717 | 215,404 | 199,433 | 182,431 | 185,119 |
| SCOPE1・2排出量（合計）          |                         | 285,817       | 268,158 | 258,824 | 241,172 | 224,321 | 228,065 |

## ■CO<sub>2</sub>排出原単位

|                         | 単位                      | 2015年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|-------------------------|-------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| SCOPE1・2排出原単位（生産t当たり）※2 | 千トン-<br>CO <sub>2</sub> | 0.54   | 0.47   | 0.46   | 0.42   | 0.41   | 0.41   |

※1 電力のCO<sub>2</sub>排出係数：電気事業者別排出係数（環境省）の調整後排出係数。昨年度以前の公表値（電力排出係数変動の排出量）は「基礎排出係数」を使用しておりましたが、2030年度目標は調整後排出係数での管理といたしましたので、調整後排出係数での算出値へ修正しております。

※2 生産t当たりの排出原単位の対象範囲はニチレイフーズ（国内自営工場および関連工場）および、ニチレイフレッシュ（国内関連工場）

そのうち以下工場を除く

ニチレイフーズ：（株）ニチレイ・アイス

ニチレイフレッシュ：（株）ニチレイフレッシュファーム、（株）フレッシュチキン軽米、（株）フレッシュミート

## ■ニチレイグループ事業所外排出量とリサイクル率

| 項目      | 単位  | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|---------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 事業所外排出量 | 千トン | 46.3   | 45.4   | 47.9   | 47.1   | 47.9   |
| リサイクル率  | 千トン | 99.6   | 99.5   | 99.4   | 98.7   | 99.0   |

■ニチレイグループのマテリアルバランスINPUT

| 項目                 |                  | 単位              | 2017年<br>度 | 2018年<br>度 | 2019年<br>度 | 2020年<br>度 | 2021年<br>度 |
|--------------------|------------------|-----------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| エネルギー              | 合計               | 千GJ             | 5,078      | 5,107      | 5,079      | 5,024      | 4,925      |
|                    | 購入電力             | 千<br>kWh        | 443,480    | 447,277    | 444,335    | 439,135    | 471,952    |
|                    | 重油               | kl              | 3,319      | 2,609      | 1,926      | 1,850      | 1,935      |
|                    | 灯油               | kl              | 191        | 173        | 192        | 195        | 194        |
|                    | 都市ガス             | 千m <sup>3</sup> | 6,923      | 7,142      | 9,036      | 9,328      | 9,708      |
|                    | LGP              | トン              | 4,650      | 4,814      | 3,614      | 3,425      | 3,522      |
|                    | ガソリン（社有車）        | kl              | 461        | 402        | 322        | 273        | 285        |
|                    | 軽油（社有車）          | kl              | 1,378      | 1,556      | 1,452      | 1,522      | 1,388      |
|                    | 太陽光発電            | 千<br>kWh        | 400        | 1,444      | 2,068      | 2,149      | 2,974      |
| エネルギーの各事業会社<br>の内訳 | ニチレイフーズ          | 千GJ             | 1,726      | 1,761      | 1,759      | 1,793      | 1,859      |
|                    | ニチレイフーズフレッ<br>シュ | 千GJ             | 169        | 173        | 172        | 174        | 174        |
|                    | ニチレイロジグループ       | 千GJ             | 3,098      | 3,089      | 3,046      | 2,966      | 2,812      |
|                    | ニチレイバイオサイエ<br>ンス | 千GJ             | 11         | 12         | 33         | 30         | 22         |
|                    | その他              | 千GJ             | 74         | 72         | 69         | 61         | 58         |
| 水                  | 合計               | 千m <sup>3</sup> | 4,084      | 4,117      | 4,028      | 3,929      | 3,834      |
|                    | 上水               | 千m <sup>3</sup> | 1,256      | 1,267      | 1,238      | 1,174      | 1,134      |
|                    | 工業用水             | 千m <sup>3</sup> | 917        | 907        | 897        | 916        | 919        |
|                    | 地下水（井水）          | 千m <sup>3</sup> | 1,911      | 1,943      | 1,893      | 1,839      | 1,782      |
| 水の各事業会社の内訳         | ニチレイフーズ          | 千m <sup>3</sup> | 2,789      | 2,812      | 2,739      | 2,679      | 2,676      |
|                    | ニチレイフーズフレッ<br>シュ | 千m <sup>3</sup> | 331        | 322        | 318        | 338        | 330        |
|                    | ニチレイロジグループ       | 千m <sup>3</sup> | 947        | 963        | 952        | 899        | 816        |
|                    | ニチレイバイオサイエ<br>ンス | 千m <sup>3</sup> | 6          | 6          | 8          | 7          | 6          |
|                    | その他              | 千m <sup>3</sup> | 12         | 13         | 11         | 6          | 7          |

※ 四捨五入の影響により合計数字が異なる場合があります。

■ニチレイグループのマテリアルバランスOUTPUT

| 項目                           |                    | 単位              | 2017年度  | 2018年度  | 2019年度  | 2020年度  | 2021年度  |
|------------------------------|--------------------|-----------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 廃棄物                          | 事業所外排出量            | 千トン             | 46.3    | 45.4    | 47.9    | 47.1    | 47.9    |
|                              | リサイクル量             | 千トン             | 46.1    | 45.2    | 47.6    | 46.5    | 47.4    |
|                              | 最終処分廃棄物量 ※1        | 千トン             | 0.2     | 0.2     | 0.3     | 0.6     | 0.5     |
| 事業所外排出量の各事業会社の内訳             | ニチレイフーズ            | トン              | 21,904  | 18,155  | 21,561  | 21,145  | 21,280  |
|                              | ニチレイフーズフレッシュ       | トン              | 11,426  | 13,973  | 13,609  | 13,887  | 14,188  |
|                              | ニチレイロジグループ         | トン              | 12,905  | 13,236  | 12,666  | 11,962  | 12,246  |
|                              | ニチレイバイオサイエンス       | トン              | 46      | 44      | 72      | 103     | 170     |
|                              | その他                | トン              | —       | —       | —       | —       | —       |
| 大気系                          | CO <sub>2</sub> ※2 | 千トン             | 268     | 259     | 241     | 224     | 228     |
|                              | SOx ※3             | トン              | 4       | 3       | 3       | 2       | 3       |
| CO <sub>2</sub> 排出量の各事業会社の内訳 | ニチレイフーズ            | トン              | 92,049  | 90,413  | 84,427  | 79,060  | 82,322  |
|                              | ニチレイフーズフレッシュ       | トン              | 9,162   | 9,430   | 9,458   | 9,433   | 9,009   |
|                              | ニチレイロジグループ         | トン              | 162,776 | 154,971 | 142,561 | 132,931 | 134,380 |
|                              | ニチレイバイオサイエンス       | トン              | 526     | 553     | 1,526   | 1,380   | 1,011   |
|                              | その他                | トン              | 3,629   | 3,417   | 3,201   | 1,501   | 1,343   |
| 水系                           | 排水                 | 千m <sup>3</sup> | 2,467   | 2,421   | 2,398   | 2,461   | 2,403   |
|                              | 下水道                | 千m <sup>3</sup> | 1,522   | 1,464   | 1,447   | 1,478   | 1,431   |
|                              | 公共水域（河川等）          | 千m <sup>3</sup> | 945     | 957     | 951     | 983     | 973     |
|                              | 排水負荷量BOD ※4        | トン              | 48      | 48      | 49      | 52      | 68      |
|                              | COD ※4             | トン              | 23      | 24      | 23      | 40      | 21      |
| 排水の各事業会社の内訳                  | ニチレイフーズ            | トン              | 1,758   | 1,751   | 1,752   | 1,798   | 1,783   |
|                              | ニチレイフーズフレッシュ       | トン              | 328     | 308     | 309     | 325     | 316     |
|                              | ニチレイロジグループ         | トン              | 362     | 343     | 317     | 308     | 291     |
|                              | ニチレイバイオサイエンス       | トン              | 6       | 6       | 8       | 6       | 6       |
|                              | その他                | トン              | 12      | 14      | 12      | 24      | 8       |

※ 四捨五入の影響により合計数字が異なる場合があります。

※1 事業所外に排出される廃棄物のうち、直接処分場に埋立てられる廃棄物およびエネルギー利用などがなく単純焼却される廃棄物の量

※2 地球温暖化対策の推進に関する法律にもとづき算出

※3 測定実施のばい煙発生施設。車両由来含まず

※4 排水濃度測定を実施している場合のみ排出量を算出

■ニチレイグループ有害廃棄物（特別管理産業廃棄物）排出量

| 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| kg | 9      | 9.3    | 7.4    | 4.3    | 7.0    |

※1 事業所外に排出される廃棄物のうち、直接処分場に埋立てられる廃棄物およびエネルギー利用などがなく単純焼却される廃棄物の量

※2 地球温暖化対策の推進に関する法律にもとづき算出

※3 測定実施のばい煙発生施設。車両由来含まず

※4 排水濃度測定を実施している場合のみ排出量を算出

■環境事故、法令違反の状況

|    | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 国内 | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 海外 | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |

■太陽光発電量とCO<sub>2</sub>削減量

|                     | 単位  | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|---------------------|-----|--------|--------|--------|--------|
| 発電量                 | Mwh | 1,444  | 2,068  | 2,149  | 2,974  |
| CO <sub>2</sub> 削減量 | t   | 765    | 1,003  | 986    | 1,408  |

■PRTR対象物質の管理

|                                     | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|-------------------------------------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| PRTR法 <sup>※</sup> の届出対象物資（取扱量1t以上） | トン | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |

※ PRTR法：人の健康や動植物の生息、生育に支障を及ぼす可能性のある化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたかなどのデータを集計し、公表する仕組みについて定めた法律。

■SO<sub>x</sub>排出量

|                     | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|---------------------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| SO <sub>x</sub> 排出量 | トン | 4      | 3      | 3      | 2      | 3      |

※ 測定実施のばい煙発生施設。車両由来含まず

## ※対象事業所

ニチレイグループ（国内）の99%以上の環境負荷を占める範囲を集計している。

環境データ 下記各社の食品工場、物流センターなどを集計対象としている。事業所数が複数ある場合は（ ）内に数を記載。

### ニチレイフーズ

（株）ニチレイフーズ（9）、（株）ニチレイ・アイス（3）、（株）中冷、（株）キューレイ、（株）ニチレイウエルディング

### ニチレイフレッシュ

（株）フレッシュまるいち（3）、（株）ニチレイフレッシュプロセス（2）、（株）ニチレイフレッシュファーム（2）、（株）フレッシュチキン軽米、（株）フレッシュミート佐久平

### ニチレイロジグループ

（株）ロジスティクス・ネットワーク（38）、（株）NKトランス（4）、（株）ニチレイ・ロジスティクス北海道（8）、（株）ニチレイ・ロジスティクス東北（5）、

（株）ニチレイ・ロジスティクス関東（10）、（株）ニチレイ・ロジスティクス東海（11）、（株）ニチレイ・ロジスティクス関西（13）、

（株）ニチレイ・ロジスティクス中四国（15）、（株）ニチレイ・ロジスティクス九州（15）、（株）キョクレイ（5）

### ニチレイバイオサイエンス

開発センター

### その他

（株）ニューハウジング

※電力排出係数固定：電気事業連合会公表2009年度使用端CO<sub>2</sub>排出原単位0.412 [t-CO<sub>2</sub>/MWh] を全国で共通使用

※電力排出係数変動：各事業所で使用する年度における電力事業者の電力換算係数を使用

※電力排出原単位の対象範囲はニチレイフーズ（国内自営工場および関連工場）および、ニチレイフレッシュ（国内関連工場）

そのうち以下を除く

ニチレイフーズ：（株）ニチレイ・アイス

ニチレイフレッシュ：（株）ニチレイフレッシュファーム、

（株）フレッシュチキン軽米、（株）フレッシュミート佐久平

■ 社会データ集

|                       |                 |                        |                         |
|-----------------------|-----------------|------------------------|-------------------------|
| ▼ 従業員数                | ▼ 社員以外の従業員の割合   | ▼ 女性役職者比率              | ▼ 平均年齢                  |
| ▼ 平均勤続年数              | ▼ 採用者数（新卒・キャリア） | ▼ 退職者数/退職率/事由          | ▼ 定年後再雇用者数              |
| ▼ 障がい者雇用率             | ▼ 年間総実労働時間数     | ▼ 年次有給休暇年間平均取得日数・取得率   | ▼ ボランティア休暇取得者数          |
| ▼ 育児休業取得者数            | ▼ 介護休業取得者数      | ▼ 食品工場の労働災害件数          | ▼ 業務上の死亡者数              |
| ▼ 一般定期健康診断受診率         | ▼ ストレスチェック受検率   | ▼ 新卒採用者の離職状況           | ▼ ニチレイグループの主な教育研修体系     |
| ▼ ニチレイグループの教育時間及び参加人数 | ▼ eラーニング        | ▼ 品質保証（監査、認証取得数、教育時間数） | ▼ 定期健診後の精密検査受診率         |
| ▼ 非営利組織への寄付           | ▼ 衛生管理者         | ▼ 個人情報保護漏えい等           | ▼ 広告・宣伝、ラベリングにおける法規違反件数 |

■従業員数

| 対象範囲           | 項目        |       | 単位    | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|----------------|-----------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| ニチレイグループ 全体    | 役員・従業員合計  |       | 人     | 6,073  | 6,002  | 5,943  | 5,994  | 5,926  |
|                | <内訳>      | 男性    |       | 3,792  | 3,748  | 3,729  | 3,753  | 3,722  |
|                |           | 女性    |       | 2,281  | 2,254  | 2,214  | 2,241  | 2,204  |
|                | 役員数       |       |       | 65     | 62     | 62     | 61     | 60     |
|                | <内訳>      | 男性    |       | 63     | 60     | 60     | 58     | 56     |
|                |           | 女性    |       | 2      | 2      | 2      | 3      | 4      |
|                | 社員数       |       |       | 3,780  | 3,782  | 3,841  | 3,903  | 3,937  |
|                | <内訳>      | 男性    |       | 2,786  | 2,789  | 2,779  | 2,787  | 2,776  |
|                |           | 女性    |       | 994    | 993    | 1,062  | 1,116  | 1,161  |
|                | 【役職社員数】   |       |       | 1,293  | 1,309  | 1,335  | 1,362  | 1,378  |
|                | <内訳>      | 男性    |       | 1,205  | 1,216  | 1,215  | 1,222  | 1,218  |
|                |           | 女性    |       | 88     | 93     | 120    | 140    | 160    |
|                | 【一般社員数】   |       |       | 2,487  | 2,473  | 2,506  | 2,541  | 2,559  |
|                | <内訳>      | 男性    |       | 1,581  | 1,573  | 1,564  | 1,565  | 1,558  |
|                |           | 女性    |       | 906    | 900    | 942    | 976    | 1,001  |
|                | 社員以外の従業員数 |       |       | 2,228  | 2,158  | 2,040  | 2,030  | 1,929  |
| <内訳>           | 男性        | 943   | 899   | 890    | 908    | 890    |        |        |
|                | 女性        | 1,285 | 1,259 | 1,150  | 1,122  | 1,039  |        |        |
| ニチレイ<br>(持株会社) | 役員・従業員合計  |       | 277   | 252    | 252    | 254    | 268    |        |
|                | <内訳>      | 男性    | 156   | 148    | 153    | 151    | 151    |        |
|                |           | 女性    | 121   | 104    | 99     | 103    | 117    |        |
|                | 役員数       |       | 21    | 19     | 19     | 19     | 19     |        |
|                | <内訳>      | 男性    | 19    | 17     | 17     | 17     | 16     |        |
|                |           | 女性    | 2     | 2      | 2      | 2      | 3      |        |
|                | 社員数       |       | 213   | 187    | 214    | 218    | 226    |        |
|                | <内訳>      | 男性    | 128   | 122    | 123    | 124    | 124    |        |
|                |           | 女性    | 994   | 65     | 91     | 94     | 102    |        |
|                | 【役職社員数】   |       | 111   | 112    | 116    | 112    | 116    |        |
|                | <内訳>      | 男性    | 85    | 85     | 87     | 85     | 87     |        |
|                |           | 女性    | 26    | 27     | 29     | 27     | 29     |        |
|                | 【一般社員数】   |       | 102   | 75     | 98     | 106    | 110    |        |
|                | <内訳>      | 男性    | 43    | 37     | 36     | 39     | 37     |        |
|                |           | 女性    | 59    | 38     | 62     | 67     | 73     |        |
|                | 社員以外の従業員数 |       | 43    | 46     | 19     | 17     | 23     |        |
| <内訳>           | 男性        | 9     | 9     | 13     | 10     | 11     |        |        |
|                | 女性        | 34    | 37    | 6      | 7      | 12     |        |        |

| 対象範囲      | 項目       |       | 単位    | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|-----------|----------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| ニチレイフーズ   | 役員・従業員合計 |       | 人     | 3,133  | 3,054  | 3,010  | 3,023  | 3,039  |
|           | <内訳>     | 男性    |       | 1,866  | 1,821  | 1,816  | 1,834  | 1,826  |
|           |          | 女性    |       | 1,267  | 1,233  | 1,194  | 1,189  | 1,213  |
|           | 役員数      |       |       | 12     | 12     | 11     | 10     | 9      |
|           | <内訳>     | 男性    |       | 12     | 12     | 11     | 9      | 8      |
|           |          | 女性    |       | 0      | 0      | 0      | 1      | 1      |
|           | 社員数      |       |       | 1,535  | 1,524  | 1,505  | 1,528  | 1,541  |
|           | <内訳>     | 男性    |       | 1,146  | 1,134  | 1,114  | 1,118  | 1,114  |
|           |          | 女性    |       | 389    | 390    | 391    | 410    | 427    |
|           | 【役職社員数】  |       |       | 534    | 532    | 525    | 536    | 555    |
|           | <内訳>     | 男性    |       | 498    | 497    | 487    | 494    | 499    |
|           |          | 女性    |       | 36     | 35     | 38     | 42     | 56     |
|           | 【一般社員数】  |       |       | 1,001  | 992    | 980    | 992    | 986    |
|           | <内訳>     | 男性    |       | 648    | 637    | 627    | 624    | 615    |
| 女性        |          | 353   | 355   | 353    | 368    | 371    |        |        |
| 社員以外の従業員数 |          | 1,586 | 1,518 | 1,494  | 1,485  | 1,489  |        |        |
| <内訳>      | 男性       | 708   | 675   | 691    | 707    | 704    |        |        |
|           | 女性       | 878   | 843   | 803    | 778    | 785    |        |        |
| ニチレイフレッシュ | 役員・従業員合計 |       | 人     | 308    | 315    | 315    | 319    | 318    |
|           | <内訳>     | 男性    |       | 228    | 228    | 225    | 223    | 222    |
|           |          | 女性    |       | 80     | 87     | 90     | 96     | 96     |
|           | 役員数      |       |       | 9      | 9      | 10     | 10     | 10     |
|           | <内訳>     | 男性    |       | 9      | 9      | 10     | 10     | 10     |
|           |          | 女性    |       | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |
|           | 社員数      |       |       | 252    | 256    | 267    | 271    | 272    |
|           | <内訳>     | 男性    |       | 200    | 197    | 200    | 198    | 197    |
|           |          | 女性    |       | 52     | 59     | 67     | 73     | 75     |
|           | 【役職社員数】  |       |       | 149    | 149    | 155    | 158    | 149    |
|           | <内訳>     | 男性    |       | 144    | 142    | 143    | 143    | 138    |
|           |          | 女性    |       | 5      | 7      | 12     | 15     | 11     |
|           | 【一般社員数】  |       |       | 103    | 107    | 112    | 113    | 123    |
|           | <内訳>     | 男性    |       | 56     | 55     | 57     | 55     | 59     |
| 女性        |          | 47    | 52    | 55     | 58     | 64     |        |        |
| 社員以外の従業員数 |          | 47    | 50    | 38     | 38     | 36     |        |        |
| <内訳>      | 男性       | 19    | 22    | 15     | 15     | 15     |        |        |
|           | 女性       | 28    | 28    | 23     | 23     | 21     |        |        |

| 対象範囲         | 項目        |     | 単位  | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|--------------|-----------|-----|-----|--------|--------|--------|--------|--------|
| ニチレイロジグループ   | 役員・従業員合計  |     | 人   | 2,224  | 2,252  | 2,226  | 2,253  | 2,168  |
|              | <内訳>      | 男性  |     | 1,479  | 1,488  | 1,466  | 1,475  | 1,460  |
|              |           | 女性  |     | 745    | 764    | 760    | 778    | 708    |
|              | 役員数       |     |     | 18     | 16     | 16     | 16     | 18     |
|              | <内訳>      | 男性  |     | 18     | 16     | 16     | 16     | 18     |
|              |           | 女性  |     | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |
|              | 社員数       |     |     | 1,701  | 1,738  | 1,769  | 1,798  | 1,821  |
|              | <内訳>      | 男性  |     | 1,262  | 1,287  | 1,289  | 1,294  | 1,294  |
|              |           | 女性  |     | 439    | 451    | 480    | 504    | 527    |
|              | 【役職社員数】   |     |     | 464    | 479    | 499    | 513    | 515    |
|              | <内訳>      | 男性  |     | 451    | 464    | 469    | 470    | 464    |
|              |           | 女性  |     | 13     | 15     | 30     | 43     | 51     |
|              | 【一般社員数】   |     |     | 1,237  | 1,259  | 1,270  | 1,285  | 1,306  |
|              | <内訳>      | 男性  |     | 811    | 823    | 820    | 824    | 830    |
|              |           | 女性  |     | 426    | 436    | 450    | 461    | 476    |
|              | 社員以外の従業員数 |     |     | 505    | 498    | 441    | 439    | 329    |
| <内訳>         | 男性        | 199 | 185 | 161    | 165    | 148    |        |        |
|              | 女性        | 306 | 313 | 280    | 274    | 181    |        |        |
| ニチレイバイオサイエンス | 役員・従業員合計  |     | 人   | 131    | 129    | 140    | 145    | 133    |
|              | <内訳>      | 男性  |     | 63     | 63     | 69     | 70     | 63     |
|              |           | 女性  |     | 68     | 66     | 71     | 75     | 70     |
|              | 役員数       |     |     | 5      | 6      | 6      | 6      | 4      |
|              | <内訳>      | 男性  |     | 5      | 6      | 6      | 6      | 4      |
|              |           | 女性  |     | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |
|              | 社員数       |     |     | 79     | 77     | 86     | 88     | 77     |
|              | <内訳>      | 男性  |     | 50     | 49     | 53     | 53     | 47     |
|              |           | 女性  |     | 29     | 28     | 33     | 35     | 30     |
|              | 【役職社員数】   |     |     | 35     | 37     | 40     | 43     | 43     |
|              | <内訳>      | 男性  |     | 27     | 28     | 29     | 30     | 30     |
|              |           | 女性  |     | 8      | 9      | 11     | 13     | 13     |
|              | 【一般社員数】   |     |     | 44     | 40     | 46     | 45     | 34     |
|              | <内訳>      | 男性  |     | 23     | 21     | 24     | 23     | 17     |
|              |           | 女性  |     | 21     | 19     | 22     | 22     | 17     |
|              | 社員以外の従業員数 |     |     | 47     | 46     | 48     | 51     | 52     |
| <内訳>         | 男性        | 8   | 8   | 10     | 11     | 12     |        |        |
|              | 女性        | 39  | 38  | 38     | 40     | 40     |        |        |

※ 社員以外の従業員：臨時従業員、契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等を含み派遣社員を除く

※ 人財データ集は、下記の15社に勤務する従業員を対象としています。（2020年度）

- |                 |                    |                         |
|-----------------|--------------------|-------------------------|
| 1. ニチレイ         | 6. ニチレイ・ロジスティクス北海道 | 0. ニチレイ・ロジスティクス東海       |
| 2. ニチレイフーズ      | 7. ニチレイ・ロジスティクス東北  | 1. ニチレイ・ロジスティクス関西       |
| 3. ニチレイフレッシュ    | 8. キョクレイ           | 2. ニチレイ・ロジスティクス中四国      |
| 4. ニチレイロジグループ本社 | 9. ニチレイ・ロジスティクス関東  | 3. ニチレイ・ロジスティクス九州       |
| 5. ニチレイバイオサイエンス |                    | 4. ロジスティクス・ネットワーク       |
|                 |                    | 5. ニチレイ・ロジスティクスエンジニアリング |

■ 社員以外の従業員の割合

|                 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 社員数 (名)         | 3,780  | 3,782  | 3,841  | 3,903  | 3,937  |
| 社員以外の従業員数 (名)   | 2,228  | 2,158  | 2,040  | 2,030  | 1,929  |
| 社員以外の従業員の割合 (%) | 37.1   | 36.3   | 34.7   | 34.2   | 32.6   |

※ 社員以外の従業員：臨時従業員、契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等を含み派遣社員を除く

■ 女性役職者比率

| 対象範囲         | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|--------------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| ニチレイグループ 全体  | %  | 6.8    | 7.1    | 9.0    | 10.3   | 11.6   |
| ニチレイ (持株会社)  |    | 23.4   | 24.1   | 25.0   | 24.1   | 25.0   |
| ニチレイフーズ      |    | 6.7    | 6.6    | 7.2    | 7.8    | 10.1   |
| ニチレイフレッシュ    |    | 3.4    | 4.7    | 7.7    | 9.5    | 7.4    |
| ニチレイロジグループ   |    | 2.8    | 3.1    | 6.0    | 8.4    | 9.9    |
| ニチレイバイオサイエンス |    | 22.9   | 24.3   | 27.5   | 30.2   | 30.2   |

※ 対象者：社員

■ 平均年齢

| 対象範囲         | 項目   | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |      |
|--------------|------|----|--------|--------|--------|--------|--------|------|
| ニチレイグループ 全体  | <内訳> | 男性 | 歳      | 41.9   | 42.1   | 42.3   | 42.5   | 42.7 |
|              |      | 女性 |        | 39.6   | 39.8   | 39.9   | 40.0   | 40.1 |
| ニチレイ (持株会社)  | <内訳> | 男性 |        | 43.3   | 44.1   | 44.2   | 44.1   | 44.5 |
|              |      | 女性 |        | 41.9   | 43.1   | 44.5   | 44.6   | 44.0 |
| ニチレイフーズ      | <内訳> | 男性 |        | 42.3   | 42.5   | 42.8   | 43.1   | 43.6 |
|              |      | 女性 |        | 41.2   | 41.5   | 41.5   | 41.5   | 41.6 |
| ニチレイフレッシュ    | <内訳> | 男性 |        | 42.9   | 42.6   | 42.7   | 42.9   | 42.8 |
|              |      | 女性 |        | 42.5   | 41.2   | 41.5   | 41.4   | 42.2 |
| ニチレイロジグループ   | <内訳> | 男性 |        | 41.2   | 41.6   | 41.6   | 41.8   | 42.0 |
|              |      | 女性 |        | 37.6   | 37.9   | 37.8   | 37.9   | 38.1 |
| ニチレイバイオサイエンス | <内訳> | 男性 |        | 40.2   | 40.7   | 40.9   | 40.7   | 40.7 |
|              |      | 女性 |        | 36.3   | 36.7   | 36.2   | 36.6   | 37.7 |

※ 対象者：社員

※ 所属会社の合併・分社、社員への登用等により、計算開始年度は実際の入社年度と異なる場合があります。

■ 平均勤続年数

| 対象範囲         | 項目   |    | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|--------------|------|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| ニチレイグループ 全体  | <内訳> | 男性 | 年  | 16.7   | 16.7   | 17.0   | 17.3   | 17.5   |
|              |      | 女性 |    | 15.3   | 15.7   | 15.3   | 15.4   | 15.4   |
| ニチレイ (持株会社)  | <内訳> | 男性 |    | 18.2   | 19.1   | 19.0   | 19.0   | 19.4   |
|              |      | 女性 |    | 14.4   | 18.5   | 15.8   | 16.8   | 16.0   |
| ニチレイフーズ      | <内訳> | 男性 |    | 17.3   | 17.7   | 18.0   | 18.4   | 18.8   |
|              |      | 女性 |    | 16.3   | 16.7   | 16.8   | 16.8   | 16.8   |
| ニチレイフレッシュ    | <内訳> | 男性 |    | 18.8   | 18.4   | 18.4   | 18.7   | 18.6   |
|              |      | 女性 |    | 20.5   | 18.6   | 18.0   | 17.4   | 17.7   |
| ニチレイロジグループ   | <内訳> | 男性 |    | 15.9   | 15.9   | 15.9   | 16.1   | 16.3   |
|              |      | 女性 |    | 14.1   | 14.3   | 13.9   | 14.0   | 14.1   |
| ニチレイバイオサイエンス | <内訳> | 男性 |    | 14.2   | 15.3   | 15.2   | 15.0   | 14.7   |
|              |      | 女性 |    | 11.9   | 12.1   | 11.7   | 12.3   | 13.1   |

※ 対象者：社員

※ 所属会社の合併・分社、社員への登用等により、計算開始年度は実際の入社年度と異なる場合があります。

■採用者数（新卒・キャリア）

| 対象範囲           | 項目      |    | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|----------------|---------|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 二チレイグループ 全体    | 新卒採用数   |    | 人  | 101    | 88     | 104    | 117    | 117    |
|                | <内訳>    | 男性 |    | 54     | 46     | 49     | 63     | 65     |
|                |         | 女性 |    | 47     | 42     | 55     | 54     | 52     |
|                | キャリア採用数 |    |    | 45     | 80     | 113    | 61     | 51     |
|                | <内訳>    | 男性 |    | 36     | 60     | 52     | 36     | 22     |
|                |         | 女性 |    | 9      | 20     | 61     | 25     | 29     |
| 二チレイ<br>(持株会社) | 新卒採用数   |    |    | 3      | 0      | 4      | 4      | 5      |
|                | <内訳>    | 男性 |    | 2      | 0      | 4      | 3      | 3      |
|                |         | 女性 |    | 1      | 0      | 0      | 1      | 2      |
|                | キャリア採用数 |    |    | 4      | 2      | 37     | 5      | 9      |
|                | <内訳>    | 男性 |    | 2      | 2      | 5      | 2      | 3      |
|                |         | 女性 |    | 2      | 0      | 32     | 3      | 6      |
| 二チレイフーズ        | 新卒採用数   |    |    | 27     | 31     | 33     | 37     | 36     |
|                | <内訳>    | 男性 |    | 18     | 20     | 14     | 19     | 19     |
|                |         | 女性 |    | 9      | 11     | 19     | 18     | 17     |
|                | キャリア採用数 |    |    | 8      | 13     | 16     | 28     | 21     |
|                | <内訳>    | 男性 |    | 1      | 6      | 11     | 16     | 11     |
|                |         | 女性 |    | 1      | 7      | 5      | 12     | 10     |
| 二チレイフレッシュ      | 新卒採用数   |    | 10 | 10     | 9      | 11     | 8      |        |
|                | <内訳>    | 男性 | 7  | 6      | 6      | 6      | 5      |        |
|                |         | 女性 | 3  | 4      | 3      | 5      | 3      |        |
|                | キャリア採用数 |    | 0  | 5      | 11     | 3      | 4      |        |
|                | <内訳>    | 男性 | 0  | 1      | 2      | 0      | 0      |        |
|                |         | 女性 | 0  | 4      | 9      | 3      | 4      |        |
| 二チレイロジグループ     | 新卒採用数   |    | 53 | 42     | 50     | 58     | 66     |        |
|                | <内訳>    | 男性 | 24 | 19     | 22     | 32     | 36     |        |
|                |         | 女性 | 29 | 23     | 28     | 26     | 30     |        |
|                | キャリア採用数 |    | 32 | 60     | 46     | 25     | 17     |        |
|                | <内訳>    | 男性 | 26 | 51     | 31     | 18     | 8      |        |
|                |         | 女性 | 6  | 9      | 15     | 7      | 9      |        |
| 二チレイバイオサイエンス   | 新卒採用数   |    | 8  | 5      | 8      | 7      | 2      |        |
|                | <内訳>    | 男性 | 3  | 1      | 3      | 3      | 2      |        |
|                |         | 女性 | 5  | 4      | 5      | 4      | 0      |        |
|                | キャリア採用数 |    | 1  | 0      | 3      | 0      | 0      |        |
|                | <内訳>    | 男性 | 1  | 0      | 3      | 0      | 0      |        |
|                |         | 女性 | 0  | 0      | 0      | 0      | 0      |        |

※ 対象者：社員

■退職者数/退職率/事由

| 対象範囲         | 項目      |      | 単位   | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|--------------|---------|------|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| ニチレイグループ 全体  | 退職者数    |      | 人    | 137    | 146    | 159    | 141    | 121    |
|              | <事由別内訳> | 定年   |      | 48     | 64     | 65     | 59     | 45     |
|              |         | 自己都合 |      | 69     | 74     | 84     | 63     | 72     |
|              |         | 会社都合 |      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |
|              |         | その他  |      | 20     | 8      | 10     | 19     | 4      |
|              | 離職率     |      |      | 2.3%   | 2.1%   | 2.4%   | 2.1%   | 1.9%   |
| 自己都合退職者離職率   |         | —    |      | —      | 1.3%   | 0.9%   | 1.1%   |        |
| ニチレイ (持株会社)  | 退職者数    |      |      | 9      | 12     | 10     | 12     | 7      |
|              | <事由別内訳> | 定年   |      | 3      | 6      | 3      | 5      | 2      |
|              |         | 自己都合 |      | 4      | 5      | 6      | 5      | 4      |
|              |         | 会社都合 |      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |
|              |         | その他  |      | 2      | 1      | 1      | 2      | 1      |
|              | 離職率     |      |      | 2.8%   | 3.0%   | 3.1%   | 3.1%   | 2.2%   |
| 自己都合退職者離職率   |         | —    |      | —      | 2.7%   | 2.2%   | 1.8%   |        |
| ニチレイフーズ      | 退職者数    |      |      | 43     | 57     | 59     | 50     | 50     |
|              | <事由別内訳> | 定年   | 17   | 30     | 29     | 21     | 20     |        |
|              |         | 自己都合 | 23   | 26     | 26     | 24     | 29     |        |
|              |         | 会社都合 | 0    | 0      | 0      | 0      | 0      |        |
|              |         | その他  | 3    | 1      | 4      | 5      | 1      |        |
|              | 離職率     |      | 1.7% | 1.7%   | 1.9%   | 1.9%   | 1.9%   |        |
| 自己都合退職者離職率   |         | —    | —    | 1.7%   | 1.5%   | 1.9%   |        |        |
| ニチレイフレッシュ    | 退職者数    |      | 10   | 14     | 9      | 13     | 6      |        |
|              | <事由別内訳> | 定年   | 2    | 7      | 4      | 3      | 3      |        |
|              |         | 自己都合 | 7    | 4      | 5      | 5      | 2      |        |
|              |         | 会社都合 | 0    | 0      | 0      | 0      | 0      |        |
|              |         | その他  | 1    | 3      | 0      | 5      | 1      |        |
|              | 離職率     |      | 3.1% | 2.7%   | 1.8%   | 3.6%   | 1.1%   |        |
| 自己都合退職者離職率   |         | —    | —    | 1.8%   | 1.8%   | 0.7%   |        |        |
| ニチレイロジグループ   | 退職者数    |      | 72   | 60     | 74     | 63     | 49     |        |
|              | <事由別内訳> | 定年   | 25   | 21     | 29     | 29     | 17     |        |
|              |         | 自己都合 | 35   | 36     | 41     | 27     | 31     |        |
|              |         | 会社都合 | 0    | 0      | 0      | 0      | 0      |        |
|              |         | その他  | 12   | 3      | 4      | 7      | 1      |        |
|              | 離職率     |      | 2.7% | 2.3%   | 2.5%   | 1.9%   | 1.8%   |        |
| 自己都合退職者離職率   |         | —    | —    | 2.3%   | 1.5%   | 1.7%   |        |        |
| ニチレイバイオサイエンス | 退職者数    |      | 3    | 3      | 7      | 3      | 9      |        |
|              | <事由別内訳> | 定年   | 1    | 0      | 0      | 1      | 3      |        |
|              |         | 自己都合 | 0    | 3      | 6      | 2      | 6      |        |
|              |         | 会社都合 | 0    | 0      | 0      | 0      | 0      |        |
|              |         | その他  | 2    | 0      | 1      | 0      | 0      |        |
|              | 離職率     |      | 2.6% | 3.6%   | 8.1%   | 2.2%   | 6.6%   |        |
| 自己都合退職者離職率   |         | —    | —    | 7.0%   | 2.2%   | 6.6%   |        |        |

※ 対象者：社員

※ 離職率は定年退職者を除く退職者をもとに算出

※ 「その他」は役員就任退職、等を含む

#### ■ 定年後再雇用者数

| 対象範囲           | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|----------------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| ニチレイグループ 全体    | 人  | 44     | 59     | 57     | 51     | 36     |
| ニチレイ<br>(持株会社) |    | 3      | 5      | 3      | 5      | 2      |
| ニチレイフーズ        |    | 14     | 28     | 25     | 16     | 17     |
| ニチレイフレッシュ      |    | 2      | 7      | 3      | 3      | 1      |
| ニチレイロジグループ     |    | 24     | 19     | 26     | 26     | 14     |
| ニチレイバイオサイエンス   |    | 1      | 0      | 0      | 1      | 2      |
| 参考) グループ定年退職者数 |    | 48     | 64     | 65     | 59     | 45     |

※ 対象者：社員、60歳代で働いている人

※ 年度ごとの定年退職者のうち、再雇用されている人数

※ 再雇用希望者のほぼ100%が再雇用されている

#### ■ 障がい者雇用率

| 対象範囲        | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|-------------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| ニチレイグループ 全体 | %  | 2.50   | 2.56   | 2.75   | 2.80   | 2.80   |

※ 法定雇用率2.0%

※ 対象範囲はニチレイアウラ（特例子会社）のグループ適用会社

※ グループ適用会社（2020年度）：ニチレイ、ニチレイフーズ、ニチレイフレッシュ、ニチレイロジグループ本社

ニチレイロジグループ

ニチレイバイオサイエンス、ロジスティクス・ネットワーク、ニチレイ・ロジスティクス関東、ニチレイバイオサイエンス

ニチレイ・ロジスティクスエンジニアリング、東京ニチレイサービス、ニチレイアウラ

■ 年間総実労働時間数

| 対象範囲           | 項目                 | 単位    | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|----------------|--------------------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| ニチレイグループ 全体    | 合計                 | 時間    | 2,025  | 1,997  | 1,977  | 1,975  | 1,993  |
|                | 所定内勤務時間<br>－休暇取得時間 |       | 1,801  | 1,780  | 1,758  | 1,767  | 1,759  |
|                | 時間外労働時間            |       | 225    | 217    | 219    | 208    | 234    |
| ニチレイ<br>(持株会社) | 合計                 |       | 1,906  | 1,905  | 1,899  | 1,949  | 2,004  |
|                | 所定内勤務時間<br>－休暇取得時間 |       | 1,729  | 1,718  | 1,724  | 1,754  | 1,762  |
|                | 時間外労働時間            |       | 176    | 187    | 175    | 196    | 242    |
| ニチレイフーズ        | 合計                 |       | 2,020  | 1,998  | 2,005  | 2,011  | 2,018  |
|                | 所定内勤務時間<br>－休暇取得時間 |       | 1,790  | 1,772  | 1,758  | 1,768  | 1,757  |
|                | 時間外労働時間            |       | 230    | 226    | 247    | 243    | 261    |
| ニチレイフレッシュ      | 合計                 |       | 1,981  | 1,948  | 1,948  | 1,929  | 1,994  |
|                | 所定内勤務時間<br>－休暇取得時間 |       | 1,795  | 1,770  | 1,754  | 1,759  | 1,765  |
|                | 時間外労働時間            |       | 185    | 178    | 194    | 170    | 229    |
| ニチレイロジグループ     | 合計                 | 2,052 | 2,014  | 1,970  | 1,958  | 1,972  |        |
|                | 所定内勤務時間<br>－休暇取得時間 | 1,821 | 1,796  | 1,763  | 1,771  | 1,760  |        |
|                | 時間外労働時間            | 231   | 218    | 207    | 187    | 212    |        |
| ニチレイバイオサイエンス   | 合計                 | 1,980 | 1,954  | 1,882  | 1,901  | 1,971  |        |
|                | 所定内勤務時間<br>－休暇取得時間 | 1,749 | 1,736  | 1,716  | 1,754  | 1,768  |        |
|                | 時間外労働時間            | 232   | 218    | 166    | 148    | 203    |        |

※ 年間1人当たり平均時間数

※ 対象者：社員

■ 年次有給休暇年間平均取得日数・取得率

| 対象範囲           | 項目       | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|----------------|----------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| ニチレイグループ 全体    | 年間平均取得日数 | 日数 | 6.6    | 8.0    | 10.2   | 11.0   | 12.5   |
|                | 取得率      | %  | 34.8   | 41.8   | 53.4   | 59.7   | 65.6   |
| ニチレイ<br>(持株会社) | 年間平均取得日数 | 日数 | 14.3   | 15.1   | 14.8   | 13.2   | 13.1   |
|                | 取得率      | %  | 76.9   | 78.0   | 77.1   | 71.7   | 68.6   |
| ニチレイフーズ        | 年間平均取得日数 | 日数 | 7.4    | 8.3    | 10.2   | 10.8   | 13.3   |
|                | 取得率      | %  | 37.9   | 42.7   | 52.4   | 57.2   | 69.1   |
| ニチレイフレッシュ      | 年間平均取得日数 | 日数 | 7.9    | 9.9    | 11.6   | 12.6   | 13.0   |
|                | 取得率      | %  | 41.2   | 51.9   | 60.9   | 69.2   | 68.5   |
| ニチレイロジグループ     | 年間平均取得日数 | 日数 | 4.6    | 6.5    | 9.3    | 10.6   | 11.7   |
|                | 取得率      | %  | 24.8   | 34.6   | 49.3   | 58.7   | 61.8   |
| ニチレイバイオサイエンス   | 年間平均取得日数 | 日数 | 12.6   | 12.5   | 14.2   | 11.7   | 12.1   |
|                | 取得率      | %  | 70.7   | 69.0   | 79.4   | 69.3   | 65.7   |

※ 対象者：社員

※ 取得率 = 取得日数 ÷ 年間付与日数 (繰越日数を含まない)

※ その他に特別休暇 (夏季休暇) として年間1人平均2.6日 (2020年度) 取得している。

■ ボランティア休暇取得者数

| 対象範囲        | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|-------------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| ニチレイグループ 全体 | 人  | 0      | 0      | 0      | 1      | 1      |

■ 育児休業取得者数

| 対象範囲           | 項目 | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|----------------|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| ニチレイグループ 全体    | 男性 | 人  | 2      | 1      | 2      | 2      | 9      |
|                | 女性 |    | 34     | 42     | 48     | 31     | 36     |
| ニチレイ<br>(持株会社) | 男性 |    | 2      | 0      | 1      | 0      | 1      |
|                | 女性 |    | 1      | 2      | 6      | 3      | 4      |
| ニチレイフーズ        | 男性 |    | 0      | 1      | 1      | 1      | 1      |
|                | 女性 |    | 17     | 14     | 17     | 14     | 12     |
| ニチレイフレッシュ      | 男性 |    | 0      | 0      | 0      | 1      | 2      |
|                | 女性 |    | 0      | 2      | 1      | 2      | 3      |
| ニチレイロジグループ     | 男性 |    | 0      | 0      | 0      | 0      | 5      |
|                | 女性 |    | 15     | 20     | 22     | 11     | 16     |
| ニチレイバイオサイエンス   | 男性 |    | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |
|                | 女性 |    | 1      | 4      | 2      | 1      | 1      |

※ 対象者：社員（専任職社員を含む）

※ 2014年度より産前産後休業取得者数含む

■ 介護休業取得者数

| 対象範囲           | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|----------------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| ニチレイグループ 全体    | 人  | 0      | 3      | 2      | 2      | 3      |
| ニチレイ<br>(持株会社) |    | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |
| ニチレイフーズ        |    | 0      | 3      | 2      | 1      | 2      |
| ニチレイフレッシュ      |    | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |
| ニチレイロジグループ     |    | 0      | 0      | 0      | 1      | 1      |
| ニチレイバイオサイエンス   |    | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |

※ 対象者：社員（専任職社員を含む）

■ 食品工場の労働災害件数

| 対象範囲 | 項目                    | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|------|-----------------------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 食品工場 | 休業災害件数 <sup>※1</sup>  | 件  | 34     | 34     | 29     | 20     | 21     |
|      | 不休災害件数                |    | 12     | 11     | 16     | 19     | 19     |
|      | 休業災害度数率 <sup>※2</sup> |    | -      | -      | -      | -      | 5      |
|      | 休業災害強度率 <sup>※3</sup> |    | -      | -      | -      | -      | 0.09   |

※ 対象範囲：ニチレイフーズ自営工場及びニチレイフレッシュ国内関係会社の従業員

※ 契約社員、嘱託社員、パート・アルバイトなどを含む

※1 労働災害による死傷者数（休業1日以上的人数）

※2 100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数

※3 1,000延べ実労働時間当たりの延べ労働損失日数

■ 業務上の死亡者数

| 対象範囲       | 項目   | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|------------|--|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| ニチレイグループ全体 | 社員   | 件  | 0      | 1      | 0      | 0      | 0      |
|            | 社員以外（臨時従業員、契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等を含み派遣社員を除く） |    | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |

■ 一般定期健康診断受診率

| 対象範囲                 | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|----------------------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| ニチレイグループ 全体          | %  | 99.8   | 100    | 100    | 100    | 100    |
| ニチレイ（持株会社）           |    | 100    | 100    | 100    | 100    | 100    |
| ニチレイフーズ              |    | 99.9   | 100    | 100    | 100    | 100    |
| ニチレイフレッシュ            |    | 100    | 100    | 100    | 100    | 100    |
| ニチレイロジグループ本社         |    | 100    | 100    | 100    | 100    | 100    |
| ニチレイバイオサイエンス         |    | 100    | 100    | 100    | 100    | 100    |
| ニチレイ・ロジスティクス北海道      |    | 98.3   | 100    | 100    | 100    | 100    |
| ニチレイ・ロジスティクス東北       |    | 100    | 100    | 100    | 100    | 100    |
| ニチレイ・ロジスティクス関東       |    | 100    | 100    | 100    | 100    | 100    |
| キョクレイ                |    | 100    | 100    | 100    | 100    | 100    |
| ニチレイ・ロジスティクス東海       |    | 100    | 100    | 100    | 100    | 100    |
| ニチレイ・ロジスティクス関西       |    | 100    | 100    | 100    | 100    | 100    |
| ニチレイ・ロジスティクス中四国      |    | 100    | 100    | 100    | 100    | 100    |
| ニチレイ・ロジスティクス九州       |    | 99.3   | 100    | 100    | 100    | 100    |
| NKトランス               |    | 99.7   | 100    | 100    | 100    | 100    |
| ロジスティクス・ネットワーク       |    | 99.8   | 100    | 100    | 100    | 100    |
| ニチレイ・ロジスティクスエンジニアリング |    | 99.4   | 100    | 100    | 100    | 100    |

※ ニチレイ健康保健組合被保険者を対象とする

（当年度4月2日以降入社者・海外勤務者・国内出向者・休職者・入社前健診受診者は母数から除いています）

■ ストレスチェック受検率

| 対象範囲        | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|-------------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| ニチレイグループ 全体 | %  | 89.2   | 90.1   | 89.6   | 90.8   | 90.1   |

■新卒採用者の離職状況

| 対象範囲           | 項目       | 離職者数(人) | 離職率(%) | 採用数   |     |
|----------------|----------|---------|--------|-------|-----|
| ニチレイグループ 全体    | 2017年度入社 | 1年目まで   | 4      | 4.3%  | 101 |
|                |          | 2年目まで   | 10     | 10.9% |     |
|                |          | 3年目まで   | 17     | 18.5% |     |
|                | 2018年度入社 | 1年目まで   | 2      | 2.3%  | 88  |
|                |          | 2年目まで   | 5      | 5.7%  |     |
|                |          | 3年目まで   | 11     | 12.5% |     |
|                | 2019年度入社 | 1年目まで   | 1      | 1.0%  | 104 |
|                |          | 2年目まで   | 5      | 4.8%  |     |
|                |          | 3年目まで   | 9      | 8.7%  |     |
|                | 2020年度入社 | 1年目まで   | 3      | 2.6%  | 117 |
|                |          | 2年目まで   | 7      | 6.0%  |     |
|                |          | 3年目まで   | —      | —     |     |
|                | 2021年度入社 | 1年目まで   | 2      | 1.7%  | 117 |
|                |          | 2年目まで   | —      | —     |     |
|                |          | 3年目まで   | —      | —     |     |
| ニチレイ<br>(持株会社) | 2017年度入社 | 1年目まで   | 0      | 0.0%  | 3   |
|                |          | 2年目まで   | 0      | 0.0%  |     |
|                |          | 3年目まで   | 0      | 0.0%  |     |
|                | 2018年度入社 | 1年目まで   | 0      | 0.0%  | 0   |
|                |          | 2年目まで   | 0      | 0.0%  |     |
|                |          | 3年目まで   | 0      | 0.0%  |     |
|                | 2019年度入社 | 1年目まで   | 0      | 0.0%  | 4   |
|                |          | 2年目まで   | 0      | 0.0%  |     |
|                |          | 3年目まで   | 0      | 0.0%  |     |
|                | 2020年度入社 | 1年目まで   | 0      | 0.0%  | 4   |
|                |          | 2年目まで   | 0      | 0.0%  |     |
|                |          | 3年目まで   | —      | —     |     |
|                | 2021年度入社 | 1年目まで   | 0      | 0.0%  | 5   |
|                |          | 2年目まで   | —      | —     |     |
|                |          | 3年目まで   | —      | —     |     |

| 対象範囲      | 項目       |       | 離職者数（人） | 離職率（%） | 採用数 |
|-----------|----------|-------|---------|--------|-----|
| ニチレイフーズ   | 2017年度入社 | 1年目まで | 0       | 0.0%   | 27  |
|           |          | 2年目まで | 1       | 4.0%   |     |
|           |          | 3年目まで | 3       | 12.0%  |     |
|           | 2018年度入社 | 1年目まで | 1       | 3.2%   | 31  |
|           |          | 2年目まで | 2       | 6.5%   |     |
|           |          | 3年目まで | 5       | 16.1%  |     |
|           | 2019年度入社 | 1年目まで | 0       | 0.0%   | 33  |
|           |          | 2年目まで | 2       | 6.1%   |     |
|           |          | 3年目まで | 4       | 12.1%  |     |
|           | 2020年度入社 | 1年目まで | 2       | 5.4%   | 37  |
|           |          | 2年目まで | 4       | 10.8%  |     |
|           |          | 3年目まで | —       | —      |     |
|           | 2021年度入社 | 1年目まで | 1       | 2.8%   | 36  |
|           |          | 2年目まで | —       | —      |     |
|           |          | 3年目まで | —       | —      |     |
| ニチレイフレッシュ | 2017年度入社 | 1年目まで | 1       | 11.1%  | 10  |
|           |          | 2年目まで | 2       | 22.2%  |     |
|           |          | 3年目まで | 3       | 33.3%  |     |
|           | 2018年度入社 | 1年目まで | 0       | 0.0%   | 10  |
|           |          | 2年目まで | 0       | 0.0%   |     |
|           |          | 3年目まで | 0       | 0.0%   |     |
|           | 2019年度入社 | 1年目まで | 0       | 0.0%   | 9   |
|           |          | 2年目まで | 2       | 22.2%  |     |
|           |          | 3年目まで | 2       | 22.2%  |     |
|           | 2020年度入社 | 1年目まで | 0       | 0.0%   | 11  |
|           |          | 2年目まで | 0       | 0.0%   |     |
|           |          | 3年目まで | —       | —      |     |
|           | 2021年度入社 | 1年目まで | 0       | 0.0%   | 8   |
|           |          | 2年目まで | —       | —      |     |
|           |          | 3年目まで | —       | —      |     |

| 対象範囲         | 項目       | 離職者数（人） | 離職率（%） | 採用数   |    |
|--------------|----------|---------|--------|-------|----|
| ニチレイロジグループ   | 2017年度入社 | 1年目まで   | 3      | 6.4%  | 53 |
|              |          | 2年目まで   | 6      | 12.8% |    |
|              |          | 3年目まで   | 8      | 17.0% |    |
|              | 2018年度入社 | 1年目まで   | 1      | 2.4%  | 42 |
|              |          | 2年目まで   | 2      | 4.8%  |    |
|              |          | 3年目まで   | 4      | 9.5%  |    |
|              | 2019年度入社 | 1年目まで   | 1      | 2.0%  | 50 |
|              |          | 2年目まで   | 1      | 2.0%  |    |
|              |          | 3年目まで   | 3      | 6.0%  |    |
|              | 2020年度入社 | 1年目まで   | 1      | 1.7%  | 58 |
|              |          | 2年目まで   | 2      | 3.4%  |    |
|              |          | 3年目まで   | —      | —     |    |
|              | 2021年度入社 | 1年目まで   | 1      | 1.5%  | 66 |
|              |          | 2年目まで   | —      | —     |    |
|              |          | 3年目まで   | —      | —     |    |
| ニチレイバイオサイエンス | 2017年度入社 | 1年目まで   | 0      | 0.0%  | 8  |
|              |          | 2年目まで   | 1      | 16.7% |    |
|              |          | 3年目まで   | 3      | 50.0% |    |
|              | 2018年度入社 | 1年目まで   | 0      | 0.0%  | 5  |
|              |          | 2年目まで   | 1      | 20.0% |    |
|              |          | 3年目まで   | 2      | 40.0% |    |
|              | 2019年度入社 | 1年目まで   | 0      | 0.0%  | 8  |
|              |          | 2年目まで   | 0      | 0.0%  |    |
|              |          | 3年目まで   | 0      | 0.0%  |    |
|              | 2020年度入社 | 1年目まで   | 0      | 0.0%  | 7  |
|              |          | 2年目まで   | 1      | 14.3% |    |
|              |          | 3年目まで   | —      | —     |    |
|              | 2021年度入社 | 1年目まで   | 0      | 0.0%  | 2  |
|              |          | 2年目まで   | —      | —     |    |
|              |          | 3年目まで   | —      | —     |    |

※ 対象者：社員

#### ■ニチレイグループの主な教育研修体系

| 種別    | 一般社員   | 役職社員  | 役員   |
|-------|--|---|--|
| 階層別研修 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入社員研修</li> <li>・1~3年次社員フォロー研修</li> <li>・中堅社員研修</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新任役職者研修</li> <li>・次世代経営幹部養成講座</li> <li>・マネジメント研修</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新任役員セミナー</li> <li>・メディアトレーニング</li> <li>・取締役</li> <li>・執行役員研修</li> <li>・マネジメント研修</li> <li>・コーチング研修</li> </ul> |
| 目的別研修 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーション研修</li> <li>・女性社員向けキャリアセミナー</li> <li>・女性リーダー育成プログラム</li> <li>・コーチング研修</li> <li>・語学研修</li> <li>・評価者研修</li> <li>・クリティカル・シンキング</li> <li>・マーケティング</li> <li>・アカウンティング</li> </ul> |   |  |

■ニチレイグループの教育時間及び参加人数

| 階層別及び目的別研修 | 教育時間数（延べ） | 教育参加人数（人数） |
|------------|-----------|------------|
| 2017年度     | 45,649    | 1,379      |
| 2018年度     | 49,730    | 1,699      |
| 2019年度     | 47,190    | 1,596      |
| 2020年度     | 37,201    | 1,495      |
| 2021年度     | 68,552    | 2,651      |
| 合計         | 248,322   | 8,820      |

■eラーニング

|               | 2018年度 |       |       | 2019年度 |       |       | 2020年度 |       |       | 2021年度 |       |       | 2022年度 |       |       |
|---------------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|
|               | 対象者数   | 実施人数  | 実施率   |
| E 環境          | 5,234  | 5,016 | 95.8% | 5,396  | 5,035 | 93.3% | -      | -     | -     | -      | -     | -     | -      | -     | -     |
| S SDGs        | -      | -     | -     | -      | -     | -     | 5,659  | 5,304 | 93.7% | 5,780  | 5,066 | 87.6% | 5,835  | 5,667 | 97.1% |
| 食品の品質衛生・安全性確保 | -      | -     | -     | -      | -     | -     | 5,619  | 5,302 | 94.4% | 5,771  | 5,230 | 90.6% | 5,792  | 5,373 | 92.8% |
| 品質保証          | 5,308  | 5,178 | 97.6% | 5,403  | 5,032 | 93.1% | -      | -     | -     | -      | -     | -     | -      | -     | -     |
| 知的財産          | 5,308  | 5,037 | 94.9% | 5,357  | 5,050 | 94.3% | 5,659  | 5,324 | 94.1% | 5,786  | 5,318 | 91.9% | -      | -     | -     |
| 個人情報保護法       | 5,311  | 4,973 | 93.6% | 5,381  | 5,121 | 95.2% | 5,645  | 5,347 | 94.7% | 5,763  | 5,293 | 91.8% | 5,806  | 5,448 | 93.8% |
| 情報セキュリティ      | 5,214  | 5,115 | 98.1% | 5,362  | 4,993 | 93.1% | 5,595  | 5,352 | 95.7% | 5,725  | 5,477 | 95.7% | -      | -     | -     |
| ハラスメント        | 5,356  | 5,166 | 96.5% | 5,367  | 5,008 | 93.3% | 5,680  | 5,421 | 95.4% | 5,765  | 5,350 | 92.8% | 5,835  | 5,656 | 96.9% |
| 労働時間          | -      | -     | -     | 5,381  | 5,101 | 94.8% | 5,645  | 5,363 | 95.0% | 5,763  | 5,371 | 93.2% | 5,835  | 5,572 | 95.5% |
| ヘルスリテラシー      | 5,320  | 4,988 | 93.8% | 5,403  | 5,047 | 93.4% | 5,681  | 5,409 | 95.2% | 5,778  | 5,310 | 91.9% | 5,835  | 5,557 | 95.2% |
| ストレスチェック      | -      | -     | -     | 5,358  | 4,948 | 93.1% | -      | -     | -     | -      | -     | -     | -      | -     | -     |
| 健康情報          | -      | -     | -     | -      | -     | -     | 5,649  | 5,371 | 95.1% | -      | -     | -     | -      | -     | -     |

|   | 2018年度     |       |       | 2019年度 |       |       | 2020年度 |       |       | 2021年度 |       |       | 2022年度 |       |       |       |
|---|------------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
|   | 対象者数       | 実施人数  | 実施率   | 対象者数   | 実施人数  | 実施率   | 対象者数   | 実施人数  | 実施率   | 対象者数   | 実施人数  | 実施率   | 対象者数   | 実施人数  | 実施率   |       |
| G | コンプライアンス   | -     | -     | -      | -     | -     | -      | -     | -     | 5,771  | 5,252 | 91.0% | 5,792  | 5,395 | 93.1% |       |
|   | 内部統制       | 5,247 | 5,080 | 96.8%  | 5,435 | 5,088 | 93.6%  | 5,643 | 5,247 | 93.0%  | 5,750 | 5,281 | 91.8%  |       |       |       |
|   | 内部通報・相談制度  | 5,256 | 4,901 | 93.2%  | 5,471 | 4,862 | 88.9%  | 5,618 | 5,282 | 94.0%  | -     | -     | -      |       |       |       |
|   | 競争法遵守・贈賄防止 | 5,308 | 5,005 | 94.3%  | 5,357 | 5,057 | 94.4%  | -     | -     | -      | 5,786 | 5,276 | 91.2%  | 5,820 | 5,275 | 90.6% |
|   | 贈収賄防止      | -     | -     | -      | -     | -     | -      | 5,655 | 5,228 | 92.4%  | -     | -     | -      |       |       |       |
|   | インサイダー     | -     | -     | -      | 5,358 | 4,904 | 91.5%  | 5,649 | 5,361 | 94.9%  | 5,757 | 5,216 | 90.6%  | 5,806 | 5,487 | 94.5% |
|   | 退職給付制度     | -     | -     | -      | -     | -     | -      | -     | -     | -      | 3,873 | 3,569 | 92.2%  | 3,963 | 3,768 | 95.1% |

■品質保証（監査、認証取得数、教育時間数）

|        | 担当部署                         | 2017年度                     |       | 2018年度 |    | 2019年度 |    | 2020年度 |    | 2021年度 |    |
|--------|------------------------------|----------------------------|-------|--------|----|--------|----|--------|----|--------|----|
|        |                              | 国内                         | 海外    | 国内     | 海外 | 国内     | 海外 | 国内     | 海外 | 国内     | 海外 |
| 品質保証監査 | グループ年間監査件数（国内/海外）<br>品質保証部   | 156                        | 7     | 66     | 38 | 52     | 20 | 40     | 10 | 46     | 16 |
|        | ニチレイフーズ（国内/海外）<br>品質保証部      | 30                         | 4     | 26     | 20 | 6      | 5  | 16     | 6  | 5      | 5  |
|        | ニチレイロジグループ（国内/海外）<br>品質安全管理部 | 112                        | -     | 24     | 0  | 34     | -  | 19     | -  | 26     | 0  |
|        | ニチレイフレッシュ（国内/海外）<br>品質保証部    | 7/7<br>(7/8:1件は養鶏場なので監査無し) | 11/13 | 10     | 17 | 9      | 15 | 5      | 4  | 15     | 11 |
|        | ニチレイバイオサイエンス（国内/海外）<br>品質保証部 | 7                          | 0     | 7      | 1  | 3      | 0  | 0      | 0  | 0      | 0  |

|                              |                   |                       |                    |   |                     |                    |                    |                    |                    |                    |                    |
|------------------------------|-------------------|-----------------------|--------------------|---|---------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| グループ年間実施率(対計画)(事業所カバー率国内/海外) | 品質保証部             | 計画に対し100%実施           | 計画に対し(=15/17)88%実施 | 計画に対し(=67/68)99%実施※BIOの1件は、製造ずれ込み11月→翌年4月実施 | 計画に対し100%実施(=38/38) | 計画に対し(=52/60)87%実施 | 計画に対し(=20/25)80%実施 | 計画に対し(=40/69)58%実施 | 計画に対し(=10/36)28%実施 | 計画に対し(=46/70)66%実施 | 計画に対し(=16/33)48%実施 |
| グループ年間実施率(実数)(事業所カバー率国内/海外)  | 品質保証部             | 38%<br>(157/408)      | 7%<br>(15/210)     | 18%<br>(67/370)                             | 20%<br>(38/189)     | 17%<br>(52/307)    | 11%<br>(20/180)    | 13%<br>(40/305)    | 6%<br>(10/172)     | 15%<br>(46/299)    | 9%(16/176)         |
| ニチレイフーズ(国内/海外)               | ニチレイフーズ品質保証部      | 100%<br>(30/30)/61    | 100%(4/4)/49       | 100%<br>(26/26)/61                          | 100%<br>(20/20)/49  | 100%<br>(6/6)/53   | 100%<br>(5/5)/43   | (16/38)/52         | (6/20)/43          | (5/25)/55          | (5/17)/42          |
| ニチレイロジグループ(国内/海外)            | ニチレイロジグループ品質安全管理部 | 100%<br>(112/112)/112 | -                  | 100%<br>(24/24)/110                         | -                   | 87%<br>(34/39)/115 | -                  | (19/19)/117        | -                  | (26/26)/117        | -                  |
| ニチレイフレッシュ(国内/海外)             | ニチレイフレッシュ品質保証部    | 100%<br>(7/7)/222     | 85%<br>(11/13)/158 | 100%<br>(10/10)/189                         | 100%<br>(17/17)/139 | 100%<br>(9/9)/129  | 83%<br>(15/18)/135 | (5/8) 127          | (4/14)/126         | (15/17)/123        | (11/16)/131        |

|                            |                     |                   |                        |            |                  |                  |              |            |          |          |         |         |
|----------------------------|---------------------|-------------------|------------------------|------------|------------------|------------------|--------------|------------|----------|----------|---------|---------|
|                            | ニチレイバイオサイエンス(国内/海外) | ニチレイバイオサイエンス品質保証部 | 100%<br>(7/7) /13      | - (0/0) /3 | 75%<br>(6/8) /10 | 100%<br>(1/1) /1 | 71%(5/7) /10 | 0%(0/2) /2 | (0/4) /9 | (0/2) /3 | (0/2)/4 | (0/0)/3 |
| 品質保証関連データ<br>認証数は各年度の3月末時点 |                     |                   | 取得事業所数/国内の連結対象子会社の事業所数 |            |                  |                  |              |            |          |          |         |         |
| HACCP<br>(食品衛生管理システム)      | ニチレイフーズ             |                   | 13/15                  | -          | 14/15            | -                | 14/15        | -          | 15/15    | -        | -       | -       |
|                            | ニチレイフレッシュ           |                   | 6/7                    | -          | 7/7              | -                | 7/7          | -          | 7/7      | -        | -       | -       |

|                 |                             |                           |         |   |         |     |        |     |         |     |        |     |
|-----------------|-----------------------------|---------------------------|---------|---|---------|-----|--------|-----|---------|-----|--------|-----|
| ISO9001 認<br>証数 | グループ認証<br>件数<br>(国内/海外)     | 品質保証部                     | 126/135 | 3 | 114/139 | 3/5 | 89/138 | 3/5 | 89/140  | 2/5 | 94/140 | 2/5 |
|                 | ニチレイフーズ<br>(国内/海外)          | ニチレイフーズ<br>品質保証部          | 13      | 3 | 3/15    | 3/5 | 3/15   | 3/5 | 3/15    | 2/5 | 3/5    | 2/5 |
|                 | ニチレイロジ<br>グループ<br>(国内/海外)   | ニチレイロジ<br>グループ<br>品質安全管理部 | 105/112 | - | 104/116 | -   | 81/115 | -   | 83 /117 | -   | 86/117 | -   |
|                 | ニチレイフレッシュ<br>(国内/海外)        | ニチレイフレッシュ<br>品質保証部        | 8/8     | - | 7/8     | -   | 5/8    | -   | 5/8     | -   | 5/8    | -   |
|                 | ニチレイバイオサイ<br>エンス<br>(国内/海外) | ニチレイバイオサイ<br>エンス<br>品質保証部 | -       | - | -       | -   | -      | -   | -       | -   | -      | -   |

|                                   |                             |                           |       |   |       |     |                                |     |       |     |       |     |
|-----------------------------------|-----------------------------|---------------------------|-------|---|-------|-----|--------------------------------|-----|-------|-----|-------|-----|
| ISO14001<br>及び<br>ISO13485<br>認証数 | グループ認証<br>件数<br>(国内/海外)     | 品質保証部                     | 13/17 | 2 | 12    | 3   | 13                             | 2   | 13    | 3   | 12    | 6   |
|                                   | ニチレイフーズ<br>(国内/海外)          | ニチレイフーズ<br>品質保証部          | 11/15 | 2 | 11/15 | 2/5 | 11/15                          | 2/5 | 11/15 | 2/5 | 10/15 | 5/5 |
|                                   | ニチレイロジ<br>グループ<br>(国内/海外)   | ニチレイロジ<br>グループ<br>品質安全管理部 | -     | - | -     | -   | -                              | -   | -     | -   | -     | -   |
|                                   | ニチレイフレッシュ<br>(国内/海外)        | ニチレイフレッシュ<br>品質保証部        | -     | - | -     | -   | -                              | -   | -     | -   | -     | -   |
|                                   | ニチレイバイオサイ<br>エンス<br>(国内/海外) | ニチレイバイオサイ<br>エンス<br>品質保証部 | 2/2   | - | 1     | 1   | 14000:<br>0/1<br>13485:<br>2/2 | -   | 2/2   | 1/1 | 2/2   | 1/1 |
|                                   |                             |                           |       |   |       |     |                                |     |       |     |       |     |

|                                 |                             |                           |        |   |        |     |        |     |        |     |        |     |
|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------|--------|---|--------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|
| FSSC22000<br>ISO22000<br>SQF認証数 | グループ認証<br>件数<br>(国内/海外)     | 品質保証部                     | 21/135 | 2 | 22/139 | 4/5 | 23/137 | 4/5 | 23/139 | 6/6 | 24/139 | 6/6 |
|                                 | ニチレイフーズ<br>(国内/海外)          | ニチレイフーズ<br>品質保証部          | 13/15  | - | 14/15  | 4/5 | 14/15  | 4/5 | 14/15  | 5/5 | 15/15  | 5/5 |
|                                 | ニチレイロジ<br>グループ<br>(国内/海外)   | ニチレイロジ<br>グループ<br>品質安全管理部 | 2/112  | - | 2/116  | -   | 2/115  | -   | 2/117  | -   | 2/117  | -   |
|                                 | ニチレイフレッシュ<br>(国内/海外)        | ニチレイフレッシュ<br>品質保証部        | 6/8    | - | 6/8    | -   | 7/7    | -   | 7/7    | 1/1 | 7/7    | 1/1 |
|                                 | ニチレイバイオサイ<br>エンス<br>(国内/海外) | ニチレイバイオサイ<br>エンス<br>品質保証部 | -      | - | -      | -   | -      | -   | -      | -   | -      | -   |
|                                 |                             |                           |        |   |        |     |        |     |        |     |        |     |

|            |                             |                           |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|------------|-----------------------------|---------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 品質保証 重大案件数 | グループ年間<br>件数<br>(国内/海外)     | 品質保証部                     | 3 | 0 | 7 | 0 | 1 | 3 | 4 | 2 | 3 | 2 |
|            | ニチレイフーズ<br>(国内/海外)          | ニチレイフーズ<br>品質保証部          | 1 | - | 1 | - | - | - | 0 | 0 | 0 | 0 |
|            | ニチレイロジ<br>グループ<br>(国内/海外)   | ニチレイロジ<br>グループ<br>品質安全管理部 | - | - | - | - | - | 0 | 0 | - | 0 | 0 |
|            | ニチレイフレッシュ<br>(国内/海外)        | ニチレイフレッシュ<br>品質保証部        | - | - | 6 | - | 1 | 3 | 4 | 2 | 3 | 2 |
|            | ニチレイバイオサイ<br>エンス<br>(国内/海外) | ニチレイバイオサイ<br>エンス<br>品質保証部 | 2 | - | - | - | - | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
|            |                             |                           |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |

|            |                      |                    |       |    |      |    |       |    |       |    |     |    |
|------------|----------------------|--------------------|-------|----|------|----|-------|----|-------|----|-----|----|
| 品質保証 教育時間数 | グループ年間時間数 (国内/海外)    | 品質保証部              | 199.1 | 86 | 210  | 19 | 221.5 | 10 | 455.5 | 21 | 790 | 25 |
|            | ニチレイフーズ (国内/海外)      | ニチレイフーズ 品質保証部      | 67    | 34 | 42.5 | 19 | 42.5  | 10 | 24    | 21 | 24  | 25 |
|            | ニチレイロジグループ (国内/海外)   | ニチレイロジグループ 品質安全管理部 | 41    | 0  | 77   | 0  | 77    | 0  | 334   | -  | 678 | -  |
|            | ニチレイフレッシュ (国内/海外)    | ニチレイフレッシュ 品質保証部    | 23.1  | 50 | 26.5 | 0  | 38    | 0  | 40    | 0  | 30  | 0  |
|            | ニチレイバイオサイエンス (国内/海外) | ニチレイバイオサイエンス 品質保証部 | 68    | 2  | 64   | 0  | 64    | 0  | 57.5  | 0  | 58  | 0  |

主な会議や委員会の開催回数と出席率について

|            |             |       |     |   |                                      |   |                                      |   |                                       |   |                                       |   |
|------------|-------------|-------|-----|---|--------------------------------------|---|--------------------------------------|---|---------------------------------------|---|---------------------------------------|---|
| 各委員会の役員出席率 | グループ品質保証委員会 | 品質保証部 | 95% | - | 第1回) 91% (10/11)<br>第2回) 91% (10/11) | - | 第1回) 100% (11/11)<br>第2回) 82% (9/11) | - | 第1回) 100% (11/11)<br>第2回) 91% (10/11) | - | 第1回) 92% (12/13)<br>第2回) 100% (12/12) | - |
|------------|-------------|-------|-----|---|--------------------------------------|---|--------------------------------------|---|---------------------------------------|---|---------------------------------------|---|

■ 定期健康診断後の精密検査受診率

| 対象範囲        | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|-------------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| ニチレイグループ 全体 | %  | 6.1    | 12.3   | 17.5   | 66.1   | 70.1   |

■ 非営利組織への寄付

| 非営利組織等への寄付（単位：百万円）                 | 2017年度 |    | 2018年度 |    | 2019年度 |    | 2020年度 |    | 2021年度 |    |
|------------------------------------|--------|----|--------|----|--------|----|--------|----|--------|----|
|                                    | 国内     | 海外 |
| 社会福祉・災害支援<br>（社会福祉、ソーシャル・インクルージョン） | 19     | -  | 19     | -  | 19     | -  | 20     | -  | 18     | -  |
| 社会福祉・災害支援<br>（災害被災地支援）             | 2      | 1  | 14     | 0  | 16     | 0  | 2      | 0  | 4      | 0  |
| 教育<br>（学術・研究）                      | 3      | -  | 15     | -  | 10     | -  | 8      | -  | 6      | -  |
| 教育<br>（教育・社会教育）                    | 77     | -  | 82     | -  | 77     | -  | 67     | -  | 57     | -  |
| 健康・スポーツ・文化芸術<br>（健康・医学、スポーツ）       | 120    | -  | 133    | -  | 138    | -  | 134    | -  | 134    | -  |
| 健康・スポーツ・文化芸術<br>（文化・芸術）            | 6      | -  | 0      | -  | 0      | -  | 0      | -  | 0      | -  |
| 環境保全<br>（環境）                       | 18     | -  | 17     | -  | 50     | -  | 57     | -  | 59     | -  |
| 地域貢献（地域社会の活動、史跡・<br>伝統文化保全）        | 16     | -  | 24     | -  | 19     | -  | 48     | -  | 67     | -  |
| 政治寄付                               | 0      | -  | 0      | -  | 0      | -  | 0      | -  | 0      | -  |
| その他                                | 2      | -  | 3      | -  | 2      | -  | 2      | -  | 2      | -  |
| ニチレイグループ全体                         | 262    | 1  | 306    | 0  | 330    | 0  | 338    | 0  | 347    | -  |

■ 衛生管理者

| 対象範囲        | 項目       | 単位 | 2020年度 | 2021年度 |
|-------------|----------|----|--------|--------|
| ニチレイグループ 全体 | 第一種衛生管理者 | 人  | 89     | 78     |
|             | 第二種衛生管理者 | 人  | 11     | 11     |
|             | 合計       | 人  | 100    | 89     |

■ 個人情報保護漏えい等

|             | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| ニチレイグループ 全体 | 0      | 0      | 0      | 0      | 1      |

■ 広告・宣伝、ラベリングにおける法規違反件数

|             | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| ニチレイグループ 全体 | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |

## ■ ガバナンスデータ集

|                            |           |                |                           |
|----------------------------|-----------|----------------|---------------------------|
| ▼ 取締役会構成                   | ▼ 取締役会出席率 | ▼ 各種委員会等の開催回数  | ▼ 各種委員会等の開催回数と<br>役員の出席回数 |
| ▼ コンプライアンス監査の設<br>備監査と内部統制 | ▼ 内部通報件数  | ▼ 腐敗防止・贈収賄について |                           |

社外取締役・社外監査役の選任状況



第104期 定時株主総会招集ご通知



### ■ 取締役会構成

| 区分                | 性別 | 2017年度 (人) | 2018年度 (人) | 2019年度 (人) | 2020年度 (人) | 2021年度 (人) |
|-------------------|----|------------|------------|------------|------------|------------|
| 社内取締役<br>※田口取締役含む | 男性 | 7          | 7          | 7          | 7          | 7          |
|                   | 女性 | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          |
|                   | 計  | 7          | 7          | 7          | 7          | 7          |
| 社外取締役             | 男性 | 1          | 1          | 1          | 1          | 1          |
|                   | 女性 | 2          | 2          | 2          | 2          | 3          |
|                   | 計  | 3          | 3          | 3          | 3          | 4          |
| 合計                | 男性 | 8          | 8          | 8          | 8          | 8          |
|                   | 女性 | 2          | 2          | 2          | 2          | 3          |
|                   | 計  | 10         | 10         | 10         | 10         | 11         |

### ■ 取締役会出席率

| 区分    | 2017年度 (%) | 2018年度 (%) | 2019年度 (%) | 2020年度 (%) | 2021年度 (%) |
|-------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 社内取締役 | 97.7       | 97.4       | 100        | 100        | 97.6       |
| 社外取締役 | 96.5       | 98.2       | 94.4       | 100        | 100        |

■ 各種委員会等の開催回数

|                  |                       | 開催回数   |        |        |        |        |
|------------------|-----------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
|                  |                       | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
| 取締役会             | 毎月第3火曜日定時に開催          | 19     | 19     | 18     | 18     | 19     |
| 経営会議             | 毎月第3火曜日を除く火曜日定時に開催    | 21     | 23     | 20     | 17     | 23     |
| グループ人財委員会        | 年2回開催するほか必要に応じて委員長が招集 | 2      | 2      | 2      | 2      | 2      |
| グループリスクマネジメント委員会 | 年2回開催するほか必要に応じて委員長が招集 | 2      | 2      | 2      | 2      | 2      |
| グループ環境保全委員会      | 年2回開催するほか必要に応じて委員長が招集 | 3      | 3      | 2      | 2      | 2      |
| グループ品質保証委員会      | 年2回開催するほか必要に応じて委員長が招集 | 2      | 2      | 2      | 2      | 2      |
| グループ内部統制委員会      | 年1回開催するほか必要に応じて委員長が招集 | 1      | 1      | 1      | 1      | 1      |
| グループ役員審査委員会※1    | 必要に応じて委員長が招集          | -      | -      | 1      | 1      | 1      |
| グループ社会貢献委員会      | 年1回開催するほか必要に応じて委員長が招集 | 1      | 1      | 1      | 1      | 1      |
| 指名諮問委員会          | 年2回開催するほか必要に応じて委員長が招集 | 1      | 2      | 2      | 5      | 6      |
| 報酬諮問委員会※2        | 年2回開催するほか必要に応じて委員長が招集 | 1      | 6      | 3      | 5      | 6※     |
| 審査委員会            | 必要に応じて委員長が招集          | -      | -      | 1      | 2      | 0      |
| 知的財産管理委員会        | 必要に応じて委員長が招集          | -      | -      | -      | -      | 0      |

※ 第6回書面開催を含む

※1 必要に応じて委員長が招集

※2 2020年1月より、報酬諮問委員会規定上、原則1年に2回開催

■ 各種委員会等の開催回数と役員の出席回数

| 区別  | 氏名  | 取締役会の出席状況            | 指名諮問委員会の出席状況       | 報酬諮問委員会の出席状況       | 監査役会の出席状況 |
|-----|---|----------------------|--------------------|--------------------|-----------|
| 取締役 | <br>大櫛 顕也            | 19/19回               | 6/6回               | 6/6回               |           |
|     | <br>川崎 順司            | 19/19回               |                    |                    |           |
|     | <br>梅澤 一彦            | 19/19回               |                    |                    |           |
|     | <br>竹永 雅彦           | 18/19回               |                    |                    |           |
|     | <br>田邊 弥           | 15/15回※ <sup>1</sup> |                    |                    |           |
|     | 新任<br><br>鈴木 健二    | ※ <sup>2</sup>       |                    |                    |           |
|     | 独立役員<br><br>昌子 久仁子 | 19/19回               | 6/6回               | 5/6回               |           |
|     | 独立役員<br><br>鍋嶋 麻奈  | 15/15回※ <sup>1</sup> | 4/4回※ <sup>1</sup> | 4/4回※ <sup>1</sup> |           |

| 区別  | 氏名  | 取締役会の出席状況 | 指名諮問委員会の出席状況 | 報酬諮問委員会の出席状況 | 監査役会の出席状況 |
|-----|---|-----------|--------------|--------------|-----------|
|     | <br>新任 独立役員<br>濱 逸夫  | ※2        | ※2           | ※2           |           |
|     | <br>新任 独立役員<br>濱島 健爾 | ※2        | ※2           | ※2           |           |
| 監査役 | <br>加藤 達志            | 15/15回※1  |              |              | 11/11回※1  |
|     | <br>新任<br>片淵 哲郎     | ※2        |              |              | ※2        |
|     | <br>独立役員<br>齊藤 雄彦  | 19/19回    |              |              | 16/16回    |
|     | <br>独立役員<br>朝比奈 清  | 19/19回    |              |              | 16/16回    |
|     | <br>独立役員<br>清田 宗明  | 19/19回    |              |              | 16/16回    |

※1 田邊弥氏、鍋嶋麻奈氏、加藤達志氏は2021年6月22日開催の第103期定時株主総会において新たに選任され、就任したため、就任後に開催された取締役会または指名諮問委員会または報酬諮問委員会または監査役会への出席状況を記載しています。

※2 鈴木健二氏、濱逸夫氏、濱島健爾氏、片淵哲郎氏は2022年6月24日開催の第104期定時株主総会において新たに選任され、就任したため、2021年度の出席状況は記載していません。

■ コンプライアンス監査の設備監査と内部統制

|                                      | 担当部署                         | 2017年度 |     | 2018年度 |     | 2019年度 |     | 2020年度 |    | 2021年度 |      | 備考  |
|--------------------------------------|------------------------------|--------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|----|--------|------|---|
|                                      |                              | 国内     | 海外  | 国内     | 海外  | 国内     | 海外  | 国内     | 海外 | 国内     | 海外   |   |
| <b>ガバナンス・内部統制に関する全従業員とのコミュニケーション</b> |                              |        |     |        |     |        |     |        |    |        |      |   |
| 研修・セミナー実施回数<br>(e-ラーニング含む)           | 経営監査部                        | 1      |     | 1      |     | 1      |     | 1      |    | 1      |      | 1   |
| 参加比率 (全従業員カバー率)                      | 経営監査部                        | 95.50% |     | 96.80% |     | 93.60% |     | 93.00% |    | 91.80% | 100% | 海外は赴任者のみ対象                                |
| <b>ガバナンスマネジメント</b>                   |                              |        |     |        |     |        |     |        |    |        |      |   |
| 内部監査                                 | グループ年間監査件数<br>(国内/海外)        | 290    | 7   | 301    | 16  | 285    | 8   | 222    | 0  | 272    | 0    | コンプライアンスと設備の合算                            |
|                                      | グループ年間実施率<br>(事業所カバー率 国内/海外) | 77%    | 16% | 82%    | 36% | 73%    | 19% | 58%    | 0% | 69%    | 0%   | コンプライアンスと設備の合算                            |
| コンプライアンス監査                           | グループ年間監査件数<br>(国内/海外)        | 172    | 4   | 181    | 8   | 162    | 4   | 152    | 0  | 162    | 0    | コンプライアンスのみ<br>(グループ年間監査件数・実施率はコーポレート部署含む) |
|                                      | グループ年間実施率<br>(事業所カバー率 国内/海外) | 71%    | 15% | 74%    | 31% | 66%    | 17% | 61%    | 0% | 62%    | 0%   |   |
|                                      | ニチレイフーズ (国内/海外)              | 85%    | 8%  | 74%    | 8%  | 88%    | 40% | 75%    | 0% | 68%    | 0%   |   |
|                                      | ニチレイロジグループ (国内/海外)           | 58%    | 10% | 68%    | 70% | 59%    | 0%  | 49%    | 0% | 51%    | 0%   |   |
|                                      | ニチレイフレッシュ (国内/海外)            | 100%   | 50% | 100%   | 0   | 100%   | 0   | 88%    | 0% | 76%    | 0%   |   |
|                                      | ニチレイバイオサイエンス (国内/海外)         | 100%   | 0   | 100%   | 0   | 0      | 0   | 100%   | 0% | 100%   | 0%   |   |

|                              | 担当部署                         | 2017年度 |      | 2018年度 |      | 2019年度 |      | 2020年度 |      | 2021年度 |      | 備考 |                                     |
|------------------------------|------------------------------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|----|-------------------------------------|
|                              |                              | 国内     | 海外   |    |                                     |
| 設備監査                         | グループ年間監査件数<br>(国内/海外)        | 経営監査部  | 118  | 3      | 120  | 8      | 123  | 4      | 70   | 0      | 110  | 0  | 設備のみ<br>(グループ年間監査件数・実施率はコーポレート部署含む) |
|                              | グループ年間実施率<br>(事業所カバー率 国内/海外) | 経営監査部  | 87%  | 16%    | 87%  | 42%    | 87%  | 22%    | 51%  | 0%     | 82%  | 0% |                                     |
|                              | ニチレイフーズ (国内/海外)              | 経営監査部  | 94%  | 33%    | 100% | 17%    | 94%  | 33%    | 82%  | 0%     | 94%  | 0% |                                     |
|                              | ニチレイロジグループ (国内/海外)           | 経営監査部  | 84%  | 0      | 85%  | 58%    | 87%  | 14%    | 43%  | 0%     | 79%  | 0% |                                     |
|                              | ニチレイフレッシュ (国内/海外)            | 経営監査部  | 100% | 100%   | 100% | 0      | 100% | 0      | 89%  | 0%     | 89%  | 0% |                                     |
|                              | ニチレイバイオサイエンス (国内/海外)         | 経営監査部  | 100% | -      | 0%   | -      | 100% | 0      | 100% | 0%     | 100% | -  |                                     |
| <b>主な会議や委員会の開催回数と出席率について</b> |                              |        |      |        |      |        |      |        |      |        |      |    |                                     |
| 各委員会の役員出席率 (10人)             | グループ内部統制委員会                  | 経営監査部  | 100% | -      | 90%  | -      | 100% | -      | 100% | -      | 100% | -  |                                     |

■ 内部通報件数

|           | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 人事・処遇     | 6      | 6      | 2      | 2      | 0      |
| コミュニケーション | 11     | 2      | 5      | 8      | 2      |
| ハラスメント    | 12     | 1      | 12     | 10     | 3      |
| コンプライアンス  | 3      | 1      | 1      | 5      | 11     |
| 人権問題      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |
| その他       | 3      | 2      | 1      | 2      | 4      |
| 合計        | 35     | 12     | 21     | 27     | 20     |

■ 腐敗防止・贈収賄について

|          | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|----------|--------|--------|--------|
| 処罰された従業員 | 無し     | 無し     | 無し     |
| 罰金の支払    | 無し     | 無し     | 無し     |

# 社外からの評価

## 社外からの評価

ニチレイグループは、CSR活動を幅広いステークホルダーの皆さまにお伝えするとともに、コミュニケーションを深めている企業グループとして、さまざまな外部機関より評価をいただいています。

こうした外部評価の項目や結果をもとに、定期的にレビューを行うことで、取組みや報告の改善につなげています。

### 外部評価（2022/12/13 現在）

#### ESGインデックスの組み入れ状況

##### FTSE4Good Index Series

英ロンドン証券取引所（LSE）グループの100%子会社、FTSE International社（現FTSE Russell社）が2001年から発表している世界的に有名なESG投資インデックス。



FTSE4Good

| 2022 | 2021 | 2020 | 2019 | 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014 | 2013 | 2012 | 2011 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 2010 | 2009 | 2008 | 2007 | 2006 | 2005 | 2004 | 2003 | 2002 | 2001 | 2000 | 1999 |
| ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | —    | —    |      |      |

##### FTSE Blossom Japan Index

FTSE Russell社が2017年発表した環境、社会、ガバナンス（ESG）および女性活躍推進について優れた対応を行っている日本企業で構成されるインデックス。



FTSE Blossom  
Japan

| 2022 | 2021 | 2020 | 2019 | 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014 | 2013 | 2012 | 2011 | 2010 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      |      |      |      |      |      |      |

■ FTSE blossom japan sector relative index

FTSE Russell社により構築された、各セクターにおいて相対的に環境、社会、ガバナンス（ESG）の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックス。



**FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index**

| 2022 | 2021 | 2020 | 2019 | 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014 | 2013 | 2012 | 2011 | 2010 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| ○    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |

■ MSCI ESG ratings

米国のMSCI社が開発したインデックスで、各業種の中でESG（環境、社会、ガバナンス）に優れた企業が選定される（旧称MSCI Global Sustainability Indexes）。



**MSCI  
ESG RATINGS** AA

CCC B BB BBB A AA AAA

免責事項  
THE INCLUSION OF NICHIREI IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF NICHIREI BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES.  
THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

| 2022 | 2021 | 2020 | 2019 | 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014 | 2013 | 2012 | 2011 | 2010 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| AA   | AA   | AA   | A    | A    | A    |      |      |      |      |      |      |      |

■ MSCI Japan ESG Select Leaders Index

MSCI社がMSCIジャパンIMIトップ700指数構成銘柄の中から、ESG評価が相対的に高い銘柄を選別して構成するインデックス。

**2022 CONSTITUENT MSCIジャパン  
ESGセレクト・リーダーズ指数**

| 2022 | 2021 | 2020 | 2019 | 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014 | 2013 | 2012 | 2011 | 2010 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| AA   | AA   | AA   | A    | A    | A    |      |      |      |      |      |      |      |

■ MSCI Japan Empowering Women Index (WIN)

米国のMSCI社が2017年発表したESG投資インデックス。日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中で性別多様性に優れた企業が選定される。

**2022 CONSTITUENT MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)**

| 2022 | 2021 | 2020 | 2019 | 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014 | 2013 | 2012 | 2011 | 2010 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      |      |      |      |      |      |      |

■ SOMPO Sustainability Index

SOMPOリスクマネジメント社の環境 (E)、インテグレックス社の社会 (S)、ガバナンス (G) に関する企業調査でESGスコアが基準以上の企業で構成されるインデックス。2012年8月より運用開始。

2022



Sompo Sustainability Index

| 2022 | 2021 | 2020 | 2019 | 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014 | 2013 | 2012 | 2011 | 2010 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | —    | —    |      |      |

■ CDP (気候変動・水セキュリティ)

CDPIは、投資家・企業・都市・国家・地域が環境影響を管理するためのグローバルな情報開示システムを運営している国際的なNGO。機関投資家を代表して、環境への取り組みを調査・評価・開示している。気候変動では世界の時価総額50%以上に相当する7000社を超える企業が回答した。



■ 気候変動

| 2022 | 2021 | 2020 | 2019 | 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014 | 2013 | 2012 | 2011 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| B    | A-   | B    | B    | B    | C    | A-   | C    | C    | C    | 31   | —    |

■ 水セキュリティ

| 2022 | 2021 | 2020 | 2019 | 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014 | 2013 | 2012 | 2011 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| A-   | A-   | B    | B    | B-   | B-   | —    | —    | —    | —    | —    | —    |

■ S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数



| 2022 | 2021 | 2020 | 2019 | 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014 | 2013 | 2012 | 2011 | 2010 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| ○    | ○    | ○    | ○    | —    | —    | —    | —    | —    | —    | —    | —    | —    |

|      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 2021 | 2020 | 2019 | 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014 | 2013 | 2012 | 2011 | 2010 |
| ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | —    | —    | —    |

■ 認定一覧

| 取得時期                | 名称  |   |   |
|---------------------|---|---|---|
| 2021年7月～<br>2024年6月 | 安全衛生優良企業  |    | ニチレイ プレスリリース<br>厚生労働省「安全衛生優良企業」認定のお知らせ<br><a href="https://www.nichirei.co.jp/news/2021/391.html">https://www.nichirei.co.jp/news/2021/391.html</a>   |
| 2019年度～             | 健康経営銘柄2021  |   | ニチレイ プレスリリース<br>「健康経営銘柄2021」選定のお知らせ<br><a href="https://www.nichirei.co.jp/news/2021/380.html">https://www.nichirei.co.jp/news/2021/380.html</a>  |
| 2018年度～             | DBJ健康経営格付   |  | ニチレイ プレスリリース<br>ニチレイグループの健康経営において「DBJ健康経営格付」を2回連続で獲得<br><a href="https://www.nichirei.co.jp/news/2022/419.html">https://www.nichirei.co.jp/news/2022/419.html</a>                             |
| 2016年度～             | 健康経営優良法人（ホワイト500）                                 |  |   |
| 2017年度～             | えるぼし「3段階目」（「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に基づく、厚生労働大臣認定） |  | ニチレイ プレスリリース<br>女性活躍推進法に基づく認定マーク「えるぼし」（3段階目）の取得に関するお知らせ<br><a href="https://www.nichirei.co.jp/news/2017/293.html">https://www.nichirei.co.jp/news/2017/293.html</a>                          |
| 2009年～              | 「次世代育成支援対策推進法」認定マーク（愛称：くるみん）                      |  | 働き方改革（ダイバーシティ含む）<br><a href="https://www.nichireifoods.co.jp/corporate/sustainability/human_resources.html">https://www.nichireifoods.co.jp/corporate/sustainability/human_resources.html</a> |

■表彰

| 表彰年度   | 名称  | 概要   |
|--------|---|--|
| 2022年度 | ニチレイバイオサイエンスがエコバディス社・サステナビリティ調査（2022年）で上位25%水準相当の「シルバー」評価を2年連続で獲得                         | <p><b>エコバディス社が実施</b><br/>株式会社ニチレイバイオサイエンス（代表取締役社長：横井 英夫）が2022年のエコバディス社によるサステナビリティ調査において、評価対象企業全体の上位25%水準相当である「シルバー」評価を2年連続で獲得いたしました。<br/><a href="https://nichireibiosciences.co.jp/wp-content/uploads/2023/02/NB_HP_Ecovadis%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%B9_23020_2.pdf">https://nichireibiosciences.co.jp/wp-content/uploads/2023/02/NB_HP_Ecovadis%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%B9_23020_2.pdf</a></p> |
| 2022年度 | 第4回ジャパン・サステナブルシーフード・アワード コラボレーション部門で「チャンピオン」を受賞   | <p><b>株式会社シーフードレガシーおよび日経ESGが主催</b><br/>第4回ジャパン・サステナブルシーフード・アワード コラボレーション部門で「チャンピオン」受賞致しました。<br/><a href="https://www.nichireifresh.co.jp/news/detail/?id=1659">https://www.nichireifresh.co.jp/news/detail/?id=1659</a></p>  |
| 2022年度 | 「SDGsカーボン・オフセット賞」を受賞  | <p><b>J-クレジット東北地域推進協議会（事務局：東北経済産業局）が実施</b><br/>「お弁当にGood！地球にGood！プログラム」が「SDGsカーボン・オフセット賞」を受賞しました。<br/><a href="https://www.nichireifoods.co.jp/news/2022/info_id13768/">https://www.nichireifoods.co.jp/news/2022/info_id13768/</a></p>  |
| 2022年度 | Nichirei do Brasil Agricola Ltda（ニアグロ）エコバディス社・サステナビリティ調査（2022年）で上位5%水準相当の「ゴールド」評価を2年連続で獲得 | <p><b>エコバディス社が実施</b><br/>株式会社ニチレイフーズ（代表取締役社長：竹永雅彦）の子会社であるNichirei do Brasil Agricola Ltda（ニアグロ）が2022年のエコバディス社によるサステナビリティ調査において、評価対象企業全体の上位5%水準相当である「ゴールド」評価を2年連続で獲得いたしました。<br/><a href="https://www.nichireifoods.co.jp/news/2022/info_id14062/">https://www.nichireifoods.co.jp/news/2022/info_id14062/</a></p>    |
| 2022年度 | 第23回物流環境大賞で「先進技術賞」・「特別賞」を受賞   | <p><b>一般社団法人日本物流団体連合会が主催</b><br/>ニチレイロジグループは、一般社団法人日本物流団体連合会が主催する第23回物流環境大賞で「先進技術賞」と「特別賞」を受賞しました。<br/><a href="https://nichirei-logi.co.jp/news/2022/20220708.html">https://nichirei-logi.co.jp/news/2022/20220708.html</a></p>  |
| 2021年度 | 「サステナアワード2021」で「みどりの食料システム推進賞」を受賞   | <p><b>農林水産省主催</b><br/>農林水産省主催の合同プロジェクト「あふの環2030プロジェクト～食と農林水産業のサステナビリティを考える～」が開催する、「サステナアワード2021」で「純和鶏®」が「みどりの食料システム推進賞」を受賞しました。<br/><a href="https://www.nichireifresh.co.jp/news/detail/?id=1566">https://www.nichireifresh.co.jp/news/detail/?id=1566</a></p>   |

|        |  |  |
|--------|--|--|
| 2021年度 | 「第10回健康寿命をのぼそう！アワード」で「厚生労働省健康局長優良賞」を受賞 | <b>厚生労働省およびスポーツ庁主催</b><br>厚生労働省およびスポーツ庁主催の「第10回健康寿命をのぼそう！アワード」において、「厚生労働省健康局長優良賞」を受賞しました。<br><a href="https://www.nichirei.co.jp/news/2021/405.html">https://www.nichirei.co.jp/news/2021/405.html</a>   |
| 2021年度 | 一般社団法人WICIジャパンより表彰                     | <b>WICI ジャパン「統合レポート・アワード2021」にて受賞</b><br>WICI ジャパン「統合レポート・アワード2021」において、最高賞である「優秀企業賞（ゴールド・アワード）」を受賞しました。<br><a href="https://www.nichirei.co.jp/news/2021/404.html">https://www.nichirei.co.jp/news/2021/404.html</a>  |
| 2020年度 | 横須賀市より表彰                               | <b>横須賀市より表彰</b><br>株式会社ニチレイフレッシュプロセスは永年にわたり、障害者雇用を積極的に行い、職業指導を通じてその社会的自立に貢献した事に対して表彰されました。<br><a href="https://www.nichireifresh.co.jp/news/detail/?id=1321">https://www.nichireifresh.co.jp/news/detail/?id=1321</a>  |
| 2020年度 | ヨコハマ温暖化対策賞                             | <b>横浜市 主催</b><br>3年間の取組の中における重点対策の実施状況や削減目標の達成状況などに基づいて、大幅な温室効果ガス排出量の削減などに顕著な実績を挙げた事業者を表彰する制度。<br><br>ニチレイ・ロジスティクス関東が横浜市より横浜市地球温暖化対策計画書制度における「ヨコハマ温暖化対策賞」受賞者として表彰されました。<br><a href="https://www.nichirei-logi.co.jp/news/2020/20200520.html">https://www.nichirei-logi.co.jp/news/2020/20200520.html</a>   |
| 2018年度 | 第1回 消費者志向経営優良事業表彰「消費者庁長官表彰」受賞          | <b>消費者庁 主催</b><br>消費者を重視した事業活動、「消費者志向経営」（愛称：サステナブル経営）の推進している事業者を表彰する制度<br><a href="https://www.nichireifoods.co.jp/news/2018/info_id6991/">https://www.nichireifoods.co.jp/news/2018/info_id6991/</a><br>ニチレイフーズ独自の「ハミダス活動」を通じて、従業員の積極的な自主的活動を支援していることや、食育活動の推進、環境保全活動を通じた地域貢献やフードバンクへの取組など、SDG s 推進に向けた取組みが評価された。<br><br>                 |
| 2017年度 | 東京証券取引所 第6回 企業価値向上表彰 優秀賞               | <b>株式会社東京証券取引所 主催</b><br>資本コストをはじめとする投資者の視点を強く意識した経営を実践し、高い企業価値の向上を実現している会社を表彰。<br>ニチレイは、資本コストを上回る企業価値の創造を目指す「企業価値向上経営」を高いレベルで実践していると認められた。<br><br>東京証券取引所が実施する第6回「企業価値向上表彰」の優秀賞を受賞しました。<br><a href="https://www.nichirei.co.jp/news/2018/304.html">https://www.nichirei.co.jp/news/2018/304.html</a>  |
| 2017年度 | グリーン物流パートナーシップ会議 優良事業者 表彰              | <b>グリーン物流パートナーシップ会議 主催</b><br>国土交通省などが実施する、物流分野におけるCO <sub>2</sub> 削減を促進するための優れた取り組みを表彰する制度。<br>ニチレイロジグループのロジスティクス・ネットワークでは、調達・在庫管理、配送に至るまで、荷主である顧客企業の全物流を改善・運営する3PL事業者として、10年以上にわたってモーダルシフトを推進。それらの取組みの実効性が評価され、荷主であるニチレイフーズなど3社と共同での受賞。<br><br>ロジスティクス・ネットワークがグリーン物流パートナーシップ物流審議官表彰を受賞しました。<br><a href="https://www.nichirei-logi.co.jp/news/2017/20171213.html">https://www.nichirei-logi.co.jp/news/2017/20171213.html</a> |

|            |  |   |
|------------|--|---|
| 2016<br>年度 | モーダルシフトの取り組み優良事業者公表・表彰制度<br>「モーダルシフト最優良事業者賞（大賞）」 | <p><b>一般社団法人日本物流団体連合会 主催</b><br/> モーダルシフト促進に関し、物流事業者の自主的な取り組みの推奨や、取り組み意識の高揚等を図るため、モーダルシフトを積極的に推進した優良な事業者を公表・表彰する制度。<br/> ニチレイロジグループのロジスティクス・ネットワークはモーダルシフトを2003年から開始し、輸送エリアや取扱量を拡大し継続して取り組んできたことが評価された。</p> <p>(株)ロジスティクス・ネットワークの「モーダルシフト最優良事業者賞（大賞）」受賞のお知らせ<br/> <a href="https://www.nichirei-logi.co.jp/news/2016/20161107.html">https://www.nichirei-logi.co.jp/news/2016/20161107.html</a></p> |
| 2016<br>年度 | nanotech大賞<br>「ライフナノテクノロジー賞」受賞                   | <p><b>国際ナノテクノロジー総合展・技術会議 主催</b><br/> 出展者の斬新かつ先駆的な技術・製品を分野ごとに選出し、優秀出展者を決定。<br/> ニチレイは寒冷地に生息する魚類から発見した不凍タンパク質の研究とその成果を、食品、医療、工業等、幅広い分野へ役立てようとしており、その活動について評価された。応用分野例として、食品では豆腐や寒天などゲル状食品について、凍結解凍後の組織ダメージが小さくなる等がある。</p> <p>nano tech 2017にて「ライフナノテクノロジー賞」を受賞<br/> <a href="https://www.nichirei.co.jp/news/2017/289.html">https://www.nichirei.co.jp/news/2017/289.html</a></p>                     |

# 外部イニシアティブ・団体への参加

ニチレイグループは、国内外のイニシアティブ・団体への参加を通じ、持続可能な社会を再現するための取り組みを推進していきます。

## グローバル

### 国連グローバルコンパクト

<https://www.ungcn.org/>

ニチレイは、2021年11月15日、国際社会において持続可能な成長を実現するための世界的な取り組みである国連グローバル・コンパクトに参加しました。グローバル・コンパクトが掲げる「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」からなる10原則に則り、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいきます。

国連グローバル・コンパクトへの参加



### ザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム (CGF)

<https://www.theconsumergoodsforum.com/>

The Consumer Goods Forumは、グローバルな消費財流通業界のネットワークで、小売業とメーカーが対等な立場を有し、会員企業がその活動を推進しており、世界中の消費財業界に役立つ実践と標準化の導入を促進しています。ニチレイフーズは2011年より、会員会社として参画しています。



## —— 持続可能なパーム油のための円卓会議（RSPO）

<https://www.rspo.org/>

マレーシアとインドネシアにおける、アブラヤシ農園の急速な拡大による環境・人権への影響を懸念する声が世界的に高まったことを受けて、WWFを含む7つの関係団体が中心となり2004年に設立されました。国際的な認証基準の策定と、ステークホルダーの参加を通じ、持続可能なパーム油の生産と利用を促進することを目的としています。当社グループは、2018年8月に加入しました。



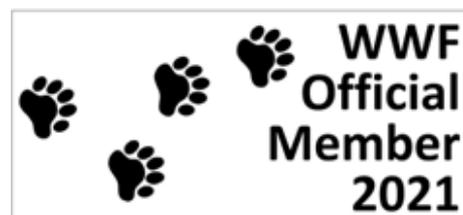
4-1055-18-100-00

会員プロフィールページ（英文）  
<https://rspo.org/members/7750>

## —— WWFジャパン

<https://www.wwf.or.jp/>

WWFは、100カ国以上で活動している地球環境保全団体です。1961年にスイスで設立されました。人と自然が調和して生きられる未来を築くことをめざして、地球上の生物多様性を守ることと、人の暮らしが自然環境や野生生物に与えている負荷を小さくすることを柱に活動を展開しています。（株）ニチレイは、2019年10月より、WWFジャパンの法人会員として、WWFの環境保全活動を応援しています。



## TCFDコンソーシアム

<https://tcfcd-consortium.jp/>

TCFDとは、G20の要請を受け、金融安定理事会（FSB）により、気候関連の情報開示及び金融機関の対応をどのように行うかを検討するため、マイケル・ブルームバーグ氏を委員長として設立された「気候関連財務情報開示タスクフォース（Task Force on Climate-related Financial Disclosures）」を指します。この背景を受け、TCFDコンソーシアムが2019年5月に設立されました。当社グループは、2020年6月に加入しました。



## 気候変動イニシアティブ（JCI）

<https://japanclimate.org/>

2018年7月に、気候変動対策に積極的に取り組む企業や自治体、NGOなどの情報発信や意見交換を強化するため、ゆるやかなネットワークとして、「気候変動イニシアティブ(Japan Climate Initiative)」が105団体の参加で設立されました。当社グループは、2021年3月に加入しました。



## グリーン購入ネットワーク（GPN）

<https://www.gpn.jp/>

グリーン購入（環境負荷が小さく、社会面に配慮した商品やサービスの優先的購入）の促進のため、1996年に設立された、企業・行政・民間団体による緩やかなネットワークです。グリーン購入の普及や商品・サービスの購入ガイドラインの策定、商品・サービスの環境情報サイト「エコ商品ねっと」の運営等を行っています。ニチレイはグリーン購入ネットワークの会員です。



## LCA 活用推進コンソーシアム

<https://www.aist-riss.jp/idea/lcaconso/>

脱炭素イノベーションにつながる製品の普及や事業者の持続可能な経営に向け、適切な評価方法の幅広い理解促進と評価の支援を進め、持続可能な社会の実現につなげることを目的として設立されました。



## —— クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス (CLOMA) ——

<https://cloma.net/>

CLOMAは、地球環境の新たな課題である海洋プラスチックごみの問題解決に向けて、プラスチック製品のより持続可能な使用並びにプラスチック廃棄物の削減につながる革新的な代替品の開発及び導入普及を図るため、業種を超えた幅広い関係者の連携を強めイノベーションを加速するためのプラットフォームとして2019年1月に設立されました。



## —— 国連WFP協会 ——

<https://ja.wfp.org/>

国連WFP協会は、飢餓をゼロにすることを使命とするWFP国連世界食糧計画を支援する認定NPO法人で、日本におけるWFP国連世界食糧計画の公式支援窓口として1999年1月に設立されました。2020年には“飢餓”が紛争や内戦の武器として利用されることを阻止する努力が評価され、ノーベル平和賞に国連WFPが選ばれました。当社グループは国連WFP協会に2005年9月に加入しました。

## —— 特定非営利活動法人 (NPO) 経済人コー円卓会議日本委員会 ——

<https://crt-japan.jp/>

経済人コー円卓会議 (Caux Round Table) は、1986年にスイス・コーで日米欧の経済人が集まって設立され、日本では2000年に「経済人コー円卓会議日本委員会 (CRT日本委員会)」として組織化、2006年にNPO法人となりました。ビジネスを通じて社会をより自由かつ公正で透明なものとするを目的としたビジネスリーダーのグローバルネットワークです。

企業活動のグローバル化が進む中、投資家、市民社会、消費者において企業に人権尊重を求める意識が高まってきており、企業は人権を尊重した行動をとることが求められています。

当社グループでは、企業、NGO/NPO、学識有識者等が集まり「ビジネスと人権」について議論を行うコー円卓会議主催の「ステークホルダー・エンゲージメントプログラム」に2019年から毎年参加しています。

ステークホルダー・エンゲージメントプログラムへの参加



## —— 一般財団法人 食品安全マネジメント協会 (JFSM) ——

<https://www.jfsm.or.jp/>

一般財団法人食品安全マネジメント協会 (JFSM) は、日本・アジアの食品産業及び消費者における食品安全の向上に貢献していくため、2016年1月に設立され、国際標準に整合する食品安全マネジメント認証規格や適合証明規格を構築、運営しています。当社グループは設立メンバーの理事企業として主体的に参画し、当社取締役が理事を務めています。

